

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集

じょくのへ
宿戸遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

第1分冊

2021

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第726集

宿戸遺跡発掘調査報告書 第1分冊 2021

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

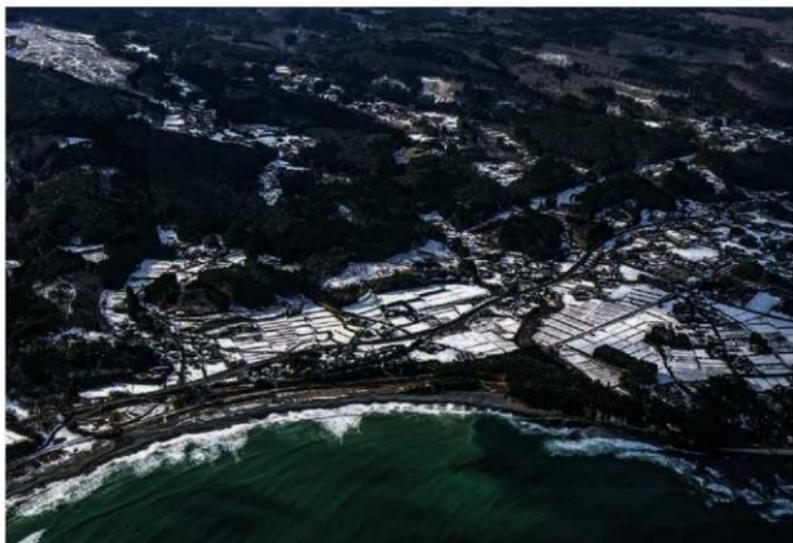
宿戸遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

第1分冊



宿戸遺跡遠景(南から)



宿戸遺跡遠景(南東から)



調査区近景(上が西)



南区T13 南北断面(東から)



宿戸遺跡遺物



早期中葉土器



前期初頭土器



前期前葉土器



前期・中期土器



後期・晩期・弥生土器



年代測定分析土器



琥珀



石鏃・尖頭器



石斧搬入品・在地石斧生産



石製品



土偶

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して、平成28～30年度に発掘調査を実施した洋野町宿戸遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代早期から弥生時代にかけての遺構、遺物が多数出土し、貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 高橋嘉行

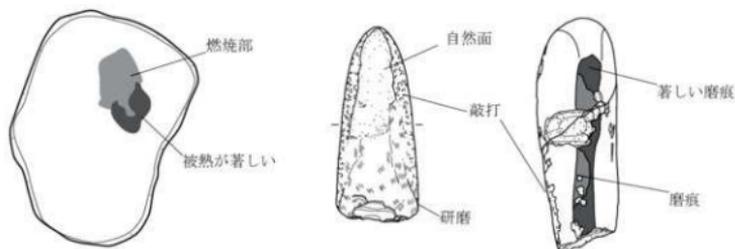
例 言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第6地割字宿戸地内に所在する宿戸遺跡の発掘調査結果を取録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡コードと遺跡略号は以下のとおりである。
遺跡コード：I F 69-1199 遺跡略号：SHU-16・17・18
- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。
【平成28年度】調査期間：平成28年4月6日～7月22日 調査対象面積：10,200㎡
担 当 者：八木勝枝・趙哲済・森裕樹・佐々木あゆみ
【平成29年度】調査期間：平成29年4月10日～11月30日 調査終了面積：11,360㎡
担 当 者：八木勝枝・大泰司 統・佐々木隆英・森裕樹・高木晃
羽柴直人・對馬利彦・出町拓也・佐藤桃子
【平成30年度】調査期間：平成30年4月4日～7月31日 調査終了面積：6,040㎡
担 当 者：八木勝枝・福島正和・戦場由裕・松渡耕己・川村英
- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。
【平成28年度】整理期間：平成28年11月1日～平成29年3月31日
担 当 者：八木勝枝
【平成29年度】整理期間：平成29年11月1日～平成30年3月31日
担 当 者：八木勝枝・大泰司 統・佐々木隆英・森裕樹
【平成30年度】整理期間：平成30年10月1日～平成31年3月31日
担 当 者：八木勝枝・戦場由裕・川又晋
【令和元年度】整理期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日
担 当 者：八木勝枝
【令和2年度】整理期間：令和2年4月1日～7月31日
担 当 者：八木勝枝
- 6 本報告書の執筆は次のとおりである。第I章：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 第II・III章：八木 第IV章：八木・趙・大泰司・佐々木（隆）・佐々木（あ）・森・戦場 第VI章6：飯塚義之氏 第V・VI・VII章：八木
- 7 各種委託業務は次の機関等に依頼した。
基準点測量：株式会社ダイヤ
航空写真撮影：東邦航空株式会社
石材・石質分析：花崗岩研究会・台湾中央研究院 飯塚義之氏
火山灰分析：バリノ・サーヴェイ株式会社
土壌分析：バリノ・サーヴェイ株式会社
年代測定：(株)加速器分析研究所・バリノ・サーヴェイ株式会社
石器石製品実測図・土器PEAKIT図作成：株式会社ラング

- 8 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関等から御協力いただいた。(順不同敬称略)
 洋野町教育委員会 千田政博 阿部芳郎 飯塚義之 石川日出志 稲野裕介 金子昭彦 菅野紀子 神原雄一郎 熊谷常正 佐藤由紀男 杉野森淳子 高橋 満 高橋保雄 成田滋彦 福井淳一 吹切 守 森岡健治 柳瀬由佳
- 9 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は以下のとおりである。
 竪穴住居跡：1/60
 竪穴住居跡の炉：1/30
 土坑・配石遺構・炭窯・土取り穴：1/50
 埋設土器・焼土遺構：1/30
- 2 層位は基本層位にはローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いた。
- 3 土層・土器色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 4 各遺物の縮尺は原則以下のとおりである。なお、紙幅の制約上、これに依らないものについては個々にスケールを付した。
 土器・礫石器：1/3
 剥片石器・土製品・石製品：2/3・1/1
- 5 遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている場合は、個々に凡例を付している。
- 6 国土地理院発行の地形図を掲載したのものには、図中に図幅名と縮尺を付した。
- 7 本書本文中では、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書を「岩埋文報」と省略する。



第 1 分冊

目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	
1	遺跡の位置と立地	1
2	周辺の地形	1
3	周辺の遺跡	4
III	調査・整理の方法	
1	野外調査	
(1)	調査区割	9
(2)	基本層序	9
(3)	表土除去・試掘	12
(4)	遺構の精査・記録方法	12
(5)	調査経過	12
2	室内整理	
(1)	遺構図面の整理・図面編集	21
(2)	遺物の整理	21
(3)	写真撮影	21
(4)	室内整理経過	21
IV	検出された遺構	
1	全体の概要	22
2	検出遺構	
(1)	竪穴住居跡	22
(2)	土坑	39
(3)	埋設土器	75
(4)	焼土遺構	77
(5)	配石遺構	82
(6)	炭窯	83
V	出土遺物	
1	土器	129
2	石器	130
3	土製品	139
4	石製品	139

VI 自然科学分析

1 平成29年度放射性炭素年代 (AMS測定)	391
2 平成30年度放射性炭素年代 (AMS測定)	395
3 令和2年度放射性炭素年代 (AMS測定)	400
4 火山灰分析	404
5 土 壤 分 析	409
6 石 材 分 析	413
7 ポータブル型蛍光X線分析装置による石器石材の分析	416

VII 総 括 419

報告書抄録

図 版 目 次

第1図 遺跡位置図	2	第28図 28・29号住居跡	100
第2図 周辺地形分類図	3	第29図 30・31号住居跡	101
第3図 周辺の遺跡	7	第30図 31号住居跡ピット・32号住居跡	102
第4図 調査区地形図	10	第31図 1～3・5・6号土坑	103
第5図 グリッド配置・基本層序位置図	11	第32図 7・10・12・13・17・18号土坑	104
第6図 南区T1・T13基本土層	13	第33図 19～24号土坑	105
第7図 北区・南区基本土層	14	第34図 25・27・29～32号土坑	106
第8図 南区基本層序概念図	15	第35図 33・35～39号土坑	107
第9図 北区遺構配置図	16	第36図 40～44号土坑	108
第10図 南区遺構配置図	17	第37図 45～50号土坑	109
第11図 北区遺構配置図	18	第38図 51～55・57号土坑	110
第12図 南区遺構配置図(1)	19	第39図 58・60・64・65・67号土坑	111
第13図 南区遺構配置図(2)	20	第40図 68～73号土坑	112
第14図 1～3号住居跡	86	第41図 74～79・83号土坑	113
第15図 4・10号住居跡	87	第42図 84・88・92・94～96号土坑	114
第16図 5・6号住居跡	88	第43図 97～105号土坑	115
第17図 7・8号住居跡	89	第44図 106・107・109～113号土坑	116
第18図 9・11号住居跡	90	第45図 114～116・119～122号土坑	117
第19図 12・13号住居跡	91	第46図 4・9・26・28号土坑	118
第20図 14・15号住居跡	92	第47図 34・56・59号土坑	119
第21図 16・17号住居跡	93	第48図 61～63・80・81・86号土坑	120
第22図 18・19号住居跡	94	第49図 82・85・87号土坑	121
第23図 20・21号住居跡	95	第50図 89・93・108・118号土坑	122
第24図 22号住居跡	96	第51図 2～6号埋設土器	123
第25図 23号住居跡	97	第52図 1～4・6～8号焼土遺構	124
第26図 24・25号住居跡	98	第53図 9～16号焼土遺構	125
第27図 26・27号住居跡	99	第54図 17～21号焼土遺構	126

第55図	1・2号配石遺構	127	第96図	4 Dグリッド出土土器	182
第56図	1号炭窯	128	第97図	4 Dグリッド出土土器	183
第57図	1・3～6号住居跡出土土器	143	第98図	4 Dグリッド出土土器	184
第58図	6号住居跡出土土器	144	第99図	4 Dグリッド出土土器	185
第59図	6～8号住居跡出土土器	145	第100図	4 Dグリッド出土土器	186
第60図	9・10・12～14号住居跡出土土器	146	第101図	4 D・4 Eグリッド出土土器	187
第61図	15・17～19号住居跡出土土器	147	第102図	4 Eグリッド出土土器	188
第62図	20・21号住居跡出土土器	148	第103図	4 E・5 B・5 Cグリッド出土土器	189
第63図	21～23号住居跡出土土器	149	第104図	5 Cグリッド出土土器	190
第64図	23・24・26・27号住居跡出土土器	150	第105図	5 Cグリッド出土土器	191
第65図	27～32号住居跡出土土器	151	第106図	5 Cグリッド出土土器	192
第66図	32号住居跡、5～7・22～24・29・30・ 32・33・35・37号土坑出土土器	152	第107図	5 Cグリッド出土土器	193
第67図	38～45号土坑出土土器	153	第108図	5 Dグリッド出土土器	194
第68図	46・49～55号土坑出土土器	154	第109図	5 Dグリッド出土土器	195
第69図	57・65・67～70・72・73・75・76・78号 土坑出土土器	155	第110図	5 Dグリッド出土土器	196
第70図	79・94・96～98・110・112・113・116・ 119・121・122・34号土坑出土土器	156	第111図	5 Dグリッド出土土器	197
第71図	56・59・61・62・80・82・85～87・108・ 118号土坑、2・4号埋設土器出土土器	157	第112図	5 Eグリッド出土土器	198
第72図	3・5・6号埋設土器出土土器	158	第113図	5 F・6 B・6 Cグリッド出土土器	199
第73図	1 D・2 Bグリッド出土土器	159	第114図	6 Cグリッド出土土器	200
第74図	2 Bグリッド出土土器	160	第115図	6 Cグリッド出土土器	201
第75図	2 Bグリッド出土土器	161	第116図	6 Cグリッド出土土器	202
第76図	2 Bグリッド出土土器	162	第117図	6 Cグリッド出土土器	203
第77図	2 Cグリッド出土土器	163	第118図	6 Cグリッド出土土器	204
第78図	2 C・2 Dグリッド出土土器	164	第119図	6 Cグリッド出土土器	205
第79図	2 Dグリッド出土土器	165	第120図	6 Dグリッド出土土器	206
第80図	2 Dグリッド出土土器	166	第121図	6 Eグリッド出土土器	207
第81図	2 Dグリッド出土土器	167	第122図	6 F・7 C・7 Dグリッド出土土器	208
第82図	2 Dグリッド出土土器	168	第123図	7 Dグリッド出土土器	209
第83図	3 Bグリッド出土土器	169	第124図	7 Eグリッド出土土器	210
第84図	3 Bグリッド出土土器	170	第125図	7 Eグリッド出土土器	211
第85図	3 B・3 Cグリッド出土土器	171	第126図	7 Eグリッド出土土器	212
第86図	3 Cグリッド出土土器	172	第127図	7 Eグリッド出土土器	213
第87図	3 Cグリッド出土土器	173	第128図	7 Eグリッド出土土器	214
第88図	3 Cグリッド出土土器	174	第129図	7 Eグリッド出土土器	215
第89図	3 C・3 Dグリッド出土土器	175	第130図	7 Eグリッド出土土器	216
第90図	3 Dグリッド出土土器	176	第131図	7 Eグリッド出土土器	217
第91図	3 Dグリッド出土土器	177	第132図	7 E・7 Fグリッド出土土器	218
第92図	3 D・4 B・4 Cグリッド出土土器	178	第133図	7 Fグリッド出土土器	219
第93図	4 Cグリッド出土土器	179	第134図	7 Fグリッド出土土器	220
第94図	4 Cグリッド出土土器	180	第135図	7 Fグリッド出土土器	221
第95図	4 C・4 Dグリッド出土土器	181	第136図	7 Fグリッド出土土器	222
			第137図	7 Fグリッド出土土器	223
			第138図	7 Fグリッド出土土器	224
			第139図	7 Fグリッド出土土器	225
			第140図	7 Fグリッド出土土器	226

第141図	7 F グリッド出土土器	227	第182図	21～23号住居跡出土土器	268
第142図	7 F グリッド出土土器	228	第183図	23・25・26号住居跡出土土器	269
第143図	7 F グリッド出土土器	229	第184図	27・31号住居跡出土土器	270
第144図	7 F グリッド出土土器	230	第185図	32号住居跡、1・5～7号土坑出土土器	271
第145図	7 F グリッド出土土器	231	第186図	7・13号土坑出土土器	272
第146図	7 F・7 G グリッド出土土器	232	第187図	13・17・21・23号土坑出土土器	273
第147図	7 G グリッド出土土器	233	第188図	23・24・29・30号土坑出土土器	274
第148図	7 G グリッド出土土器	234	第189図	32・33・36・38号土坑出土土器	275
第149図	7 G グリッド出土土器	235	第190図	38号土坑出土土器	276
第150図	7 G グリッド出土土器	236	第191図	39・41号土坑出土土器	277
第151図	7 G グリッド出土土器	237	第192図	41～44号土坑出土土器	278
第152図	7 H・8 F グリッド出土土器	238	第193図	44～46・49号土坑出土土器	279
第153図	8 F グリッド出土土器	239	第194図	50～52・54号土坑出土土器	280
第154図	8 F・8 G グリッド出土土器	240	第195図	54・55・57・67号土坑出土土器	281
第155図	8 G グリッド出土土器	241	第196図	67号土坑出土土器	282
第156図	8 G グリッド出土土器	242	第197図	69・70・73・75号土坑出土土器	283
第157図	8 G・8 H グリッド出土土器	243	第198図	88・92・97・103・110号土坑出土土器	284
第158図	8 H・9 F・9 G・9 H グリッド 出土土器	244	第199図	111・113・116・119号土坑出土土器	285
第159図	北3 C・北3 D・北3 E・北4 C グリッド出土土器	245	第200図	34・56号土坑出土土器	286
第160図	北4 C グリッド出土土器	246	第201図	56・59・80・82・85号土坑出土土器	287
第161図	北4 D・北4 E グリッド出土土器	247	第202図	85～87号土坑出土土器	288
第162図	北4 E・北5 C グリッド出土土器	248	第203図	遺構外出土土器(1)	289
第163図	北5 D グリッド出土土器	249	第204図	遺構外出土土器(2)	290
第164図	北5 D・北5 E・北5 F・北6 D グリッド出土土器	250	第205図	遺構外出土土器(3)	291
第165図	北6 D・北6 E・北7 D グリッド、北区①・ 北区③・北区④・北区⑤出土土器	251	第206図	遺構外出土土器(4)	292
第166図	北区⑤・北区出土土器、煉瓦・土管	252	第207図	遺構外出土土器(5)	293
第167図	1・3号住居跡出土土器	253	第208図	遺構外出土土器(6)	294
第168図	3・4号住居跡出土土器	254	第209図	遺構外出土土器(7)	295
第169図	4号住居跡出土土器	255	第210図	遺構外出土土器(8)	296
第170図	4・5号住居跡出土土器	256	第211図	遺構外出土土器(9)	297
第171図	5・6号住居跡出土土器	257	第212図	遺構外出土土器(10)	298
第172図	6号住居跡出土土器	258	第213図	遺構外出土土器(11)	299
第173図	7・8号住居跡出土土器	259	第214図	遺構外出土土器(12)	300
第174図	8・9号住居跡出土土器	260	第215図	遺構外出土土器(13)	301
第175図	9号住居跡出土土器	261	第216図	遺構外出土土器(14)	302
第176図	10・11号住居跡出土土器	262	第217図	遺構外出土土器(15)	303
第177図	11・12号住居跡出土土器	263	第218図	遺構外出土土器(16)	304
第178図	12・13号住居跡出土土器	264	第219図	遺構外出土土器(17)	305
第179図	13～15号住居跡出土土器	265	第220図	遺構外出土土器(18)	306
第180図	17～20号住居跡出土土器	266	第221図	遺構外出土土器(19)	307
第181図	21号住居跡出土土器	267	第222図	遺構外出土土器(20)	308
			第223図	遺構外出土土器(21)	309
			第224図	遺構外出土土器(22)	310
			第225図	遺構外出土土器(23)	311
			第226図	遺構外出土土器(24)	312

第227図	遺構外出土石器(25)	313	第267図	土器集成図(6)	353
第228図	遺構外出土石器(26)	314	第268図	土器集成図(7)	354
第229図	遺構外出土石器(27)	315	第269図	土器集成図(8)	355
第230図	遺構外出土石器(28)	316	第270図	土器集成図(9)	356
第231図	遺構外出土石器(29)	317	第271図	土器集成図(10)	357
第232図	遺構外出土石器(30)	318	第272図	土器集成図(11)	358
第233図	遺構外出土石器(31)	319	第273図	土器重量分布図	359
第234図	遺構外出土石器(32)	320	第274図	土器接合図	360
第235図	遺構外出土石器(33)	321	第275図	石鏃分析図	361
第236図	遺構外出土石器(34)	322	第276図	尖頭器分析図	362
第237図	遺構外出土石器(35)	323	第277図	石鏃分析図	363
第238図	遺構外出土石器(36)	324	第278図	石匙分析図	364
第239図	遺構外出土石器(37)	325	第279図	石筭分析図	365
第240図	遺構外出土石器(38)	326	第280図	兩極石器分析図	366
第241図	遺構外出土石器(39)	327	第281図	石核分析図	367
第242図	遺構外出土石器(40)	328	第282図	不定形石器分析図	368
第243図	遺構外出土石器(41)	329	第283図	剥片出土点数分布図	369
第244図	遺構外出土石器(42)	330	第284図	石鏃分析図	370
第245図	遺構外出土石器(43)	331	第285図	石斧分類図	371
第246図	遺構外出土石器(44)	332	第286図	石斧分析図(1)	372
第247図	遺構外出土石器(45)	333	第287図	石斧分析図(2)	373
第248図	遺構外出土石器(46)	334	第288図	礫器分析図	374
第249図	遺構外出土石器(47)	335	第289図	石斧・礫器出土点数分布図	375
第250図	遺構外出土石器(48)	336	第290図	石斧・礫器接合図	376
第251図	遺構外出土石器(49)	337	第291図	敲磨器類分析図(1)	377
第252図	遺構外出土石器(50)	338	第292図	敲磨器類出土点数分布図	378
第253図	遺構外出土石器(51)	339	第293図	敲磨器類V類出土点数分布図	379
第254図	遺構外出土石器(52)	340	第294図	敲磨器類VI類出土点数分布図	380
第255図	遺構外出土石器(53)	341	第295図	敲磨器類分析図(2)	381
第256図	遺構外出土石器(54)	342	第296図	敲磨器類接合図	382
第257図	土製品(1)	343	第297図	特殊磨石分析図	383
第258図	土製品(2)	344	第298図	特殊磨石接合図	384
第259図	石製品(1)	345	第299図	砥石分析図	385
第260図	石製品(2)	346	第300図	石皿・台石分析図	386
第261図	石製品(3)・錢貨	347	第301図	石英出土点数分布図	387
第262図	土器集成図(1)	348	第302図	琥珀重量分布図	388
第263図	土器集成図(2)	349	第303図	石製品出土点数分布図	389
第264図	土器集成図(3)	350	第304図	早期前期住居跡集成図	420
第265図	土器集成図(4)	351	第305図	南区遺構配置図	421
第266図	土器集成図(5)	352			

表 目 次

第1表	周辺遺跡	8	第3表	遺構内遺物出土数	140
第2表	検出遺構一覧	84			

I 調査に至る経過

宿戸遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（待浜～階上）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年3月1日付け国東整陸二調第1052号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年3月6日～3月7日にわたり試掘調査を行い、平成25年3月28日付け教生第1820号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と立地

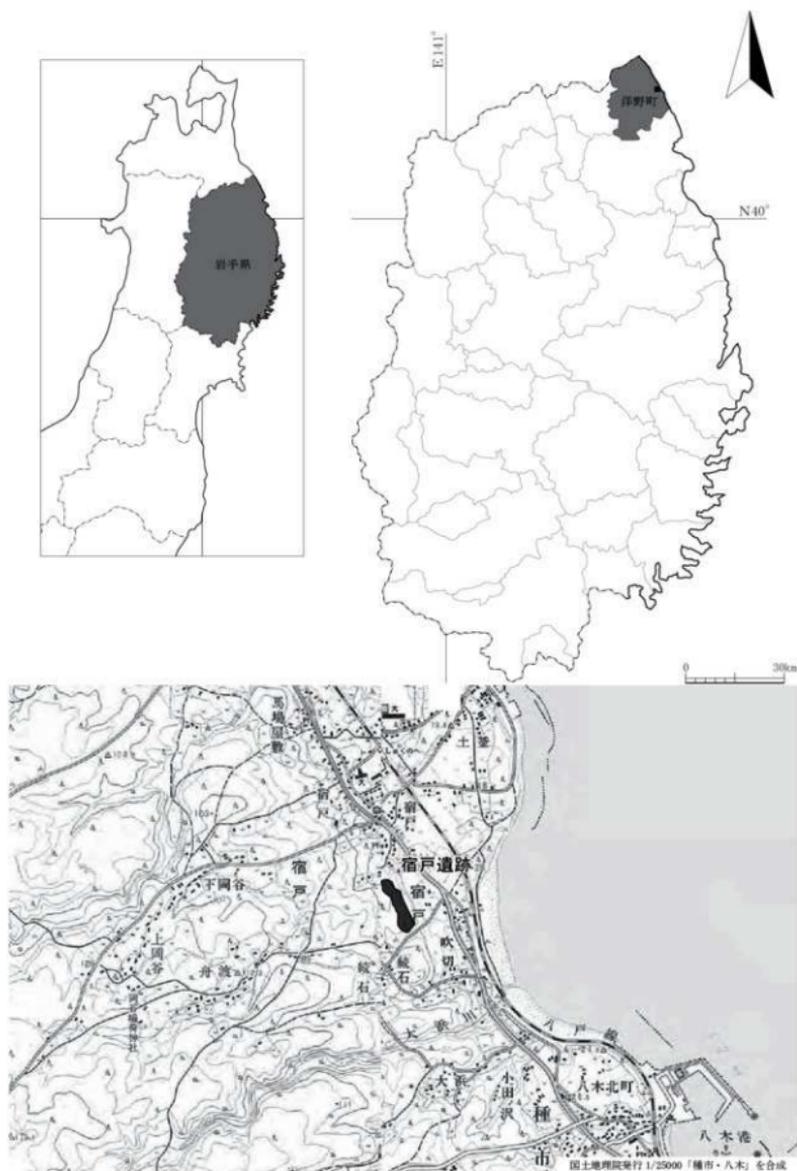
宿戸遺跡が所在する洋野町は岩手県沿岸部最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市に接している。現在の洋野町は、平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村が合併したもので、総面積は302.92km²、総人口は17,485人(平成29年1月31日時点)である。現況は山林が町域の約7割を占めている。気候は、標高約100mを境に西部高原地域と東部海岸地域で、特に春から夏にかけて異なる。東部海岸地域は、春から夏にやませ(偏東風)の影響で濃霧が発生し、冷涼で湿度が高く日照時間が短い特徴がある。気温は、西部高原地域と比較して4～5℃低い。

宿戸遺跡は、JR八戸線宿戸駅から南方に約800m、河口まで僅か1.1kmの吹切沢と大浜川に挟まれた標高約53m前後の海岸段丘上及び標高約35mの傾斜地に立地する。太平洋(大浜)からの最短距離は430mである。北緯40°21'32"、東経141°44'53"付近に位置する。地形図上では、国土地理院発行2万5千分の1地形図「八木」NK-54-18-2-4に含まれている。

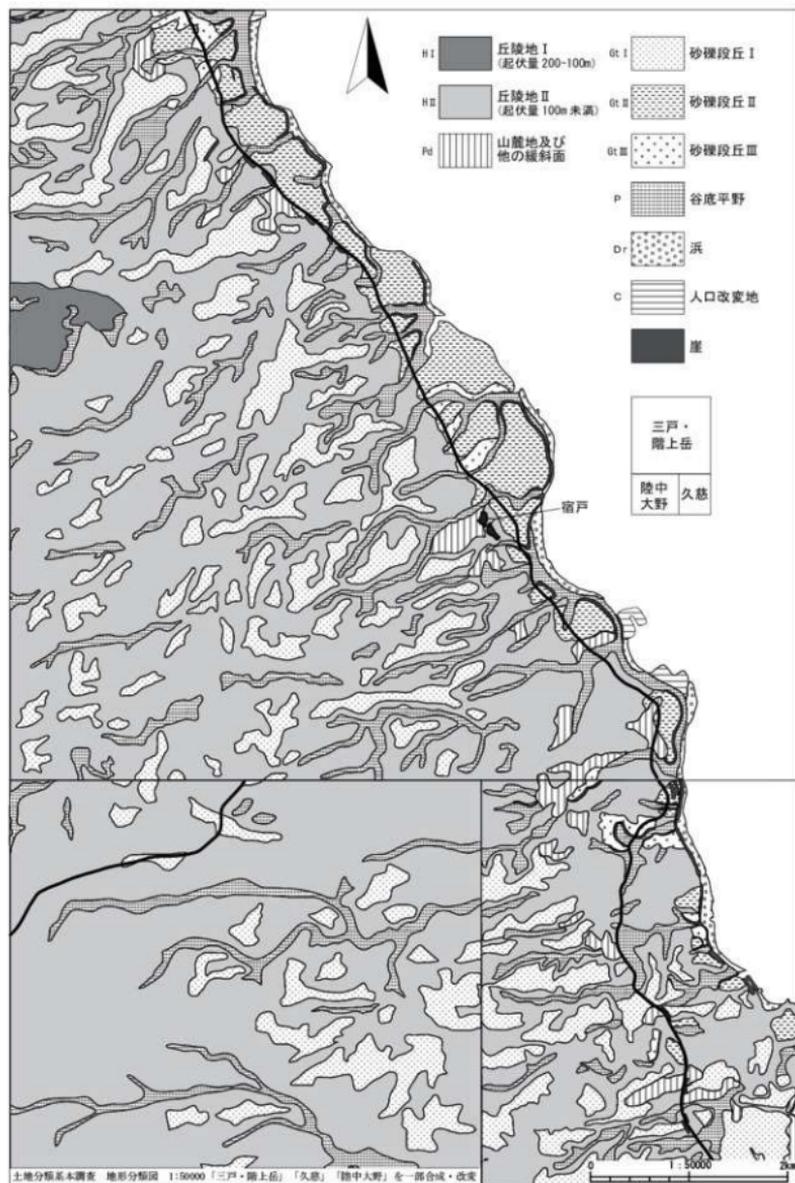
2 周辺の地形

宿戸遺跡周辺の旧種市町区は、軽米町・旧大野村との町境をなす階上岳(739.6m)、久慈平岳(706.3m)及び海成段丘によって形成された南北に連なる地形配列・表層地質をなしている。海成段丘は、海側の低い段丘から順に大谷段丘・種市段丘・白前段丘・九戸段丘に分類されており(種市町教委1983・岩埋文2001)、現在の国道45号線は種市段丘上の白前段丘接近くに南北に作られ、三陸沿岸道路は高位面にあたる白前段丘上に建設が進められている。宿戸遺跡は白前段丘上～種市段丘への傾斜地に立地する。白前段丘は標高60～100mで、約15～40万年前に形成されたと考えられている。

西に連なる山地群は、階上岳山地・久慈平岳山地・黒間山地がある。これら山地群は花崗閃緑岩等によって形成されており、石材は遺跡周辺の河川・海岸でも多く採集することができる。階上岳は、



第1図 遺跡位置図



第2図 周辺地形分類図

山頂部は緩傾斜を呈するが、高度が下がるにしたがって急傾斜となり、段丘面に接する地点から再び緩傾斜となる。山地群から延びる傾斜は九戸段丘へつながっている。白前段丘面はやや傾斜のある丘陵地、種市段丘面は比較的平坦になっており、種市火山灰・八戸火山灰・完新世テフラをのせている。

三陸沿岸北部八戸～宮古は、完新世において発生した地震隆起イベントが2回想定されており、その発生時期は7000-5000年前と3000年前と提示されている（宮内2005）。7000-5000年前と3000年前という、概ね縄文時代前期と晩期と考えられる。このシナリオによれば、発生間隔は約3000年で、1回の地震時隆起量は10mほどになるという。100kmを超える海岸線を垂直方向に10m隆起させるには収束歪みを開放するプレート間断層運動あるいは大規模な逆断層運動が必要で、そのような運動が起こるときは、マグニチュード8クラスの巨大地震が発生する可能性が高いとされる。今後は、そのような地震断層の検出・特定を行う必要が指摘されている（宮内2005、宮内2004-2005）。

参考文献

- 経済企画庁総合開発局国土調査課 1974 『縮尺20万分の1 土地分類図付属資料 岩手県』
 種市町教育委員会 1983 『ふるさと読本 地質編』
 岩手県農政部北上山系開発室 1979 『北上山系開発地域土地分類基本調査 三戸、階上』
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩埋文報第357集
 宮内崇裕ほか 2005 『三陸海岸の完新世後期上下変動と地震発生時期』『地震サイクルシンポジウム』第2号
 宮内崇裕 2004-2005 『プレート収束帯における前弧域の隆起プロセスの再検討と大地震予測に関する総合研究』

3 周辺の遺跡

令和2年4月現在、岩手県遺跡台帳に登録されている洋野町内の遺跡数は232遺跡に上る。町内の縄文時代遺跡は179遺跡あり、このうち貝塚4遺跡、集落跡32遺跡、狩猟場14遺跡、散布地141遺跡である。これらは三陸沿岸道路建設等開発に伴って新規発見された遺跡が多く、縄文時代遺跡179遺跡中新規72遺跡、集落跡32遺跡中新規17遺跡、狩猟場14遺跡中11遺跡、散布地141遺跡中52遺跡が新規発見された遺跡である。

第3図周辺遺跡図は、宿戸遺跡と同時期の早期中葉集落遺跡である久慈市外屋敷XIX遺跡(75)が南端に入るよう示した。宿戸遺跡以北の洋野町種市地区遺跡分布図・概要については、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(以下、県埋文と省略)発行の洋野町内三陸沿岸道路関連発掘調査報告書を参考にされたい。外屋敷XIX遺跡(75)は県埋文が平成25年に発掘調査を行った遺跡で、縄文時代早期寺の沢式期の堅穴住居跡(炉有)3棟・住居状遺構(炉無)3棟、焼土遺構3基が検出されている。外屋敷XIX遺跡は、宿戸遺跡からは南南東に9.75kmの地点にあり、現時点において、発掘調査が行われている早期中葉集落遺跡として隣集落遺跡と考えられる。大宮I遺跡(30)・大宮II遺跡(31)では、昭和36年に岩手大学草間俊一による発掘調査が行われ、貝殻沈線文土器が出土している。ゴッソー遺跡では遺構には伴わないもの、日計寺の沢式土器が出土している。中野城内遺跡(34)では、白浜式の残存状態の良い土器が多く出土している。中野城内遺跡で検出された遺構は溝状陥し穴8基・土坑8基であるが、土器の残存状況を鑑みると、近くに堅穴住居等の遺構の可能性はある。南鹿糠I遺跡で赤御堂式期の堅穴住居跡6棟が検出され、田ノ端II遺跡ではムシリI式～早稲田6類の遺物と集落城が見つかった。この他、桑畑III遺跡(40)、桑畑XI遺跡(48)、桑畑XVI遺跡(53)、外屋敷I遺跡(57)、外屋敷IX遺跡(65)、外屋敷XV遺跡(71)、外屋敷XVI遺跡(72)、本町IV遺跡(79)、向町II遺跡(81)で早期の土器が見つかったが、詳細は不明である。洋野町の北側に接する青森県階上町でも三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査が行われている。宿

戸遺跡から北西約11kmの地点にある柄貝遺跡では、早期前葉日式期の堅穴住居1棟、早期末～前期初頭の堅穴住居跡8棟等が検出されている。

縄文時代前期は、宿戸遺跡からは南へ約800mの地点に位置する小田ノ沢遺跡(12)において早期前葉の堅穴住居跡12棟が検出されている。小田ノ沢遺跡で見つかった堅穴住居跡は主に早稲田6類期で、ほかに前期前葉の土坑6基も検出されている。丘陵頂部に堅穴住居跡、北斜面に土坑群が形成されており、堅穴住居跡・土坑ともに重複が多い。上のマッカ遺跡(24)では、大木2b式期の堅穴住居跡が1棟検出されている。階上町側では、藤沢(2)遺跡において早期末1棟、早期末～前期初頭5棟が見つかる。このように、久慈市以北の三陸沿岸道路建設において、縄文時代早期～前期資料の発見が相次いでいると言える。

縄文時代中期は、上のマッカ遺跡(24)で中期前葉の堅穴住居跡4棟が検出されている。上のマッカ遺跡は宿戸遺跡から南へ直線距離4.7kmに位置している。

縄文時代後期は、上のマッカ遺跡(24)・統石遺跡(86)で後期前葉の堅穴住居跡が各1棟検出されている。上水沢Ⅱ遺跡では前葉から後葉の堅穴住居跡11棟が検出されている。南八木遺跡(19)では遺構に伴わない後期前葉の土器片が出土している。その他、中期から後期と考えられる溝形陥し穴状遺構が見つかるのは、中野城内遺跡(34)・上のマッカ遺跡(24)である。

縄文時代後期中葉以降晩期にかけて痕跡は乏しい。戸類家遺跡(1)は、昭和32年慶應義塾大学江坂輝彌によって発掘調査が行われ、その際に結髪土偶が出土している。[土偶](江坂1960)に掲載されており著名な土偶である。角川目Ⅰ遺跡・浜平内Ⅰ遺跡で晩期の遺物が、ゴッソー遺跡・アイヌ森遺跡・北平内遺跡では晩期・弥生時代の遺物が確認されている。

弥生時代は、平内Ⅱ遺跡で前期後葉の堅穴住居跡2棟、上水沢Ⅱ遺跡では後期の堅穴住居跡が1棟検出されている。西平内Ⅰ遺跡・サンニヤⅢ遺跡・荒津内遺跡では弥生時代の遺物が確認されている。

江坂輝彌 1960 『土偶』

草間俊一 1963 『種市の歴史(原始～中世)種市町諸遺跡の調査報告』

笹津備様 1963 『岩手県九戸郡戸類家遺跡』『日本考古学年報(昭和32年度)』

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015 『外屋敷ⅩⅨ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第646集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018 『北鹿雄遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集

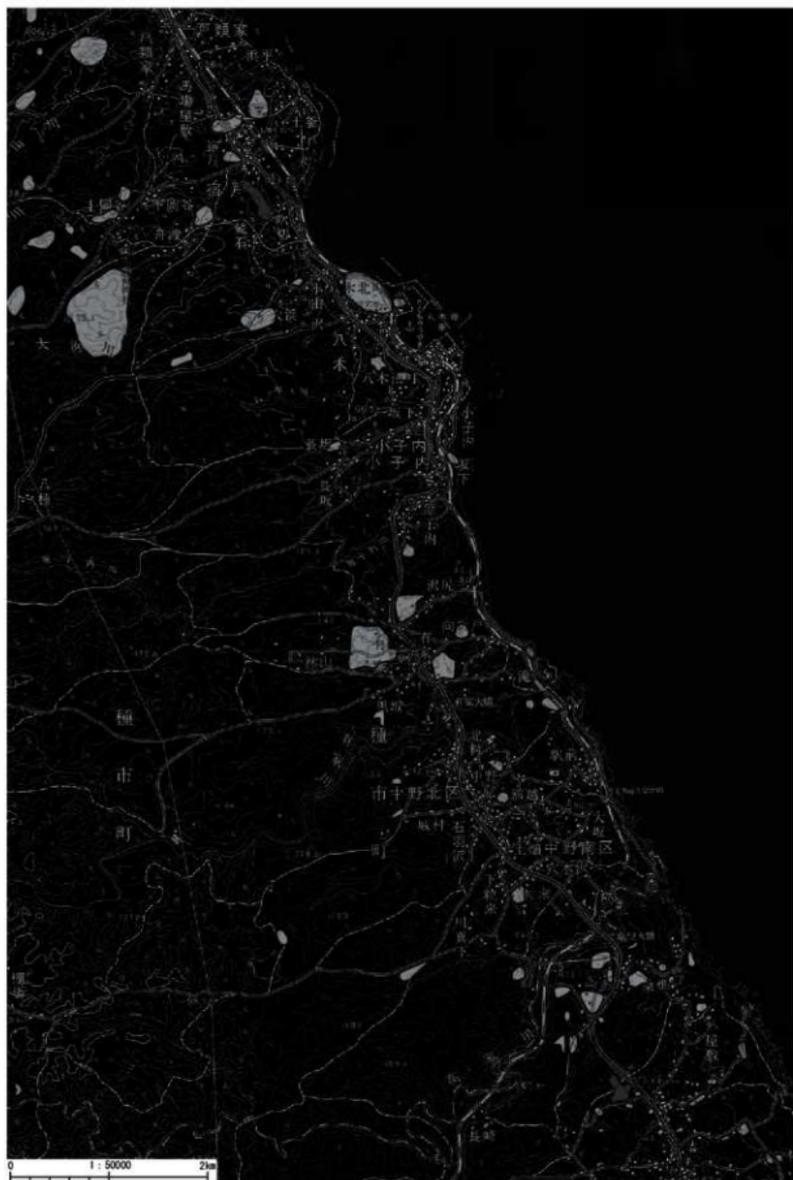
(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018 『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018 『北野ⅩⅡ遺跡』『平成29年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018 『中野城内遺跡』『平成29年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019 『南鹿雄Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第697集

- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019 『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第698集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019 『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第699集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019 『荒津内遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第701集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019 『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第702集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020 『南八木遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第703集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020 『サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第714集
- (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020 『田ノ端Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第715集
- 種市町教育委員会 2004 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』 種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 洋野町教育委員会 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 洋野町教育委員会 2015 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 洋野町教育委員会 2017 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 洋野町教育委員会 2019 『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第4集
- 洋野町教育委員会 2019 『下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第5集
- 洋野町教育委員会 2019 『統石遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第6集
- 洋野町教育委員会 2020 『南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第7集
- 洋野町教育委員会 2020 『尺沢遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第8集
- 洋野町教育委員会 2020 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第9集



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡

No.	遺跡名	種別	時代・時期	備考	No.	遺跡名	種別	時代・時期	備考
1	戸部家	散布地	縄文(晩期)		49	桑畑I	集落跡	縄文(前・後期)・古代	
2	館	集落跡	縄文(中期)		50	桑畑XIII	集落跡	縄文(前・中期)	
3	馬場	散布地	縄文		51	桑畑XIV	散布地	縄文(晩期)・弥生	
4	宿戸館	城跡跡	中世		52	桑畑XV	散布地	縄文(後期)	
5	西の館	散布地・城跡跡	縄文(後期)・中世		53	桑畑XVI	散布地	縄文(早・前期)	
6	西の館跡	城跡跡	中世		54	桑畑XVII	集落跡	縄文(前・後・晩期)	
7	西館の田	散布地	縄文(晩期)		55	桑畑XVIII	散布地	縄文(後期)・古代	
8	田ノ沢	散布地	縄文(晩期)		56	桑畑XIX	散布地	縄文(後期)	
9	上岡谷	散布地	縄文(後期)		57	外屋敷I	集落跡	縄文(早・前・後期)・古代	
11	横戸	散布地	縄文	H25新発	58	外屋敷II	散布地	縄文(後期)・古代	
12	小田ノ沢	散布地	縄文	H25新発	59	外屋敷III	集落跡	縄文(晩期)・古代	
13	大平	集落跡	縄文(早・晩期)・弥生		60	外屋敷IV	散布地	縄文(中・晩期)・古代	
14	ホツリ貝塚	貝塚	縄文・古代		61	外屋敷V	散布地	縄文(後期)・弥生	
15	大浜	集落跡	縄文		62	外屋敷VI	散布地	縄文(前・後期)・古代	
16	小田の沢跡山	磐石関連	近世		63	外屋敷VII	散布地	縄文(後期)	
17	八木貝塚	貝塚	縄文(晩期)		64	外屋敷VIII	集落跡	縄文(前・後期)	
18	横山	集落跡	縄文(中・後期)・古墳		65	外屋敷IX	散布地	縄文(早・後・晩期)	
19	南八木	磐石関連	不明	H25新発	66	外屋敷X	集落跡	縄文(中・後期)	
20	長坂	散布地	縄文(後・晩期)		67	外屋敷XI	散布地	縄文(後期)	
21	小子内貝塚	貝塚	縄文		68	外屋敷XII	集落跡	縄文(中・晩期)	
22	黒マツカ貝塚	貝塚	縄文(後期)・古代		69	外屋敷XIII	散布地	縄文(後期)・弥生・古代	
23	八森	散布地	縄文		70	外屋敷XIV	散布地	縄文(後期)	
24	上のマツカ	集落跡	縄文(前・後期)		71	外屋敷XV	散布地	縄文(早・前期)	
25	有家館	城跡跡	中世		72	外屋敷XVI	散布地	縄文(早・後期)	
26	向折戸	集落跡	縄文(晩期)		73	外屋敷XVII	散布地	縄文(後期)	
27	向長館	散布地	縄文		74	外屋敷XVIII	散布地	縄文(後期)	
28	有家台場	砲台跡跡	近世		75	外屋敷XIX	集落跡	縄文(早期)	
29	黒坂	集落跡	縄文(中期)	H25新発	76	本町I	散布地	縄文(後期)	
30	大宮I	集落跡	縄文(早・前・晩期)・弥生		77	本町II	散布地	縄文	
31	大宮II	散布地	縄文(早期)・弥生		78	本町III	散布地	縄文(後期)	
32	下向I	散布地	縄文	H25新発	79	本町IV	散布地	縄文(早・前・後期)	
33	長根塚	散布地	縄文		80	向町I	散布地	縄文・古代	
34	中野城内	散布地	縄文	H25新発	81	向町II	散布地	縄文(早・後期)	
35	中野館 (船塚・観音館)	城跡跡	中世		82	向町III	散布地	縄文(後期)・古代	
36	観音塚	集落跡	縄文		83	向町IV	散布地	縄文(後期)	
37	藤村沢	集落跡	縄文(前・晩期)		84	長崎	散布地	縄文(後期)	
38	桑畑I	散布地	縄文		85	平毛渡跡山	磐石関連	近世	
39	桑畑II	散布地	縄文(後期)		86	碓石	散布地	縄文	H25新発
40	桑畑III	散布地	縄文(早・前期)・弥生		87	南玉川II	散布地	縄文	R1新発
41	桑畑IV	散布地	縄文		88	南玉川IV	散布地	縄文	R1新発
42	桑畑V	散布地	縄文(前・後期)		89	南玉川I	散布地	縄文	R1新発
43	桑畑VI	散布地	縄文		90	西ノ館家I	散布地	縄文	R1新発
44	桑畑VII	散布地	縄文(前・後期)・弥生		91	馬場II	散布地	縄文	R1新発
45	桑畑VIII	散布地	縄文(後期)		92	下向II	磐石跡跡	縄文	H20新発
46	桑畑IX	散布地	縄文・弥生(後期)・古代		93	尺沢	散布地	縄文	R1新発
47	桑畑X	散布地	縄文(前期)		94	本町V	散布地	縄文・古代	
48	桑畑XI	集落跡	縄文(早・晩期)・古代		95	向町III	散布地	縄文	

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

(1) 調査区割

宿戸遺跡の調査地点は、北区(8,000㎡)と南区(9,400㎡)の2地点に分かれている(第4図)。平成28年度調査開始当初、北区調査範囲は800㎡であったこと、さらに、南区から順次調査区引き渡しが行われていたため、南区を先行してグリッド設定を行った(第5図)。平成29年度調査開始時には、北区調査範囲は前年度の調査状況及び試掘結果を受けて8,000㎡に増加した。そのため、北区のグリッド設定は頭に「北」を附した名称とすることとした(第5図)。

グリッド割は、小グリッドを4×4mとし、小グリッドを25個組み合わせることで20×20mの大グリッドを設定した(第5図)。包含層の遺物取り上げは、小グリッドを基本とした。

(2) 基本層序

南区の6グリッド付近には、東西に走る旧道が存在していた。調査開始当初、旧道が城館を構成する遺構である可能性を想定し、旧道を横断するT13を設定して土層の観察を行った。その結果、最下面に残された痕跡は作業用車両タイヤの2列の窪みであり、窪み底面にトラクタータイヤ状の圧痕を確認するに至った。また、縄文時代以降の遺物も出土していないこと、地元の聞き取り調査から木材運搬のために拓かれた道路であると判断した。このT13及び南区最高地点に設定したT1の基本土層を第6図に、T1・T13を基に検討した宿戸遺跡層序概念図を第8図に示した。

T1・T13で確認した基本層序は、北区においても踏襲することができた(第7図)。以下、層毎の様相をT1・T13を主体に、部分的に他トレンチと照合しながら示す。

I層 5YR2/1黒褐色 粘性 中 締 疎 表土・黒ボク質層・攪乱層・現地表層。T13においては木材運搬路が形成されている。

II層 5YR1/1黒色 粘性 やや強 締 中 黒ボク 溝形陥し穴状遺構の堆積層はII層を主体とする。縄文時代中期～晩期。北区においてII層中から後期前葉の土器が出土している。

III層 7.5YR2/2黒褐色 粘性 やや弱 締 やや密 十和田中振テフラ 極細粒砂大軽石質黒ボク 十和田中振テフラを含む。縄文時代前期。4・5号住居跡が調査区境に重なっており、調査区壁を観察し、十和田中振テフラが住居跡を覆っていることを確認した。

IVa層 7.5YR2/1黒色シルト 粘性 強 締 密 褐色土粒少量含む 黒ボク、軽石少し混じる 縄文時代前期前葉

IVb層 10YR2/1黒色シルト 粘性 強 締 密 褐色土粒多く含む 黒ボク、軽石多く混じる

Va層 10YR2/2黒褐色シルト 粘性 強 締 密 極細粒～中粒砂大軽石質ローム質黒ボク

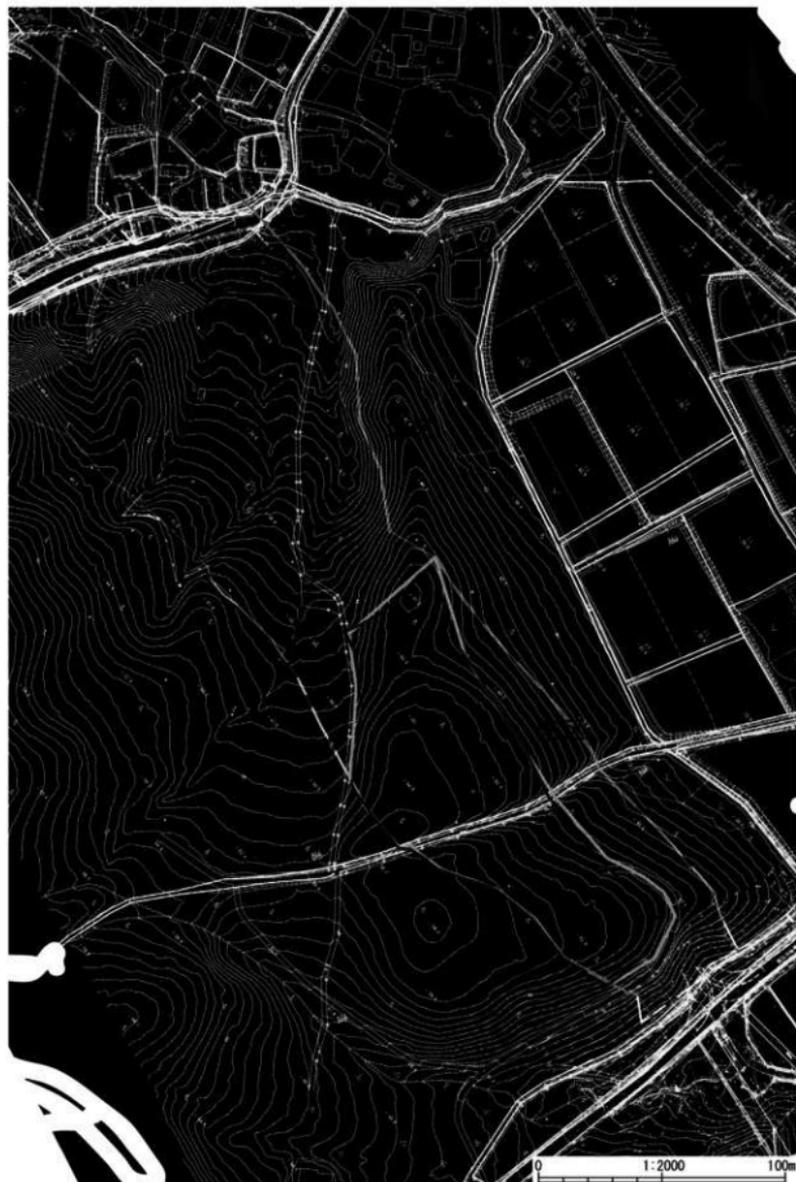
Vb層 10YR2/3黒褐色シルト 粘性 強 締 密 極細粒～中粒砂大軽石知る黒ボク質ローム 十和田南部テフラ

VIa層 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性 やや強 締 やや密

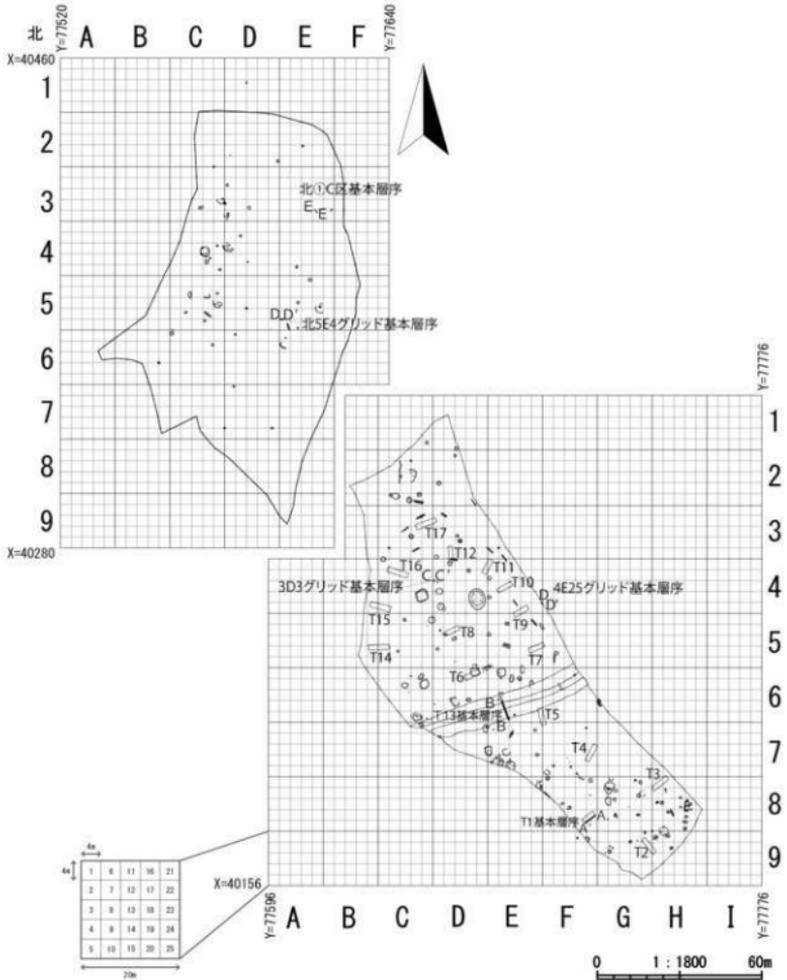
VIb層 7.5YR4/3褐色シルト 粘性 やや強 締 密

VIc層 7.5YR4/4褐色シルト 粘性 強 締 密

VIIa層 7.5YR5/6明褐色・10YR4/6褐色・10YR5/6黄褐色火山灰 粘性 中 締 密 十和田八戸テフラ層



第4図 調査区地形図



第5図 グリッド配置・基本層序位置図

Ⅶb層 10YR5.5/6黄褐色～明黄褐色・10YR6/8明黄褐色火山灰 粘性 中 締 密 十和田八戸テフラ層

Ⅶc層 7.5YR6/4にぶい橙色火山灰 粘性 中 締 密 十和田八戸テフラ層

Ⅷ層 7.5YR6/6橙色・7.5YR5/6明褐色火山灰 粘性 強 締 密 十和田高館テフラ層

(3) 表土除去・試掘

表土除去は、岩手県教育委員会生涯学習文化課（現生涯学習文化財課）が実施した試掘結果及び本調査トレンチ調査結果に基づいて掘削を行った。表土掘削は、平成28年度は4月13日から6月21日まで、平成29年度は4月18日から11月16日まで、平成30年度は4月10日から6月16日まで重機による表土掘削を行った。

南区の表土除去は、遺物出土状況に応じてⅣ～Ⅵ層上面まで行った。Ⅳ層中には特に遺物が多く含まれていたため、包含層精査を行いつつ、遺構検出を試みた。北区の表土除去は、平成29年9月から北区①～⑤区（第11図）について実施し、残りは平成30年度に行った。

(4) 遺構の精査・記録方法

遺構の精査は、竪穴住居跡は4分法を基本とし、北東から時計回りでQ1・Q2・Q3・Q4とした。土坑類は2分法を基本とした。実測は、平面図については電子平板（御キュービック「遺構くん」システム）を用いて測量を行った。断面実測は、従来の水糸測量を行った。

写真撮影は6×9判モノクロームフィルムカメラ（FUJI GSW690Ⅲ）1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。

(5) 調査経過

平成28年度：4月6日器材搬入・現場設営。5月17・18日基準点打設。4月13日から6月21日まで重機による表土掘削を行い、併行して人力による遺構検出・精査を調査区南端から行った。サンニヤI遺跡調査を優先するため本遺跡調査は7月22日で一旦中断した。中断に際し、精査途中のグリッドに関してはブルーシートで養生を行った。8月30日、岩泉町等で多くの被害をもたらした台風10号の影響で、宿戸遺跡でも隣接林の松・杉が複数倒れ、調査区内に散乱した。8月31日、調査員が状況確認を行い、ブルーシートに乱れがあったものの、養生していた遺構には被害はなかった。倒木については、委託者によって除去された。

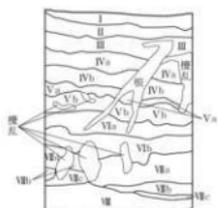
平成29年度：4月10日器材搬入・現場設営。平成29年度は平成28年度からの継続で南区の精査を中心に行った。4月当初は作業員37名で開始したが、約8,200㎡もの南区包含層精査には人員が不足し、9月後半は作業員を54名まで増やして包含層精査を進めた。9月から北区の試掘トレンチ調査を開始した。北区の重機による表土掘削は、北区①～⑤について9月から開始し、併行して遺構精査を11月30日まで行った。9月21日一方井公民館体験学習。10月28日現地説明会開催、86名参加。11月9・10日北区に基準点打設。11月21日空撮。11月28日、南区11,360㎡について終了確認を行い、南区の精査を終了した。11月30日撤収。

平成30年度：4月4日器材搬入・現場設営。北区の精査を行った。北区は調査区内に排土を置く必要があり、そのため5月18日2,080㎡について部分終了確認を行った。6月5日にはさらに400㎡について部分終了確認を行い、排土置き場を確保して表土掘削・遺構精査を進めた。7月25日終了確認。7月27日空撮。7月31日撤収。

1 野外調査

基本土層 3D3

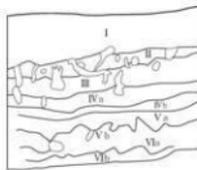
1:50,000



- I 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり練
- II 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり練 白色輝石粒 (径1~2mm) 微量含む
- III 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや密 白色輝石粒 (径1mm以下) 3%含む
- IVa 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや密 十和田南部テフラ (径1mm) 3%含む
- IVb 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり密 十和田南部テフラ (径1~2mm) 5%含む
- V 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり密 十和田南部テフラ (径1~3mm) 10%含む
- Vb 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや密 十和田南部テフラ (径2~3mm) 30%含む
- VIa 10YR4/6 褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密 白色輝石粒 (径1~2mm) 10%含む
- VIb 10YR4/6 褐色 シルト 粘性強 しまり中 白色輝石粒 (径1~2mm) 3%含む
- VIIa 10YR6/4 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり練
- VIIb 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり練 十和田八戸テフラ層
- VIII 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり練
- IX 10YR7/8 黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり密 十和田南部テフラ層

基本土層 4E25

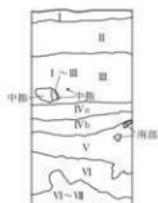
1:49,500m



- I 7.5YR1.7/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり練 夾雑物極少 含砂多
- II 7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまりやや密 細砂粒(十和田中階テフラ) 僅かに含む
- III 7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 細砂粒 (十和田中階テフラ) 僅かに含む
黄褐色浮石粒 (十和田南部テフラ) (径1~3mm) 2~3%含む・II層よりやや明色でやや赤みがかる
- IVa 7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 黄褐色浮石粒 (径1~5mm) 3~5% 量より多い
- IVb 7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり密 黄褐色浮石粒 (十和田南部テフラ) (径1~5mm) 5%
IVa層より多い・明色浮石粒数限り・IVb層より明色・硬密度強い
- Va 7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり密 黄褐色浮石粒 (十和田南部テフラ) (径1~5mm)
5~10%・IVb層よりさらに多い・ベース土はIVb層と近引・硬密度強い
- Vb 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 黄褐色浮石粒 (十和田南部テフラ) (径3~7mm)
15~25%と最も多い・下位IVb層部面の褐色土ブロック面状に混在
- VIa 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 黄褐色浮石粒 (十和田南部テフラ・十和田八戸テフラ) (径3~5mm) 5~10%・Vb層より少なくなる・ベース土よりやや暗色・明色の部分が塊状/ブロック状に混在
- VIb 7.5YR3/4 暗褐色~10YR4/6 褐色 シルト 粘性やや弱~中 しまり中 黄褐色浮石粒 (十和田八戸テフラ) (径3~10mm) 3~5%・全体的にローム質で十和田八戸テフラを母材としている可能性高い

基本土層 北①CK

1:45,00m



- I~III 10YR2/2 黒褐色 パミスが極小~小粒径で2~3%混じる やや粘質を帯びる 本階による貫入を主体とする
 - I 10YR4/1~3/1 褐色~黒褐色 現生の基本の根が多い
 - II 10YR2/1 黒色 パミス層を無し
 - III 10YR2/2 黒褐色 パミス層を無し
 - IVa 10YR2/3 黒褐色 パミスが極小~小粒径で15%混じる
 - IVb 10YR2/1 黒色 パミスが極小~小粒径で30%混じる
 - V 10YR3/3 暗褐色 パミスが極小~小粒径で30%混じる
 - VI 10YR5/4 に近い黄褐色 パミスが極小~小粒径で2~3%混じる
 - VI~VII 10YR6/4 明黄褐色 パミスが極小~中粒径で2~3%混じる
 - VII 10YR7/6 黄褐色 パミスが極小~中粒径で10%混じる
- 記載中のパミスについては 10YR8/3~7/6 浅黄褐色~明黄褐色、十和田八戸テフラと十和田南部テフラが混在するが、IVは中部浮石、VIIIは八戸火山灰が主体
中階火山灰 10YR8/6 黄褐色 シルトに近い板子の集まり
南部浮石 7.5YR7/6 褐色 極小粒系の砂粒の集まり

基本土層 北5E4

1:35,000m



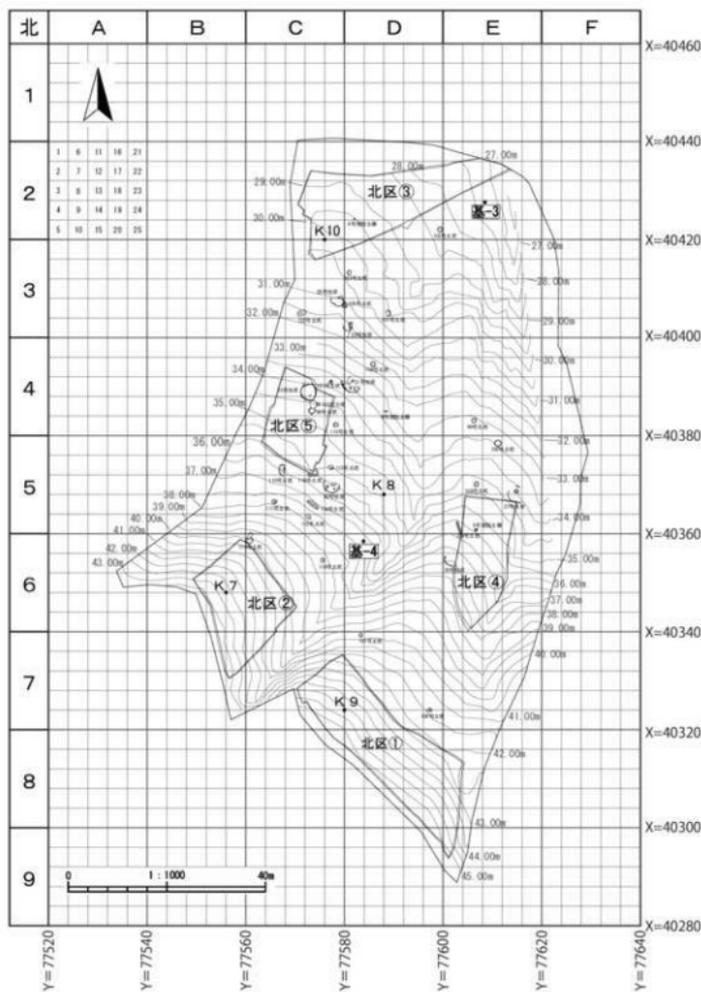
- IIIa 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 十和田中階テフラを含む
- IIIb 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密 十和田南部テフラ粒 (径1mm) 5%含む
- IV 10YR2/1~2/2 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密 十和田南部テフラ粒 (径2mm) 20%含む
- V 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 十和田南部テフラ粒 (径2mm) ブロック状にまとまる
- VI 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 輝石粒 (径1mm) 5%含む



第7図 北区・南区基本土層



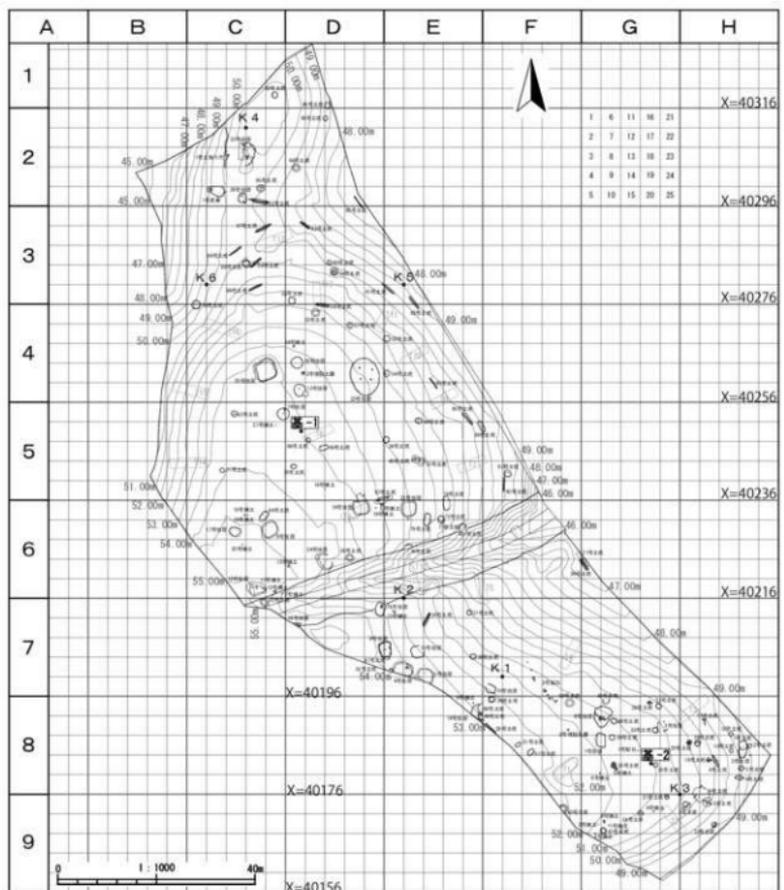
第8図 南区基本層序概念図



座標値

基-3	X = 40427.574	Y = 77608.523	H = 27.613m
基-4	X = 40358.451	Y = 77583.880	H = 37.471m
K 7	X = 40348.000	Y = 77556.000	H = 42.822m
K 8	X = 40368.000	Y = 77588.000	H = 35.967m
K 9	X = 40324.000	Y = 77580.000	H = 43.689m
K 10	X = 40420.000	Y = 77576.000	H = 30.088m

第9図 北区遺構配置図

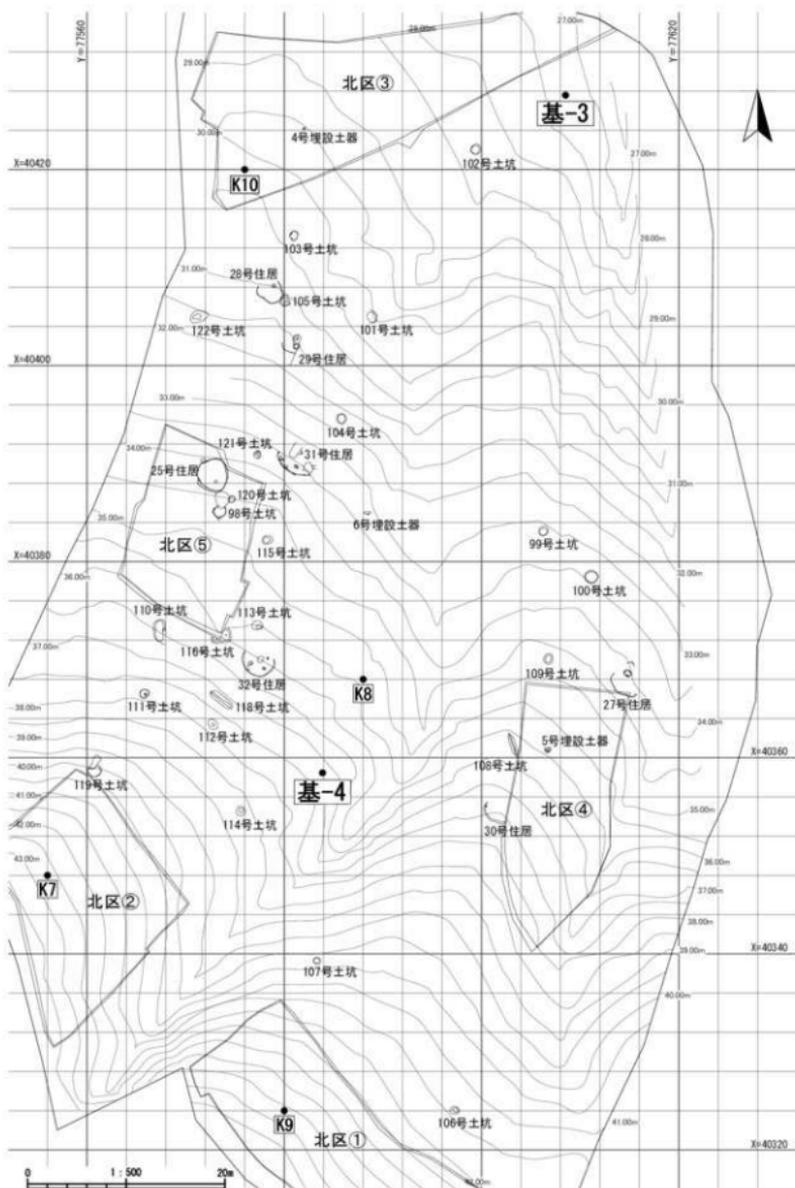


Y = 77616
Y = 77636
Y = 77656
Y = 77676
Y = 77696
Y = 77716
Y = 77736
Y = 77756

座標値

基-1	X=40249.747	Y=77658.638	H=53.651m
基-2	X=40181.940	Y=77730.626	H=51.525m
K 1	X=40200.000	Y=77700.000	H=52.254m
K 2	X=40216.000	Y=77680.000	H=52.950m
K 3	X=40176.000	Y=77736.000	H=51.150m
K 4	X=40312.000	Y=77648.000	H=50.872m
K 5	X=40280.000	Y=77680.000	H=48.956m
K 6	X=40280.000	Y=77640.000	H=49.825m

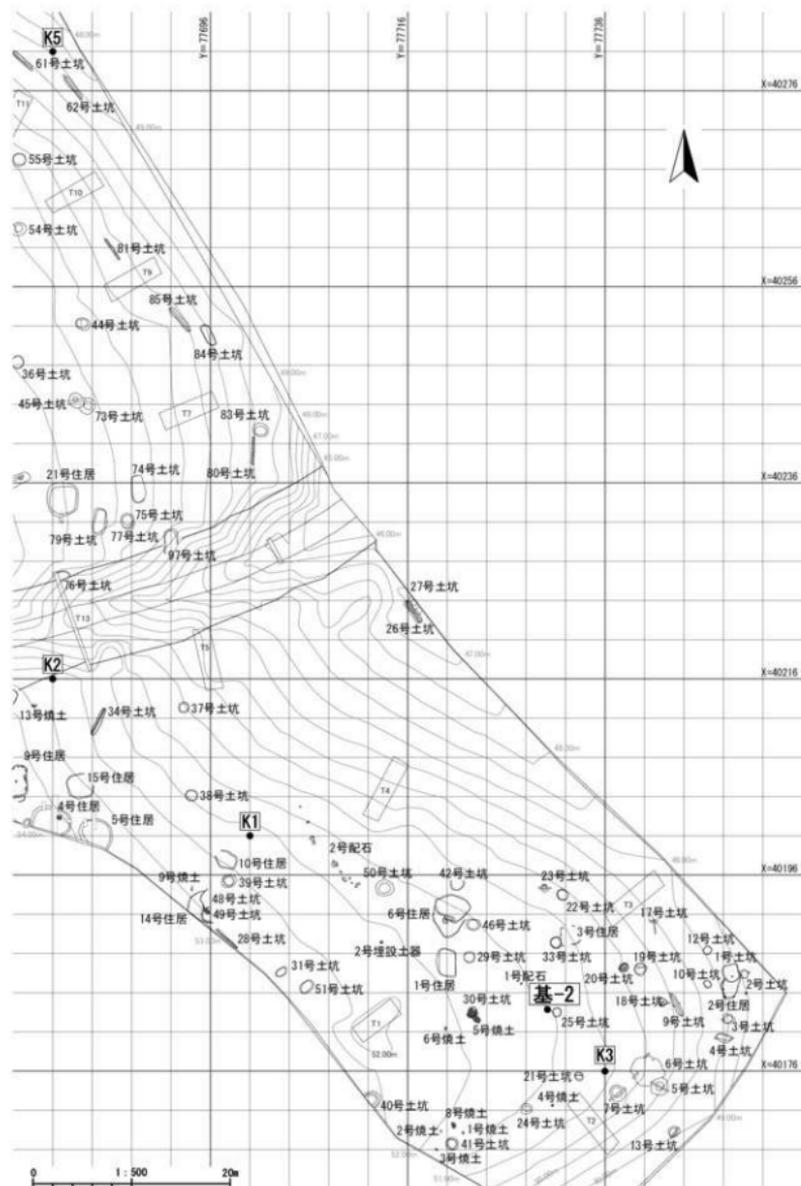
第10図 南区遺構配置図



第11図 北区遺構配置図



第12図 南区遺構配置図(1)



第13図 南区遺構配置図(2)

2 室内整理

(1) 遺構図面の整理・図面編集

野外調査時に計測した電子平板（株式会社「遺構くん」システム）のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した人手による断面図をデジタルデータ化して第二原図を作成した。

(2) 遺物の整理

出土遺物は野外調査雨天時及び室内作業に入ってから水洗洗浄を行い、種別毎に分類して袋に取めた。土器：全破片に宿戸遺跡略号（平成28年度：SHU-16、平成29年度：SHU-17、平成30年度：SHU-18）と平成28年度出土分に関しては出土遺構名・出土グリッドを注記した。平成29・30年度は遺物量が多く、また小破片も多いことから、遺跡略号と取り上げ袋番号を注記した。注記後、取り上げ袋番号毎に台帳を作成し、重量計測を行った。接合確認作業は、大グリッド毎に行い、大きく復元可能な土器については個別に取り上げ、全体の作業を経て本書掲載分と不掲載分に選別した。掲載分は仮番号を付けて登録作業を行った。その後復元石膏入れをし、実測・拓本・トレース作業を行った。土器実測は、一部株式会社ラングのPEAKITを委託して行った。納品されたPEAKITデータは手実測で行った断面図と合成して完成させた。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、遺構内出土遺物を優先し、包含層出土土器は大グリッド毎に選別して掲載を決定した。掲載にあたっては、遺構内は口縁部・底部を優先し、必要に応じて胴部片を掲載した。包含層出土については、年代順になるよう努めたが、特に早期中葉から前期初頭の縄文施文の土器については全てを年代順に配置することが難しかった。そのため、早期中葉から前期初頭については縄文施文を後に掲載した場合もある。

石器：器種毎に分類し、全点登録・法量計測を行った。石材分析は花崗岩研究会に委託した。全点委託すべきところだが、磨石類・特殊磨石は点数が多かったため、主に掲載石器について石材分析を依頼した。花崗岩研究会の同意でヒスイの可能性が指摘された石斧については、さらにフォッサマグナムミュージアム・台湾中央研究院飯塚義之氏に依頼した。第V章2石器において各器種数値を示したが、それには各器種全点のデータを反映させている。

土製品・石製品：器種毎に分類し、全点登録・法量計測を行った。点数に限られるため全点掲載に努めたが、粘土塊については不掲載資料もある。石材分析は花崗岩研究会に委託し、花崗岩研究会の分析で不明とされた球状耳輪類については、台湾中央研究院飯塚義之氏に依頼した。

(3) 写真撮影

遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフ（Canon EOS 5D）にて撮影した。本書掲載遺物写真は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

(4) 室内整理経過

平成28年度：遺構図版整理及び遺物洗浄・土器注記、石器器種分類

平成29年度：遺構図版整理及び遺物洗浄・土器注記・接合、石器器種分類・計測

平成30年度：遺構図版整理及び遺物洗浄・土器注記、遺物実測・細分類・計測、図版作成、写真撮影

令和2年度：遺物細分類・実測・計測、図版作成、写真撮影、収納作業

IV 検出された遺構

1 全体の概要

南区は平成28・29年度、北区は平成29・30年度に調査を行った。

南区は丘陵上に立地している。縄文時代早期～中期の竪穴住居跡が頂部付近で検出され、遺構に近い緩斜面からは遺物が多く出土した。南区の遺物はIV層出土が多く、小グリッド毎に包含層を精査しつつ遺構検出を試みたが、IV・V層の黒色土は厚く、VI層まで下げた時点でようやく検出できる遺構がほとんどだった。

北区は大部分が斜面地で、北流する現沢が西端・中央・東端に各1条ある。水量は勢いがあり、夏でも涸れることはなかった。これらの沢が合流して吹切沢となり、大浜北端の崖を削って太平洋に流れている。地元の方の話によると、宿戸は水が多い土地だという。中央・西端の沢水は水道管が引かれ、工事前まで近隣住宅に生活用水として使用されていた。中央の沢は北3Dグリッド付近で暗渠となり流路を東に変え、傾斜が緩やかで幅が広がっている。水場遺構の可能性を考え、2Eグリッドにトレンチを設定して掘削を行ったが、遺物・有機質遺物は検出されなかった。水量が非常に多く、仮に縄文時代後期・晩期の遺物が流入していたとしても調査区内に留まることは難しいと考えられる。なお、水量の多さから、断面図の記録は断念した。

北区は南区丘陵の北側斜面地に立地している。主に、縄文時代後期～弥生時代の遺構が検出された。北区の調査は、平成29年度8月からトレンチを設定し、全体の堆積状況及び遺物出土状況を把握した上で5地点について精査を行った。第11図に示した北区①～⑤が平成29年度調査区域である。北区③～⑤において遺構を確認することができたため、平成30年度の表土掘削は、遺物が多かった5Cグリッドを中心に可能な限りII層上面とし、黒色土中での遺構検出を行った。北区で検出した竪穴住居跡や溝形陥し穴状遺構は、上述沢間の尾根上に位置している。遺物は遺構内及び遺構周辺の沢につながる斜面地のII層から多く出土している。

2 検出遺構

検出した遺構は、竪穴住居跡33棟、土坑56基、貯蔵穴11基、円形陥し穴状遺構24基、溝形陥し穴状遺構20基、埋設土器5基、焼土遺構20基、配石遺構2基、炭窯1基、土取り穴1基である。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は33棟検出した。内訳は、縄文時代32棟、弥生時代1棟である。

1号住居跡(第14図、写真図版1)

[位置・検出状況] 南区8G2・3・7・8グリッドに位置する。南北トレンチで確認した。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 6号住居跡南約1mに位置する。他遺構との切り合いは認められない。

[平面形] 不整形。

[規模] 長軸2.8m・短軸2m・深さ0.45m

[埋土] 5層からなる。壁際にVI層由来のふい黄褐色シルトが堆積し、その上にIV～V層由来の黒褐色土が覆う。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はⅤ層が露出した面を床面としている。若干の凹凸が認められるものの、概ね平坦である。Ⅴ層の特性上、床面は硬く締まる。壁は全周する。緩やかに広がりながら立ち上がる。

[炬] 検出されなかった。

[付属施設] 柱穴等の付属施設は認められなかった。

[出土遺物] (第57・167図、写真図版67・162) 土器14点(194g)、礫器1点、特殊磨石1点、台石1点、礫割片1点(24.8g)が出土している。土器片の出土状況に明確なまとまりは認められない。土器1～3は爪形状刺突文と貝殻線沈線文で構成され、同一個体と考えられる。この他、長七谷地Ⅲ群・上川名式土器片1点、羽状縄文片1点、縄文施文片7点等が出土しているが、胴部小破片であることから不掲載とした。

[帰属時期] 壁面にⅥ層由来の堆積土が認められること、また貝殻線文土器が出土していることから縄文時代早期中葉と考えられる。(八木)

2号住居跡(第14図、写真図版2)

[位置・検出状況] 南区8H18・19グリッドIV a層上位のⅢ層基底面で検出した。北側を1号土坑に削られる。西側は後世に削られる。

[その他の遺構との重複] 1号土坑と重複関係が認められる。平面観察上、1号土坑の方が新しい。

[平面形] 検出した範囲は、建物の西南側の一部であるが、建物に伴うであろうピットの分布範囲からみて、東西に長いやや歪な長方形と推定できる。

[規模] 規模は東西2.6m以上、南北2.1m以上(推定2.3m)、深さ0.32～0.42m、東西の長軸は東北東-西南西の方向で、検出作業面の傾斜に一致。

[埋土] 加工面はⅤ層上限の深度まで達する。加工面上の埋土5層はⅣ層由来主体でⅤ層を含む偽礫客土からなり、約10cmの層厚がある。4層はⅤ層由来の偽礫客土からなり、5層上面の凹みを埋める。3層は西壁面に沿う凹みを埋める。1・2層はⅤ・Ⅳ層由来の偽礫客土からなり、5・4・3層上面を18cm以上の厚さで覆う。

[床面・壁] 壁面は不規則な凹凸があるが、概ね垂直に近く立ち上がる。底面は平坦で、壁を検出した西側が東側より約10cm高い。埋土5・4層上面は比較的平坦であり、機能面の可能性がある。これが機能面であるならば、5層は土坑掘り下げ直後の加工時層か、2次的な整地時の機能時層(この場合、土坑底の加工面=1次機能面)、3層は機能時に部分掘削された凹みを埋めた機能時層、斜面を覆う4層と機能面を覆う1・2層は廃棄時客土層と考えられる。

[付属施設] 壁面沿いに、円形～歪な長円形のピットが9穴並ぶ。各ピットの最大長径は13～23cmで不揃いである。ピット間隔も不揃いで13～130cmまでであるが、30～85cmが多い。ピットの底は建物底面より数cm深い。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 埋土4層以下にⅤ層以下の偽礫が含まれることから、5・4層はⅤ層堆積後の縄文時代前期前半ごろと推定され、1・2層にⅣ層偽礫が含まれることから、1・2層は前期中頃より近い時期と推定される。(趙)

3号住居跡(第14図、写真図版3)

[位置・検出状況] 南区8G17・22グリッドに位置する。南北トレンチ調査中に床面と壁の立ち上がりを確認した。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 33号土坑と重複関係があり、33号土坑の方が新しい。

[平面形] 不整形と推定する。

[規模] 長軸2.1m・短軸2m・深さ0.35m

[埋土] 2層からなる。V層由来の黒褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はⅦ層が露出した面を床面としている。若干の凹凸が認められるものの、概ね平坦である。床面はⅦ層の特性上ザラツキがあるが、硬く締まる。壁はトレンチによって大きく壊されているが、確認できた範囲では直立気味に立ち上がる。

[炉] 検出されなかった。

[付属施設] 柱穴等の付属施設は認められなかった。

[出土遺物] (第57・167・168図、写真図版67・162) 土器片14点(221.5g)、石核2点、敲磨器類1点、剥片12点・礫剥片18点(剥片合計221.2g)が出土している。出土状況に明確なまとまりは認められない。土器5は非結束羽状縄文である。

[帰属時期] 土器片は長七谷地Ⅲ群の要素を示しており、縄文時代前期初頭に属する可能性がある。(八木)

4号住居跡(第15図、写真図版4)

[位置・検出状況] 南区7E4グリッドに位置する。平成28年度調査において、試掘トレンチ内の断面で検出されていたものを、平成29年度に再検出及び精査を行った。遺構はV層上面から掘り込まれている。本遺構は南側の1/3程度が調査区外に及んでいる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存部より推察するに、おおそ円形を呈すものと考えられる。

[規模] 残存部で長軸4.01m・短軸2.47m・深さ0.39m

[埋土] 黒褐色土主体の単層である。層の下位に炭化物粒が混じる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] V～Ⅵ層の漸移層が床面となり、やや硬化が見られる。概ね平坦に調整されている。壁は調査区外とトレンチ部分を除き全周する。床面から開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。

[炉] 床面北東寄りに地床炉を確認した。根拠乱により残存状態はよくないが、焼成確認面は長軸54.6cm・短軸46.0cmである。

[付属施設] 柱穴・周溝等の施設は確認できなかった。

[出土遺物] (第57・168・169・170図、写真図版67・162・163) 1層内より土器・石器・礫の遺物が出土した。そのほとんどは層の上位で見つかり、床面直上の遺物はほとんどなかった。(森)

土器細片127点(675.3g)、石鏃5点、石匙1点、両極石器1点、石核1点、石斧6点、敲磨器類1点、多面体敲石1点、特殊磨石3点、不定形石器1点、剥片52点・礫剥片25点(剥片合計501.72g)が出土している。土器片は点数が多いがほとんどが胴部細片で、図示できる資料は6～8に限られる。非結束羽状縄文が施文されている。

[帰属時期] 出土遺物から、縄文時代前期初頭と考えられる。(八木)

5号住居跡(第16図、写真図版5)

[位置・検出状況] 南区7E14グリッドに位置する。平成28年度調査試掘トレンチ断面を平成29年度に再精査したところ遺構の立ち上がりを確認した。遺構はV層上面から掘り込まれている。本遺構は南側の1/4程度が調査区外に及んでいる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存部より推察するに、おおよそ円形を呈すものと考えられる。

[規模] 残存部で長軸3.48m・短軸2.57m・深さ0.31m

[埋土] 黒褐色土を主体とする単層である。層の下位に炭化物粒が混じる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] V-VI層を床面とし、概ね平坦に調整されている。壁は調査区外とトレンチ部分を除き全周する。床面から開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。

[炉] 確認できなかった。

[付属施設] 柱穴・周溝等の施設は確認できなかった。

[出土遺物] (第57・170・171・260図、写真図版67・163・208) 埋土1層からの出土というよりも本遺構をバックしているIV層からの出土がほとんどであり、本遺構から出土した土器13が主な出土遺物である。(森)

土器細片116点(2577.4g)、石鏃1点、石匙1点、石斧3点、礫器2点、敲磨器類2点、特殊磨石1点、台石3点、不定形石器1点、剥片99点・礫剥片43点(剥片合計1011.96g)、石製垂飾品1点(2692)が出土している。土器は貝殻沈線文土器、早稲田5類、長七谷地Ⅲ群が出土している。

[帰属時期] 出土遺物から、縄文時代前期初頭と考えられる。(八木)

6 a・b号住居跡(第16図、写真図版6)

[位置・検出状況] 南区8G1・2・6・7グリッドに位置する。トレンチ調査中に高低差が認められる床面と壁の立ち上がりを確認した。V b層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 2棟切り合いが認められる。新しい方を6 a号住居跡、古い方を6 b号竪穴住居跡と呼称する。

[平面形] 6 a・b号住居跡とも不整形を呈する。

[規模] 6 a号住居跡:長軸3.1m・短軸2.7m・深さ0.35m、6 b号住居跡:長軸3.4m・短軸2.6m・深さ0.25m

[埋土] 6 a号住居跡は5層、6 b号住居跡は4層に分層した。6 a号住居跡は黒褐色土主体、6 b号住居跡は壁際に暗褐色土の堆積が認められる。いずれも、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 6 a号住居跡の床面は、6 bより約10cm低い。底面Ⅴ層上面が露出しており、硬く締まる。V-VI層を壁面とし、ほぼ直立している。6 b号住居跡の床面はⅤ層上面を床面としており、VI-VII層を壁面としている。

[炉] 検出されなかった。

[付属施設] 6 a号住居跡の6 b号住居と接する壁際に窪みを確認した。不整形であり、柱状の痕跡とは考え難い。6 b号住居跡にはビットを1個確認した。断面に柱状の堆積状況を確認することができたため、柱穴の可能性がある。長軸60cm・深さ30cmである。

[出土遺物] (第57・58・59・171・172図、写真図版67・68・164) 埋土中から破片の土器が出土している。6 a・b号住居跡ともに遺物にまとまりがあり、廃棄に伴うものの可能性がある。土器片166点(3923.9g)、石鏃1点、石匙1点、石斧1点、敲磨器類3点、特殊磨石2点、不定形石器3点、剥片46点・礫剥片48点(剥片合計1439.5g)が出土している。土器24は6 b号住居跡、土器23は6 a号住居跡から出土している。いずれも埋土上位～中位出土である。

[帰属時期] VI層が堆積していること、出土土器から縄文時代前期初頭以前の可能性が考えられる。なお、6 b号住居跡床面出土の炭化材の年代測定を行った結果、暦年校正5,965 ± 30 (yrBP)の結果

が得られている。(八木)

7号住居跡 (第17図、写真図版7)

[位置・検出状況] 南区5C21・5D1グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸2.49m・短軸2.36m・深さ0.29m

[埋土] 2層からなる。どちらも黒褐色土を主体とし、2層には炭化物が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はほぼ平坦で硬く締まっている。壁はほぼ直線的に外傾しながら立ち上がる。

[炬] ほぼ中央に地床炉を2基検出したが、もともとは1つのものと考えられる。焼成面確認範囲は北側が19cm×14cm、南側が11cm×7cmである。

[付属施設] 柱穴状小ピット1個を検出した。黒褐色シルト主体の単層である。(佐々木隆)

[出土遺物] (第59・173図、写真図版68・164)、土器片34点(271.5g)、石鏃4点、石錐1点、礫器2点、敲磨器類1点、剥片34点・礫剥片64点(剥片合計694.7g)が出土している。図示できた土器片は30のみで、縄文施文の土器片である。

[帰属時期] 図示できなかった土器細片は貝殻沈線文2点、結節回紋文4点、縄文施文21点等があるが、土器片からは帰属時期を判断しがたい。石鏃形態は、中茎のあるもので占められており、早期～前期初頭の様相を示していない。住居形態・埋土からは、縄文時代中期の可能性が考えられる。(八木)

8号住居跡 (第17図、写真図版8)

[位置・検出状況] 南区6C17と6C22グリッドに位置する。標高54.20m前後のⅣ層下位からⅤ層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 他遺構との重複関係は無い。

[平面形] 不整な楕円形。あるいはいびつな隅丸方形。

[規模] 長軸3.3m・短軸3.1m・深さ0.4m。長軸は北東-南西方向である。

[埋土] 4層からなる。検出面において、埋土1～3層土の入り込みを平面的に確認した。埋土1・2層はⅣ層主体の土に対してⅤ・Ⅵ層土が混在した土であり、埋土3層はⅣ層主体の土に対してⅤ・Ⅵ・Ⅶ層土が混在した土である。その平面形に対して、十文字に土層観察土手を設定し、堆積状況を確認するため掘り下げたところ、床面と壁面を検出し、規模から堅穴住居とした。埋土3層は一部床面に達していたが、床面中央はⅥ層主体の黄褐色土、埋土4層で覆われていた。住居の下半分は十和田八戸テフラⅦ層を掘り込んでいる場所があった。この住居周辺の基本層序について、凍土現象の結果によるものか、Ⅵ層とⅦ層の境界が不明瞭な場所が多い。床面中央部の窪んだ部分は確実にⅦ層相当の地面を掘り込んでいると考える。堆積状況として埋土1層および2層は土色等が周囲のⅣ層中位とⅣ層下位に類似する。加えて埋土1層の遺物出土状況が周辺のⅣ層中位と似る。埋土1・2層は基本層序Ⅳ層中位から下位にかけての土が包含層同様に自然堆積したと考える。

3層は1・2層と対比して十和田南部テフラおよび十和田八戸テフラが多く混在しているため、この住居掘り上げ土が周囲の土に混在し、住居廃絶後流入した土と考える。住居の掘り込み位置が不明瞭だった点から、壁立ちの上屋構造に対して4層は壁に盛り上げた土で、廃絶後に壁材が無くなった時点での流入と考える。掘り込み面は不明瞭だったが平面形が確認できた基本層序Ⅳ層下位～Ⅴ層、検出面とほぼ同一という可能性が高い。

【床面・壁】床面はおおよそ平坦といえるが、中心がくぼんでおり、木根等の影響もあり、凹凸がある。したがって壁面際、平面形底部はいびつである。壁は緩やかに広がりながら立ち上がるがいびつである。壁は全周する。

【炉】炉は確認できなかった。

【付属施設】施設の内外共に柱穴は確認できなかった。床面の壁面について、上面観がいびつな鋸歯状を呈して不整であることから、壁材を不規則な単位で、密に巡らせてそれを利用して上屋を立ち上げていた可能性がある。その際、壁材外側に埋土4層相当の土が盛られており、土盛り構造は一部屋根部分にも及んでいた可能性がある。

【出土遺物】(第59・173・174図、写真図版69・165) 埋土1層の中位から、縄文時代前期前葉土器の同一個体破片が折り重なった状態で出土した。住居廃絶後のくぼみに廃棄したものが潰れたものと思われる。堆積状況として埋土1層および2層は周辺の包含層の基本層序IV層中位との連続性が高い。遺物出土状況についても、周辺の包含層IV層中位からは、縄文時代前期前葉土器の大型破片が、8号住居埋土とよく似た状況で確認できた。複数個体の深鉢が比較的多まった大型破片で数個所に散乱し、複数個体のものと思われる砕片と共に出土していた。床面直上出土遺物は無かった。しかし周辺包含層について、基本層序V層に縄文時代早期中葉の貝殻紋土器の出土が目立つ。これがこの住居の構築時期に相当する可能性がある。(大森司)

土器片220点(3310g)、石鏃2点、石錐1点、石斧6点、特殊磨石1点、不定形石器2点、剥片77点・礫剥片27点(剥片合計737.7g)が出土している。土器35は貝殻沈線文、31～34はムシリI式、36～40は羽状縄文施文の土器である。(八木)

【帰属時期】想定される掘り込み面と周囲の遺物出土状況から、縄文時代前期前葉以前、早期中葉の可能性が高い。(大森司)

9号住居跡(第18図、写真図版9)

【位置・検出状況】南区7D23・7E3グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】認められない。

【平面形】台形を呈する。

【規模】長軸3.25m・短軸2.6～1.95m・深さ0.35m

【埋土】3層からなる。IV～V層由来の黒褐色～暗褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

【床面・壁】床面はV～VI層としている。若干の凹凸が認められるものの、概ね平坦である。壁は直立気味に立ち上がる。

【炉】検出されなかった。

【付属施設】床面はほぼ中央に1個(P28)、壁際にP1～27が巡る。堆積土は全て共通し、10YR2/2黒褐色土粘性中・しまり疎・十和田南部テフラ15%含むIV層由来層である。

【出土遺物】(第60・174・175図、写真図版68・165・166) 土器片109点(1090.9g)、石匙1点、石斧4点、敲磨器3点、不定形石器3点、剥片40点・礫剥片18点(剥片合計622.48g)が出土している。埋土中から破片の土器が出土しているが、明確なまとまりがある廃棄の状況は認められなかった。土器42～44は口縁端部に縄文の側面圧痕があり、内外面に縄文が施文され、織襷が多く含まれている。土器45は9号住居跡に近接したIV層中から出土した。

【帰属時期】土器片の時期から縄文時代早期後葉と考えられる。土器45は早期中葉と考えられ、9号住居跡はIV層を掘り込んで構築されているため早期中葉より新しいと言える。(八木)

10号住居跡 (第15図、写真図版10)

[位置・検出状況] 南区7F5グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整楕円形を呈する。

[規模] 長軸2.27m・短軸1.8m・深さ0.15m

[埋土] 1層からなる。Ⅴ層由来の黒褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はⅥ層としている。若干の凹凸が認められるものの、概ね平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

[炉] 検出されなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] (第60・176図、写真図版68・166) 土器片51点(267.9g)、石匙2点、特殊磨石1点、不定形石器1点、剥片6点・礫剥片4点(剥片合計169g)が出土している。

[帰属時期] 土器から考えられる帰属時期は、縄文時代前期初頭である。(八木)

11号住居跡 (第18図、写真図版11)

[位置・検出状況] 南区7D21・7E1グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整方形を呈する。

[規模] 長軸2.8m・短軸1.95m・深さ0.15m

[埋土] 4層からなる。Ⅳ-Ⅴ層由来の黒色土が上層に、Ⅴ層由来の暗褐色土が底面付近に堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はⅥ層としている。木根等による攪乱でかなり凹凸のある部分があったが、ほぼ平坦な床面が作られている。壁は直立気味に立ち上がる。

[炉] 地床炉を床面北東寄りに1基検出した。被熱範囲は長軸1.03m、短軸0.5mである。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] (第176・177図、写真図版166) 土器片1点(12.7g)、石斧3点、礫器1点、敲磨器1点、特殊磨石1点、台石1点、剥片1点・礫剥片1点(剥片合計112.9g)が出土している。土器片は胴部細片で図示できなかった。

[帰属時期] Ⅴ層が堆積していることから、縄文時代早期中葉～前期初頭に構築された可能性がある。(八木)

12号住居跡 (第19図、写真図版12)

[位置・検出状況] 南区6C20と6C25グリッドに位置する。標高54.30m前後のⅣ層下位で検出した。

[その他の遺構との重複] この住居廃絶後、埋設後に形成された11号焼土より古い。

[平面形] 不整な楕円形。

[規模] 長軸3.2m・短軸2.9m・深さ0.2m。長軸は東西方向

[埋土] 4層からなる。埋土1層つまりⅣ層土主体でⅤ・Ⅵ層土が混在した土の入り込みを面で検出した。その中央に11号焼土、埋土上面の2層があった。そこに十文字に土層観察用の土手に設定し、土の入り込みを遺構埋土と想定して掘り下げたところ、床面と壁面と想定できるしまった部分が確認できたため住居と判断した。規模から堅穴住居と判断した。床面の凹凸が著しく、壁面が不整だった

ため、住居記録後、下のIV層入り込み部分を精査、B-B'に沿ってトレンチを下げたが、やはり人為的な面があった。しかし、古い風倒木等、自然地形の窪みを確認した。もともとの窪みに住居を構築したものとする。掘り込み面は不明瞭だったが、基本層序IV層下位、検出面とはほぼ同一である可能性がある。

[床面・壁] 床面はおおよそ平坦といえるが、北西側壁面がゆるやかなベンチ状のテラス様となっている。加えて全体として木根等の影響もあり、凹凸がある。壁面際、平面形底部はいびつである。壁面はよく広がりが立ち上がる。いびつである。

[炉] 東側の埋土下位から床面にかけて酸化した鉄分を含んだ土の分布、埋土下位の2・3層を検出した。調査時は地焼炉を想定して、調査したが、検出面が全体に床面より高く、住居廃絶後に上屋を焼いた、あるいは、堅穴住居廃絶後の窪みにたまった水の鉄分が沈着し、4層の炭化物が酸化した植物という可能性もある。想定される焼成面は77cm×54cmの範囲でまばらに確認できた。中でも三箇所がよく酸化している。

[付属施設] 柱穴等、土坑様の付属遺構は無かった。

[出土遺物] (第60・177・178図、写真図版69・167) 床面下位からは縄文時代前期前葉の土器が出土していた。周辺の包含層からは、縄文時代前期前葉、縄文時代早期中葉の遺物が出土している。想定される掘り込み面の層位的には、前期前葉の可能性が高い。(大泰司)

土器36点(487.6g)、石斧3点、礫器2点、敲磨器4点、特殊磨石3点、剥片16点・礫剥片14点(剥片合計647g)が出土している。(八木)

13号住居跡 (第19図、写真図版13)

[位置・検出状況] 南区4D5グリッドに位置する。V層上面で検出した。本遺構の南東側は掘乱を受けている。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸2.53m・短軸2.4m・深さ0.1m

[埋土] 2層からなる。木根の直下で掘乱が多く状態が悪かったが、1層は黒色土を主体とし、炭化物が少量混入する。2層は黒褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床はほぼ平坦である。壁は直線的にやや外傾しながら立ち上がる。

[炉] 中央やや北側に地床炉を2基検出したが、もともとは1つのものと思われる。焼成面確認範囲は上側が16cm×8cm、下側が18cm×14cmである。

[付属施設] 検出されなかった。(佐々木隆)

[出土遺物] (第60・178・179図、写真図版69・167) 土器片53点(2340.6g)、礫器2点、敲磨器類1点、不定形石器3点、剥片16点・礫剥片5点(剥片合計497.2g)が出土している。土器49は大木8b式、土器50・51は非結束羽状縄文である。

[層属時期] 住居形態及び主要土器片から縄文時代中期中葉と考えられる。(八木)

14号住居跡 (第20図、写真図版14)

[位置・検出状況] 南区8E21グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 48・49号土坑堆積後、14号住居跡が作られている。

[平面形] 不整形円形を呈する。東半分は傾斜下方にあたり、包含層として掘削したため確認できなかった。

[規模] 長軸3.4m・短軸残存範囲で2.5m・深さ0.15m

[埋土] 2層からなる。壁際にIV層由来層、上位にV層由来の黒褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はVI層としている。木根等による攪乱でかなり凹凸のある部分があったが、ほぼ平坦な床面が作られている。壁は直立気味に立ち上がる。

[炉] 地床炉を床面南東寄りに1基検出した。被熱範囲は長軸0.85m、0.45mである。ほぼ中央に被熱が及んでいない35×13cmの範囲があり、土器を握えた部分の可能性がある。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] (第60・179図、写真図版69・168) 土器片14点(235.7g)、石斧1点、台石1点、剥片2点・礫剥片1点(剥片合計122g)が出土している。土器56はミガキ調整が顕著な尖底土器である。

[帰属時期] IV-V層が堆積していることから鑑み、V層形成以前に構築されたものと考えられる。土器片から考えられる帰属時期は縄文時代早期中葉である。(八木)

15号住居跡 (第20図、写真図版15)

[位置・検出状況] 南区7E8グリッドに位置する。IVb-V層を重機で掘削中、V層隅丸方形のIV層を確認した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 方形を呈する。北東隅は試掘トレンチに削られている。

[規模] 長軸2.6m・短軸2.45m・深さ0.18m

[埋土] 2層からなる。底面に黒褐色土、大部分はIV層由来の黒色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はVI層としている。ほぼ平坦な床面が作られている。壁は直立気味に立ち上がる。

[炉] 検出されなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] (第61・179図、写真図版69・168) 土器片16点(229.2g)、石匙2点、特殊磨石1点、砥石1点、剥片14点・礫剥片11点(剥片合計158g)が出土している。土器58・59はミガキが顕著な尖底土器と考えられる。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代早期中葉～前期初頭である。(八木)

16号住居跡 (第21図、写真図版16)

[位置・検出状況] 南区7D2グリッドに位置する。VI層包含層精査中、VI-VII層で検出した。遺構の南西半大部分は調査区外へ広がると考えられる。

[その他の遺構との重複] 調査範囲内では認められない。

[平面形] 隅が弧状ではないため、方形の可能性がある。

[規模] 長軸(1.5)m・短軸(0.75)m・深さ0.27m

[埋土] 2層からなる。底面にIV層由来の暗褐色土、上位にV層由来の黒褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面はVI-VII層としている。木根による攪乱があるが、ほぼ平坦な床面が作られている。壁は直立気味に立ち上がる。

[炉] 壁近くに地床炉が1基検出された。長軸65cm、短軸残存範囲35cm。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 掲載無し。

〔縄属時期〕V層由来埋土が堆積しており、縄文時代早期中葉～前期初頭と考えられる。(八木)

17号住居跡 (第21図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕南区6C12グリッドに位置する。標高54.20m前後のIV層下位からV層にかけて検出した。

〔その他の遺構との重複〕他遺構との重複関係は無い。

〔平面形〕不整な楕円形。

〔規模〕長軸4.1m・短軸3.4m・深さ0.35m。長軸は北西-南東方向である。

〔埋土〕おおむね5層からなる。検出面において、埋土1・2層土の入り込みを平面的に確認した。埋土1・2層はIV層主体の土に対してV・VI層土がやや混在した土である。輪郭が今一つ不明瞭だったが、十文字に土層観察土手を設定し、堆積状況を確認するため掘り下げたところ、床面と壁面を検出し、堅穴住居とした。輪郭が不明瞭だった原因は埋土3層にある。これは遺構廃絶後の窪みに対してV層が自然堆積したものであることが土層断面から確認できた。したがって埋土1～3層は自然埋没である。IV層とVI層が混在する埋土4層は一部床面に達していたが、床面中央付近は木根入り込み等による腐植によるものか、やや黒色味の強い、しかし4層と類似した土質の埋土4'層に置き換わっていた。加えてそこには所々VI層がブロック状に掘りあがっていた。床面直上には薄くVI層主体土である5層が入り込んでいたが、床面中央付近埋土4'層部分にはほとんど無かった。

この住居周辺の基本層序について、凍上現象の結果によるものか、VI層とVII層の境界が不明瞭な場所が多い。床面部分は確実にVII層相当の地面を掘り込んでいると考える。

4層は1～3層と対比してIV～VI層の混在度合いが強く、この住居掘り上げ土が周囲の土に混在し、住居廃絶後流入した土と考える。住居の掘り込み位置が不明瞭だった点から、壁立ちの上屋構造に対して5層は壁に盛り上げた土で、壁材が廃絶後、無くなった時点で流入と考える。掘り込み面は不明瞭だったが平面形が確認できた基本層序IV層下位～V層、検出面とはほぼ同一という可能性が高い。5層は本来土量をもっとあったと想定できるが、4'層が形成された段階でVIブロックに置き換わった可能性がある。規模は小型だが堅穴住居と判断した。4'層は木根が貫入してVIブロック掘り上がり等、攪乱が著しいため17号住居廃絶後の風倒木の影響と想定する。

〔床面・壁〕床面はおおよそ平坦といえるが、中心がくぼんでおり、木根等の影響もあり、凹凸がある。したがって壁面際、平面形底部はいびつである。壁は緩やかに広がりながら立ち上がるがやはりいびつである。壁は全周する。

〔炬〕炬は確認できなかった。

〔付属施設〕施設の内外共に柱穴は確認できなかった。床面の壁面について、上面観がいびつな鋸歯状を呈して不整であることから、壁材を不規則な単位で、密に巡らせてそれを利用して上屋を立ち上げていた可能性がある。その際、壁材、構造によっては屋根材部分外側に埋土5層と散見されるVI層ブロックといった土が盛られていた可能性がある。明瞭な付属遺構は無かった。

〔出土遺物〕(第61・180図、写真図版69・168)17号住居の下半分は十和田八戸テフラのある基本層序VI層を掘り込んでいた。VI層とVII層の境界が不明瞭なため、床面の下半分、黄色味の強い床面中央部分はVII層に達していると考え。堆積状況として埋土1・2層は基本層序IV層、3層は周辺の包含層の基本層序V層と連続性が高い。遺物出土状況に関連して、周辺の包含層IV層中位からは、縄文時代前期前葉土器の大型破片が、複数個体の深鉢が比較的多くまとまった大型破片で数個所に散乱し、複数個体のものと思われる破片と共に出土していた。床面直上出土遺物は無かった。しかし周辺包含層について、基本層序V層に縄文時代早期中葉の貝殻紋土器の出土が目立つ。これがこの住居の構築時期

に相当する可能性がある。

[帰属時期] 想定される掘り込み面と周囲の遺物出土状況から、縄文時代前期前葉以前、早期中葉の可能性が高い。(大森司)

土器片105点(2171.2g)、石斧2点、不定形石器3点、剥片18点・礫剥片5点(剥片合計360.6g)が出土している。貝殻沈線文(60～63)、ムシリ1式(64・65)、早稲田5類(68～70)が出土している。(八木)

18号住居跡(第22図、写真図版18)

[位置・検出状況] 南区4D3・4グリッドに位置する。V層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸2.49m・短軸2.35m・深さ0.27m

[埋土] 2層からなる。どちらも黒褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床はほぼ平坦である。壁はほぼ直線的にやや外傾しながら立ち上がる。

[炉] 認められない。

[付属施設] 認められない。(佐々木隆)

[出土遺物] (第61・180図、写真図版70・168) 土器片35点(554.3g)、敲磨器類1点、剥片3点・礫剥片4点(剥片合計78.1g)が出土している。

[帰属時期] 住居形態からは縄文時代中期の可能性が考えられる。(八木)

19号住居跡(第22図、写真図版19)

[位置・検出状況] 南区6D16グリッドに位置する。Ⅶ層上面で検出した。近くに巨大な木根があり、それにより遺構北側の一部が攪乱され消失している。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 隅丸方形

[規模] 長軸3.43m・短軸2.85m・深さ0.39m

[埋土] 5層に細分した。暗褐色土が主体である。4層土が全体的にブロック状を呈し、局所的な堆積であることから人為堆積である可能性がある。それ以外は堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅶ層を床面とし、概ね平坦に調整されている。壁は、木根による攪乱箇所とサブトレンチを除き全周する。床面から開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。

[炉] 確認できなかった。

[付属施設] 柱穴・周溝等の施設は確認できなかった。(森)

[出土遺物] (第61・180・258図、写真図版70・168・207) 土器片16点(294.1g)、石匙1点、礫器1点、不定形石器3点、剥片7点・礫剥片34点(剥片合計306.1g)、土器片円板1点が出土している。土器73・74は1層から出土している。

[帰属時期] 土器73・74は前期前葉土器片であるが、1層出土である。住居形態及び堆積土から考えられる帰属時期は縄文時代早期中葉～後葉である。(八木)

20号住居跡(第23図、写真図版20)

[位置・検出状況] 南区のほぼ中央の平坦面で北向きの斜面際に位置する。4C18・19・23・24グリッドにまたがる。標高は53.00m前後である。当初はⅥ層上面で、4C24～25区のグリッドラインで基

本層序土層観察用の土手を残した。観察中に、V層土とVI層土が混在した土の落ち込み断面を確認した。そこには塊状をしたVII層相当の十和田八戸テフラが散点的に分布していた。遺構か風倒木などの自然現象か判然としなかったが、明瞭な掘り込みのラインが確認できなかったため、人為掘り込みがあったとしても、かなり下位で、多量の土と、伐採後の松根が調査を阻むことが想定された。遺物も極端に少ないため、重機によるIV層下位～V層上位土除去作業後に再度精査するものとした。重機による表土除去後、基本層序VI層下位～VII層にかけて、V層ないしはV層土主体でVI層土が混在した明瞭な輪郭を持つ土の入り込みを、平面的に検出した。

[その他の遺構との重複] 重複する遺構は無い。

[平面形] 不整な隅丸の四角形ないしは六角形、床面は不整な正方形。

[規模] 四角形としてとらえた場合、長軸はおおよそ南西-北東方向で、長軸4.8m・短軸4.2m。六角形としてとらえた場合、長軸は南南西-北北東であり、長軸5.5m・短軸5.0m。深さは検出面最深部で0.2mである。

[埋土] 6層からなる。V層ないしはV層土主体でVI層土が混在した土の入り込み埋土1～3層を平面的に検出した。中央には平底の貝殻痕文土器が出土した。十文字に土層観察用土手を設定して掘り下げたところ明瞭な床面と壁面を確認し、竪穴住居とした。住居は十和田八戸テフラの基本層序VII層を掘り込んでいた。堆積状況として埋土1層は基本層序VI層と連続性が高いと考えられる。遺物出土状況に関連して、VI層の比率が多い埋土1～2層主体の土層から遺物が出土している。

一方で、床面直上出土遺物は1点あった。時期差は埋土出土遺物と差は無いものとする。縄文時代早期の貝殻紋土器があった。これがこの住居の構築時期に相当する可能性がある。掘り込み面は遺構の検出面よりは上である。先述の、基本層序観察から、遺構掘り込みはVI層中位あたりで上位よりは下位と考える。基本層序に見えていた十和田八戸テフラは掘り上げ土が流入したものと考える。

明瞭な付属遺構は無かった。しかし平面形を上端、中端、下端としてとらえた場合、中端と下端の凹凸が対応していたことから中端から下端にかけて土止めのような施設が存在し、四角形の居住区を取り囲んでいたと想定できる。土止めから壁や屋根といった上部構造が形成され、上端から中端の平面形にある窪みを利用して掘り上げ土が盛り上げられていたと考えられる。土層にもそれが反映されており、3層を主体とする土が土葺あるいは、土壁の様相を呈していたと考える。検出状況から、掘り込み面はV層からVI層にかけてと考える。

[床面・壁] 床面はおおよそ平坦といえるが、中心がくぼんでおり、凹凸がある。壁はいびつであるが全周する。おおよそ底部際は真っすぐあるいは徐々に広がりながら立ち上がるが、おおよそ20cmほど立ち上がるとそこから、急によく広がる。

[炉] 炉は確認出来なかった。

[付属施設] 明瞭な付属遺構は無かった。しかし埋土の項で述べたように土止めのような施設が存在し土葺あるいは、土壁の様相を呈していたと考える。遺物はこの内側、四角形の平面形からの出土である。

[出土遺物] (第62・180図、写真図版70・168) 土壁の様相を呈していたその内側から、遺物は出土している。床面出土の取上げ片Na2以外は、住居廃絶後の窪みに投げ込まれた可能性がある。いずれも縄文時代早期中葉の範疇の遺物である。(大森司)

土器片18点(2428.7g)、特殊磨石1点、礫剥片2点(15.5g)が出土している。(八木)

[帰属時期] 床面出土遺物と、想定される掘り込み面から縄文時代早期中葉の遺構と考える。(大森司)

21号住居跡（第23図、写真図版21）

[位置・検出状況] 南区6E6グリッドに位置する。Ⅵ上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 隅丸方形。

[規模] 長軸3.53m・短軸3.13m・深さ0.39m

[埋土] 4層に細分した。暗褐色土が主体で、全体的にレンズ状に堆積していることから自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] Ⅶ-Ⅷ層の漸移層を床面とし、概ね平坦に調整されている。壁は、サブトレンチ箇所を除き全周する。床面から開口部に向て開きながら立ち上がる。

[炉] 確認できなかった。

[付属施設] 柱穴・周溝等の施設は確認できなかった。

[出土遺物] (第62・63・181・182図、写真図版71・169) 床直からの遺物一定量あり。巨礫が床直より出土したが、使用したものは判断がつかなかった。また1層からの土器・石器の出土が目立つ。

(森)

土器片98点(2691.6g)、礫器1点、敲磨器類1点、特殊磨石2点、台石4点、不定形石器3点、剥片26点・礫剥片10点(剥片合計3122g)が出土している。2層から貝殻沈線土器が多く出土している。

[帰属時期] 住居形態・堆積土・出土土器から考えられる帰属時期は縄文時代早期中葉である。(八木)

22号住居跡（第24図、写真図版22）

[位置・検出状況] 南区2C13・18グリッドに位置する。重機による表土掘削後、Ⅵ-Ⅶ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 遺構の西半分は砂質土で風化が著しく、確認できなかった。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸4.75m・短軸(2.75)m・深さ0.15m

[埋土] 5層からなる。

[床面・壁] 床面はほぼ平らで締まっている。壁は東側約半分が残存しており、緩やかに立ち上がる。

[炉] 床面中央南寄りに方形の石囲炉が1基検出された。長軸70cm、短軸55cm。

[付属施設] 柱穴と考えられるピットを壁際で8個確認した。

[出土遺物] (第63・182図、写真図版72・169) 土器片60点(558.5g)、敲磨器類1点、多面体敲石1点、石皿1点、剥片1点・礫剥片2点(剥片合計41.4g)が出土している。土器98・99は床面近くからまとまって出土した。

[帰属時期] 堆積層が浅く、土層から判断することは難しいが、炉の形状及び出土遺物から縄文時代早期中葉～後葉と考えられる。(八木)

23号住居跡（第25図、写真図版23）

[位置・検出状況] 南区4D18・19・20・23・24・25グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸7.70m・短軸5.89m・深さ0.57m

住居としての輪郭は大きいが実際の居住スペースは図で表した範囲と考えられる。破線の外側がごくわずかだがくぼんでおり、土止めにより埋められた可能性がある。土止めによって埋められた可能

性がある方の平面形は7.70m×5.89mの楕円形を呈し、居住スペースと思われる方は5.37m×4.11mの楕円形を呈する。

[埋土] 4層からなる。1～3層は暗褐色土を主体とし、4層は褐色土質粘土を主体とする。1層には十和田南部テフラが集中し、2ヵ所からサンプルを採取した。3層からは土器片が少量出土しており、破線で表した居住スペースと考えられる範囲内で北東側に集中している。

[床面・壁] 土止めによって埋められたと思われる床は凸凹している。居住スペースと思われる床はほぼ平坦である。南西側の壁はほぼ直線的に外傾しながら立ち上がるが、他の壁は緩やかに立ち上がる。

[炉] 認められない。

[付属施設] 柱穴4個を確認した。P1は暗褐色粘土質土主体、P2～4は褐色粘土質土主体の単層である。(佐々木隆)

[出土遺物] (第63・64・182・183図、写真図版72・169・170) 土器片42点(2087g)、敲磨器類3点、台石1点、不定形石器1点、剥片24点・礫剥片4点(剥片合計145.4g)が出土している。土器100～106は貝殻沈線文、107は押し沈線文である。

[帰属時期] 堆積土・火山灰・出土遺物から縄文時代早期中葉と考えられる。(八木)

24号住居跡 (第26図、写真図版24)

[位置・検出状況] 南区6D9グリッドに位置する。包含層掘削中に床面や壁の立ち上がりを検出した。遺構はⅦ層を掘り込んでいる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸3.70m・短軸2.32m・深さ0.30m

[埋土] 空断面図による記録となっているが、埋土は暗褐色土を主体とする単層である。

[底面・壁] Ⅶ層を床面とし、概ね平坦に調整されている。微傾斜地に立地するため、斜面下方である北東側の壁は立ち上がらない。南西側の壁は床面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。

[炉] 確認できなかった。

[付属施設] 柱穴・周溝等の施設は確認できなかった。

[出土遺物] (第64図、写真図版72) 遺物はほとんど出土していない。(森)

土器片6点(57.9g)、剥片2点・礫剥片1点(剥片合計17.5g)が出土している。

[帰属時期] 堆積土が不明で、出土遺物も乏しいことから判断しかねるが、住居形態と土器108からは縄文時代前期前葉の可能性が考えられる。(八木)

25号住居跡 (第26図、写真図版25)

[位置・検出状況] 北区西側にあたる北区⑤の北4C13と北4C18グリッドに位置する。吹切沢あるいはその支流の氾濫原へりの平坦面に位置する。標高34.20m前後のⅥ層からⅦ層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 重複する遺構は無い。

[平面形] 不整な楕円形。

[規模] 残存部から推定した結果、おおよそ長軸4.0m・短軸3.0m・深さ0.4mの規模で、長軸は東-西方向である。

[埋土] 残存部を8層に分層して解釈をした。これには石囲炉掘り方の土層も含まれる。基本層序Ⅵ

～Ⅶ層にかけて、沢地形を検出した。丁度、吹切沢あるいはその支流の氾濫原へりに相当する、Ⅳ層ないしはⅤ層土主体の入り込みが伸びていた。その時点で石囲炉とその中央の焼土を検出した。

炉の周辺を精査すると西側と北側に壁面の残存を確認した。西側は氾濫原のかたを踏み固めており、明瞭な硬化面を検出、石囲炉の検出面と対応したため、床面として確認した。南側は礫2と礫3が壁面の位置に対応する可能性があった。礫2は西側壁面とはほぼ同じ検出面であった。礫3は大型で上面に明瞭な使用痕が無かったため住居平面形を推定したとき、北縁が丁度壁面の位置にあったと想定できた。西側壁面の状況から、氾濫原縁にⅣ層が形成されたのちの住居と考える。氾濫原による窪みにおいて、礫の間の比較的平らな部分に石を配置して炉を作り、Ⅳ層主体土を踏み固めて、住居を構築したものと考え、東側に傾いているのは、沢側にやや傾斜する自然地形を改変する事が無かったためである。

[床面・壁] 床面はおおよそ平坦だが、東側が低い、傾斜している。壁面は西側がよく残存する。全般に床面に締りが無く、壁面も不明瞭だが、石囲炉があり、それが住居中央と仮定すると西側の床面と壁面が明瞭であることから竪穴住居と判断した。残存する壁面は緩やかに広がりながら立ち上がる。

[炉] 中央、若干北東寄りに石囲炉を確認した。炉はⅥ～Ⅶ層検出であるが、これは氾濫原によって常に削平されてきたためと考える。石は砂岩と花崗岩が、木根痕に埋め込まれていた。C-C'断面図左側の花崗岩のみ、伴う土坑が石の形状と合致するため掘り方を掘ってから埋め込んだ可能性がある。石はいずれも埋没後の影響か、脆くなっていた。中央の焼土はその場で焚かれたものである。

焼成面確認範囲は40cm×25cmの範囲に収まり、よく酸化している場所は大小二か所に分けられる。石囲炉そのものは残存部から73cm×55cm程の大きさである。

[付属施設] 炉以外の明瞭な付属遺構は無かった。

[出土遺物] (第183図、写真図版170) 礫1は台石としての使用が類推できたが、花崗岩であり、自然の摩滅風化が著しく、明瞭な使用痕を確認できなかった。礫1と3は種市地区の川岸に分布しがちな花崗岩、礫2は砂岩であった。礫4は重機掘削時に引きずってしまった。

[帰属時期] 六ヶ所村等の類例から時期は類例から縄文時代後期初頭と考える。北区⑤5C17グリッドで検出した後期初頭の面から連続すると考えられる。実際は基本層序Ⅲ層上面からⅡ層下位にかけての構築と考える。(大森司)

尖頭器1点、不定形石器1点、剥片2点(40g)が出土している。(八木)

26号住居跡 (第27図、写真図版26)

[位置・検出状況] 南区2C15グリッドに位置する。重機による表土掘削後、Ⅵ～Ⅶ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形方形。

[規模] 長軸2.15m・短軸1.7m・深さ0.1m

[埋土] 1層黒褐色土からなる。ごく浅い。

[床面・壁] 床面は平坦に調整されている。

[炉] 中央東寄りに土器埋設炉を検出した。土器111が正位に埋設されている。

[付属施設] 柱穴の可能性が考えられるピットを壁際に3個確認した。

[出土遺物] (第64・183図、写真図版72・170) 土器片12点(1982.6g)、敲磨器類1点、台石1点、剥片17点(2013g)が出土している。土器113は正位の状態出土している。

[帰属時期] 出土土器から考えられる帰属時期は縄文時代中期中葉である。(八木)

27号住居跡 (第27図、写真図版27、28)

[位置・検出状況] 北区北5 E 18・19グリッドに位置する。IV b層掘削中、晩期土器片がまとまって出土したことから確認に至った。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存範囲から不整形と考えられる。

[規模] 長軸3.35m・短軸3.15m・深さ0.6m

[埋土] 黒色・黒褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

[床面・壁] V層を床面とし、平坦に調整されている。壁は緩やかに立ち上がる。

[炉] 中央やや北寄りに石囲炉を1基検出した。石囲炉全体の規模は76×70cm、石囲炉の中央に付録140が埋設されていた。

[付属施設] 柱穴等の付属施設は認められない。

[出土遺物] (第64・65・184図、写真図版73・170) 石囲炉周辺から遺物が多く出土している。土器片235点(3056.5g)、両極石器1点、礫器1点、敲磨器2点、多面体敲石1点、剥片11点・礫剥片12点(剥片合計474.5g)が出土している。

[帰属時期] 石囲炉埋設土器の型式から、縄文時代晩期末大洞A2式期と考えられる。炉出土炭化物の年代測定を行った。結果は2,490±30 (yrBP)で、炉埋設土器と合致する。(八木)

28号住居跡 (第28図、写真図版28、29)

[位置・検出状況] 北区北3 C 23・24グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形を呈する。

[規模] 長軸2.7m・短軸2.3m・深さ0.13m

[埋土] 黒褐色土が堆積している。

[床面・壁] 底面はほぼ平らに調整されている。

[炉] 床面中央北東寄りに地床炉を1基検出した。

[付属施設] 柱穴等の付属施設は認められない。

[出土遺物] (第65図、写真図版73) 壁際に土器片が散在する。また、琥珀片が出土している。土器片21点(234.3g)、剥片2点(1.6g)が出土している。

[帰属時期] 出土土器片が砕片であったため、土器型式を判別できなかった。堆積土から考えられる時期は縄文時代中期以降である。炉出土炭化材の年代測定を行い、4,110±30 (yrBP)との結果を得ている。(八木)

29号住居跡 (第28図、写真図版29)

[位置・検出状況] 北区北3 D 5グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存範囲からは円形と推測される。

[規模] 長軸2.5m・短軸1.75m・深さ0.15m

[埋土] 暗褐色土・黒褐色土が堆積している。

[床面・壁] 床面はほぼ平らに調整されている。壁は緩やかに立ち上がる。

[炉] 焼土を1箇所検出した。焼成は著しくない。

[付属施設] 炉南側にビット状の凹みを検出した。

[出土遺物] (第65・258図、写真図版73・207) 土器片14点(90.5g)、剥片1点(20.6g)、土器片円板1点が出土している。土器148の口縁部断面形態は、内面側が肥大し上面が斜めに調整されている。[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代後期中葉である。炉出土炭化物の年代測定を行い、 $3,630 \pm 20$ (yrBP) との結果を得ており、土器の時期と合致する。(八木)

30号住居跡 (第29図、写真図版30)

[位置・検出状況] 北区北6E2グリッド内に位置する。VI層上面で検出した。本遺構は削平を受けており、東側は確認できなかった。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存部から不整形円形と考えられる。

[規模] 長軸(2.05)m・短軸(1.99)m・深さ0.16m

[埋土] 2層に分層した。1層の黒褐色土が本遺構の約70%を覆っているため、1層を主体と考える。2層はにぶい黄褐色土であり、1層・2層ともに根攪乱が見られる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 床面は根攪乱による凹凸が認められるが、本遺構西側に平坦な面が確認できたため、概ね平坦であったと考えられる。壁面は削平の影響により南から西にかけてのみ残存しているが、西側の壁は斜面下方に位置するため浅く緩やかに立ち上がる。南壁は斜面上方に位置するため深く、直立気味に立ち上がる。

[炉] 確認できず。

[付属施設] 確認できず。

[出土遺物] (第65図、写真図版73) 土器底部がベルト上面、土器片が埋土中から出土している。床面直上で土器片を4点取り上げた。西壁際に床面から5cmほどの高さで25.1×16.9cmの礫を1点確認した。(戦場)

土器片56点(565.3g)、剥片6点(34.7g)が出土している。土器149は頸部に文様帯があり、底面はやや上げ底状になっている。土器150～154は口縁端部が平坦に調整されている。

[帰属時期] 土器から考えられる時期は縄文時代後期後葉である。(八木)

31号住居跡 (第29・30図、写真図版31・32)

[位置・検出状況] 北区北4C23・北4D3グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸4.0m・短軸(2.4m)・深さ0.22m

[埋土] 黒褐色土が堆積している。

[床面・壁] 床面は非常に平滑に調整されている。壁は傾斜上面側のみ残存しており、ほぼ垂直に立ち上がる。

[炉] 平面形から推定される床面ほぼ中央に地床炉を1基検出した。被熱範囲は50×46cmで、東寄りに21×17cmの窪みが認められる。土器を据えた痕跡の可能性はある。

[付属施設] 柱穴2個、壁柱穴10個を検出した。

[出土遺物] (第65・184図、写真図版73・170) 床面から土器がまとまって出土している。土器片58点(1090.3g)、石錐1点、敲磨器類1点、剥片8点(77.4g)が出土している。土器161は壁際床面から出土している。

[帰属時期] 床面出土土器の時期から、縄文時代後期中葉と考えられる。また、床面出土炭化物の年代測定を行っており、 $3,340 \pm 30$ (yrBP)・ $3,310 \pm 30$ (yrBP)の結果が得られている。土器型式の年代とはほぼ合致する。(八木)

32号住居跡 (第30図、写真図版32)

[位置・検出状況] 北区北5C23グリッドに位置する。IV層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸3.42m×短軸(2.50m)×深さ0.15m

[埋土] 黒色土単層である。

[床面・壁] 床面は平らに調整されている。壁はほぼ直立する。

[炉] 床面はほぼ中央で地床炉を検出した。被熱範囲は 73×56 cmである。

[付属施設] ビット3個を検出した。堆積土は住居埋土とはほぼ同じで、柱穴の可能性がある。

[出土遺物] (第65・66・185図、写真図版74・170) 土器片32点(1009.7g)、敲磨器類1点、剥片5点・礫剥片2点(剥片合計81.2g)が出土している。南西壁際から大形土器片(169)が出土している。

[帰属時期] 土器片の時期から弥生時代後期と考えられる。なお、炉燃焼部下の2層から出土した炭を年代測定した結果、 $2,250 \pm 30$ (yrBP)・ $3,490 \pm 30$ (yrBP)結果が得られている。(八木)

(2) 土 坑

土坑は円形・楕円形土坑56基、貯蔵穴11基、円形陥し穴状遺構24基、溝形陥し穴状遺構20基を検出した。遺構図版・写真図版及び遺物図版・遺物写真図版は、円形・楕円形土坑・円形陥し穴状遺構→溝形陥し穴状遺構の順に掲載した。事実記載は遺構名順に記述した。

1号土坑 (第31図、写真図版33)

[位置・検出状況] 南区8H18グリッドV層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 2号住居跡に重なる。

[平面形] 浅くやや歪な隅丸方形。

[規模] 長軸1.8m・短軸1.6m・深さ0.25m

[埋土] 埋土1・2層はIV・V層に由来する中礫～細礫大の軽石混り黒ボクからなる。1層には軽石が少ない。営力未詳。

[底面・壁] 壁面は開き気味に急傾斜で立ち上がる。底面は中央がやや深い平坦面で、全体に微小な凹凸がある。住居跡の可能性あるが、柱穴等を確認せず。

[帰属時期] V層より上位でⅢ層より下位であることから、縄文時代早期後半～前期前半の中。(趙)

[出土遺物] (第185図、写真図版171) 土器片4点(10.2g)、多面体敲石1点、剥片25点・礫剥片5点(剥片合計120.4g)が出土している。土器片は細片であるため不掲載とした。(八木)

2号土坑 (第31図、写真図版33)

[位置・検出状況] 南区8H18グリッドのVI層上位のⅢ層基底面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] やや歪な隅丸方形。

[規模] 長軸0.9m・短軸0.7m・深さ0.22m

[埋土] 埋土2はV層に由来する黒ボク質シルト客土。上部にIV層由来とみられる細礫大の軽石を少

し含む黒ボク偽礫1層を多く含む。

[底面・壁] 壁面は北西側を除きほぼ垂直に立ち上がる。北西側は開き気味に傾斜する。底面には凹凸がある。

[帰属時期] IV層の上位であり、埋土にIV層偽礫を含むことから、縄文時代前期前半～中頃の中。(趙)

[出土遺物] 羽片2点(8g)が出土しているのみである。(八木)

3号土坑(第31図、写真図版33)

[位置・検出状況] 南区8H19グリッド、VI層上位のIII層基底面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 円形。斜面の検出のため、やや不整形に見える。

[規模] 長軸1.10m・短軸1.00m・深さ0.22m

[埋土] 埋土1・2はV～IV層に由来するとみられ、漸移完形にある。上半部の1層がIV層主体の細礫～粗粒砂大軽石を散在する黒色黒ボク質シルト、下半部の2層がV層主体の中礫～粗粒砂大の軽石を散在する黒褐色ローム質黒ボク質シルトからなる。営力は未詳。

[底面・壁] 椀状に下部は緩傾斜から上部は急傾斜で立ち上がる。底面は中央が深い。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] VI層より上位でIII層より下位であり、埋土にIV層由来の黒ボクを含むことから、縄文時代前期前半～中頃の中。(趙)

4号土坑(第46図、写真図版55)

[位置・検出状況] 南区8H15・20グリッド、VIa層上位のI層基底面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 長円形(溝形)。

[規模] 長軸1.60m・短軸0.70m・深さ0.85m・軸N-80°-W

[埋土] 埋土は3大別できる。最下底に5cm以下のVII層由来のローム偽礫からなる薄い加工時層5がある。その上面が機能時面とみられる。その上位は、偽礫主体の客土の廃棄時層2～4からなる。3はV層黒ボク土偽礫4に極粗粒から粗粒砂大のVI・VII層の黄色軽石が散在。2はIII層黒ボク主体の偽礫埋土に細粒砂大の黄色軽石が散在。最上部はII層黒ボク主体のシルトに、粗粒～中粒砂大のVI・VII層由来の偽礫が極少量混じる。

[底面・壁] 壁面はほぼ垂直で、底面は平坦である。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 偽礫客土にIII層が含まれることからIII層より上位で、最上部がII層で埋まることから、II層形成直前か、形成中とみられ、縄文時代中～後期に属すると推定される。陥し穴の上部が剝落されたものとみられる。(趙)

5号土坑(第31図、写真図版33)

[位置・検出状況] 南区9H6グリッド、VII層上位III層基底面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] ほぼ円形。

[規模] 長軸1.80m・短軸1.70m・深さ1.07m

[埋土] 埋土は5大別できる。最下部10cmの8・7は軽石を含むVIII層由来のローム主体客土薄層(加

工時整地層)、下部15cm以下の6はⅧ層由来で少し汚れた軽石質ローム質偽礫客土(下部機能時層)、中部15cmの5は軽石を少量含むⅤ層由来の黒ボク主体の偽礫客土(上部機能時層)、上部45cmの4・3・2はⅣ層主体の再堆積層・黒ボク・擾乱層(廃棄時層)、最上部10cmの1はⅢ層火山灰質黒ボクの擾乱層が重なる(廃棄後層)。擾乱の時期は堆積後とみられる。5・4・3には斜面崩落物5'・4'・3'を伴う。

[底面・壁] 壁面はすり鉢状に立上がり、底面はほぼ平坦である。

[帰属時期] 土坑の機能時は、機能時層のⅤ層客土偽礫より新しく、廃棄後堆積層のⅣ層より古いことから、Ⅳ層形成直前～形成中の縄文時代前期前半と推定される。(趙)

[出土遺物] (第66・185図、写真図版74・171) 土器片8点(84.8g)、石鏃1点、敲磨器類1点、剥片1点(1.6g)が出土している。土器片から考えられる帰属時期は前期前葉である。(八木)

6号土坑(第31図、写真図版34)

[位置・検出状況] 南区8H5・10、9H1・6グリッド

[その他の遺構との重複] 古い倒木痕に重なる。

[平面形] 不明。推定円形。

[規模] 確認範囲で長軸2.20m・深さ0.50m

[埋土] 埋土は2大別できる。下半部6'・6'・5'・4'・3'・3'・3'にⅣ層以下に由来する黒ボク・ローム偽礫が混在し、状半部2'・1'にⅢ・Ⅱ層が堆積する。

[底面・壁] 壁面は浅い椀状に開き、壁面・底面とも凹凸がある。

[帰属時期] 埋土下半部の偽礫混在層の最新はⅣ層由来の偽礫であり、その上をⅢ・Ⅱ層が覆うことから、Ⅲ層に中振浮石の降灰直前の、縄文時代前期前半末ごろに属すると推定される。遺構に向かつて右側の外形が明瞭ではなく、Ⅲ層形成以前の古い倒木痕が埋まりきらなかった凹地にⅢ・Ⅱ層が堆積した可能性もある。(趙)

[出土遺物] (第66・185図、写真図版74・171) 土器片22点(191.5g)、礫器1点、剥片5点・礫剥片1点(剥片合計89.1g)が出土している。土器片から考えられる帰属時期は前期前葉である。(八木)

7号土坑(第32図、写真図版34)

[位置・検出状況] 南区9H1グリッド、Ⅵ～Ⅷ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複]

[平面形] 円形。

[規模] 直径1.65m・深さ0.80m

[埋土] 下位は崩落土を主とし、流入土とみられる黒褐色土と混じり合う。自然堆積の様相を呈する。

[底面・壁] 底面は平坦であり、底面形は隅丸方形に近い。断面形は逆台形を呈し、形状は5号土坑と類似する。(佐々木あ)

[出土遺物] (第66・185・186図、写真図版74・171) 土器片18点(341.6g)、石鏃2点、石核1点、石斧1点、礫器1点、敲磨器類1点、剥片5点(61.9g)が出土している。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

9号土坑(第46図、写真図版55)

[位置・検出状況] 南区8H9グリッド、Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複]

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.38m・短軸0.50m・深さ1.00m・軸N-20°-W

[埋土] II層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[底面・壁] 両側面は底部からほぼ直立し、開口部へやや広がる。中位部が内湾するのは崩落によるとみられる。底面は平坦であり、底面形の両端部はやや角張り、奥へ入りこむ。(佐々木あ)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 出土遺物がなく詳細は不明であるが、II層が堆積していることから縄文時代中期～後期と考えられる。(八木)

10号土坑 (第32図、写真図版34)

[位置・検出状況] 南区8H13グリッド、VI層上位のIII層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] やや歪な円形。

[規模] 長軸0.80m・短軸0.72m・深さ0.06m

[埋土] V・IV層由来の黒ボク偽礫とVI層由来の軽石質ローム偽礫が混在。

[底面・壁] 壁面は垂直気味に立ち上がり、底面は浅い皿状に少し凹む。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 埋土にIV層由来の偽礫が含まれることから、IV層形成中～III層堆積前とみられ、縄文時代前期前半に属すると推定される。遺構の大半が削剥されているようで、本来の形状および性格は不明。(趙)

12号土坑 (第32図、写真図版34)

[位置・検出状況] 南区8H12グリッド、IV層上位のIII層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] やや長い円形。

[規模] 長軸0.90m・短軸0.78m・深さ0.10m

[埋土] IV・V層由来の軽石質黒ボク偽礫客土。

[底面・壁] 壁面は垂直気味に立ち上がる。底面は浅い皿状で緩やかな凹凸がある。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 埋土にIV層由来の偽礫が含まれることから、IV層形成中～III層堆積前とみられ、縄文時代前期前半に属すると推定される。遺構の大半が削剥されているようで、本来の形状および性格は不明。(趙)

13号土坑 (第32図、写真図版34)

[位置・検出状況] 南区9H7グリッド、VII層上位のIII層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 長円形。

[規模] 長軸1.25m・短軸1.04m・深さ0.60m

[埋土] IV～VII層由来の客土1～8による一度期の埋め立てが認められる。

[底面・壁] 壁面はほぼ垂直で、断面に向かって右、東側の最下部15cmほどがわずかにオーバーハンクする。底面はほぼ平坦であり、断面の少し左より(西側)に、直径0.4m程度で0.05m以下の浅い

副穴状の凹みがある。

[帰属時期] IV層以下の偽磔で一度期に埋め立てられており、Ⅲ層堆積前の縄文時代前期前半と予想される。ただし、偽磔客土1内にⅢ層に似たものがあり、これがⅢ層由来であれば前期後半以降である。(趙)

[出土遺物] (第186・187図、写真図版171) 土器片2点(99g)、石核1点、敲磨器類1点、特殊磨石1点、不定形石器1点、剥片4点(51.3g)が出土している。(八木)

17号土坑 (第32図、写真図版35)

[位置・検出状況] 南区SH7グリッド、V層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 長円形(推定)。

[規模] 長軸0.90m・短軸0.50m・深さ0.32m

[埋土] V～VI層由来の客土による一度期の埋め立てが認められる。

[底面・壁] 底面から壁面に向けて枕状に立ち上がる。

[帰属時期] V層以下の偽磔で一度期に埋め立てられているが、埋土1・2・5の由来が未詳であるため(IV層由来の可能性があるので)、IV層堆積期(縄文時代前期前半)を通して帰属する可能性がある。性格は不明。(趙)

[出土遺物] (第187図、写真図版171) 不定形石器1点が出土している。(八木)

18号土坑 (第32図、写真図版35)

[位置・検出状況] 南区SH9グリッド、V層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 倒木痕とみられる古い攪乱に重なる。

[平面形] 不整形な五角形。5辺のうち4辺は直線的、1片は弧状。

[規模] 長軸0.90m・短軸0.82m・深さ0.30m

[埋土] 副穴を埋める埋土3～5は客土かこぼれ土、埋土2は斜面のこぼれ土とみられる。3～5が2に先行堆積。その後1が土坑全体を埋める。1は黒ボクの客土で炭を含む。

[底面・壁] 壁面は垂直に近いが、断面図の向かって右から左に(斜面の上側から下側へ)少しひしゃげたような形状で、左壁は内傾、右壁は外傾する。底面には浅い凹凸があり、底面中央に副穴がある。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 副穴をIV層由来の黒ボクが埋め、埋土1にⅢ層の要素がないことから、IV層堆積後、Ⅲ層堆積前の縄文時代前期中頃に近い時期と推定できる。いわゆるピーカー状の土坑であるが、埋土2はオーバーハングしていた壁面の崩れやすいV層の崩落物で、本来、フラスコ状の貯蔵穴であった可能性がある。(趙)

19号土坑 (第33図、写真図版35)

[位置・検出状況] 南区SH3グリッド、Ⅷ層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 長円形。

[規模] 長軸1.24m・短軸1.18m・深さ0.48m

[埋土] 埋土1b以下はV層以下由来の客土による一度期の埋め立てが認められる。1aは埋め戻った凹みに堆積したIV層の可能性が、埋土最下部の6・7は薄層が重なることから整地層のとみられる。

[底面・壁] 壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面の向かって左、西側の最下部15cmほどがわずかにオーバーハングする。東壁中ほどから外へ膨らむ。底面は中央付近が少し低い、ほぼ平坦である。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 埋土1b～2はV層以下の客土で埋め立てられており、IV層堆積前の縄文時代前期初めころと予想される。ただし、1aは埋め戻った凹みに堆積したIV層の可能性あり。副穴は認められない。いわゆるピーカー状の土坑であるが、埋土2～5はオーバーハングしていた壁面の崩れやすいIV層以下の崩落物で、本来、フラスコ状の貯蔵穴であった可能性がある。(趙)

20号土坑 (第33図、写真図版35)

[位置・検出状況] 南区8H3グリッド、VI層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] 長円形。

[規模] 長軸1.04m・短軸0.84m・深さ0.13m

[埋土] 埋土上部の1がIV層由来の黒ボク主体の客土、下部の2がV～VIa層由来の黒ボク～黒ボク質ローム客土による一度期の埋め立てが認められる。

[底面・壁] 壁面は開き気味に立ち上がる。底面は不規則な浅い窪みにより、2段に窪む。

[帰属時期] IV層以下の偽礫で一度期に埋め立てられており、Ⅲ層堆積前の縄文時代前期前半と予想される。遺構の大半が割剥されており、本来の形状および性格は不明。(趙)

[出土遺物] 土器片1点(2.4g)が出土しているが、細片のため不掲載とした。(八木)

21号土坑 (第33図、写真図版36)

[位置・検出状況] 南区9G21、VI層上位のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] 認めず。

[平面形] やや長い円形。

[規模] 長軸0.98m・短軸0.88m・深さ0.42m

[埋土] 埋土下部の2はV層以下の偽礫を含む客土により一度期に埋め立てられている。1は黒ボク質シルトで、中礫以上の偽礫を含まない。V層の再堆積の可能性と、IV層そのものの可能性がある。

[底面・壁] 壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で浅い凹凸がある。土坑底の礫の観察から、土坑機能時には柱が立てられていたと推定される。荷重の大きさからみて、柱にはおそらく屋根が掛けられていたのであろう。そうすると、この土坑はより大きな遺構の中心部であり、周辺に土坑に付属するピットなどの遺構があったのかもしれない。礫は長軸34cm短軸23cmで亜角礫。礫下面は少し丸く膨らみを持つ。礫底は東側へ緩く傾き、礫底の基盤層は最大3cm窪んでいる。また、断面右側の礫直下で暗褐色黒ボク質シルト(VI層以上の再堆積物)が薄く挟まる。一方、左の礫直下では、基盤層のⅤa層：褐色ロームが下方へ撓む。礫直下のⅤa層の撓みは、上方からの荷重によるものと推定される。礫自体の重さは大きくないから、礫の上から荷重が加えられたと考えられる。ただし、連続的な荷重なのか一時的な加撃によるものかはわからない。一方のVI層以上の際堆積物が構成する礫右端直下の暗褐色黒ボク質シルトは加工時のこぼれ土とみられ、礫が置かれる再にも挟まったものと推定される。かつ少し撓んでいる。礫上面を平に保持するために、土坑底を浅く掘ったとも考えられる。しかし、礫直下のⅤa層の撓みは、上からの荷重を無視できない。以上の点を踏まえると、礫は柱を支える根石であった可能性がある。荷重による窪みが形成されるための条件は、土坑底のロームの含水率が高く、軟弱であったことを示唆する。(趙)

上記の指摘を受け、平成28年度に精査終了していた21号土坑付近について再度遺構検出を試みた。Ⅶ層まで掘削したが、21号土坑に類似する遺構及びその他の遺構は新たに検出することができなかった。(八木)

[帰属時期] 埋土の主体を占めるⅡがⅤ層以下の偽礫客土で一度期に埋め立てられており、Ⅳ層堆積直前の縄文時代前期初めまでの時期に形成されたと予想される。もし、埋土ⅠがⅣ層そのものならば、前期中頃までの時期となる。(趙)

[出土遺物] (第187図、写真図版172) 土器片3点(1.3g)、石斧1点、多面体敲石1点、石皿1点、剥片3点・礫剥片1点(剥片合計10.4g)が出土している。土器片は細片のため不掲載とした。(八木)

22号土坑 (第33図、写真図版36)

[位置・検出状況] 南区8G16グリッド、Ⅴ層にて、不整形範囲として検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 南半分は本来の規模を超えて掘りすぎた為、正確な規模は不明である。

[規模] 長軸0.80m・短軸0.57m・深さ0.19m

[埋土] 黒褐色土の単層である。

[底面・壁] 北半分の底面は平坦である。(佐々木あ)

[出土遺物] (第66図、写真図版74) 土器片5点(56.7g)、剥片2点(27.4g)出土している。土器173は非結束羽状縄文施文である。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

23号土坑 (第33図、写真図版36)

[位置・検出状況] 南区8G16・21グリッドⅤa層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形で断面形状はフラスコ形を呈する。

[規模] 開口部長軸1.00m・短軸1.02m 底面長軸1.20m・短軸0.98m 深さ0.54m

[埋土] 4層に分層した。黒褐色土のⅣb層が主体である。底面に壁崩落土と考えられる褐色土が堆積する。

[底面・壁] 底面はほぼ平滑に整えられている。壁は底面付近が広く開口部にかけて傘まるフラスコ状を呈する。(佐々木あ)

[出土遺物] (第66・187・188図、写真図版74・172) 土器片16点(308g)、石斧1点、敲磨器類4点、不定形石器1点、剥片3点・礫剥片2点(剥片合計33.2g)が出土している。(八木)

[帰属時期] Ⅴa層を掘り込み、Ⅳb層由来埋土が堆積しているため、Ⅴa層以降Ⅳb層以前の時期が考えられる。(佐々木あ)

出土土器から考えられる帰属時期は縄文時代前期中葉である。(八木)

24号土坑 (第33図、写真図版36)

[位置・検出状況] 南区9G11・12・16・17グリッド、Ⅵ層上位(推定Ⅴ層またはⅣ層上面付近)のⅢ層基底面。

[その他の遺構との重複] Ⅵ層上位の擾乱層に重なる。

[平面形] 平面洋梨型で、西側が丸く尖り、東側が隅丸方形気味。

[規模] 長軸1.10m・短軸1.10m・深さ0.50m

[埋土] 埋土縁辺部5がⅥ～Ⅴ層下部主体の客土、中央部4がⅤ層主体の客土で一度期に埋まる。下底に4～5cmのⅧ層客土からなる薄層の整地層を認める。埋土中に垂直方向の割れ目および小規模の共役断層を認める。土坑を埋積した埋土が締まって後に、割れたと考えられる。地震、倒木などによる揺れが原因と考えられるが、詳細は不明。

[底面・壁] 底面から壁面へ緩傾斜から徐々に立ち上がり急傾斜になる。平面洋梨型の円く尖る南側の傾斜が相対的に緩い。

[帰属時期] Ⅵ層上位の擾乱層より新しく、Ⅲ層より古く、埋土にⅤ層以下の偽礫が含まれることから、縄文時代前期前半ごろと思われる。(趙)

[出土遺物] (第66・188図、写真図版74・172) 土器片20点(170g)、石斧1点、剥片21点(78.3g)が出土している。土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

25号土坑 (第34図、写真図版37)

[位置・検出状況] 南区8G19グリッド、Ⅷ層上面で検出した。平成28年度調査で半載していたが、基準点2の真下に位置するため精査を中断し、平成29年度調査に断面及び平面の記録を行った。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸0.92m・短軸0.90m・深さ0.28m

[埋土] V～Ⅵ層由来の褐色土である。

[底面・壁] Ⅷ層を底面とする。底面から壁面にかけてすり鉢状を呈する。

[出土遺物] 土器片3点(19g)、剥片2点(40.7g)が出土している。いずれも細片のため不掲載とした。

[帰属時期] Ⅷ・Ⅷ層を掘り込み、V～Ⅵ層由来の堆積土が認められるため、縄文時代早期～前期初頭の可能性がある。(八木)

26号土坑 (第46図、写真図版56)

[位置・検出状況] 南区6G4グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 27号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.58m・短軸0.69m・深さ1.19m・軸N-34°-W

[埋土] 5層からなる。1・4・5層は黒色土を主体とし、2・3層は暗褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に立ち上がり、途中から緩やかに外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] 土器片2点(15.4g)が出土しているが、細片のため不掲載とした。

[帰属時期] 堆積土から考えられる帰属時期は縄文時代中期～後期である。(八木)

27号土坑 (第34図、写真図版37)

[位置・検出状況] 南区6G3・4グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。本遺構は東半分が調査区外に及んでいる。

[その他の遺構との重複] 26号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.22m・短軸0.61m・深さ0.88m

[埋土] 5層からなる。いずれも暗褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面は浅く皿状にくぼむ。北壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がるが、南壁は直線的に外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 出土層位から考えられる帰属時期は縄文時代前期前半である。(八木)

28号土坑 (第46図、写真図版56)

[位置・検出状況] 南区S F 2グリッドに位置する。V-VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸2.98m・短軸0.29m・深さ0.66m・軸N-47°-W

[埋土] 4層に細分した。暗褐色土を主体とし、2・3層土は壁の崩落土と考えられる。

[底面・壁] VII層を床面とし、両端部はやや下がり、その他は概ね平坦に調整されている。副穴等の施設はない。短軸断面形はY字形を呈し、壁は床面から約40cmまで直立し、そこから開口部に向けて開きながら立ち上がる。長軸断面は床面より開口部にむけて内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 出土遺物が認められないため詳細は不明であるが、形態からは縄文時代中期～後期と考えられる。(八木)

29号土坑 (第34図、写真図版37)

[位置・検出状況] 南区S G 8グリッド東西に設置したトレンチ内のVIII層上面で検出した。本来の掘り込み面はVI層上面である。

[その他の遺構との重複] 認められないが、80cm西に1号住居跡が位置する。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.16m・短軸1.10m・深さ0.36m

[埋土] 6層に分層した。V-VI層由来の黒褐色～暗褐色土とVII層由来の褐色土が互層をなす。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VIII層下位を底面とし、ほぼ平坦に整えられている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[出土遺物] (第66・188図、写真図版74・172) 土器片18点(172.7g)、石斧1点、礫器1点、不定形石器2点、剥片2点・礫剥片6点(剥片合計196.2g)が出土している。土器177は縄文施文、土器178は早期中葉土器の底部付近の破片と考えられる。

[帰属時期] 本来の掘り込み面がVI層上面であること、堆積土がV-VI層で構成されていること、そして出土土器片から縄文時代早期～前期初頭と考える。(八木)

30号土坑 (第34図、写真図版37)

[位置・検出状況] 南区S G 9グリッドV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 5号焼土が関わる。5号焼土の平面形を記録後、東西方向に半載して断面を記録した。残りの焼土を掘削したところ、下部に土坑を確認したため30号土坑として精査を行った。30号土坑の中位まで焼土が堆積しているが、5号焼土として確認した焼土範囲は30号土坑の平面形を大きくはみ出す。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸1.30m・短軸0.98m・深さ0.28m

[埋土] 5層に分層した。1層は上面に炭が認められる。2・4層は均質なIV層由来層、3層は焼土層である。上位ほど均質である。5層はIV・V・VI層が混在し斑状をなす。5層は30号土坑構築の際に排出された土の埋め戻し土であり、人為堆積層と考えられる。

[底面・壁] VI層を底面とする。底面南東側が若干高く、全体的に浅い凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第66・188・258図、写真図版74・172・207) 土器片8点(65.5g)、敲磨器類1点、台石1点、剥片1点・礫剥片4点(剥片合計73g)、粘土塊2点が出土している。土器179は底部片である。

[帰属時期] V層を掘り込み、IV層が堆積していることから縄文時代前期前葉と考えられる。(八木)

31号土坑 (第34図、写真図版38)

[位置・検出状況] 南区8F8グリッドに位置する。VII層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸1.35m・短軸0.80m・深さ0.26m

[埋土] 褐色土主体の単層である。北東壁付近より出土した巨礫は、遺構断面を観察しても掘り方等観察することができず、遺構埋没の過程で入り込んだ、または捨てられたものであると考えられる。

[底面・壁] VII層を床面とし、概ね平坦に調整されている。床面より開口部にむけて緩やかに立ち上がる。(森)

[出土遺物] 台石が1点出土している。

[帰属時期] VI層が堆積していることから、縄文時代早期と考えられる。(八木)

32号土坑 (第34図、写真図版38)

[位置・検出状況] 南区7E4グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸1.00m・短軸0.72m・深さ0.56m

[埋土] 4層に細分した。黒褐色土が主体で、1層以外は堆積状況から自然堆積と考えられるが、1層は礫の掘り方であるため人為的に埋め戻された可能性がある。

[底面・壁] V・VI層の漸移層を床面とし、概ね平坦に調整されている。(森)

[出土遺物] (第66・189図、写真図版74・172) 土器片7点(59.9g)、礫器1点、剥片2点・礫剥片1点(剥片合計21.1g)が出土している。土器180はムシリI式の文様が認められる。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は、縄文時代早期中葉である。(八木)

33号土坑 (第35図、写真図版38)

[位置・検出状況] 南区8G17グリッド、V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 3号住居跡と切り合い、33号土坑の方が新しい。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.24m・短軸1.16m・深さ0.60m

[埋土] 7層に分層した。1層は十和田中振テフラの特徴を備えた火山灰質土である。2層はIII層由

来、4層はV層由来5～7層はVI層由来の堆積土である。緩やかに自然堆積したと考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とする。底面はほぼ平滑に整えられている。壁は一部オーバーハングするが、壁崩落が認められる部分を除き、ほぼ直立する。

[出土遺物] (第66・189図、写真図版74・172) 土器片30点(406.7g)、磨器類1点、特殊磨石1点、不定形石器2点、剥片9点・礫剥片7点(剥片合計146.3g)が出土している。土器185には結節回転文が施文されている。

[帰属時期] 1層に十和田中振テフラ、埋土下半にIV層が堆積していることからV層形成後IV層堆積前の縄文時代前期前葉と考えられるが、土器片の時期は前期後葉まで含まれる。(八木)

34号土坑 (第47図、写真図版56)

[位置・検出状況] 南区7E11・12グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.95m・短軸0.56m・深さ1.44m・軸N-26°-E

[埋土] 4層からなる。ほとんどが黒色土を主体とし、1層と2層上面からは土器片と石器が少量出土している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面は南西から北東に向かって緩やかに傾斜する。壁は底面から直線的に立ち上がり、途中から緩やかに外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] (第70・200図、写真図版77・177・178) 土器片41点(313.8g)、石匙1点、石斧2点、特殊磨石1点、不定形石器1点、剥片14点・礫剥片11点(606.7g)が出土している。

[帰属時期] 土坑の形状・堆積土からは縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

35号土坑 (第35図、写真図版38)

[位置・検出状況] 南区6D18グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.71m・短軸1.45m・深さ0.76m

[埋土] 4層に細分した。黒褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積と考えられ、2層土が厚く堆積していることから、ある程度の短期的な埋没があったと推察される。

[底面・壁] VII層を底面とし、東に向かってやや下がる底面である。壁は底面より40cmほど直立し、そこから開口部に向けて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第66図、写真図版74) 土器片10点(145.5g)、剥片9点・礫剥片3点(剥片合計190g)が出土している。土器187は結束羽状縄文が施文されている。

[帰属時期] 土坑の形状・堆積土からは縄文時代早期後半～前期前半の可能性が考えられる。(八木)

36号土坑 (第35図、写真図版39)

[位置・検出状況] 南区5E2グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 上面：長軸1.34m・短軸1.26m・深さ1.14m 床面：長軸1.60m・短軸1.56m

[埋土] 8層に細分した。黒～黒褐色土が主体で、下層の壁際には崩落土と考えられる黄褐色土が堆

積する。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII-VIII層を床面とし、概ね平坦に調整されている。壁は、床面から開口部にむけて緩やかに内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第189図、写真図版173) 土器片5点(35.8g)、両極石器1点、剥片4点・礫剥片3点(剥片合計82.2g)が出土している。

[帰属時期] 土坑の形状・堆積土からは縄文時代早期後半～前期前半の可能性が考えられる。(八木)

37号土坑 (第35図、写真図版39)

[位置・検出状況] 南区7E21グリッド、V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.12m・短軸1.08m・深さ0.50m

[埋土] 4層に分層した。4層はVII層がブロック状に入り斑状をなしており、37号土坑構築の際に排出された土が再堆積したものと考えられる。3層はV層、1層はIV層由来であり、自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、平滑に整えられている。底面中央に細い副穴がある。壁は緩やかに外傾する。

[出土遺物] (第66図、写真図版74) 土器片32点(223g)、剥片4点・礫剥片7点(剥片合計143.8g)が出土している。土器188は長七谷地Ⅲ群・上川名式期の刺切文と燃糸圧痕が認められる。

[帰属時期] V層を掘り込み、IV-V層が堆積していることから、V層形成期に構築された可能性があり、縄文時代前期初頭以前、土器片からは前期初頭と考えられる。(八木)

38号土坑 (第35図、写真図版39)

[位置・検出状況] 南区7E23・24グリッド、V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.28m・短軸1.20m・深さ0.56m

[埋土] 4層に分層した。上位にIV層、下位にV層由来層が堆積しており、十和田南部テフラの入り方を鑑みて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を床面とし、平滑に整えられている。壁はほぼ直立する。

[出土遺物] (第67・189・190図、写真図版74・173) 土器片71点(574.9g)、両極石器1点、石核1点、石斧2点、敲磨器類1点、多面体敲石2点、特殊磨石3点、台石1点、剥片14点・礫剥片9点(剥片合計338.7g)が出土している。土器191は非結束羽状縄文である。

[帰属時期] V層中で検出し、IV-V層自然堆積の様相からは縄文時代前期初頭以前、土器片からは前期初頭の可能性が考えられる。(八木)

39号土坑 (第35図、写真図版39)

[位置・検出状況] 南区8F1グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められないが、10号住居跡、14号住居跡、48・49号土坑に近接する。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.60m・短軸1.34m・深さ0.88m

[埋土] 8層に分層した。底面の8層は黒褐色土、6・7層は暗褐色土、1～4層には十和田南部テフラを含む。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、平滑に整えられている。壁はほぼ直立する。

[出土遺物] (第67・191図、写真図版74・173) 土器片36点(298.1g)、両極石器1点、石斧1点、礫器1点、台石1点、剥片5点・礫剥片7点(剥片合計269.3g)が出土している。土器193の口縁端部には捻糸疋疵、土器194は非結束羽状縄文が施文されている。

[帰属時期] 埋土下位の暗褐色土と上位の十和田南部テフラを含む黒褐色土の堆積状況を鑑み、VI層を掘り込んでVI層・V層が順に自然堆積したと判断すると、VI層形成中と考えられる。土器から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

40号土坑 (第36図、写真図版40)

[位置・検出状況] 南区9F21グリッド、VI層上面で検出した。西1/3は調査区外である。

[その他の遺構との重複] 調査範囲内においては認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.84m・短軸(128)m・深さ1.08m

[埋土] 9層に分層したが、大きく1～5層のV層由来と6層のVI層由来層、VII・VIII層崩落土、9層黒褐色土がある。

[底面・壁] VIII層を床面とし、平滑に整えられている。底面付近の壁は少しオーバーハングし、中位辺りから開口部に向けて急傾斜で広がる。

[出土遺物] (第67図、写真図版74) 土器片7点(48g)、剥片1点・礫剥片1点(剥片合計17.4g)が出土している。

[帰属時期] 上位1～5層のV層、6層のVI層由来層の状況を鑑み、VI層形成以前と考えられる。土器片からは縄文時代前期前葉の可能性が考えられる。(八木)

41号土坑 (第36図、写真図版40)

[位置・検出状況] 南区9G7グリッド、VI-VII層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 開口部長軸1.15m・短軸1.00m・底面長軸1.30m・短軸1.28m・深さ0.98m

[埋土] 11層に分層した。V層由来の暗褐色土が11層に、壁崩落土6・9・10層が底面付近に、IV層由来の暗褐色土が2層に堆積している。1層上面に焼土が散在している。

[底面・壁] 底面は平滑に整えられており、壁は底面付近が広がるフラスコの形状を呈する。

[出土遺物] (第67・191・192図、写真図版74・75・174) 土器片23点(884.7g)、石斧1点、不定形石器2点、剥片8点・礫剥片3点(剥片合計136.7g)が出土している。小形土器198が1層から、土器201が底面付近から出土した。

[帰属時期] 堆積土はIV-V層の堆積が認められるため、IV層形成以降と考えられる。1層及び底面から出土している土器は円筒下層d1式である。(八木)

42号土坑 (第36図、写真図版40)

[位置・検出状況] 南区8G6グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められないが、6号住居跡の北40cmに位置する。

[平面形] 確認できた範囲内では円形である。

[規模] 長軸1.48m・短軸(1.10)m・深さ0.38m

[埋土] 2層に分層した。下位にV層由来層、上位にIV層由来層が認められ、自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面は平滑に整えられている。壁は外傾気味に立ち上がる。

[出土遺物] (第67・192図、写真図版74・174) 土器片16点(103.1g)、石鏃1点、台石1点、剥片3点・礫剥片7点(剥片合計78.8g)が出土している。

[帰属時期] IV-V層が自然堆積していることに鑑み、IV層形成後に構築されたものと考えられる。土器片から考えられる帰属時期は縄文時代早期中葉である。(八木)

43号土坑(第36図、写真図版40)

[位置・検出状況] 南区5C11グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 開口部 長軸1.18m・短軸1.10m・深さ0.57m 底面部 長軸1.49m・短軸1.39m

[埋土] 5層からなる。ほとんどが黒色土を主体とする。2層は黒褐色土を主体とし、壁が崩落して埋没している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、ほぼ中央に浅い小ピット1個を確認した。壁は底面から内湾気味に立ち上がり、途中から直線的に立ち上がるフラスコ状である。(佐々木隆)

[出土遺物] (第67・192図、写真図版75・174) 土器片22点(334.2g)、石斧2点、礫器1点、剥片5点(73.1g)が出土している。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉であるが、堆積土は黒色土でⅡ～Ⅲ層由来と考えられることから、中期以降の可能性もある。(八木)

44号土坑(第36図、写真図版41)

[位置・検出状況] 南区5E6グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.49m・短軸1.25m・深さ1.17m

[埋土] 7層に細分した。黒褐色土が主体で、その上層に十和田中掘テフラが厚く堆積している。下層の壁際には崩落土と考えられる黄褐色土が堆積し、層全体がレンズ上に堆積することからも、自然堆積である可能性が高い。

[底面・壁] VIII層を床面とし、概ね平坦に調整されている。床面にはP1～P3までの柱穴状小ピットがあり、南北方向に一列で並ぶ。P1は長軸7.9cm・短軸6.0cm・深さ14.1cm、P2は長軸6.3cm・短軸5.0cm・深さ21.8cm、P3は長軸6.0cm・短軸5.0cm・深さ8.1cmである。壁は床面より50cmまでは外側に湾曲し、そこから開口部にむけて緩やかに立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第67・192・193図、写真図版75・174) 土器片32点(337.9g)、石匙1点、礫器1点、敲磨器類1点、特殊磨石1点、不定形石器1点、剥片8点・礫剥片9点(剥片合計382.5g)が出土している。土器207～214は全て埋土中位の4層出土で、貝殻線文・押し沈線文・縄文施文と幅が広い。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は、縄文時代前期前葉である。(八木)

45号土坑 (第37図、写真図版41)

[位置・検出状況] 南区5E8グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 73号土坑を切る。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.55m・短軸1.53m・深さ1.16m

[埋土] 断面図上は7層に細分したが、遺構の埋土は6層までである。主体は暗褐色土で、その上層に十和田中振テフラが堆積している。堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、開口部に対して小さな底面となっているが、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第67・193図、写真図版75・174・175) 土器片36点(334.6g)、礫器1点、敲磨器類2点、特殊磨石1点、不定形石器1点、剥片2点・礫剥片16点(剥片合計162.3g)が出土している。土器215～218は全て縄文施文で、底部は尖底である。

[帰属時期] 埋土上位に十和田中振テフラが堆積していること、土器片の特徴から縄文時代前期前葉と考えられる。(八木)

46号土坑 (第37図、写真図版41)

[位置・検出状況] 南区8G7グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められないが、6号住居跡の東10cmに位置する。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸1.40m・短軸1.10m・深さ0.46m

[埋土] 3層に分層した。V層由来が主体を占める。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はすり鉢状で若干の凹凸が認められる。壁は緩やかに外傾し立ち上がる。

[出土遺物] (第68・193図、写真図版75・175) 土器片15点(161.6g)、不定形石器2点、剥片1点・礫剥片4点(剥片合計154.8g)が出土している。

[帰属時期] 掘り込み面がVI層であること、V層が自然堆積していることから鑑み、VI層以後V層以前に構築されたものと考えられる。土器片から考えられる時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

47号土坑 (第37図、写真図版41)

[位置・検出状況] 南区7E4グリッド、V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 9号住居跡と重複関係が認められる。9号住居跡の南壁検出の際に確認したため、新旧関係は不明である。

[平面形] 不明。

[規模] 長軸(0.88)m・短軸(0.50)m・深さ0.13m

[埋土] 単層を確認した。IV層由来の自然堆積層と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平ら、壁は直立気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] V層を掘り込んでIV層由来層が堆積していることから縄文時代前期前葉以前に構築されたと考えられる。(八木)

48号土坑 (第37図、写真図版42)

[位置・検出状況] 南区8E21グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 14号住居跡・49号土坑と重複し、48号土坑が最も新しい。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸(1.60)m・短軸(1.60)m・深さ0.16m

[埋土] V層由来の単層を確認した。

[底面・壁] 底面は浅い凹凸が認められる。壁は直立気味に立ち上がる。

[出土遺物] 土器片14点(64g)、剥片10点・礫剥片2点(剥片合計76.6g)が出土している。土器片は細片のため不掲載とした。

[帰属時期] V層由来層が堆積していることから、前期前葉以前に構築されたものと考えられる。(八木)

49号土坑(第37図、写真図版42)

[位置・検出状況] 南区8E22グリッド、14号住居跡精査段階で検出した。

[その他の遺構との重複] 14号住居跡・48号土坑と重複し、49号土坑が14号住居跡・48号土坑より古い。

[平面形] 不明。

[規模] 長軸(1.60)m・短軸(1.10)m・深さ0.15m

[埋土] 3層に分層した。V層由来の自然堆積層が認められる。

[底面・壁] 底面はやや凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第68・193図、写真図版75・175) 土器片9点(63.7g)、不定形石器1点、剥片3点・礫剥片2点(剥片合計77.2g)が出土している。

[帰属時期] V層由来層が堆積していることから、V層形成以前に構築されたものと考えられる。土器片から考えられる時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

50号土坑(第37図、写真図版42)

[位置・検出状況] 南区8F21グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 北東端を倒木痕に切られている。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.76m・短軸1.65m・深さ0.78m

[埋土] 7層に分層した。1層IV層由来、2層V層由来で、3・4・6・7層はVI層由来する層の可能性がある。自然堆積層と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、ほぼ平坦に整えられている。壁面は底面から中位にかけて少しオーバーハングし、中位から開口部にかけて大きく広がる。

[出土遺物] (第68・194図、写真図版75・175) 土器片6点(313g)、敲磨器類2点、剥片2点・礫剥片3点(剥片合計76.2g)が出土している。土器221は貝殻沈線文、222は結東羽状縄文が施文されている。

[帰属時期] IV・V層由来層が堆積していることからV層以前に構築されたものと考えられる。土器片から考えられる帰属時期は、縄文時代早期中葉～前期前葉である。(八木)

51号土坑(第38図、写真図版42)

[位置・検出状況] 南区8F13グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められないが、北東約2mの距離に31号土坑がある。規模・堆積状況が類似する。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸1.60m・短軸1.10m・深さ0.32m

[埋土] 4層に分層した。底面付近に褐色土、2層にV層由来、1層にIV層由来層を確認した。IV-V層に由来する層にVI層に近い土が斑状に混入している。北壁寄りに礫が1点斜めに貫入しており、人為堆積の可能性がある。

[底面・壁] 底面・壁とも凹凸が目立つ。

[出土遺物] (第68・194図、写真図版75・175) 土器片2点(60.7g)、台石1点が出土している。土器223は非結束羽状縄文が施文されている。

[帰属時期] 堆積土にIV層由来層が認められることから、IV層形成以後に構築された可能性がある。土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

52号土坑 (第38図、写真図版43)

[位置・検出状況] 南区4D6グリッドに位置する。V-VI層で検出した。実際はIV層上面から残存する遺構だったと考えられる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.75m・短軸1.66m・深さ0.77m

[埋土] 3層からなる。ほとんどが黒褐色土を主体とし、1層のほぼ中央には十和田中掇テフラのブロックが筋状に混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。北壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。南壁は底面から内湾気味に立ち上がり、途中から外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] (第68・194図、写真図版75・175) 土器片51点(572.8g)、石斧1点、礫器1点、敲磨器類1点、不定形石器1点、剥片20点・礫剥片6点(剥片合計366g)が出土している。土器は貝殻沈線文、縄文施文がある。

[帰属時期] 1層に十和田中掇テフラが含まれており、土器片の時期を併せて縄文時代早期中葉～前期前葉の可能性が考えられる。(八木)

53号土坑 (第38図、写真図版43)

[位置・検出状況] 南区3D5グリッドに位置する。V層で検出したが、実際はIV層上面から残存していたと考えられる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.15m・短軸1.40m・深さ0.43m

[埋土] 4層からなる。1・3層は黒色土を主体とし、2・4層は黒褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] (第68・258図、写真図版76・207) 土器片54点(795.6g)、剥片3点・礫剥片2点(剥片合計94.5g)・粘土塊1点が出土している。

[帰属時期] 土器片から縄文時代中期中葉と考えられる。(八木)

54号土坑 (第38図、写真図版43)

[位置・検出状況] 南区4E4グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.48m・短軸1.38m・深さ0.82m

[埋土] 4層に細分した。暗褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、概ね平坦に調整されている。西側壁は底面から開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がるが、東側壁はやや内湾気味に立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第68・194・195図、写真図版76・175) 土器片42点(331.6g)、石筥1点、礫器1点、敲磨器類1点、剥片3点・礫剥片6点(剥片合計107.5g)が出土している。土器243は縄文施文で、底面近くに刺突状の文様がある。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

55号土坑 (第38図、写真図版43)

[位置・検出状況] 南区4E2グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 上面:長軸1.24m・短軸1.07m・深さ0.64m 底面:長軸1.38m・短軸1.35m

[埋土] 5層に細分した。黒～黒褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] VII～VIII層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は床面から10cmまで外側に湾曲し、そこから開口部にむけてほぼ直立しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第68・195図、写真図版76・175) 土器片26点(239.4g)、石鏃1点、不定形石器2点、剥片6点・礫剥片4点(剥片合計47.2g)が出土している。土器244は結束羽状縄文である。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期後半である。(八木)

56号土坑 (第47図、写真図版56)

[位置・検出状況] 南区4D6・11グリッドに位置する。V層で検出したが、実際はIV層上面から残存していたと考えられる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.79m・短軸0.71m・深さ1.18m・軸N-80°-W

[埋土] 4層からなる。1層は黒色土を主体とし、2層は暗褐色土を主体とする。3層は黄褐色土を主体とし、壁が崩落して埋没したと考えられる。4層は黒色土を主体とする。

[底面・壁] 底面は浅く皿状にくぼむ。壁は底面から直線的に立ち上がり、途中から外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] (第71・200・201図、写真図版77・178) 土器片7点(120.4g)、石核1点、礫器1点、多面体敲石1点、剥片1点・礫剥片2点(剥片合計31.7g)が出土している。土器327は口縁部片で結節回転文が施文されている。

[帰属時期] 土器片は縄文時代前期前葉であるが、形態・堆積土からは中期～後期と考えられる。(八木)

57号土坑 (第38図、写真図版44)

[位置・検出状況] 南区4D17グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.41m・短軸1.27m・深さ0.88m

[埋土] 断面図上は3層に細分したが、遺構の埋土は2層までである。黒褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅷ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。底面にはP1・P2の柱穴状小ピットがある。P1は長軸6.0cm・短軸4.5cm・深さ14.4cm、P2は長軸8.8cm・短軸7.9cm・深さ12.6cmである。南側壁は底面より開口部にむけて開きながら立ち上がり、北側壁はやや直立気味に立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69・195図、写真図版76・175・176) 土器片69点(516.9g)、礫器1点、敲磨器類1点、特殊磨石1点、剥片5点・礫剥片6点(剥片合計223.5g)が出土している。

[帰属時期] 出土土器から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

58号土坑 (第39図、写真図版44)

[位置・検出状況] 南区3D14グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.67m・短軸1.55m・深さ1.22m

[埋土] 6層からなる。1層は暗褐色土と火山灰が混ざった細砂土で、2層は黄褐色の火山灰がブロック状に堆積する。どちらも十和田中堰テフラによる二次堆積と考えられる。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 小ピット7個を確認した。どれも黒褐色シルト主体の単層である。底面はほぼ平坦である。壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] 剥片3点(14.8g)が出土している。

[帰属時期] 1～2層に十和田中堰テフラが堆積していることから、縄文時代前期前葉以前と考えられる。(八木)

59号土坑 (第47図、写真図版57)

[位置・検出状況] 南区北向きの緩斜面3C18～19グリッドに位置する。検出時の標高は50.00m前後である。基本層序IV層下位～V層にかけてと思われる土層から検出した。IV層とV層を明確に分けることがこの場所では難しかった。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な長楕円形。

[規模] おおよそ長軸2.65m・短軸0.55m・深さ1.0m、長軸はN-50°-E。検出面の規模は開口部の崩落範囲の値であるため、底面の計測値を示す。長軸3.04m・短軸0.11m。

[埋土] 4層からなる。検出面において、IV層ないしはV層土主体でVI層土が混在した土の入り込み埋土1層を面で検出した。南西側は木の根の下にあった。断面で土層観察をするものとして、土の入り込みを遺構埋土と想定、北東側を半載した。底面と壁面と想定できるものを検出し、土坑とした。木の根を取り除き、完掘した。土坑の下半分は十和田八戸テフラのある基本層序VI層を掘り込んでいた。堆積状況として埋土1層は基本層序IV層、2層は周辺の包含層の基本層序V層と連続性が高い。4層は周辺からの流入土、3層は壁面の崩落であり、埋土は自然の埋没と考える。

掘り込み面は木の根のため、不明瞭だったが、土層断面の観察から、基本層序IV層、検出面より上位の可能性はある。

[底面・壁] 付属遺構は無かった。長軸両端断面形態はオーバーハングの形状である。類例から判断して溝形の陥し穴とされるものと判断した。

[出土遺物] (第71・201図、写真図版77・178) 流入土である埋土から、縄文時代前期前葉と思われる土器の破片、礫片、剥片が確認できた。(大泰司)

土器片12点(256.3g)、石核1点、剥片4点・礫剥片1点(剥片合計198.7g)が出土している。土器329は口縁部に刻み目と結節回転文、土器331は底面に縄文が施文されている。(八木)

[帰属時期] 掘り込み面と早期中葉と思われる遺構埋土との対比から、縄文時代のもので前期以降と考える。(大泰司)

60号土坑 (第39図、写真図版44)

[位置・検出状況] 南区3D13グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.07m・短軸1.02m・深さ0.97m

[埋土] 3層からなる。ほとんどが黒褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。北壁は底面から直線的に立ち上がり途中から外傾しながら立ち上がる。南壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] 土器片2点(11.5g)、剥片2点(11.4g)が出土している。小片のため不掲載とした。

[帰属時期] 堆積土がIV・V層由来であることから、縄文時代前期前葉以前と考えられる。(八木)

61号土坑 (第48図、写真図版57)

[位置・検出状況] 南区3E5グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.46m・短軸0.47m・深さ1.19m・軸N-48°-W

[埋土] 4層に細分した。主体の黒褐色土が厚く堆積しており、自然堆積による短期的な埋没であったと考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、両端部から中央に向かって底面が下がる。副穴等の施設はない。短軸断面形は南西壁が床面より70cmまで直立し、そこから開口部にむけて開きながら立ち上がる。北東壁は底面から開口部にむけて直立しながら立ち上がる。長軸断面形は底面より内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第71図、写真図版77) 土器片7点(161.3g)、礫剥片1点(6.5g)が出土している。土器332は貝殻腹線縁文、土器333は縄文施文である。

[帰属時期] 堆積土がII層由来であることから、縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

62号土坑 (第48図、写真図版57)

[位置・検出状況] 南区3E10グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸2.71m・短軸0.53m・深さ0.96m・軸N-36°-W

[埋土] 6層に細分した。黒褐色土が主体で、その下層はブロック状の十和田中振テフラを含む壁崩

落土が堆積している。

[底面・壁] Ⅷ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。副穴等の施設はない。短軸断面形はU字形を呈す。長軸断面形は、北東壁は底面より30cmまで直立し、そこから開口部にむけて内湾しながら立ち上がる。南西壁は底面より開口部にむけて内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第71図、写真図版77) 土器片13点(119.2g)、剥片1点・礫剥片2点(30.8g)が出土している。

[帰属時期] 堆積土がⅡ層由来であることから、縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

63号土坑 (第48図、写真図版57)

[位置・検出状況] 南区3D1・2・6・7グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.83m・短軸0.56m・深さ0.93m・軸N-56°-W

[埋土] 5層からなる。1・5層は黒色土、2層は黒褐色土、3層は暗褐色土、4層は黄褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁はほぼ直線的に立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 堆積土がⅡ層由来であることから、縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

64号土坑 (第39図、写真図版44)

[位置・検出状況] 南区2D3・4グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.64m・短軸1.54m・深さ1.17m

[埋土] 5層からなる。ほとんどが黒褐色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁はほぼ直線的に外傾しながら立ち上がる。(佐々木隆)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 堆積土がⅣ・Ⅴ層由来であることから、縄文時代前期前半の可能性が考えられる。(八木)

65号土坑 (第39図、写真図版45)

[位置・検出状況] 南区2C20グリッド、Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.67m・短軸1.53m・深さ1.15m、副穴直径0.2m・深さ0.28m

[埋土] 11層に分層した。土坑廃絶後の壁付近からの崩落土4・7・8・11層と、上位の黒褐色下位の暗褐色がある。上位はⅣ層、下位はⅤ層の自然堆積層の可能性はある。

[底面・壁] 底面は平滑に整えられ、中央に副穴がある。壁は直立気味に立ち上がる。

[出土遺物] (第69図、写真図版76) 土器片3点(34g)、剥片2点・礫剥片2点(123.4g)が出土している。土器262は貝殻沈線文の底部付近の破片、土器263は口縁部が平らに調整された縄文施文土器である。

[帰属時期] 下位にⅤ層が自然堆積していることから、Ⅴ層形成以前に構築された可能性がある。土

器片からは縄文時代早期中葉～前期前葉の可能性が考えられる。(八木)

67号土坑 (第39図)

[位置・検出状況] 南区5E5グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 17号焼土を切る。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸3.74m・短軸1.27m・深さ0.54m

[埋土] 6層に細分した。暗褐色土が主体で、その上層は十和田中振テフラ層が堆積している。

[底面・壁] Ⅵ層を底面とし、凹凸が多く、平坦部の方が少ない。底面にはP1・P2の柱穴状小ピットがある。P1は長軸56.6cm・短軸27.7cm・深さ18.3cm、P2は長軸57.2cm・短軸41.5cm・深さ19.5cmである。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。

[出土遺物] (第69・195・196図、写真図版76・176) 他の土坑と比べて遺物の出土量が多かったと感じた。(森)

67号土坑は、検出面の土層観察から倒木痕と判断する。しかし、17号焼土を切っていることから、遺物の遺物を多く包蔵している可能性を考え、調査時の67号土坑名を継続して使用した。土器片64点(969.5g)、礫器4点、敲磨器類1点、剥片8点・礫剥片21点(剥片合計298.3g)が出土している。土器264・265は押し線文、土器269は綾杉文が施文されている。

[帰属時期] 土器片から、縄文時代早期後葉～前期前葉の遺構があった可能性が考えられる。(八木)

68号土坑 (第40図、写真図版45)

[位置・検出状況] 南区5D7グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 上面：長軸0.93m・短軸0.85m・深さ0.54m 底面：長軸1.40m・短軸1.32m

[埋土] 8層に細分した。褐～暗褐色土が主体で、レンズ状に堆積していることから自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。西側壁は底面より20cmまで直立し、そこから大きく内湾しながら立ち上がる。東側壁は底面より外側に湾曲しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69図、写真図版76) 土器片7点(171.8g)、剥片1点・礫剥片3点(剥片合計104.5g)が出土している。土器271は縄文施文である。

[帰属時期] 遺構形状・堆積土・出土土器から考えられる時期は縄文時代前期～中期である。(八木)

69号土坑 (第40図、写真図版45)

[位置・検出状況] 南区5D8グリッドに位置する。Ⅶ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 隅丸長方形。

[規模] 長軸1.75m・短軸1.04m・深さ0.18m

[埋土] 暗褐色土を主体とする単層である。攪乱が多く、自然堆積か人為堆積かの判別ができなかった。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、南側から北側にむかって底面が下がる。壁は底面より開口部にむけて開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69・197図、写真図版76・176) 土器片1点(19.2g)、石錐1点、石斧1点、礫剥片

1点(2g)が出土している。土器片272は摩滅が著しい。

[帰属時期] ごく浅い遺構で、攪乱も多いことから判断しかねる。(八木)

70号土坑 (第40図、写真図版45)

[位置・検出状況] 南区5D4グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.24m・短軸0.96m・深さ0.23m

[埋土] 暗褐色土を主体とする単層である。堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] Ⅴ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69・197図、写真図版76・176) 土器片6点(98g)、石斧1点、敲磨器類1点、不定形石器1点が出土している。土器273は縄文施文で繊維を含む。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

71号土坑 (第40図、写真図版46)

[位置・検出状況] 南区5C9グリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 開口部 長軸0.96m・短軸0.93m・深さ0.33m 底面部 長軸1.12m・短軸1.11m

[埋土] 黒色土を主体とする。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は底面から内湾気味に立ち上がり、途中から直線的に立ち上がるフラスコ状である。(佐々木隆)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 遺構の形状・堆積土がⅡ層由来であることから、縄文時代中期以降の可能性が考えられる。(八木)

72号土坑 (第40図、写真図版46)

[位置・検出状況] 南区7C16グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.87m・短軸1.45m・深さ0.35m

[埋土] 3層に細分した。褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅴ-Ⅷ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69図、写真図版76) 土器片2点(45.2g)、剥片1点(3.2g)が出土している。土器279は貝殻沈線文土器底部付近の破片である。

[帰属時期] 堆積土がⅥ層由来であること、出土土器が貝殻沈線文土器片であることから、縄文時代早期中葉と考えられる。(八木)

73号土坑 (第40図、写真図版46)

[位置・検出状況] 南区5E9グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 45土坑に切られる。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.68m・短軸1.22m・深さ0.91m

[埋土] 当初3層に細分した(A-A')が、その後再精査に伴い4層に細分した(B-B')。褐～暗褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69・197図、写真図版76・176) 土器片47点(373.1g)、石鏃2点、両極石器1点、台石1点、不定形石器1点、礫剥片27点(294.7g)が出土している。土器274は口縁部に刻み目、土器276は押し沈線文が施文され、土器277は貝殻沈線文の胴下半部片である。

[帰属時期] 45号土坑より古く、堆積土がⅥ層由来であることから、縄文時代早期中葉以降の可能性が考えられる。(八木)

74号土坑 (第41図、写真図版46)

[位置・検出状況] 南区6E16グリッドに位置する。Ⅶ層上面で検出した。包含層掘削中に壁の立ち上がりを確認した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸2.79m・短軸1.43m・深さ0.22m

[埋土] 空断面図による記録となっているが、埋土は暗褐色土主体の単層であった。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、東側にむかってやや下がる底面をもつ。壁は西側のみ底面より開口部にむけて開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] ごく浅く、遺物が出土していないため判別できない。(八木)

75号土坑 (第41図、写真図版46・47)

[位置・検出状況] 南区6E11グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 77号土坑を切る。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.48m・短軸1.32m・深さ0.78m

[埋土] 3層に細分した(第41図A-A' 1～3層)。黒褐～暗褐色土を主体とし堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけてやや直立気味に立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69・197図、写真図版76・176) 土器片5点(145.4g)、不定形石器1点、剥片2点・礫剥片3点(剥片合計106.3g)が出土している。

[帰属時期] 堆積土及び出土土器から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

76号土坑 (第41図、写真図版47)

[位置・検出状況] 南区6E8グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。平成28年度調査で掘削したT13トレンチと旧道により、遺構の大部分を消失している。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存部から推察するに、おおよそ円形であったと考えられる。

[規模] 残存部のみで長軸1.15m・短軸0.85m・深さ0.18m

[埋土] 黒褐色土主体の単層である。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし根拠乱等により底面は凹凸がやや目立つ。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第69図、写真図版76) 土器片1点(18.3g)が出土している。土器281は貝殻沈線文土器の胴部下半片か。

[帰属時期] 土器片は早期中葉だが、堆積土はⅣ・Ⅴ層由来の黒褐色土であることから、縄文時代前期前葉の可能性が考えられる。(八木)

77号土坑 (第41図、写真図版47)

[位置・検出状況] 南区6E12グリッドに位置する。重複関係にある75号土坑の精査中に高さの違う本遺構の床面を見つけ、再検出を行ったところⅥ層上面にて検出された。

[その他の遺構との重複] 75号土坑に切られる。

[平面形] 残存部から推察するに、おおよそ円形であったと考えられる。

[規模] 残存部のみで長軸0.94m・短軸0.36m・深さ0.55m

[埋土] 2層に細分した(第41図A-A' 4～5層)。黒褐色土が主体で堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 出土遺物がないが、75号土坑に切られているため縄文時代前期前葉かそれ以前と考えられる。(八木)

78号土坑 (第41図、写真図版47)

[位置・検出状況] 南区西向き斜面の3C5と4C1グリッドに位置する。検出時の標高は49.00m前後の基本層序Ⅵ～Ⅶ層まで、重機で掘り下げて、精査後検出した。この場所ではⅥ層とⅦ層の差が不明瞭である。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な正方形。深さは残存する最深部で約0.48mである。

[規模] おおよそ長軸1.70m・短軸1.60m・深さ0.48mで、長軸は北西-南東方向。参考として底面計測値を記載する。長軸約1.65m、短軸約1.35m。

[埋土] 4層からなる。検出面において、Ⅳ層ないしはⅤ層土主体でⅥ層土が混在した埋土1～4層の入り込みを面で検出した。断面で土層観察をするものとして、土の入り込みを遺構埋土と想定、南側を半載した。底面と壁面と想定できるものを検出し、81号土坑とした。堆積状況として埋土1～2層は基本層序Ⅳ～Ⅴ層主体土、3～5層はⅥ～Ⅶ層主体である。斜面に位置するため、掘り上げ土を主体とする土の流入という可能性が高い。規模が小型であったため、土坑としたが、住居で、土葺土の

流入といった可能性もある。掘り込み面は重機掘削がⅥ～Ⅶ層付近に及んでいたため、不明だが、土層断面の観察から、検出面より上位である。

[底面・壁] 底面はおおよそ平坦であるが、不整である。斜面下側縁に溝状のごく浅い掘り込みがある。壁面はおおよそ垂直に立ち上がるが、斜面上側は所々オーバーハングの形状である。四隅が明瞭に作り出されていて、不整な壁面と壁溝から、斜面下側を入口に持つ壁立の小型住居という可能性がある。

[出土遺物] (第69図、写真図版77) 埋土からは、縄文時代前期前葉と思われる土器の破片が確認できた。(大泰司)

土器片3点(53.5g)が出土している。(八木)

[帰属時期] 不明である。縄文時代のものとする。(大泰司)

79号土坑 (第41図、写真図版47)

[位置・検出状況] 南区6E12グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸2.71m・短軸1.47m・深さ0.28m

[埋土] 暗褐色土を主体とする単層である。

[底面・壁] Ⅶ層を底面とし、概ね平坦に調整されている。遺構が斜面地に立地しており、東側壁は斜面下方にあたるため立ち上がりは小さい。西側壁を観察するに、底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器片4点(82.4g)、剥片1点(33.4g)が出土している。土器284は貝殻沈線文、土器285は非結束羽状縄文施文である。

[帰属時期] 出土土器から考えられる時期は、縄文時代早期中葉～前期前葉である。(八木)

80号土坑 (第48図、写真図版58)

[位置・検出状況] 南区5F10グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸2.85m・短軸0.25m・深さ0.59m・軸N-1.8°-E

[埋土] 黒褐色土主体の単層である。斜面地に立地するため、上方からの流入土による短期的な埋没であったと考えられる。

[底面・壁] Ⅶ-Ⅷ層を底面とし、両端部がやや下がる底面をもつ。副穴等の施設はない。短軸断面形はU字形を呈し、長軸断面形は底面より開口部にむけて内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第71・201図、写真図版77・178) 土器片9点(89.2g)、石核1点、不定形石器2点、剥片2点・礫剥片2点(剥片合計78.04g)が出土している。土器335は口縁端部が平坦に調整された縄文施文である。

[帰属時期] 遺構の形態及び堆積土から縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

81号土坑 (第48図、写真図版58)

[位置・検出状況] 南区の東向き斜面、調査区4E14と4E15グリッドに位置する。標高は49.50m前後でⅤ～Ⅵ層にかけて重機によって掘り下げを行い、精査後検出した。断面はⅥ層上面で固化した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な長楕円形。

[規模] おおよそ長軸2.40m・短軸0.13m・深さ0.64mで、長軸はN-34°-W。検出面の規模は開口部の崩落範囲の値であるため、底面の計測値を示す。長軸2.62m・短軸0.10m。

[埋土] 2層からなる。検出面で、IV層ないしはV層土主体でVI層土が混在した埋土1層の入り込みを面検出した。土の入り込みを遺構埋土と想定、南東側を半載した。底面と壁面と想定できるものを検出し、土坑とした。土坑の下半分は十和田八戸テフラのある基本層序VI層を掘り込んでいた。堆積状況として埋土1層は基本層序IV～V層主体土、2層はVII層ブロックの崩落である。自然の埋没と考える。

掘り込み面は重機掘削がVI層付近に及んでいたため、不明だが、土層断面の観察から、検出面より上位である。

[底面・壁] 底面は中央が窪み端に向かってせり上がる。付属遺構は無かった。長軸両端断面形態はオーバーハングの形状である。類例から判断して溝状の陥し穴とされてきたものと判断した。

[出土遺物] 掲載無し。

[帰属時期] 早期中葉と思われる遺構埋土との対比から、縄文時代のもので前期以降と考える。(大泰司)

82号土坑 (第49図、写真図版58)

[位置・検出状況] 南区2C20・25グリッド、VII層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸3.4m・短軸0.9m・深さ1.7m 旧:N-85°-W 新:N-77°-W

[埋土] 11層に分層した。中位以下は黒色～黒褐色土とVIII層由来の褐色土が互層をなす。自然堆積と壁崩落土と考えられる。上位にはIV・V層由来層の自然堆積が認められる。

[底面・壁] 底面は複雑な形状を呈する。西側は底面に大きな段差があり、浅い段が西壁を大きく扶る。東壁底面は南北二股に分かれており、南側は浅く北側は深い。浅い南側の長軸方向を西に辿ると西壁底面の浅い段につながる。最初に浅く溝形陥し穴状遺構を構築した後、深く作り直している可能性が考えられる。

[出土遺物] (第71・201図、写真図版78・178) 土器片11点 (634.3g)、礫器1点、礫剥片4点 (37.5g) が出土している。

[帰属時期] 底面11層にII層由来層が堆積していることから、縄文時代中期～後期と考えられる。(八木)

83号土坑 (第41図、写真図版48)

[位置・検出状況] 南区5F9グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.58m・短軸1.39m・深さ0.41m

[埋土] 2層に細分した。暗褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VI層を底面とし、底面は立地する斜面に対し平行である。壁は斜面下方の東側は立ち上がり小さいものの、西側の壁を観察するに底面より開口部にかけてほぼ直立して立ち上がっているものと考えられる。(森)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代前期以降である。(八木)

84号土坑 (第42図、写真図版48)

[位置・検出状況] 南区5 E 22グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸2.40m・短軸0.91m・深さ0.30m

[埋土] 黒褐色土を主体とする単層である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅵ層を底面とし、底面は立地する斜面に対し平行である。壁は斜面下方の北東側は立ち上がりが小さいものの、南西側の壁を観察するに底面より開口部にむけて緩やかに開きながら立ち上がっているものと考えられる。(森)

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代前期以降である。(八木)

85号土坑 (第49図、写真図版58)

[位置・検出状況] 南区5 E 21グリッドに位置する。Ⅵ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸3.14m・短軸0.65m・深さ0.98m・軸N-38°-W

[埋土] 5層に細分した。黒褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] Ⅵ層を底面とし、両端部から中央にむかい底面が凹む。短軸断面形はY字形を呈し、長軸断面形は底面より開口部にむけて内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第71・201・202図、写真図版78・178) 土器片38点(667.9g)、石核1点、石斧1点、礫器1点、多面体敲石1点、不定形石器1点、剥片5点(118.1g)が出土している。土器339は非結束羽状縄文、土器341は縄文施文の尖底土器である。

[帰属時期] 遺構形状及び堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代中期～後期である。(八木)

86号土坑 (第48図、写真図版59)

[位置・検出状況] 南区3 C 13グリッド、Ⅶ層上面で確認した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.8m・短軸0.4m・深さ0.8m・軸N-51°-E

[埋土] 5層に分層した。底面にⅡ層、大部分をⅣ-V層由来層が占める。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平らである。壁は僅かにオーバーハングする。

[出土遺物] (第71・202図、写真図版78・178) 土器片5点(49.1g)、多面体敲石1点が出土している。

[帰属時期] 底面堆積土がⅡ層自然堆積層と考えると、縄文時代中期～後期の可能性がある。(八木)

87号土坑 (第49図、写真図版59)

[位置・検出状況] 南区3 C 17・21・22グリッド、Ⅶ層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸3.15m・短軸0.7m・深さ1m・軸N-62°-E

[埋土] 6層に分層した。底面にII層由来層が堆積し、4・5層は崩落土、上位はIV層由来層が認められる。

[底面・壁] 底面は中央が深く、両端がやや浅い。両端とも壁は大きくオーバーハングする。

[出土遺物] (第71・202図、写真図版78・178) 土器片7点(114.9g)、礫器1点、台石2点が出土している。

[帰属時期] 底面にII層由来の自然堆積が認められることから、縄文時代中期～後期の可能性がある。(八木)

88号土坑 (第42図、写真図版48)

[位置・検出状況] 南区3C13・14・18・19グリッド、VII層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.6m・短軸1.58m・深さ0.82m

[埋土] 8層に分層した。底面の黒褐色土、上位にIV-V層由来層が認められ、自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面は平滑に整えられている。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[出土遺物] (第198図、写真図版177) 石斧1点、礫器1点、剥片1点(18.6g)が出土している。

[帰属時期] IV-V層由来層が自然堆積していることから、縄文時代前期と考えられる。(八木)

89号土坑 (第50図、写真図版59)

[位置・検出状況] 南区3C20グリッド、VII層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.7m・短軸0.4m・深さ0.9m・軸N-62°-E

[埋土] 3層に分層した。3層はII層由来層、2層壁崩落土、1層IV層由来層が堆積している。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平らである。両壁は底面付近が大きくオーバーハングする。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 底面3層がII層由来の自然堆積と考えると、縄文時代中期～後期の可能性がある。(八木)

92号土坑 (第42図、写真図版48)

[位置・検出状況] 南区1C25グリッド、VI層底面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.35m・短軸1.1m・深さ0.3m

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。V層に類似する。

[底面・壁] 底面は平坦に調整されている。壁は外傾して立ち上がる。

[出土遺物] (第198図、写真図版177) 台石1点が出土している。

[帰属時期] V層が堆積しているため、縄文時代早期～前期の可能性が考えられる。(八木)

93号土坑 (第50図、写真図版59)

[位置・検出状況] 南区2 D 20グリッド、VI層下位で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形。

[規模] 長軸2.85m・短軸0.18m・深さ0.55m・軸N-35°-W

[埋土] 2層に分層した。底面にIV-V層由来の黒褐色土、大部分はII層由来1層である。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は北西端が大きくオーバーハングし、南東端はほぼ直立する。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] II層が堆積していることから、縄文時代中期～後期の可能性がある。(八木)

94号土坑 (第42図、写真図版49)

[位置・検出状況] 南区6 C 16グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸2.48m・短軸1.32m・深さ0.39m

[埋土] 2層に細分した。暗褐色土を主体とし、堆積状況から自然堆積であると考えられる。

[底面・壁] VII-VIII層を底面とし、概ね平坦に調整されている。南東側の壁は直立しながら、北西側の壁は緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器片3点(50.4g)、礫剥片1点(4g)が出土している。

[帰属時期] 堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代前期である。(八木)

95号土坑 (第42図、写真図版49)

[位置・検出状況] 南区2 D 6・11グリッド、VI層下位で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1m・短軸0.9m・深さ0.25m

[埋土] 黒褐色土単層を確認した。十和田南部テフラを含み、V層に由来すると考えられる。

[底面・壁] 底面は平坦に整えられている。壁は底面付近が若干広がり、フラスコ状を呈する。

[出土遺物] 縄文時代前期の特徴がある土器片が3点(27.1g)出土しているが、細片のため不掲載とした。

[帰属時期] 十和田南部テフラが堆積していることから、縄文時代早期～前期と考えられる。(八木)

96号土坑 (第42図、写真図版49)

[位置・検出状況] 南区1 D 15グリッド、VI層下位で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.5m・短軸1.2m・深さ0.4m

[埋土] 3層に分層した。III-IV層由来層の可能性がある。

[底面・壁] 底面は平坦に整えられている。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器片1点(18.7g)が出土している。

[帰属時期] III-IV層が堆積していることから、縄文時代前期以前に構築された可能性が考えられる。
(八木)

97号土坑 (第43図、写真図版49)

[位置・検出状況] 南区6E17グリッドに位置する。VI層上面で検出した。旧道により遺構の半分ほどを消失している。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 残存部から推定するに、楕円形を呈すると考えられる。

[規模] 残存部のみで長軸2.47m・短軸1.46m・深さ0.36m

[埋土] 暗褐色土が主体の単層である。根攪乱が多いため、埋土の堆積が自然か人為の判別が困難であった。

[底面・壁] VI層を底面とし、根攪乱により底面は凹凸が多い。壁は底面から開口部に向けて緩やかに開きながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第70・198図、写真図版77・177) 土器片5点(24.6g)、不定形石器2点、剥片5点(120.1g)が出土している。土器290は非結束羽状縄文施文である。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期前葉である。(八木)

98号土坑 (第43図、写真図版50)

[位置・検出状況] 北区北4C19グリッドに位置する。VI層上面で検出した。風倒木痕により遺構の一部を消失している。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 上面：長軸1.21m・短軸1.15m・深さ0.31m 床面：長軸1.35m・短軸1.26m

[埋土] 断面図上は5層に細分しているが、本遺構の埋土はその内の1～2層である。黒褐色土が主体で、堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、概ね平坦に調整されている。壁は底面より開口部に向けて内湾しながら立ち上がる。(森)

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器片5点(30.5g)が出土している。

[帰属時期] 土器片から考えられる帰属時期は縄文時代前期～中期である。(八木)

99号土坑 (第43図、写真図版50)

[位置・検出状況] 北区北4E10グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.01m・短軸0.98m・深さ0.15m

[埋土] 4層からなる。2層の暗褐色土を主体としており、1・3層は斜面上部からの流れ込み、4層は壁面崩落土と考えられる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面とし、概ね平坦である。壁は斜面上方である南西側は直立気味に立ち上がり、斜面下方の北東側は緩やかに外傾し立ち上がる。

[出土遺物] 掲載無し。剥片が底面から1点(5.1g)出土している。(戦場)

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

100号土坑 (第43図、写真図版50)

[位置・検出状況] 北区北5E11グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.37m・短軸1.34m・深さ0.30m

[埋土] 4層からなる。1層の黒褐色土が主体であり、1・2・4層は斜面上部からの流れ込みと考えられ、3層の褐色土は壁からの崩落土と考えられる。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VII層を底面としており、概ね平坦である。壁は南西側が直立気味に立ち上がり、北東側はやや緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 掲載無し。剥片が床面から1点(80.7g)出土している。(戦場)

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

101号土坑 (第43図、写真図版50)

[位置・検出状況] 北区北3D14グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸1.40m・短軸(1.03)m・深さ0.28m

[埋土] 黒色土・黒褐色土で構成される。

[底面・壁] 凹凸が認められる。緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 出土していない。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

102号土坑 (第43図、写真図版51)

[位置・検出状況] 北区北2D25グリッド内に位置する。V層下面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形円形。

[規模] 長軸1.05m・短軸1.03m・深さ0.16m

[埋土] 2層からなる。1層の黒褐色土が主体である。河道に近く攪乱を受けていると考えられる。

[底面・壁] VII層を底面としており、斜面上方の南西側から北東側へと緩やかに低くなる傾斜の後、概ね平坦となる面を確認した。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。(戦場)

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

103号土坑 (第43図、写真図版51)

[位置・検出状況] 北区北3D2グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形円形。

[規模] 長軸1.00m・短軸0.78m・深さ0.25m

[埋土] 黒色土・暗褐色土で構成される。

[底面・壁] ほほ平らに調整されている。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第198図、写真図版177) 底面近くから敲磨器類が1点出土している。

[帰属時期] 縄文時代～弥生時代と考えられる。(八木)

104号土坑 (第43図、写真図版51)

[位置・検出状況] 北区北4 D 7グリッド内に位置する。V層下面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形円形。

[規模] 長軸1.04m・短軸1.03m・深さ0.21m

[埋土] 2層からなる。2層の暗褐色土が主体である。2層には根による攪乱も見られる

[底面・壁] V層を底面とし、底面は概ね平坦な面から斜面上方側への緩やかな傾斜を確認した。壁面は北東側がやや直立気味に、南西側はやや緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] なし。(戦場)

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

105号土坑 (第43図、写真図版51)

[位置・検出状況] 北区北3 C 24グリッド付近に位置する。28号住居跡周辺精査時に検出した。

[その他の遺構との重複] 28号住居跡に近接する。

[平面形] 不整形円形。

[規模] 長軸1.07m・短軸1.07m・深さ0.62m

[埋土] 黒褐色土と褐色砂が互層をなす。

[底面・壁] 底面は凹凸が著しい。壁はオーバーハングしている。

[出土遺物] 出土していない。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

106号土坑 (第44図、写真図版52)

[位置・検出状況] 北区北7 D 24・25グリッドにかけて位置する。試掘トレンチで周囲には見られない十和田南部テフラの密集が見えたことから認知した。

[その他の遺構との重複] 認められない

[平面形] 不整形円形。

[規模] 長軸0.85m・短軸0.82m・深さ0.17m

[埋土] 1～3層が本遺構の埋土と考えられる。3層の黒褐色土が主体となり、2層の十和田南部テフラの密集は2次堆積と考えられる。堆積状況から自然堆積と判断でき、倒木の可能性もある。

[底面・壁] 底面は浅い皿状を呈し、壁面はやや直立気味に立ち上がる。

[出土遺物] なし。(戦場)

[帰属時期] 縄文時代と考えられるが、土坑ではなく倒木に伴うものの可能性もある。(八木)

107号土坑 (第44図、写真図版52)

[位置・検出状況] 北区北7 D 1グリッドに位置する。V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸0.73m・短軸0.72m・深さ0.27m

[埋土] 黒褐色土が堆積している。

[底面・壁] 底面は凹凸がある。壁傾斜上方は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 出土していない。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

108号土坑 (第50図、写真図版60)

[位置・検出状況] 北区北5E5グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 溝形を呈する。

[規模] 開口部長軸2.20m・短軸0.53m・深さ0.88m、底面長軸2.70m・短軸0.13m・軸N-20°-W

[埋土] 黒褐色土・暗褐色土と壁面崩落土と考えられる褐色土が互層を成している。

[底面・壁] 底面は、自然傾斜と併行している。長軸両端の壁はオーバーハングし立ち上がる。

[出土遺物] (第71図、写真図版78) 土器片3点(20.5g)が出土している。土器344は非結末羽状縄文施文である。

[帰属時期] 土器片は前期前葉の特徴をもつが、堆積土と遺構の形態から縄文時代中期～後期の可能性が考えられる。(八木)

109号土坑 (第44図、写真図版52)

[位置・検出状況] 北区北5E8グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形を呈する。

[規模] 長軸1.12m・短軸0.98m・深さ0.20m

[埋土] 黒褐色土が主体で、褐色土ブロックが混入する。

[底面・壁] やや凹凸が残る。壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] 掲載無し。土器細片(4.4g)、不定形石器2点、剥片1点(12.1g)が出土している。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

110号土坑 (第44図、写真図版52)

[位置・検出状況] 北区北5C7グリッドに位置する。IV層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形を呈する。

[規模] 長軸2.50m・短軸1.20m・深さ0.29m

[埋土] 黒色土を主体とする。

[底面・壁] 底面はやや平らで、壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第70・198・257図、写真図版77・177・207) 土器片145点(1484g)、両極石器1点、剥片27点・礫剥片21点(剥片合計1307.1g)、棒状土製品2点が出土している。土器292は5単位の波状口縁で、頸部に3条の沈線が施文されている。

[帰属時期] 出土土器から、弥生時代中期と考えられる。(八木)

111号土坑 (第44図、写真図版53)

[位置・検出状況] 北区北5C9グリッドに位置する。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸0.90m・短軸0.90m・深さ0.32m

[埋土] 黒褐色土が堆積している。

[底面・壁] 底面・壁は凹凸が残る。

[出土遺物] (第199図、写真図版177) 敲磨器類3点がまとまって出土している。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

112号土坑 (第44図、写真図版53)

[位置・検出状況] 北区北5C20グリッド内に位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸1.14m・短軸0.87m・深さ0.42m

[埋土] 2層からなる。2層の黒褐色土が主体であり、黄色粒が5%ほど混じる。2層とも斜面上部からの流れ込みと考えられ、自然堆積と考えられる。

[底面・壁] VI層を底面とする。底面は33×27.9cmとあまり大きくないが概ね平坦である。壁は開口部へ向けて直線気味に立ち上がる。

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 1層から土器片2点、2層から土器片1点、合計29.3g出土している。(戦場)

この他礫剥片1点(16g)が出土している。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

113号土坑 (第44図、写真図版53)

[位置・検出状況] 北区北5C22グリッド内に位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸1.16m・短軸0.93m・深さ0.59m

[埋土] 6層からなる。暗褐色土が主体であり、6層の暗褐色土は壁の崩落土と考えられる。レンズ状の堆積状況からみて自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面の範囲は小さいが概ね平坦である。壁の南西側はやや緩やかな弧を描きながら立ち上がり、北東側は直線気味の急な立ち上がりを示す。(戦場)

[出土遺物] (第70・199図、写真図版77・177) 土器片6点(40.6g)、石斧1点、剥片1点(13.5g)が出土している。

[帰属時期] 土器片から弥生時代前期と考えられる。(八木)

114号土坑 (第45図、写真図版53)

[位置・検出状況] 北区北6C17グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸0.98m・短軸0.92m・深さ0.22m

[埋土] 黒褐色土・暗褐色土で構成される。

[底面・壁] 底面・壁には凹凸が残る。

[出土遺物] 土器片1点(131g)が出土しているが、細片のため掲載とした。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

115号土坑(第45図、写真図版54)

[位置・検出状況] 北区北4C25グリッドに位置する。V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形円形を呈する。

[規模] 長軸1.06m・短軸0.90m・深さ0.87m

[埋土] 底面に褐色土が堆積し、大部分は暗褐色土・黒褐色土で構成される。

[底面・壁] 底面・壁ともに凹凸がある。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

116号土坑(第45図、写真図版54)

[位置・検出状況] 北区北5C17グリッドに位置する。V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 方形を呈する。

[規模] 長軸(2.10)m・短軸(1.52)m・深さ0.25m

[埋土] 黒色土単層である。

[底面・壁] 底面はやや平らで、壁は緩やかに立ち上がる。

[出土遺物] (第70・199図、写真図版77・177)土器片28点(257.1g)、不定形石器2点が出土している。

[帰属時期] 堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代後期～弥生時代である。(八木)

118号土坑(第50図、写真図版60)

[位置・検出状況] 北区北5C19グリッド内に位置している。Ⅲ層除去中に遺物の集中している地点だったため、トレンチによる確認をしたところⅣ層面で本遺構を検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 長楕円形。

[規模] 長軸2.65m・短軸0.84m・深さ1.24m・軸N-54°-W

[埋土] 6層からなる。黒褐色土が主体である。レンズ状の堆積様相を示し、最下層の6層は明黄褐色で壁面崩落土であると考えられる。

[底面・壁] Ⅳ層を底面とし、西側はオーバーハングしている。概ね平坦な底面であるが東端部の底面で17cm程高くなる。短軸断面は南東側が底面から73cmまで直立気味に立ち上がり、開口部へ向けて直線気味に広がる。北西側は底面から20cm程直立気味に立ち上がった後、開口部へ向けて外傾気味に立ち上がる。(戦場)

[出土遺物] (第71図、写真図版78)土器片が5点(88.1g)出土している。

[帰属時期] 遺構堆積土から考えられる帰属時期は、縄文時代中期～後期である。(八木)

119号土坑(第45図、写真図版54)

[位置・検出状況] 北区北6C1グリッドに位置する。V層中で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な楕円形を呈する。

[規模] 長軸1.42m・短軸1.8m・深さ0.43m

[埋土] 暗褐色土・黒褐色土で構成される。

[底面・壁] 底面・壁には凹凸がある。

[出土遺物] (第70・199図、写真図版77・177) 土器片1点(15.2g)が出土している。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

120号土坑 (第45図、写真図版54)

[位置・検出状況] 北区北4C19グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整円形を呈する。

[規模] 長軸0.72m・短軸0.67m・深さ0.17m

[埋土] 黒褐色土単層で構成される。

[底面・壁] 底面・壁にかけてすり鉢状を呈する。

[出土遺物] 土器片1点(7.1g)が出土しているが、細片のため不掲載とした。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

121号土坑 (第45図、写真図版55)

[位置・検出状況] 北区北4C23グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸0.83m・短軸0.76m・深さ0.06m

[埋土] 黒褐色土単層で構成される。

[底面・壁] 底面はほぼ平らに調整されている。

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器がまとまって出土している。土器片38点(355.3g)、剥片1点(1.5g)が出土している。土器314～316は無文の粗製深鉢口縁部である。

[帰属時期] 縄文時代晩期～弥生時代と考えられる。(八木)

122号土坑 (第45図、写真図版55)

[位置・検出状況] 北区北3C14グリッドに位置する。VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整楕円形。

[規模] 長軸1.90m・短軸1.20m・深さ0.48m

[埋土] 黒色土・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

[底面・壁] 底面・壁とも凹凸が著しい。

[出土遺物] (第70図、写真図版77) 土器片25点(94.2g)が出土している。

[帰属時期] 縄文時代晩期と考えられる。(八木)

(3) 埋設土器

埋設土器は5基検出した。2・3号埋設土器は南区、4～6号埋設土器は北区に位置する。なお、1号埋設土器は重機による表土掘削直下で検出して精査を進めたが、素材が素焼きではなく須恵器質

あるいは重層的に剥落する岩石質に見えていた。岩石の可能性から、花崗岩研究会に分析していただき、種市層砂岩と判断された。そのため1号埋設土器は欠番として扱った。

2号埋設土器（第51図、写真図版60）

[位置・検出状況] 南区8 F 22グリッドに位置する。重機で表土を掘削した後、V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[規模] 直径28cm・深さ15cm掘り下げ、土器を埋設している。

[埋土] 掘り方はV層を主体とし、埋設土器内の堆積土はIV層を主体としている。

[出土遺物]（第71図、写真図版78）土器2点（2237.9g）、剥片7点・礫剥片3点（剥片合計145.3g）が出土している。土器349が埋設されていた土器である。

[帰属時期] 前期後葉と考えられる。（八木）

3号埋設土器（第51図、写真図版60）

[位置・検出状況] 南区4 D 4グリッドに位置する。V層で検出したが、実際はIV層上面から残存していたと考えられる。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[規模] 直径68cm・深さ34cmに掘り下げ、直径16cm・高さ38cmの土器を埋設している。

[埋土] 掘り方は黒褐色土を主体とする。（基本層序IV層相当?）

[出土遺物]（第72図、写真図版79）掘り方は口縁が埋まっている部分が一段浅くくぼんでいる。

（佐々木隆）

[帰属時期] 土器の年代から、縄文時代中期中葉と考えられる。（八木）

3号埋設土器の内部状況について

[土器内部の状況と埋土] 土器は完形で検出できた。しかし埋設時に亀裂が入っており、それを利用して、取り上げ後に土器内部の観察を行った。倒立したまま室内に運び込み、底部側正面から破片を外していった。その為、底部側を上として記載する。上半分は空洞であった。下半分に土が堆積していた。堆積土上面はおおよそ平坦で、表面には赤色塗膜が載っていた。土器の内側半分、胴下半内側から底面にかけて赤彩が施されていた。その塗膜が剥落したものである。土器内部下半の埋土は黒味を帯びた砂質土が詰まっており、断ち割ると、その中央には、IV層主体の黒褐色土にVI～VII層を思わせる黄褐色土ブロックが大粒径で混ざっていた。しまりがあり、埋め戻しを思わせる状況だった。調査時に埋土は赤塗部分に及んでいる印象であったが、埋土を取り出して計測したところ及んでいなかった。埋設後、塗が一部剥落した状況である。3号埋設土器の掘り方はIV層主体土であり、砂質土ではない。別の場所で壺下半分を赤塗し、砂質土を中に半分ほど入れ、その中央にこの近隣に埋めていた有機物何かを埋め込み、そっと土坑中央に伏せたとすると、このような堆積状況を呈すると考えた。（大泰司）

4号埋設土器（第51図、写真図版61）

[位置・検出状況] 北区北側にあたる北区③の4 D 4と4 D 5グリッドに位置する。吹切沢あるいはその支流の氾濫原への平坦面に位置する。標高34.20m前後のV～VI層で検出した。北区③は平成29年の設定区であり、北区全面調査前の便宜である。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[規模] 掘り方はいびつな楕円形で、およそ長軸35cm・短軸30cm・深さ11cmで長軸は北西-南東方向。埋設土器は検出時、深鉢胴部下半分が残存部分し、埋設時の参考計測値はおおよそ直径25cm・残存高10cm。

[埋土] 土器が輪切りになったような状況を検出した。精査したところIV～V層土主体土の入り込みに土器が埋め込まれていた。土器内部の埋土には焼土が中～大粒径で10%混じっていた。何か焼いたものを取めた可能性がある。土坑床面付近では、マンガンや褐鉄鉱が、それぞれ中粒径で2%ほど混在する。これは周辺の土の成分が水分の作用で沈着したものと考える。構築面は、基本層序V～VI層、検出面とはほぼ同一という可能性がある。この周辺でIV層が発達していないのは、沢地形状況蓋原であったため流路による削平が頻繁にあったためと考える。場所によっては十和田南部テフラが単層として堆積する。4号埋設土器検出位置では、遺構すぐ北側の基本層序で確認できたが、当遺構の検出位置では十和田南部テフラ層も確認できなかった。流路による自然の削平によるものとする。[出土遺物・帰属時期] (第71図、写真図版78) 埋設された土器に円筒上層d式的破片、縄文地紋に粘土紐貼付を持つ土器が伴っていた。同一個体であれば、縄文時代中期中葉のものとする。(大泰司)

5号埋設土器 (第51図、写真図版61)

[位置・検出状況] 北区北5E10グリッドに位置する。重機で表土掘削した後、VI層上面で検出した。
[その他の遺構との重複] 認められない。
[規模] 直径48cm・深さ30cmに掘り下げ、高さ12cm・底径8.4cmの土器を埋設している。
[埋土] 掘り方はIV・V層を主体とし、埋設土器内の堆積土はII層を主体としている。
[出土遺物] (第72図、写真図版78) 土器1点(632.7g)である。内部に白色堆積物を確認した。内容物の詳細は科学分析にて示す。
[帰属時期] 土器底面がやや上げ底状になっていて、縄文時代後期～晩期の可能性が考えられる。(八木)

6号埋設土器 (第51図、写真図版61)

[位置・検出状況] 北区北4D14グリッドに位置する。
[その他の遺構との重複] 認められない。
[規模] 直径38cm・深さ14cmに掘り下げ、高さ24.2cm・口径18.7cmの土器を埋設している。
[埋土] V層を掘り込み、軽石を含まない黒色土が堆積している。
[出土遺物] (第72図、写真図版78) 土器1点(1155.5g)(355)が斜位で出土している。
[帰属時期] 土器の年代から、縄文時代前期前半と考えられる。(八木)

(4) 焼土遺構

焼土遺構は20基検出した。全て南区で検出しており、住居跡周辺が多い。縄文時代早期～前期の住居跡は炉を伴わない遺構が多く、被熱が浅いものも含めて精査した。

1号焼土遺構 (第52図、写真図版61)

[位置・検出状況] 南区9G7グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。
[その他の遺構との重複] 認められない。
[平面形] 不整形の被熱範囲と、炭化物が散らばる不整形の範囲がある。
[規模] 長軸63cm・短軸46cm・厚さ8cm
[出土遺物] なし。
[帰属時期] 検出面から縄文時代早期中葉以降と考えられる。(八木)

2号焼土遺構 (第52図、写真図版62)

[位置・検出状況] 南区9G2グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形。

[規模] 長軸18cm・短軸18cm・厚さ5cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉以降と考えられる。(八木)

3号焼土遺構 (第52図、写真図版62)

[位置・検出状況] 南区9G3グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形。

[規模] 長軸38cm・短軸26cm・厚さ8cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉以降と考えられる。(八木)

4号焼土遺構 (第52図、写真図版62)

[位置・検出状況] 南区9G16グリッド、VI層上位のIII層基底面。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不明(推定:円形)。

[規模] 長軸28cm・短軸26cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 縄文時代早期中頃以降、前期前半ごろまでの期間の中。(趙)

6号焼土遺構 (第52図、写真図版62)

[位置・検出状況] 南区8G4グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形。

[規模] 長軸38cm・短軸26cm・厚さ2cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 縄文時代と考えられる。(八木)

7号焼土遺構 (第52図、写真図版62・63)

[位置・検出状況] 南区の平坦面、6C20グリッドに位置する。現代において、植林等の作業用道路を掘削した部分の、北側切通に酸化した鉄分を含んだ土の土層断面が見えていた。標高は54.35m前後で、IV層下位からV層にかけて焼成面があった。そこを検出面とした。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な楕円形。

[規模] おおよそ長軸30cm・短軸28cm・厚さ10cm、長軸は北東-南西方向

[出土遺物・帰属時期] 掲載無し。検出面から縄文時代早期～前期住居の炉跡を想定したが、周囲の包含層を確認しながら掘り下げたが、古い風倒木等の窪みの中の焼土と判断した。窪みにたまった水

分に含まれる酸化した鉄分が沈着した可能性もあったが、焼土として記録するものとした。焼成面は不明瞭だった。焼土そのものの出土状況は無かったが、周辺の包含層遺物出土状況のみから判断するならば、縄文時代早期貝殻尖底土器の頃あるいは、前期前葉、縄文尖底土器の頃という可能性がある。層位的には、前期の可能性が高い。(大泰司)

8号焼土遺構 (第52図、写真図版63)

[位置・検出状況] 南区9 G 7グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形楕円形。

[規模] 長軸67cm・短軸44cm・厚さ10cm

[出土遺物] 剥片3点(6g)が出土している。

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉以降と考えられる。(八木)

9号焼土遺構 (第53図、写真図版63)

[位置・検出状況] 南区8 E 21グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形。

[規模] 長軸53cm・短軸16cm・厚さ7cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉以降と考えられる。(八木)

10号焼土遺構 (第53図、写真図版63)

[位置・検出状況] 南区の平坦面、6 D 4グリッドに位置する。標高は54.15m前後で、IV層下位からV層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整形楕円形。

[規模] おおよそ長軸47cm・短軸37cm・厚さ10cm、長軸は南東-北西方向

[出土遺物・帰属時期] IV層土主体土の入り込みを検出した。中央に焼土様の鉄分が酸化したものを検出した。その酸化した鉄分を含む土を中央に、土層観察用土手を十文字に設定して掘り下げたところ、自然の窪みであった。そこにたまった水分中の鉄分が沈着した可能性もあったが記録するものとし、自然の窪みの中央に焼土があると判断した。焼成面は不明瞭だったが、検出面とほぼ同一と考えられる。周辺の包含層遺物出土状況のみから判断するならば、縄文時代早期貝殻尖底土器の頃あるいは、前期前葉、縄文尖底土器の頃という可能性がある。層位的には、前期の可能性が高い。(大泰司)

11号焼土遺構 (第53図、写真図版63・64)

[位置・検出状況] 南区の平坦面、6 C 20グリッドに位置する。標高は54.40m前後で、IV層下位からV層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 12号住居埋土中にあり、この住居より新しい。

[平面形] 不整形楕円形。

[規模] おおよそ長軸40cm・短軸29cm・厚さ8cm、長軸は東-西方向

[出土遺物・帰属時期] IV層土主体土の入り込みを検出した。その中央に焼土様の鉄分が酸化したも

のを検出したため、平面形に対して、土層観察土手を十文字に設定し、掘り下げたところ、遺構埋土と判断した。12号住居埋土上位に焼土があるものとして記録した。廃絶後の堅穴住居窪みにたまった水分中の鉄分が沈着した可能性もあったが記録するものとした。焼成面は不明瞭だったが、検出面とほぼ同一と考える。周辺の包含層遺物出土状況から縄文時代前期前葉、縄文尖底土器の頃という可能性がある。(大泰司)

12号焼土遺構 (第53図、写真図版64)

[位置・検出状況] 南区の平坦面、6 C 25グリッドに位置する。標高は54.30m前後で、IV層下位からV層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な楕円形。

[規模] おおよそ長軸52cm・短軸33cm・厚さ6cm、長軸は東-西方向

[出土遺物・帰属時期] IV層土主体土の入り込みを検出した。中央に焼土様の鉄分が酸化したものを検出した。人為的な掘り込みの可能性があったため、土層観察用土手を平面形長軸に設定して掘り下げたところ、自然の窪みであった。その中の焼土とした。窪みにたまった水分中の鉄分が沈着した可能性もあったが記録した。焼成面は不明瞭だったが、検出面とほぼ同一と考える。周辺の包含層遺物出土状況のみから判断するならば、縄文時代早期貝殻尖底土器の頃あるいは、前期前葉、縄文尖底土器の頃という可能性がある。層位的には、前期の可能性が高い。(大泰司)

13号焼土遺構 (第53図、写真図版64)

[位置・検出状況] 南区7 E 1グリッド、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整弧形。円形の焼土が2つ重なった可能性がある。

[規模] 長軸55cm・短軸39cm・厚さ3cm

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

14号焼土遺構 (第53図、写真図版64)

[位置・検出状況] 南区4 D 3グリッドに位置する。V層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] トレンチと木根で壊されていたため、全体の形状は不明だが残存する範囲では不整形と考えられる。

[規模] 長軸48.1cm・短軸20.3cm・厚さ5cm

[出土遺物] なし。トレンチと根側の方に土器が数片散らばる。(佐々木隆)

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期後半～前期前葉と考えられる。(八木)

15号焼土遺構 (第53図、写真図版64・65)

[位置・検出状況] 南区の平坦面、6 C 11と6 C 16グリッドにかけて位置する。標高は54.00m前後で、IV層下位からV層にかけて検出した。

[その他の遺構との重複] 認められない。

[平面形] 不整な楕円形。

[規模] おおよそ四か所の酸化した鉄分のまとまりをひとつの焼土とした。分布範囲は、長軸85cm・短軸は残存部分30cmで、もとは40cmほどか・厚さ5cm、長軸は東-西方向

[出土遺物・帰属時期] IV層土主体土の入り込みを検出した。中央に焼土様の鉄分が酸化したものを検出した。人為的な掘り込みの可能性があったため、土層観察用土手を平面形長軸に設定して掘り下げたところ、自然の窪みであった。その中の焼土とした。窪みにたまった水分中の鉄分が沈着した可能性もあったが記録した。焼成面は不明瞭だったが、検出面とはほぼ同一と考える。周辺の包含層遺物出土状況のみから判断するならば、縄文時代早期貝殻尖底土器の頃あるいは、前期前葉、縄文尖底土器の頃という可能性がある。層位的には、前期の可能性が高い。(大泰司)

剥片1点(15.8g)が出土している。(八木)

16号焼土遺構 (第53図、写真図版65)

[位置・検出状況] 南区5 D 15グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複関係] 認められない。

[平面形] 円形。

[規模] 長軸15.8cm・短軸12.5cm・厚さ5.0cm

[出土遺物] なし。(森)

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

17号焼土遺構 (第54図、写真図版65)

[位置・検出状況] 南区6 D 21グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複関係] 67号土坑に切られる。

[平面形] 残存部から推定するに、円形を呈すると思われる。

[規模] 長軸54.0cm・短軸49.2cm・厚さ2.0cm

[出土遺物] なし。(森)

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

18号焼土遺構 (第54図、写真図版65)

[位置・検出状況] 南区6 D 21グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。

[その他の遺構との重複関係] 認められない。

[平面形] 不整円形。

[規模] 長軸31.6cm・短軸26.6cm・厚さ6.0cm

[出土遺物] なし。(森)

[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

19号焼土遺構 (第54図、写真図版65)

[位置・検出状況] 南区6 C 11グリッドに位置する。15号焼土精査後にV層土を掘削していたところ、その直下から検出された。

[その他の遺構との重複関係] 認められない。

[平面形] 楕円形。

[規模] 長軸13.4cm・5.4cm・厚さ2.0cm

[出土遺物] なし。(森)

15号焼土と同一地点での検出であるため、一連の焼土である可能性が考えられる。
[帰属時期] 縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

20号焼土遺構 (第54図、写真図版66)

[位置・検出状況] 南区6 C 13グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。
[その他の遺構との重複関係] 認められない。
[平面形] 楕円形。
[規模] 長軸28.4cm・短軸19.8cm・厚さ9.0cm
[出土遺物] なし。(森)
[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

21号焼土遺構 (第54図、写真図版66)

[位置・検出状況] 南区5 C 22グリッドに位置する。表土を重機で掘削した後、VI層上面で検出した。
[その他の遺構との重複関係] 認められない。
[平面形] 不整形。
[規模] 長軸26.9cm・短軸11.1cm・厚さ3.0cm
[出土遺物] なし。(森)
[帰属時期] 検出面から、縄文時代早期中葉～前期前葉と考えられる。(八木)

(5) 配石遺構

1号配石遺構 (第55図、写真図版66)

[位置・検出状況] 南区8 G 13グリッド、VI層下位で検出した。
[その他の遺構との重複] 認められない。
[規模] 直径26cmの掘り込みが認められる。棒状礫の大きさは、長さ26cm・幅9cmである。
[埋土] VII層を掘り込み、暗褐色土が堆積している。
[出土遺物] なし。棒状礫の石材は砂岩(中生代、北上山地)である。
[帰属時期] 表土直下で検出したため、正確な時期は判断しかねる。(八木)

2号配石遺構 (第55図、写真図版66)

[位置・検出状況] 南区7 F 20グリッド付近の表土直下Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。
[その他の遺構との重複] 認められない。
[規模] 約10mに渡って大形礫が点在している。
[出土遺物] なし。
[帰属時期] 検出面から考えられる帰属時期は縄文時代である。(八木)

(6) 炭 窯

1号炭窯 (第56図、写真図版66)

[位置・検出状況] 南区北2 C 10グリッドに位置する。表土掘削以前から焼土が露出していることを確認した。
[その他の遺構との重複関係] 認められない。
[平面形] 卵形。

〔規模〕 長軸3.7m・短軸2.2m・深さ0.8m

〔埋土〕 13層に焼成された炭が残り、赤褐色砂、暗褐色土が堆積している。

〔壁・底面〕 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は80cmである。底面はほぼ平坦で、非常に硬く締まっている。

〔焚口・排煙口・煙道〕 焚口は斜面下方西側、煙道は斜面上位平坦面側に設置されている。焚口には焼土が形成されている。煙道は下部に煉瓦が配置されている。

〔出土遺物〕 (第166図、写真図版210) 煙道下部南側の煉瓦1点(2713)、土管2点(2711・2712)を掲載した。その他、番線・市販のかき氷の器が出土している。土管2712は1層・3層下位から、2711は2C13・15グリッドに散在していたものである。土管2711は煙突として使用されていたものと考えられる。

〔帰属時期〕 戦後まで使用されていたものと考えられる。(八木)

1号土取り穴(第56図、写真図版66)

〔位置・検出状況〕 南区2C7・8グリッドに位置する。

〔その他の遺構との重複関係〕 22号住居跡の西側が欠失しているのは、1号土取り穴の上部が東側に広がっていた可能性もある。砂質土であるため、東側の範囲は明確ではない。

〔平面形〕 南区北西斜面地の傾斜に平行して横方向に広がっている。

〔規模〕 南北8.35m、東西1.1m、深さ1.14m。西側は傾斜下方で欠失している。

〔出土遺物〕 なし。

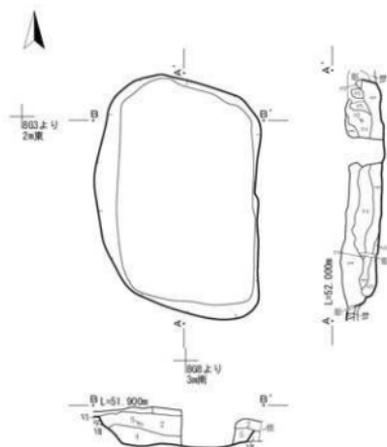
〔帰属時期〕 炭窯構築に際し、近くから土を採取することは洋野町内では多く認められている。1号炭窯と同時期と考えられる。(八木)

第2表 検出遺構一覧

遺構名	時期	遺構名	種別	時期
1号住居跡	早期中葉	1号土坑	土坑	早期後半～前期前半
2号住居跡	前期前半	2号土坑	土坑	前期前半～中頃
3号住居跡	前期初頃	3号土坑	土坑	前期前半～中頃
4号住居跡	前期初頃	4号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
5号住居跡	前期初頃	5号土坑	土坑	前期前半
6号住居跡	前期初頃	6号土坑	土坑	前期前葉
6a号住居跡	前期初頃	7号土坑	円形陥し穴? (副穴あり)	前期前葉
7号住居跡	中期	8号土坑	欠	—
8号住居跡	早期中葉	9号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
9号住居跡	早期後葉	10号土坑	土坑	前期前半
10号住居跡	前期初頃	11号土坑	欠	—
11号住居跡	早期中葉～前期初頃	12号土坑	土坑	前期前半
12号住居跡	前期前葉	13号土坑	貯蔵穴?	前期後半以降
13号住居跡	中期中葉	14号土坑	欠	—
14号住居跡	早期中葉	15号土坑	欠	—
15号住居跡	早期中葉～前期初頃	16号土坑	欠	—
16号住居跡	早期中葉～前期初頃	17号土坑	土坑	前期前半
17号住居跡	早期中葉	18号土坑	円形陥し穴? (副穴あり)	前期中頃
18号住居跡	中期	19号土坑	土坑	前期初頃
19号住居跡	早期中葉～後葉	20号土坑	土坑	前期前半
20号住居跡	早期中葉	21号土坑	土坑	前期初頃～中頃
21号住居跡	早期中葉	22号土坑	土坑	前期前葉
22号住居跡	中期中葉～後葉	23号土坑	フラスコ	前期中葉
23号住居跡	早期中葉	24号土坑	土坑	前期前葉
24号住居跡	前期前葉	25号土坑	土坑	早期～前期初頃
25号住居跡	後期初頃	26号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
26号住居跡	中期中葉	27号土坑	円形陥し穴?	前期前半
27号住居跡	晩期後葉	28号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
28号住居跡	中期～	29号土坑	土坑	早期～前期初頃
29号住居跡	後期中葉	30号土坑	土坑	前期前葉
30号住居跡	後期後葉	31号土坑	楕円形	早期
31号住居跡	後期中葉	32号土坑	楕円形	早期中葉
32号住居跡	後生時代後期	33号土坑	フラスコ	前期
		34号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
		35号土坑	円形陥し穴?	早期後半～前期前半
		36号土坑	フラスコ	早期後半～前期前半
		37号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期初頃
		38号土坑	円形陥し穴	前期初頃
		39号土坑	円形陥し穴	前期前葉
		40号土坑	円形陥し穴?	前期前葉
		41号土坑	フラスコ	前期後葉
		42号土坑	土坑	早期中葉
		43号土坑	フラスコ	中期～
		44号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期前葉
		45号土坑	円形陥し穴	前期前葉
		46号土坑	土坑	前期前葉
		47号土坑	土坑	前期前葉以前
		48号土坑	土坑	前期前葉以前
		49号土坑	土坑	前期前葉
		50号土坑	円形陥し穴?	早期中葉～前期前葉
		51号土坑	楕円形	前期前葉
		52号土坑	円形陥し穴	早期中葉～前期前葉
		53号土坑	土坑	中期中葉
		54号土坑	円形陥し穴	前期前葉
		55号土坑	フラスコ	前期後半
		56号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
		57号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期前葉
		58号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期前葉以前
		59号土坑	溝形陥し穴	前期以降
		60号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期前葉以前
		61号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
		62号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
		63号土坑	溝形陥し穴	中期～後期
		64号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	前期前半
		65号土坑	円形陥し穴 (副穴あり)	早期中葉～前期前葉

遺構名	種別	時期	遺構名	時期
66号土坑	穴	—	1号埋設土器	穴
67号土坑	銅木直	早期後葉～前期前葉	2号埋設土器	前期後葉
68号土坑	フラスコ	前期～中期	3号埋設土器	中期前葉
69号土坑	橋円形,浅い	不明	4号埋設土器	中期前葉
70号土坑	土坑	前期前葉	5号埋設土器	後期～晩期
71号土坑	フラスコ	中期以降	6号埋設土器	前期
72号土坑	土坑	早期前葉	1号焼土	早期前葉以降
73号土坑	円形陥し穴(副穴あり)	早期前葉以降	2号焼土	早期前葉以降
74号土坑	橋円形,浅い	不明	3号焼土	早期前葉～前期前葉
75号土坑	円形陥し穴(副穴あり)	前期前葉	4号焼土	早期前葉～前期前葉
76号土坑	橋円形,浅い	前期前葉	5号焼土	穴
77号土坑	土坑	前期前葉	6号焼土	縄文時代
78号土坑	土坑,住居か	縄文時代	7号焼土	早期～前期前葉
79号土坑	橋円形,浅い	早期前葉～前期前葉	8号焼土	早期前葉以降
80号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	9号焼土	早期前葉以降
81号土坑	溝形陥し穴	前期以降	10号焼土	前期
82号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	11号焼土	前期前葉
83号土坑	土坑	前期以降	12号焼土	早期前葉～前期前葉
84号土坑	橋円形,浅い	前期以降	13号焼土	早期前葉～前期前葉
85号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	14号焼土	早期前葉～前期前葉
86号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	15号焼土	早期前葉～前期前葉
87号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	16号焼土	早期前葉～前期前葉
88号土坑	円形陥し穴	前期	17号焼土	早期前葉～前期前葉
89号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	18号焼土	早期前葉～前期前葉
90号土坑	穴	—	19号焼土	早期前葉～前期前葉
91号土坑	穴	—	20号焼土	早期前葉～前期前葉
92号土坑	円形陥し穴?	早期～前期	21号焼土	早期前葉～前期前葉
93号土坑	溝形陥し穴	中期～後期	1号配石	縄文時代?
94号土坑	橋円形,浅い	前期	2号配石	縄文時代
95号土坑	円形陥し穴?	早期～前期	1号炭室/土取り穴	現代
96号土坑	円形陥し穴?	前期以前		
97号土坑	橋円形,浅い	前期前葉		
98号土坑	フラスコ	前期～中期		
99号土坑	土坑	縄文時代		
100号土坑	土坑	縄文時代		
101号土坑	土坑	縄文時代		
102号土坑	土坑	縄文時代		
103号土坑	土坑	縄文時代～弥生時代		
104号土坑	土坑	縄文時代		
105号土坑	フラスコ	縄文時代		
106号土坑	銅木?	縄文時代?		
107号土坑	土坑	縄文時代		
108号土坑	溝形陥し穴	中期～後期		
109号土坑	土坑	縄文時代		
110号土坑	住居状?	弥生時代中期		
111号土坑	土坑	縄文時代		
112号土坑	土坑	縄文時代		
113号土坑	土坑	弥生時代前期		
114号土坑	土坑	縄文時代		
115号土坑	土坑	縄文時代		
116号土坑	住居状?	縄文時代後期～弥生時代		
117号土坑	穴	—		
118号土坑	溝形陥し穴	中期～後期		
119号土坑	土坑	縄文時代		
120号土坑	土坑	縄文時代		
121号土坑	土坑	晩期～弥生時代		
122号土坑	土坑	晩期		

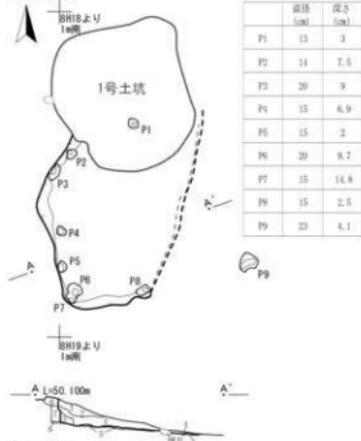
1号住居跡



1号住居跡

- 1 101K3-2黒褐色 シルト 粘性土や弱 しまり層 T=Caブロック状に含む
 2 101K3-2黒褐色 シルト 粘性土や弱 しまり層 褐色軽石(径2mm) 20%含む (V層由来)
 3 101K4-4褐色 シルト 粘性土 しまり層 褐色軽石(径2mm) 20%含む (V層由来)
 4 101K3-2黒褐色 シルト 粘性土 しまり層 褐色軽石(径2mm) 20%含む (V層由来)
 5 101K3-2土色・黄褐色 シルト 粘性土 しまり層 (V層由来)
 VI 101K3-4赤褐色 シルト 粘性土 しまり層 白色軽石(径2mm) 少量含む
 VII 101K5-6黄褐色 シルト 粘性土 しまり層 To-II

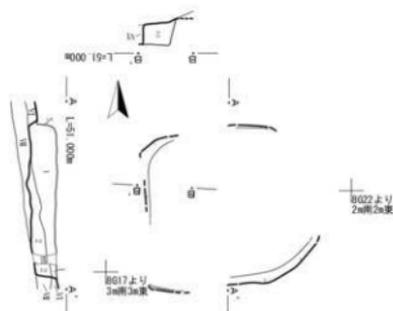
2号住居跡



2号住居跡

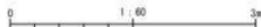
- 1 101K2-2 黒褐色IV・V層由来の黒ボタ、偽縁状じる土色IV層由来の偽縁
 2 101K2-2 黒褐色1層と同じ、土色はV層由来の偽縁
 3 軽石の赤褐色黒ボタ2次堆積、由来層未詳
 4 101K2-1 黒色V層由来の軽石質黒ボタ、偽縁状じる
 5 V層由来主体軽石質黒ボタ偽縁状土、VI層偽縁状じる
 6 101K5-6 黄褐色シルト質ローム、軽石含む：VIa層
 7 101K5-6 黄褐色ローム：VIb層
 8 褐色軽石質ローム：VII層

3号住居跡



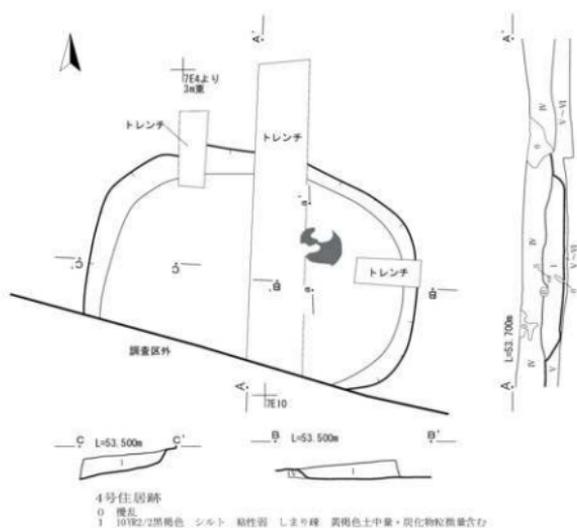
3号住居跡

- 1 101K2-2黒褐色 シルト 粘性土 しまり層
 白色軽石(径1mm) 10%含む (V層由来)
 2 101K2-3黒褐色 シルト 粘性土 しまり層
 白色軽石(径1mm) 20%含む (V層由来)



第14図 1～3号住居跡

4号住居跡



4号住居跡炉

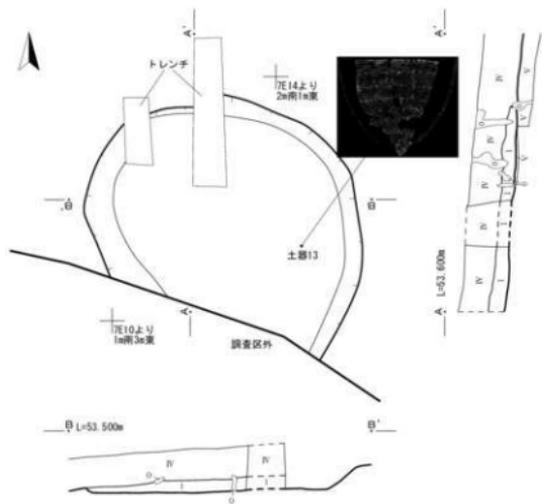


10号住居跡



第15図 4・10号住居跡

5号住居跡



5号住居跡

- 0 礎石
1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 粗粒多量・黄褐色土粒中量・炭化物粒散在含む

6号住居跡



6号住居跡

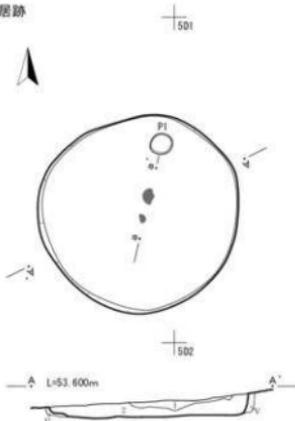
- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり密
粒石 (径1~2mm) 10%含む (V層由来)
2 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
粒石 (径2~5mm) 5%含む (VI層由来)
3 10YR4/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
粒石 (径2~5mm) 5%含む
4 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎
粒石 (径1~3mm) 20%含む (V層由来)
5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎 (VI層由来)
6 10YR4/4褐色 シルト 粘性強 しまり中
10YR3/4暗褐色シルトが底状をなす
7 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり密
粒石 (径1~5mm) 10%含む (V層由来)
8 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密
粒石 (径2~5mm) 10%含む (VI層由来)
9 10YR4/6褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 (VII層由来)
10 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
10YR4/4褐色土が底状をなす。粒石 (径2~5mm) 10%含む
V 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや密
粒石 (径2mm) 10%含む
VI 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり密
粒石 (径2mm) 10%含む
VII 10YR6/8明黄褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
VIII 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり密

6号住居跡P1

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり中 To-Mh5%含む (IV層由来)
2 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 To-Mh15%含む (IV-V層由来)
3 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR5/6黄褐色シルトが底状をなす

第16図 5・6号住居跡

7号住居跡

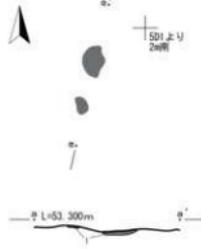


7号住居跡

- 1 101R2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中・軽石2%含む
2 101R2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや中 軽石5%・炭化物3%含む



7号住居跡伊

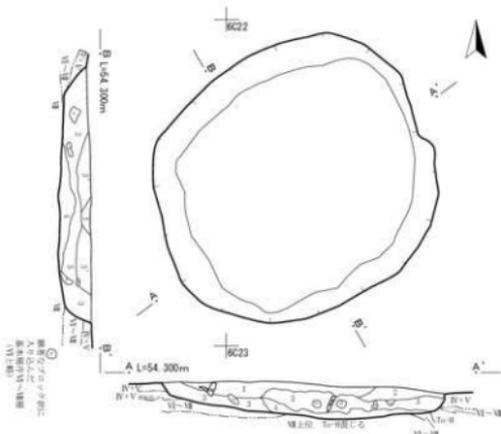


7号住居跡伊

- 1 5YR3/6暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや中



8号住居跡



8号住居跡

IV-V 101R2/3~3/3黒~暗褐色 風倒木等で擾乱著しい

VI-VII 10YR4/3に多い・黄褐色

VI 101R6/8明黄褐色 To-Hに印跡が見られる

To-H 10YR7/6 黄褐色 To-Hに印跡しているものか

明黄褐色をしたバミス 101R2/6 縦径0.5cmほど

1 101R2/3黒褐色 明黄褐色をしたバミスが10%混じる ややしまる IV層主体

2 101R2/3黒褐色 明黄褐色をしたバミスが10%混じる ややしまる IV層主体

3 101R3/3に多い黄褐色 明黄褐色をしたバミスが30%混じる ややしまる

見本層序のIV層とVI層が、およそ直径10cmほどのブロック状に、ほぼ1:1で混じりあう

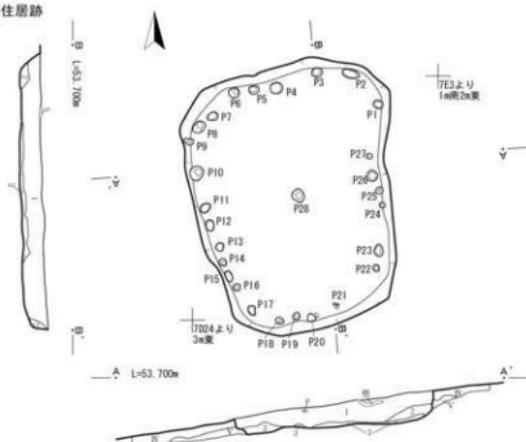
3' は磁砂に黒色味が強い

4 101R5/6黄褐色 明黄褐色をしたバミスが1%混じる ややしまる VI層主体



第17図 7・8号住居跡

9号住居跡

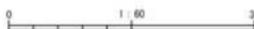


9号住居跡

- 1 10TR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりや中密 To-Ni20%含む (IV層由来)
 2 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりや中密 To-Ni20%含む (V層由来)
 3 10TR2/1黒色 シルト 粘性強 しまりや中密 10TR2/4暗褐色シルト混入をなす
 IV 10TR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりや中密 To-Ni20%含む
 V 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりや中密 To-Ni20%含む
 VI 10TR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり色

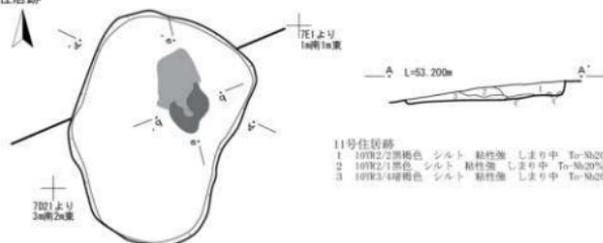
9号住居跡ピット

- 1 10TR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり種 To-Ni40%含む (IV層由来)



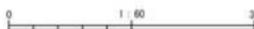
	直径 (cm)	深さ (cm)
P1	13	5
P2	20	6
P3	13	9
P4	14	6
P5	13	10
P6	12	5
P7	12	4
P8	17	7
P9	12	5
P10	16	6
P11	13	3
P12	13	3
P13	11	2
P14	9	5
P15	13	2
P16	9	6
P17	12	4
P18	10	7.5
P19	9	4
P20	10	12
P21	9	6.5
P22	7	4
P23	16	5
P24	6	3
P25	9	10
P26	13	5
P27	8	8
P28	16	9

11号住居跡

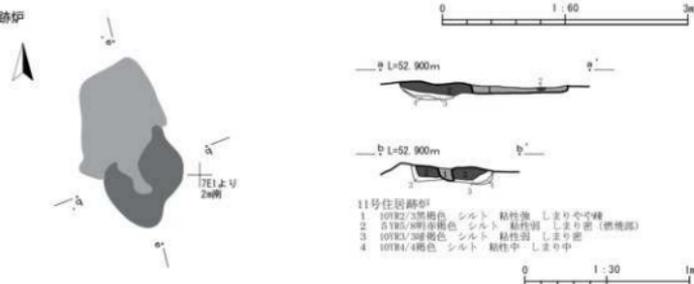


11号住居跡

- 1 10TR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり中 To-Ni20%含む (IV-V層由来)
 2 10TR2/1黒色 シルト 粘性強 しまり中 To-Ni20%含む (IV層由来)
 3 10TR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中 To-Ni20%含む (V層由来)

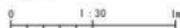


11号住居跡炉



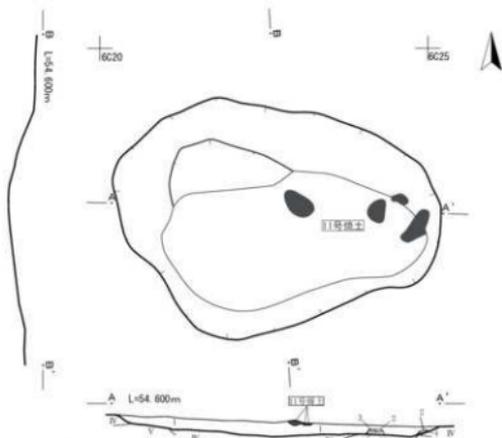
11号住居跡炉

- 1 10TR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまりや中密
 2 10TR5/5暗赤褐色 シルト 粘性強 しまり密 (赤地層)
 3 10TR2/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
 4 10TR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり中



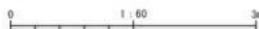
第18図 9・11号住居跡

12号住居跡

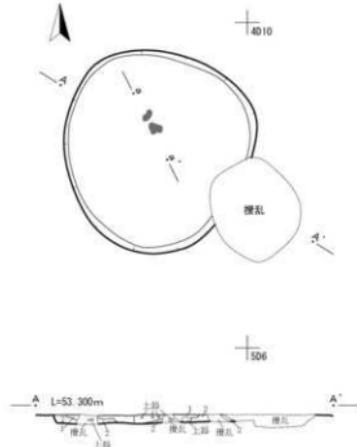


12号住居跡

- IV 101K3/3暗褐色 ややしまりあり パリス(To-Nh^δTo)相が極小粒径～小粒径15%混じる
- V 101K7/4にぶい黄褐色 ややしまりあり パリス(To-Nh^δTo)相が極小粒径～小粒径15%混じる
- VI 101K6/9明黄褐色 ややしまりあり
- 1 101K3/3暗褐色 パリス(南面から西)が極小粒径～小粒径15%混じる
- 2 51K6/8暗褐色 ややしまりあり パリス(To-Nh^δTo)相が極小粒径～小粒径15%混じる
- 3 101K5/9明褐色 ややしまりあり パリス(To-Nh^δTo)相が極小粒径～小粒径15%混じる
1層土が極小粒径で2%混じる
- 4 101K3/3暗褐色 ややしまりあり パリス(To-Nh^δTo)相が極小粒径～小粒径15%混じる
1層土が極小粒径で7%混じる。炭化物が極小粒径で2%混じる

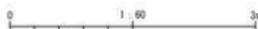


13号住居跡

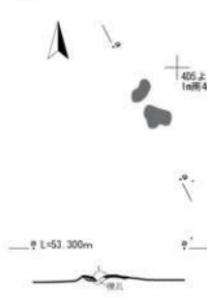


13号住居跡

- 1 101K2/3黒色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3%含む
- 2 101K2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 礫石2%含む



13号住居跡炉

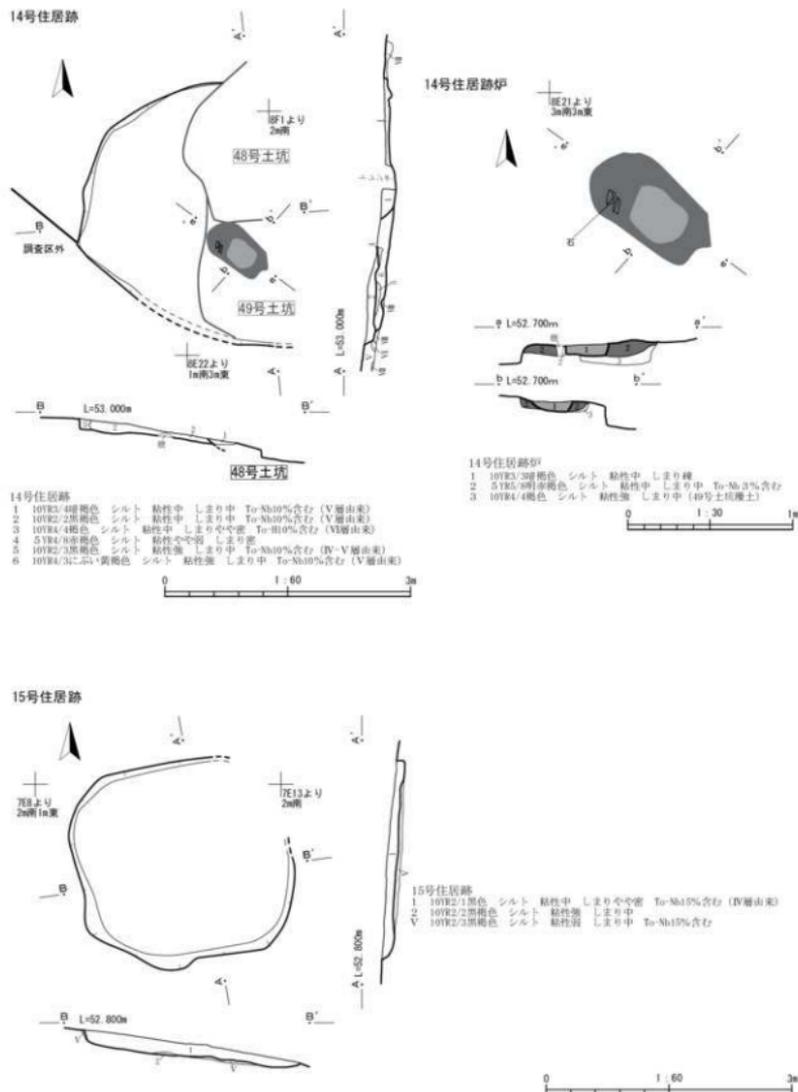


13号住居跡炉

- 1 51K3/6暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 炭化物2%含む

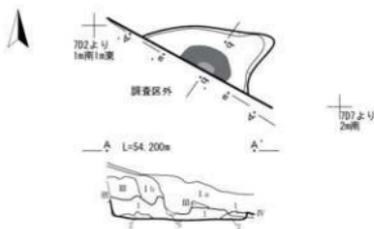


第19図 12・13号住居跡



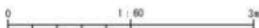
第20図 14・15号住居跡

16号住居跡

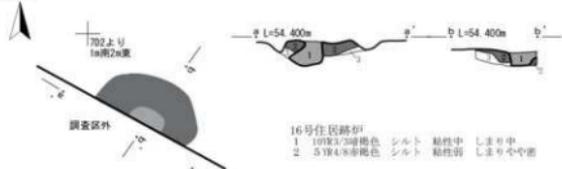


16号住居跡

- 1a 101R2/黒色 シルト 粘性中 しまり程
 1b 101R2/黒褐色 シルト 粘性中 しまり程
 III 101R2/黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
 I 101R2/黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや密 To-Nb15%含有 (V層由来)
 II 101R3/黄褐色 シルト 粘性強 しまり密 To-Nb5%含有 (V層由来)
 IV 101R4/褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Nb5%含有



16号住居跡跡

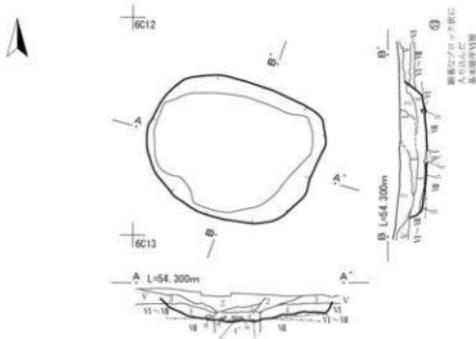


16号住居跡跡

- 1 101R3/黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
 2 51R4/赤褐色 シルト 粘性中 しまりやや密



17号住居跡



17号住居跡

IV 101R2/2-3層～緑褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる

V 101R4/3に多い黄褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる

VI～VIII 101R6/8明黄褐色 明黄褐色をしたバミヌが25%混じる

IX 101R7/9黄褐色 To-Nbが詰まっているものか

明黄褐色をしたバミヌ 101R7/6 配厚0.5cmほど

1 101R2/3黒褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる ややしめる IV層主体

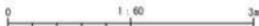
2 101R2/3黒褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる ややしめる IV層主体

3 101R4/3に多い黄褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる ややしめる V層主体

4 101R4/3に多い黄褐色 明黄褐色をしたバミヌが30%混じる ややしめる

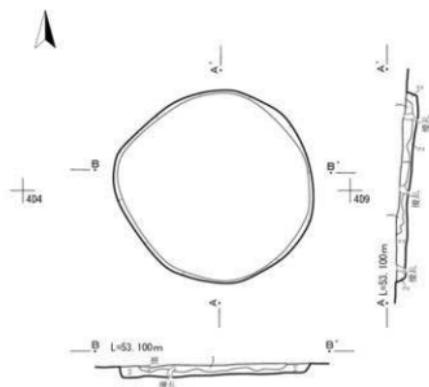
5 101R5/6黄褐色 明黄褐色をしたバミヌが15%混じる ややしめる V層主体

基本層序のIV層土とVI層土が、およそ最厚10cmほどのブロック状に、ほぼ1:1で混じりあり 4'は難砂に黒色味が強い



第21図 16・17号住居跡

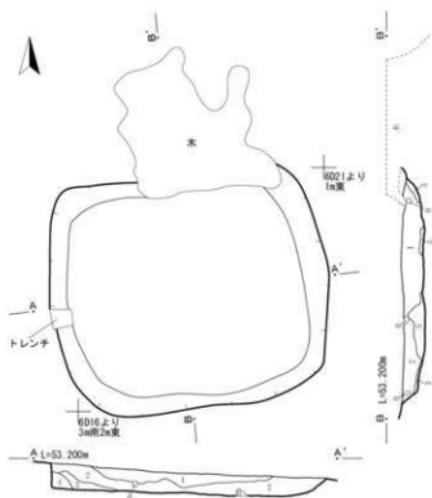
18号住居跡



18号住居跡

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石2%含む
- 2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密 軽石5%含む

19号住居跡

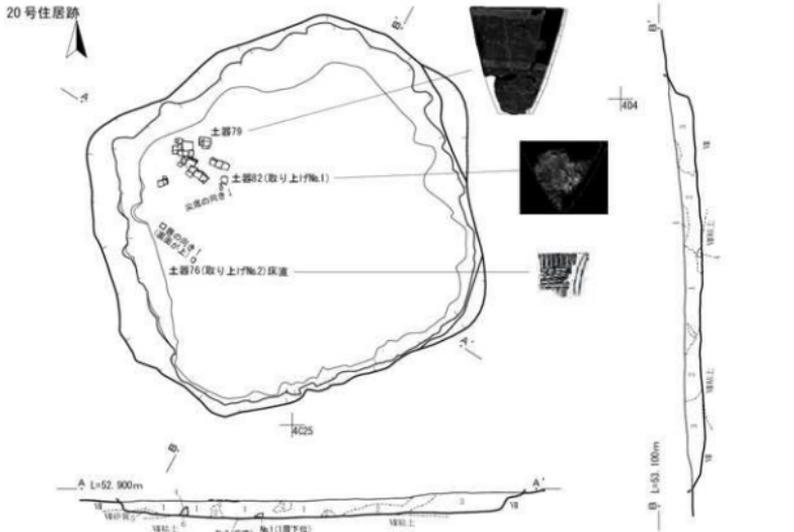


19号住居跡

- 0 礎石
- 1 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 細礫が多い 黄褐色軽石少量含む
- 2 10YR4/3に濃い黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや疎 黄褐色土ブロック少量含む
- 3 10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 黄褐色土ブロック(堆山)少量含む
- 4 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密 少量堆土
- 5 10YR6/8黄褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 全体的にブロック状を呈す

0 1:60 3m

第22図 18・19号住居跡

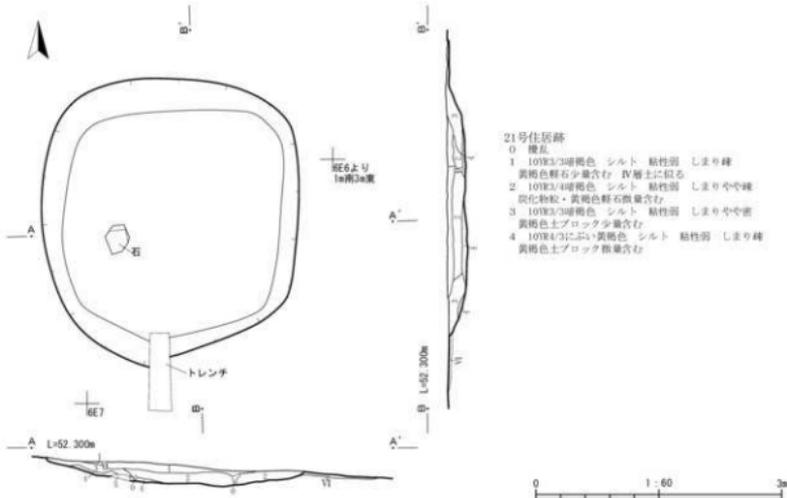


20号住居跡

Ⅷ 10YR5/8明黄褐色 小～大粒径のパミスが密に埋める箇所あり
Ⅷ砂質 10YR7/4cふい黄褐色 砂っぽい土粘りあり
Ⅷ粘土 10YR5/6明黄褐色 Ⅷがグライ化したものか

- 1 10YR3/3暗褐色 Ⅷ層主体
小～中粒径の明黄褐色をしたパミス (To-II主体) が5%混じり ややしまる
- 2 10YR4/3にふい黄褐色
10YR5/6黄褐色 Ⅷ + Ⅷ-1 : 8で混在する
小～中粒径の明黄褐色をしたパミス (To-II主体) が5%混じり ややしまる
- 3 10YR7/6明黄褐色 Ⅷ粘土層主体
- 4 10YR7/4cにふい黄褐色
- 5 10YR7/4cにふい黄褐色
- 6 10YR3/2黒褐色 Ⅷ層主体かや腐植土?木の根入り込み しまりなし

21号住居跡

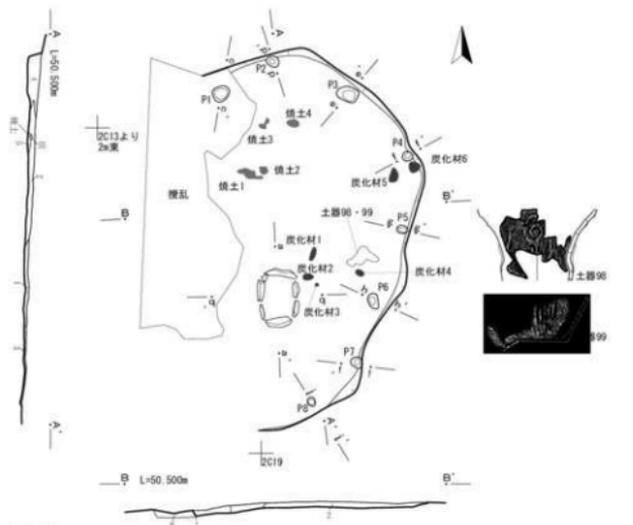


21号住居跡

- 0 腐土
- 1 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
黄褐色軽石少量含む IV層土に似る
- 2 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
腐化中粒・黄褐色軽石微量含む
- 3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック少量含む
- 4 10YR4/3にふい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
黄褐色土ブロック微量含む

第23図 20・21号住居跡

22号住居跡



22号住居跡

- 1 101R3/4暗褐色 シルト 粘性や中強 しまり中 褐色軽石 (径3~5mm) 3%・炭化物 (径3cm) 含む
- 2 101R3/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色軽石 (径5~10mm) 10%含む
- 3 101R4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりや中強 炭 (径3~5mm) 5%含む
- 4 101R3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりや中強 小礫 (径3cm) 3%含む
- 5 101R4/4褐色 シルト 粘性や中強 しまり中
- 6 101R6/4黄褐色 シルト 粘性強 しまり弱 小礫 (径3~5cm) 50%含む

0 1:60 3m

22号住居跡P1

L=50.400m



22号住居跡P2

L=50.500m



22号住居跡P3

L=50.500m



22号住居跡P4

L=50.500m



22号住居跡P5

L=50.300m



22号住居跡P6

L=50.300m



22号住居跡P7

L=50.300m



22号住居跡P8

L=50.300m



22号住居跡 P1~8

- 1 101R4/4褐色 シルト 粘性中 しまりや中強

0 1:30 1m

22号住居跡P9

L=50.300m



22号住居跡P10

L=50.300m



L=50.300m



L=50.300m



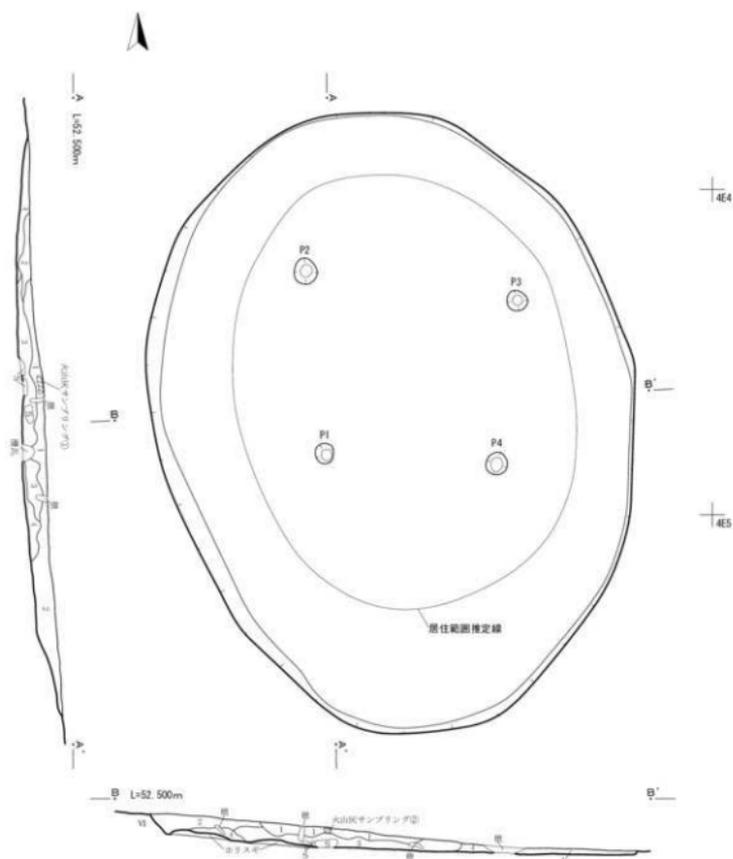
22号住居跡P9~12

- 1 101R3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりや中強
- 2 101R4/4褐色 シルト 粘性強 しまり中 黄土粒3%含む
- 3 101R4/4褐色 シルト 粘性強 しまり中

0 1:30 1m

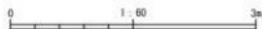
第24図 22号住居跡

23号住居跡



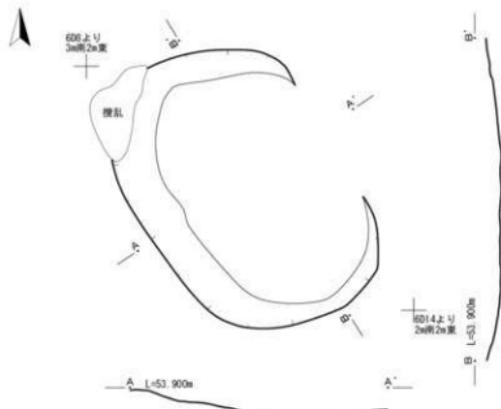
23号住居跡

- | | | | | | |
|---|-----------|--------|-------|------|---------------|
| 1 | 10R1/4層褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | To: 90-10%含む |
| 2 | 10R2/4層褐色 | シルト | 粘性やや強 | しまり中 | 褐色土ブロック 20%含む |
| 3 | 10R3/4層褐色 | シルト | 粘性やや強 | しまり中 | |
| 4 | 10R4/6層褐色 | 粘土質シルト | 粘性強 | しまり中 | |



第25図 23号住居跡

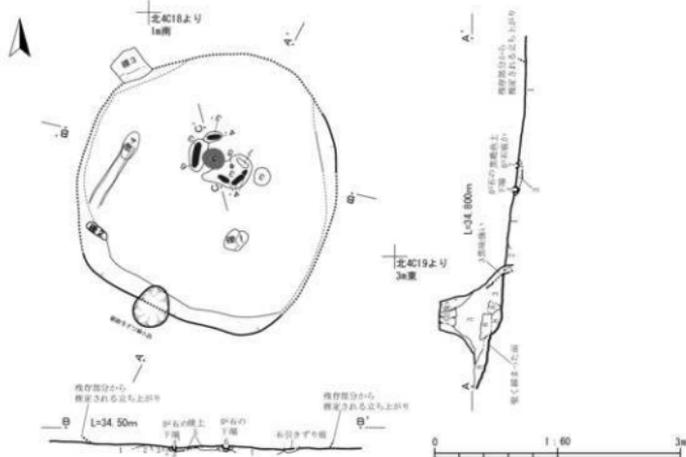
24号住居跡



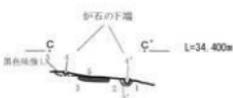
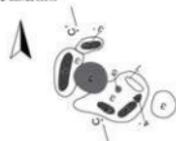
24号住居跡

10YR3.5暗褐色 シルト 粘り弱 しまり稀 根雑乱多い 黄褐色土較少量含む

25号住居跡



25号住居跡跡

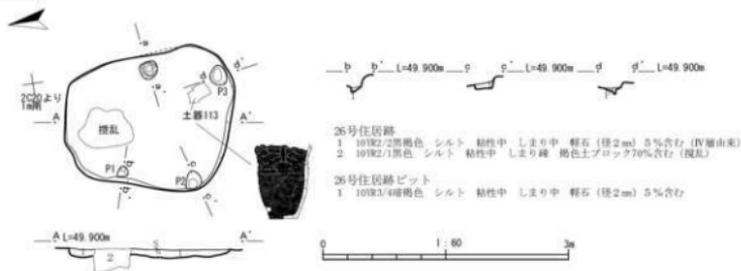


25号住居跡

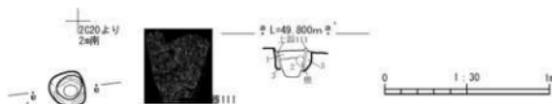
- 1 10YR2.7黒褐色 明黄褐色をしたパリス (To-Mhが主体か) が時々散じる IV層主体で古い木根痕が露出か
- 2 10YR6.8明黄褐色 明黄褐色をしたパリス (To-Mhが主体か) が10%散じる 基本層序VI~VIII層
- 3 10YR3.1~3.2黒~暗褐色 木根痕 この痕みを利用して右側の9号設置か
- 3' 10YR3.3暗褐色 ココのみ盛り方を設定して、右側の9号設置か
- 4 花崗岩 もろくなって砕状である 取上げ不可能
- 4' 花崗岩 もろくなって砕状である 4より鉄分による赤味を帯びる 取上げ不可能
- 5 5YR6.8棕色 2段けたもの
- 6 5YR3.1黒褐色 砕状 砕岩がもろくなって砕となっている 黒味はマンガンか 取上げ不可能
- 7 10YR4.3黒褐色 しまりなし、しまりが入っていたものか
- 8 10YR3.4暗褐色 IV~VでIVに近い、パリス (To-Mhの可能性ある) が30%散じる

第26図 24・25号住居跡

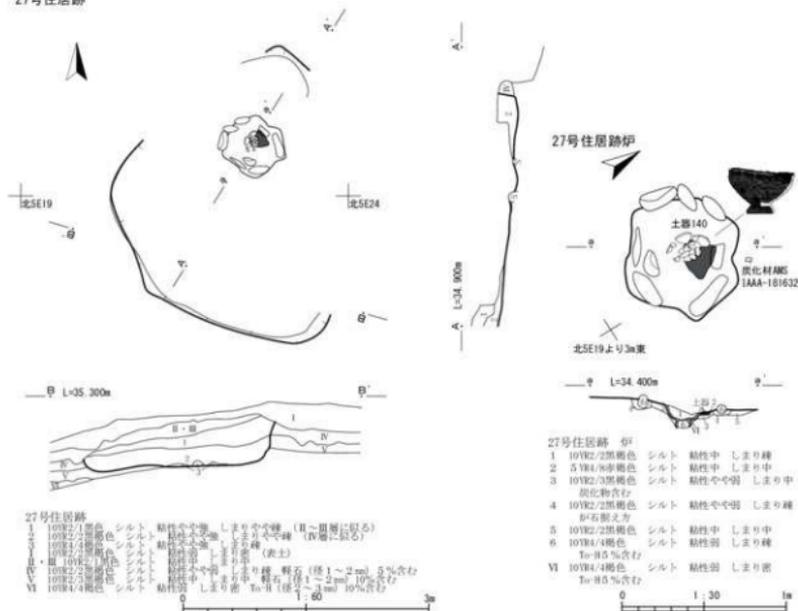
26号住居跡



26号住居跡伊



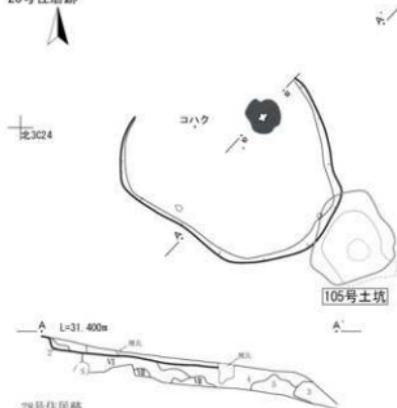
27号住居跡



第27図 26・27号住居跡

2 検出遺構

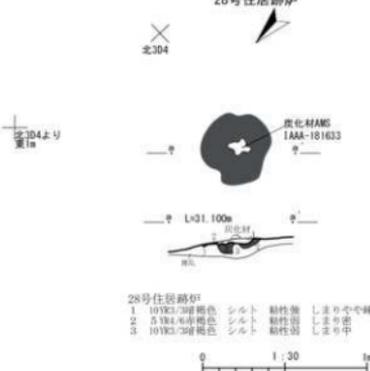
28号住居跡



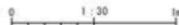
- 28号住居跡
- | | | | | |
|-----|-----------|-----|-------|--------------|
| 1 | 10YR/2黒褐色 | シルト | 粘性中 | しまり疎 |
| 2 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性全無地 | しまり中 |
| 3 | 10YR/2暗褐色 | シルト | 粘性中~強 | しまり疎 |
| 4 | 10YR/4褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中~疎 |
| 5 | 10YR/6黄褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中~疎 |
| VI | 10YR/2暗褐色 | シルト | 粘性全無地 | しまり疎 |
| VII | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性弱 | しまり密 (To-II) |



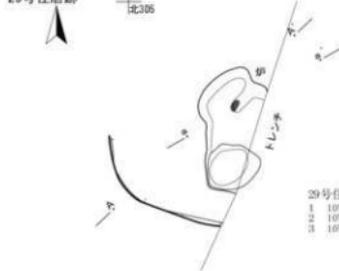
28号住居跡炉



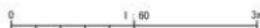
- 28号住居跡炉
- | | | | | |
|---|-----------|-----|-----|--------|
| 1 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性強 | しまり中~疎 |
| 2 | 5YR/4中褐色 | シルト | 粘性弱 | しまり密 |
| 3 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性弱 | しまり中 |



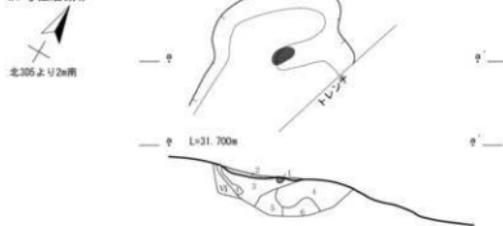
29号住居跡



- 29号住居跡
- | | | | | |
|---|-----------|-----|-----|----------------------------------|
| 1 | 10YR/2黒褐色 | シルト | 粘性強 | しまり中 (IV層由來) |
| 2 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性強 | 褐色土ブロック状に含む |
| 3 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性強 | しまり中 (VI層由來) To-II (厚1~2mm) 3%含む |



29号住居跡炉

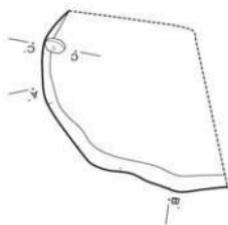


- 29号住居跡炉
- | | | | | |
|----|-----------|-----|-------|------------------------|
| 1 | 5YR/4中褐色 | シルト | 粘性弱 | しまり疎 |
| 2 | 10YR/1黒色 | シルト | 粘性強 | しまり疎 炭含む |
| 3 | 10YR/2暗褐色 | シルト | 粘性強 | しまり中
細石 (径3mm) 3%含む |
| 4 | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性強 | しまり密 |
| 5 | 10YR/2暗褐色 | シルト | 粘性強 | しまり中~疎 |
| 6 | 10YR/4暗褐色 | シルト | 粘性全無地 | しまり密 |
| VI | 10YR/3暗褐色 | シルト | 粘性中 | しまり密 |



第28図 28・29号住居跡

30号住居跡



北6E3

A L=37.700m



30号住居跡(A-A')

- 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密
- 10YR5/6黄褐色 土10%層状を含む

VE 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強

B L=37.700m



30号住居跡(B-B')

- 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密
- 10YR4/3に多い黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密 黄色土和5%含む

0 1:60 3m

C L=37.800m C'



30号住居礎跡石

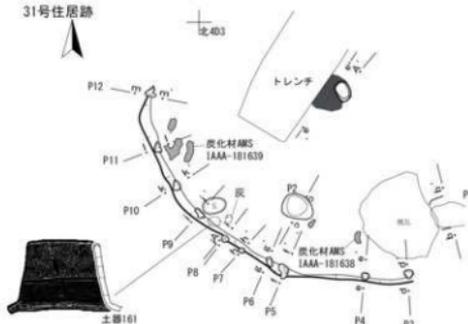
I 10YR4/3に多い黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱

0 1:30 1m

31号住居跡

北4D3

北4D8



A L=34.000m



31号住居跡

1 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 白色軽石5%・炭化物(径5mm)少量含む

2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック状に含む面状をなす

0 1:60 3m

31号住居跡炉



北4D3より2m



31号住居跡炉

1 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
 赤土和10%・炭化物(径2mm)5%含む

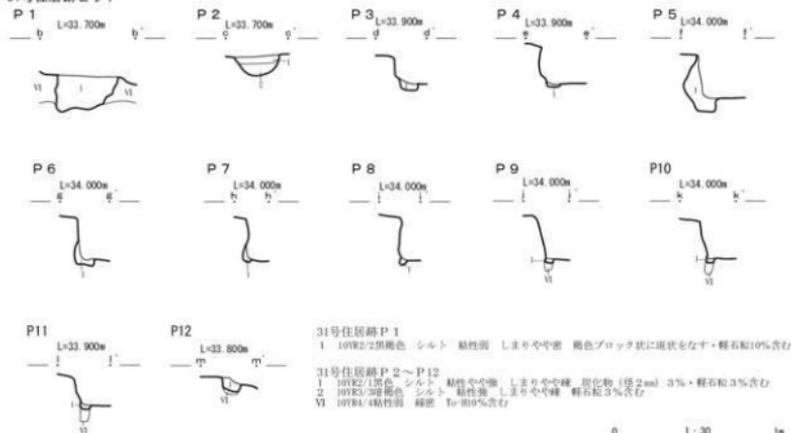
2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱

3 5YR4/3赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 (VI層由来)

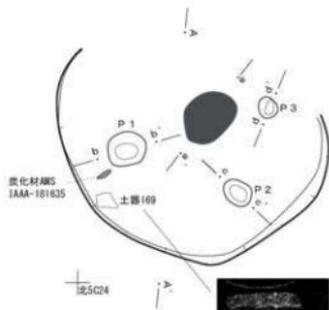
0 1:30 1m

第29図 30・31号住居跡

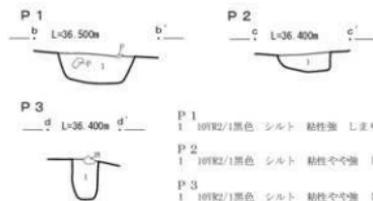
31号住居跡ピット



32号住居跡



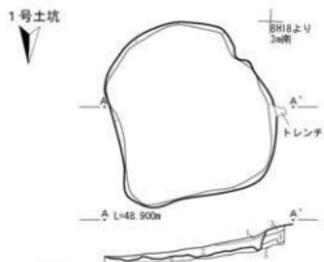
32号住居跡炉



32号住居跡炉
1 10YR4/6赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり中

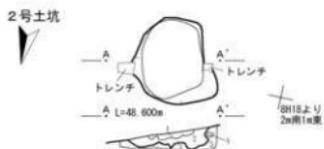


第30図 31号住居跡ピット・32号住居跡



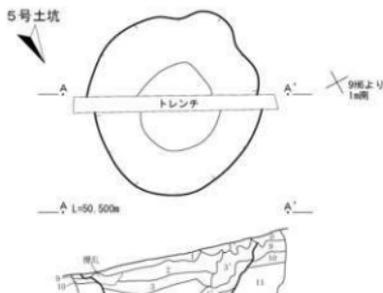
1号土坑

- 1 7.51K2/1 黒色IV・V層に由来する軽石混り黒ボク質シルト埋土。
- 2 層より軽石少な。
- 3 7.51K2/1 黒色IV・V層に由来する中粒から細粒軽石質黒ボク質シルト埋土。
- 4 101R2/3 黒褐色軽石質黒ボク・V層
- 5 101R2/4 黄褐色軽石質黒ボク質ローム・V層
- 6 101R5/8 黄褐色軽石質ローム・V層



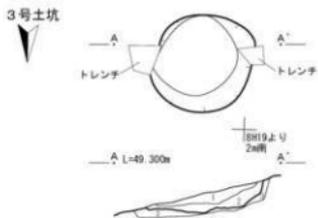
2号土坑

- 1 7.51K2/3 細粒軽石を少し含む極細褐色黒ボク偽凝土(V層由来か)
- 2 7.51K2/1 黒色IV・V層に由来する黒ボク質シルト(V層に由来)
- 3 101R5/6 黄褐色軽石質ローム・V層
- 4 7.51K2/1 黒色黒ボク質シルト(他層)



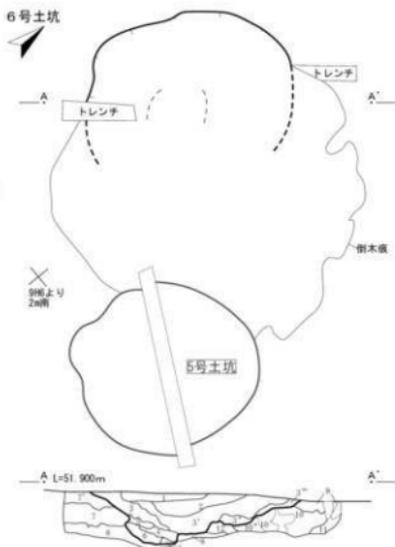
5号土坑

- 0* 偽凝を含む土
- 1 101K2/2黒褐色 層間由来の火山灰質黒ボク塊状層
- 2 7.51K2/3黒褐色 細粒大の軽石混りIV層由来の黒ボク塊状層
- 3 101K2/2黒褐色 細粒大の軽石混り黒ボク・IV層
- 3* 褐色色ローム質シルト
- 4 101K2/2黒褐色 V層由来の軽石混り黒ボク主体の偽凝客土
- 4* V層偽凝を含む
- 4* 層間由来のローム偽凝
- 5 101K3/4暗褐色 V層由来の軽石質黒ボク主体の偽凝客土
- 5* 暗褐色シルト質ローム偽凝
- 6 101R1/4褐色 層間由来のロームと軽石からなる偽凝客土
- 7 101R1/6褐色 層間由来のロームの帯状層、軽石を多少含む
- 8 101R1/7暗褐色 層間由来のロームの帯状層、少量の軽石を含む
- 9 101R6/9明黄褐色 軽石質ローム・V層
- 10 101R6/6明黄褐色 粘土質ローム・V層
- 11 101R1/6褐色 (やや暗い) ローム質シルト・IXa層



3号土坑

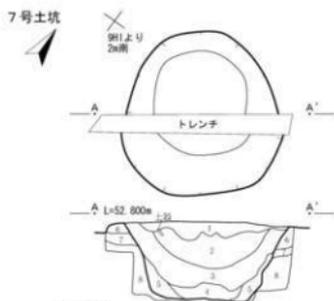
- 1 黒色細粒軽石混在する黒ボク質シルト
- 2 黒褐色細粒軽石混在する黒ボク質ローム質シルト
- 3 灰褐色軽石混在するローム・V層



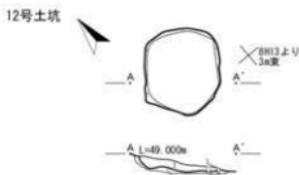
6号土坑

- 1 101R1/2黒色 シルト優勢の黒ボク・II層
- 2 101K2/2黒褐色 (少し明るい) 黒ボク・III層
- 3 101K2/2黒褐色 IV層由来の黒ボク主体の偽凝
- 3* 黒褐色 IV・V層由来の黒ボク偽凝混在
- 3... 層間由来のローム偽凝
- 3... 層間由来の黒ボク偽凝
- 4 101K3/4暗褐色 V層由来の黒ボク偽凝
- 5 101R4/6褐色 層間由来のローム偽凝
- 6 101R5/6褐色 層間由来のローム偽凝
- 6* V層由来のローム・黒ボク偽凝混在
- 7 101R6/6明黄褐色 V層軽石質ローム
- 7* 主としてV層の塊状層
- 8 101R4/6褐色 シルト優勢ローム
- 9 101K3/4暗褐色 V層由来のローム・黒ボク偽凝混在
- 10 101K2/2黒褐色 V層由来の黒ボク偽凝
- 10* 層間由来のローム偽凝
- 10* 層間由来のローム偽凝
- 11 101R5/6明黄褐色 ローム・V層
- 12 101R5/8黄褐色 ローム・V層

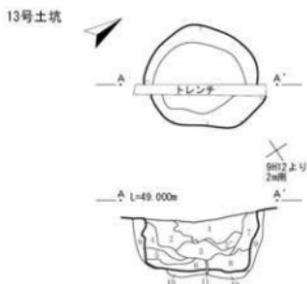
第31図 1～3・5・6号土坑



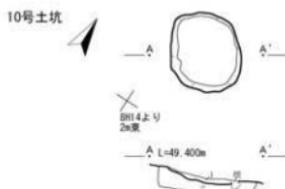
- 7号土坑
- 1 10YR2.5/3黒褐色～暗褐色シルト
 - 2 10YR2.2/3黒褐色シルト 細り今や密 褐色土粒5%含む
 - 3 10YR2.2/3黒褐色シルト 2層より細り密 褐色土粒10%含む
 - 4 10YR4.4褐色シルト 細り疎か 黒褐色土含み混じり含む
 - 5 10YR4.4褐色シルト 細り疎か 黒褐色土、黄褐色土、に高い黄色粘土ブロック含む
 - 6 基本層作V1層
 - 7 基本層作V2層
 - 8 基本層作V3層



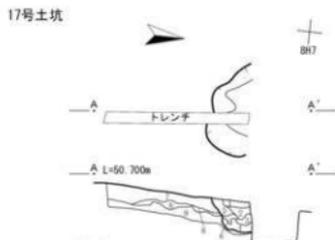
- 12号土坑
- 1 10YR2.2/3黒褐色 IV・V層由来の軽石質黒ボク偽縁土
 - 2 10YR3.4/3暗褐色 軽石質シルト質ローム：V1層



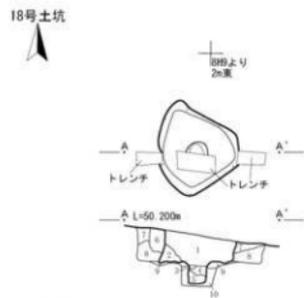
- 13号土坑
- 1 10YR2.2/3黒褐色 IV-V層よりV1層偽縁土在黒ボク客土
 - 2 10YR2.2/3黒褐色 IV-V層よりV1層偽縁土在黒ボク客土
 - 3 V1・V2層偽縁土在のローム客土
 - 4 10YR2.2/3黒褐色 IV-V層偽縁土主体の黒ボク客土
 - 5 黄褐色 底状偽縁偽縁土主体のローム客土
 - 6 10YR2.2/3黒褐色 1層・V1層偽縁土在のローム客土
 - 7 10YR2.2/3黒褐色 IV-V層偽縁土在の黒ボク客土
 - 8 10YR3.2/3暗褐色 V1-V2層偽縁土主体のローム客土
 - 9 暗褐色基盤砂質の偽縁客土
 - 10 10YR5.6黄褐色 シルト質ローム：V1層
 - 11 10YR7/3に高い黄褐色
- チャートなどの片～軍門層を含む中層質砂岩：基盤層
 平面では長方形で傾にならない 噴砂丘を認める



- 10号土坑
- 1 10YR2.2/3黒褐色 IV・V層由来の黒ボク偽縁土
 - 2 10YR4.6褐色 軽石質シルト質ローム：V1層



- 17号土坑
- 1 10YR2.1黒色 軽石散在する黒ボク客土
 - 2 10YR2.2/3黒褐色 軽石散在する黒ボク客土
 - 3 10YR3.3/3暗褐色 V1層由来の偽縁客土
 - 4 10YR2.2/3黒褐色 V層由来の偽縁土主体の客土
 - 5 10YR2.2/3黒褐色 軽石散在する黒ボク客土
 - 6 軽石散在するローム質黒ボク客土
 - 7 10YR2.3/3暗褐色 黒ボク 軽石粒少ない：V層
 - 8 10YR3.4/3暗褐色 シルト質ローム、黄色土：V1層上部
 - 9 10YR4.4褐色 シルト質ローム、軽石散在：V1層

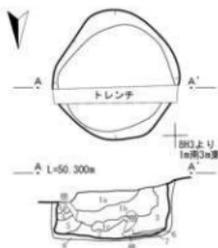


- 18号土坑
- 1 10YR1.7/1黒色 V層由来の黒ボク層大小の軽石粒が不規則に混在
 - 2 10YR2.1黒色 V層 V1層に近い 由来の黒ボクが不整形な偽縁
 - 3 7.5YR2.2/3暗褐色 IV層由来の黒ボク
 - 4 7.5YR2.2/3暗褐色 IV層由来の黒ボクに隣接のハンダ状細粒砂大偽縁
 - 5 4中粒～細粒砂大の軽石が混じる
 - 6 7.5YR2.2/3暗褐色 IV層由来の黒ボクに隣接由来の細粒～粗粒砂大偽縁
 - 7 中粒～細粒砂大の軽石が混じる
 - 8 V層・V1層上部に混在する小塊見出し
 - 9 10YR2.2/3黒褐色 軽石質黒ボク：V層
 - 10 10YR4.6褐色 軽石質黒ボク質ローム：V1層
 - 11 明褐色軽石質ローム：V1層
 - 12 褐色ローム：V1層



第32図 7・10・12・13・17・18号土坑

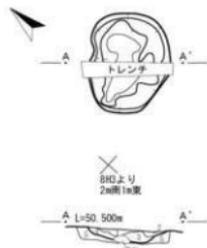
19号土坑



19号土坑

- 1a 10YR1.7/1黒色 黒ボク、軽石少ない；IV層ウ
 1b 10YR1.7/1黒色 V層主体の黒ボク黄土、軽石多く含む
 1c 10YR1.7/1黒色 V層主体の黒ボク黄土、軽石小・少く少ない
 2 10YR2.2黒褐色 VI～VII層由来の黒ボク質ローム、軽石多く含む
 3 10YR2.2黒褐色 VI～VII層由来の黒ボク質ローム偽造、境界不明瞭
 4 10YR3.4暗褐色 VI～VII層由来の黒ボク質ローム偽造
 5 10YR2.2黒褐色 V層由来の黒ボク偽造
 6 10YR4.6褐色 V層上部ロームの偽造
 7 10YR3.4暗褐色 V層由来黒ボクの偽造
 8 10YR4.6褐色ローム；VII層

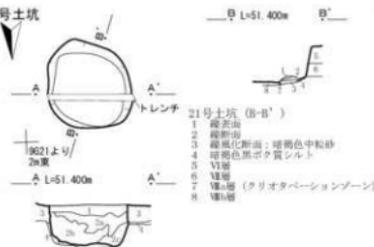
20号土坑



20号土坑

- 1 10YR2.1黒色 IV層由来黒ボク、細砂大軽石散在
 2 10YR2.2黒褐色 IV層由来黒ボク、細砂大軽石散在
 3 10YR2.3黒褐色 V層黒ボク・VI層は上部黒ボク質ロームの不整形な偽造層；境界不明瞭
 4 10YR2.3黒褐色 V層黒ボク・VI層は上部黒ボク質ロームの不整形な偽造層；境界不明瞭
 5 10YR3.4暗褐色 軽石質ローム；VI層

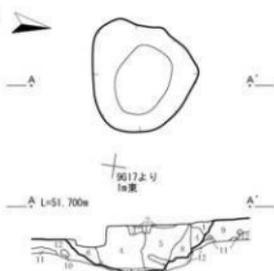
21号土坑



21号土坑 (A-A')

- 1 10YR3.5暗褐色 黒ボク質シルト、細砂軽石散在
 2 10YR3.2黒褐色 V層由来偽造主体の黄土
 2a 10YR4.6褐色 (やや暗い)；V層由来偽造主体の黄土
 2c 10YR4.6褐色 VII層由来偽造主体の黄土
 3 10YR5.6黄褐色 (やや暗い)；軽石質ローム；VI層
 4 10YR6.0暗褐色 ローム；VII層
 5 10YR5.6暗褐色 ローム；VII層

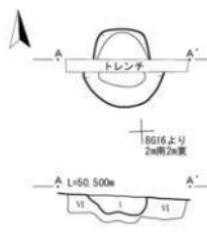
24号土坑



24号土坑

- 1 黒ボク黄土 (共役断面に落ちた部分)
 2 黒ボク黄土
 3 黒ボク黄土、軽石散在
 4 V層由来の暗褐色軽石質黒ボク質ロームとVI層由来のローム偽造層
 5 4と類似し、V層由来に偽造主体
 6 V層由来の軽石質ロームとVI層由来のローム偽造層
 7 V層由来の黒ボク質ローム主体の偽造層
 8 7と同層
 8 表れ目のように見える直線構造が多数あり、しかし、連続せず
 8a 表れ目、非連続構造
 9 V層上部の偽造層・黒褐色・暗褐色軽石質黒ボクシルト
 10 VI層
 11 VII層
 12 VIII層

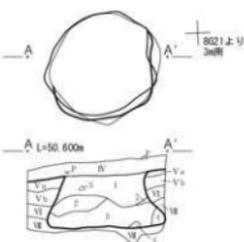
22号土坑



22号土坑

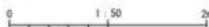
- 1 10YR2.4黒褐色シルト 褐色土粒5%含む
 VI 10YR4.4褐色シルト

23号土坑



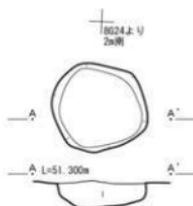
23号土坑

- 1 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性土 しまりやや密
 白色軽石 (径1mm) 少量含む (IV層由来)
 2 10YR3.2黒褐色 シルト 粘性土 しまり中
 白色軽石・褐色土粒 (径1～2mm) 少量含む
 3 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性土 しまりやや密
 白色軽石・褐色軽石 (径1～2mm) 少量含む (IV層由来)
 4 10YR4.4～5.0褐色～暗褐色 シルト 粘性土 しまりやや密
 褐色土がブロック状に入り面状をなす
 IV 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
 白色軽石 (径1mm) 少量含む
 Va 10YR2.2黒褐色 シルト 粘性中 しまり密
 白色軽石 (径1mm) 少量含む・褐色軽石 (径1～2mm) 5%含む
 Vb 10YR3.5暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色軽石 (径2mm) 20%含む
 VI 10YR4.4褐色 シルト 粘性中 しまり密 白色軽石 (径2mm) 20%含む
 VII 10YR5.6黄褐色 シルト 粘性中 しまり密 Tr-II



第33図 19～24号土坑

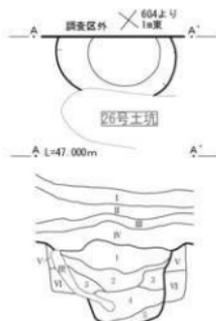
25号土坑



25号土坑

1 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 V-V3層由来

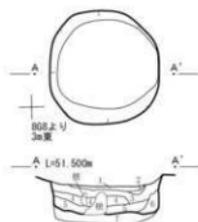
27号土坑



27号土坑

1 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石7%含む
 2 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石5%含む
 3 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中や砂
 褐色土ブロック5%・軽石3%含む
 4 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性や中強 しまり 褐色土ブロック2%含む
 5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック7%含む

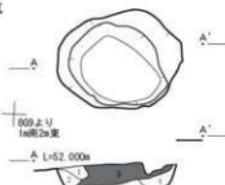
29号土坑



29号土坑

1 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
 褐色軽石 (径2~5mm) 5%含む
 2 10YR4/4褐色 シルト 粘性強 しまり中や砂
 褐色軽石 (径2~5mm) 5%含む
 3 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中や砂
 褐色軽石 (径2~5mm) 5%含む
 4 10YR4/4~4.7褐色 シルト 粘性強 しまり中
 5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
 褐色軽石 (径2~5mm) 5%含む
 6 10YR4/4~4.7褐色 シルト 粘性強 しまり中
 7 10YR5.5黄褐色 シルト 粘性中 しまり中や砂 (IX層)

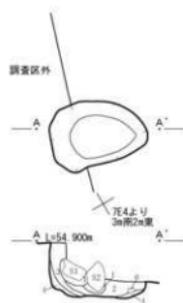
30号土坑



30号土坑

1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性や中強 しまり中や砂
 2 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性や中強 しまり中や砂
 3 5YR3.8/1赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
 4 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中や砂
 5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中や砂 褐色土ブロック状に含む

32号土坑



32号土坑

1 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまり密 よくしまる 右廻り方
 (S27)廻り方がS1の廻り方に切られる
 2 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり密 黄褐色土粒・炭化物微量含む
 3 10YR2/1黒褐色 シルト 粘性強 しまり密 1層に似る 瓦層由来の泥入土
 4 10YR4.6褐色 シルト 粘性弱 しまり中や砂 黄褐色土粒微量含む

31号土坑



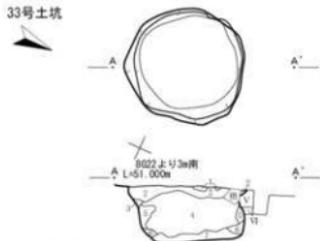
31号土坑

1 10YR4.6褐色 シルト 粘性や中強 しまり中や砂
 黄褐色土ブロック (IV層) 少量含む

0 1 50 2m

第34図 25・27・29～32号土坑

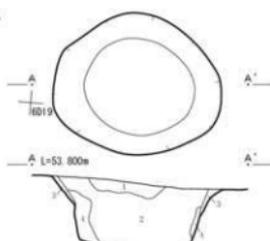
33号土坑



33号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり密 To-Cu
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり密
褐色軽石 (径2~5mm) 5%・炭化物3%含む (I層由来)
- 3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり密 礫積層土
- 4 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
- 5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
褐色軽石 (径2~3mm) 10%・炭化物 (径5mm) 3%含む (V層由来)
- 6 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
褐色軽石 (径2~3mm) 10%・炭化物 (径5mm) 3%含む (VI層由来)
- 7 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
褐色軽石 (径2~3mm) 10%・炭化物 (径5mm) 3%含む (VI層由来)

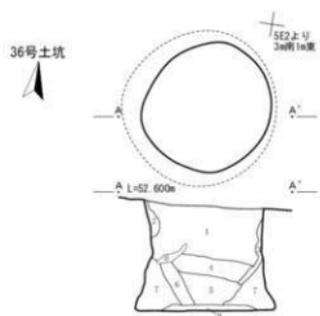
35号土坑



35号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり疎
根椀長多・IV層土 炭化物粒少量含む
- 2 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎
IV層土に包る 炭化物粒少量・黄褐色土粒微量含む
- 3 10YR4/6褐色 シルト 粘性強 しまり密
根椀長多・層を構成するV層土の崩落土
- 4 10YR2/1黒色土 シルト 粘性弱 しまり疎
IV・V層土が混ざる IV層土がブロック状に含む

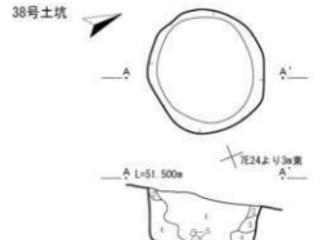
36号土坑



36号土坑

- 0 擾乱
- 1 10YR2/2褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 黄褐色土粒微量含む
- 2 10YR4/3C5灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
黄褐色土ブロック少量混入 礫積層土
- 3 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 黄褐色土ブロック微量含む
- 4 10YR2/1褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密 黄褐色土粒少量含む
- 5 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 黄褐色土ブロック微量含む
- 6 10YR4/6褐色 シルト 粘性やや弱 しまり密 黄褐色土ブロック微量含む
- 7 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 黒色土粒微量含む
- 8 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり密 黄褐色土ブロック微量含む

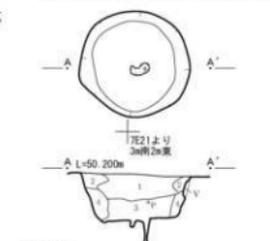
38号土坑



38号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまりやや疎 To-Mb20%含む (IV層由来)
- 2 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Mb20%含む (V層由来)
- 3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Mb10%含む
- 4 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Nb10%含む (V層由来)

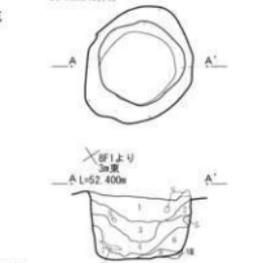
37号土坑



37号土坑

- 1 10YR1/7黒色 シルト 粘性中 しまり中
To-Mb30%含む (IV層由来)
- 2 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや密
To-Mb30%含む (V層由来)
- 3 10YR2/1褐色 シルト 粘性強 しまりやや疎
To-Mb15%含む (IV層由来)
- 4 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや疎
VI層がブロック状に入り面状七土
- V 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
To-Mb30%含む

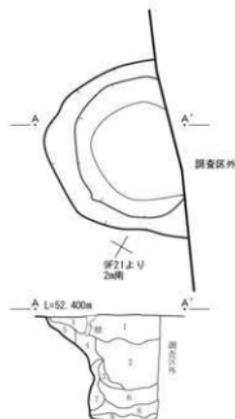
39号土坑



39号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Mb20%含む
- 2 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密
To-Mb20%含む・褐色土ブロック微量に含む
- 3 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Mb20%含む
- 4 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 To-Mb20%含む
褐色土塊状に含む
- 5 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり密 (VII層崩落土)
- 6 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり密 褐色土塊状に含む
- 7 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 褐色土塊状に含む
- 8 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
- IX 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや密 十和出高層テフラ層

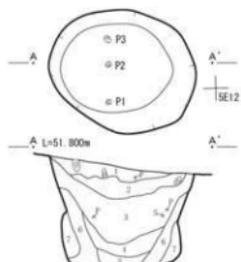
40号土坑



40号土坑

- 1 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり密 To-Nb10%含む (V層由来)
- 2 10YR3/6暗褐色 シルト 粘性強 しまり密 To-Nb20%含む (V層由来)
- 3 10YR4/6暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 To-Nb20%含む
- 4 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり密
To-Nb10%・10YR4/4褐色シルト50%含む成土をなす
- 5 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり密 To-Nb5%含む
- 6 10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり疎
- 7 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり疎 (埋層崩落土)
- 8 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり疎 (埋層崩落土)
- 9 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり疎

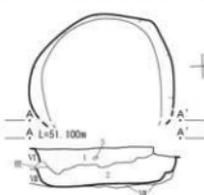
44号土坑



44号土坑

- 1 10YR4/3(古)黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり疎
根層が多い To-Cu中量含む
- 2 2.5Y黄色 砂質シルト 粘性弱 しまり疎 To-Cu 根層が多い
- 3 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性中強 しまり中密 炭化物粒微量含む
- 4 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中強 しまり疎 黄褐色土ブロック少量含む
- 5 10YR4/6暗褐色 シルト 粘性強 しまり密 黄褐色軽石少量 炭化物粒微量含む
- 6 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中強 しまり中密
- 7 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり中密 暗褐色土粒少量含む

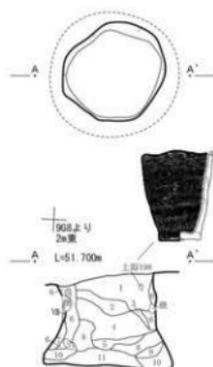
42号土坑



42号土坑

- 1 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性強 しまり中強 To-Nb10%含む (IV層由来)
- 2 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり中強 To-Nb20%含む
- 3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中強 To-Nb20%含む
- 4 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性中 しまり中強 To-H

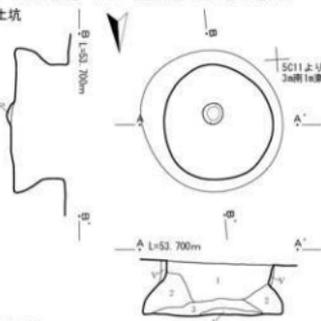
41号土坑



41号土坑

- 1 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性中強 しまり密
To-Nb5%含む (V層由来)
- 2 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 (IV層由来)
- 3 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中強 To-Nb5%含む
- 4 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中強
To-Nb5%含む (V層由来)
- 5 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 To-Nb5%含む
- 6 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
- 7 10YR4/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
- 8 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり疎 To-Nb3%含む
- 9 10YR4/6暗褐色 シルト 粘性中 しまり疎
- 10 10YR4/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり疎
- 11 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中強 しまり密 (V層由来)

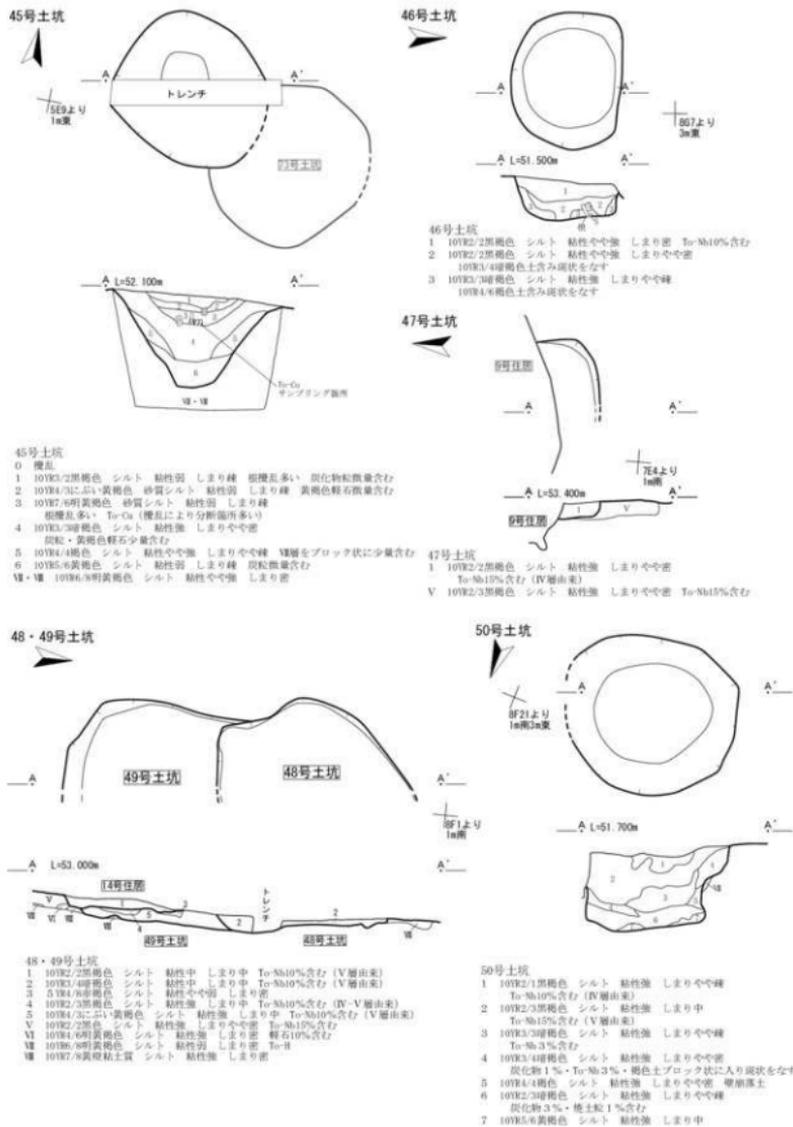
43号土坑



43号土坑

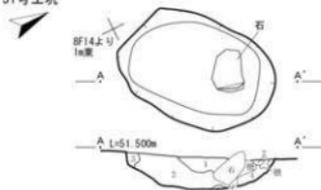
- 1 10YR2/1暗褐色 シルト 粘性中 しまり中強 暗褐色土ブロック3%含む
- 2 10YR2/2暗褐色 シルト 粘性中 しまり中強 暗褐色土ブロック5%含む
- 3 10YR1/7/1黒色 シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色土ブロック1%含む
- 4 10YR1/7/2黒色 シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色土ブロック7%含む
- 5 10YR1/7/1暗色 シルト 粘性強 しまり疎 明黄褐色土ブロック3%含む

第36図 40～44号土坑



第37図 45～50号土坑

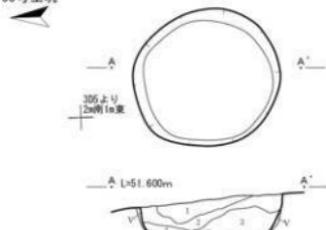
51号土坑



51号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
To:3h.5%含む (IV層由来)
- 2 10YR3/3暗褐色シルト 粘性強 しまりやや密
To:3h.5%含む (V層由来)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり密
10YR3/4暗褐色土混状を含む
- 4 10YR4/6褐色 シルト 粘性強 しまり中

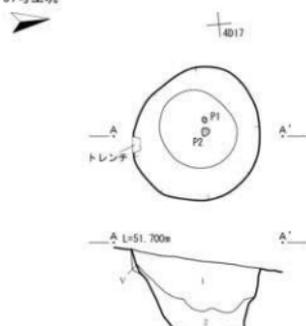
53号土坑



53号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや疎 軽石1%含む
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石3%・黒色土ブロック2%含む
- 3 10YR1/7土紅色 シルト 粘性中 しまり中 軽石3%含む
- 4 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック3%・軽石2%含む

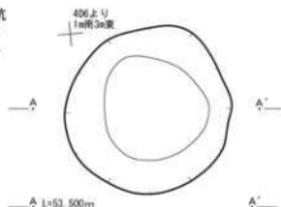
57号土坑



57号土坑

- 1 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや疎
黄褐色軽石少量含む
- 2 10YR1/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
黄褐色軽石少量・炭粒混入含む
- V 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
黒褐色土ブロック少量含む

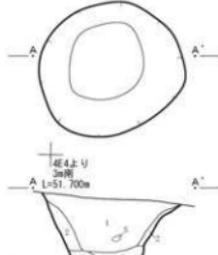
52号土坑



52号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密 To:Cu7%含む
- 2 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまり中 軽石5%含む
- 3 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密 褐色土ブロック3%含む

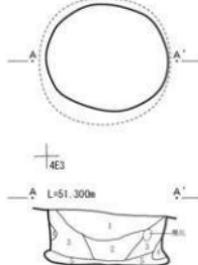
54号土坑



54号土坑

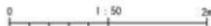
- 1 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 炭粒少量・
黄褐色軽石微量含む
- 2 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
層下に黄褐色土ブロック少量含む
- 3 10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや密
黄褐色軽石微量含む
- 4 10YR5/9黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密
暗褐色土ブロック微量含む

55号土坑

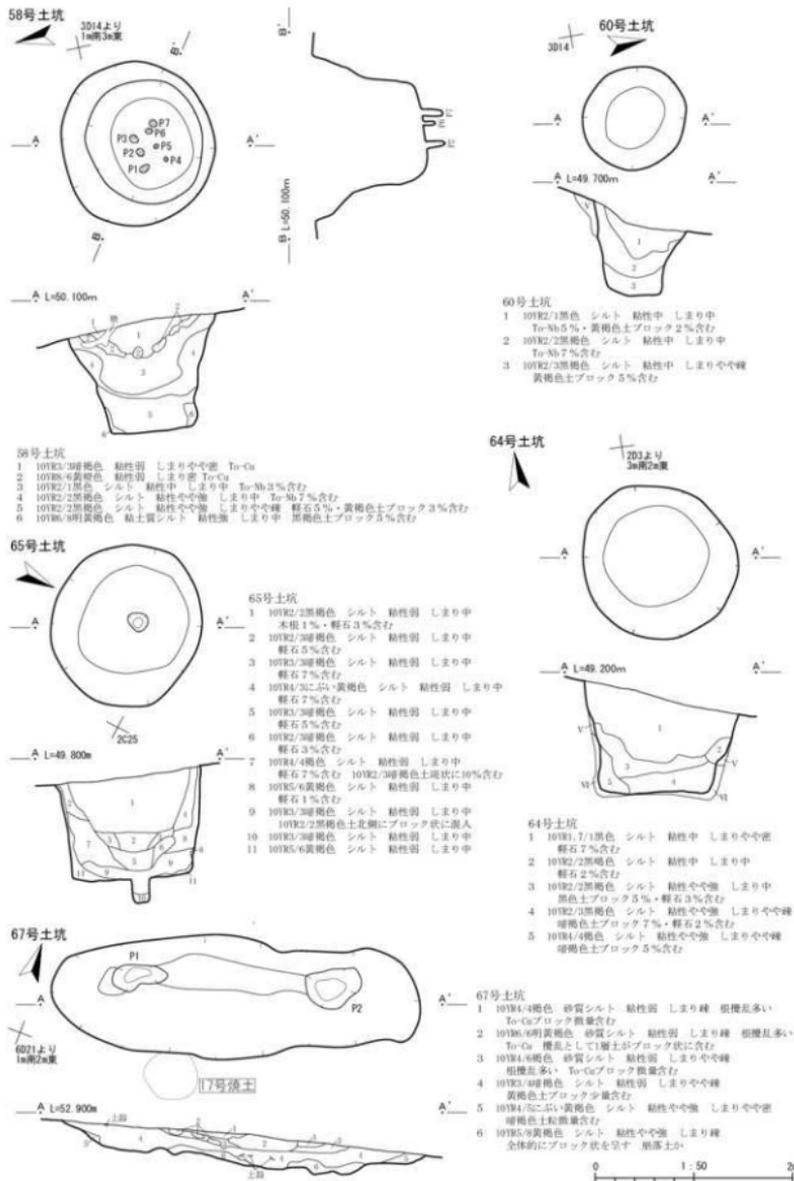


55号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり疎 炭粒混入・炭化物粒微量含む
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや疎 黄褐色土粒微量含む
- 3 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり疎 黄褐色土粒少量含む
- 4 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密 黄褐色土ブロック少量含む
- 5 10YR2/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり疎 黄褐色土粒微量含む



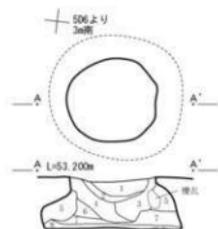
第38図 51～55・57号土坑



第39図 58・60・64・65・67号土坑

2 検出遺構

68号土坑



68号土坑

- 1 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり練 炭化物粒微量含む
- 2 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり練
- 3 1層に似る 黄褐色軽石少量含む
- 4 10TR4/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや練 炭化物粒微量含む
- 5 10TR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり練 黄褐色土ブロック少量・炭粒微量含む
- 6 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや練
- 7 4層に似る 黄褐色土ブロック少量含む
- 8 10TR5/4黄褐色 シルト 粘性弱 しまり練 黒褐色土ブロック微量含む

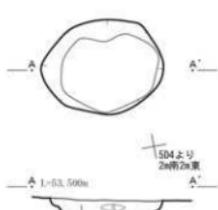
69号土坑



69号土坑

- 1 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり練 炭粒多い 黄褐色軽石少量含む

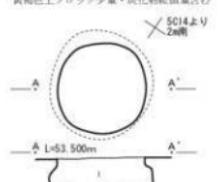
70号土坑



70号土坑

- 1 10TR3/4暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや練 黄褐色土ブロック少量・炭化物粒微量含む

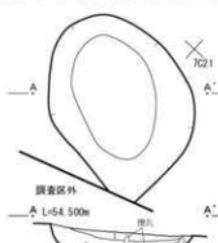
71号土坑



71号土坑

- 1 10TR1, 7/1 黒色土 シルト 粘性やや強 しまりやや練 黄褐色軽石2%含む

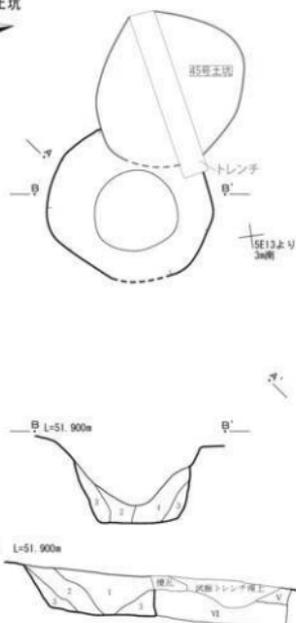
72号土坑



72号土坑

- 1 10TR4/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり練 黄褐色軽石微量含む
- 2 10TR4/6暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや練 黄褐色軽石少量含む
- 3 10TR6/6明黄褐色 砂質シルト 粘性強 しまり練 炭粒多い 堆山の崩落土か

73号土坑

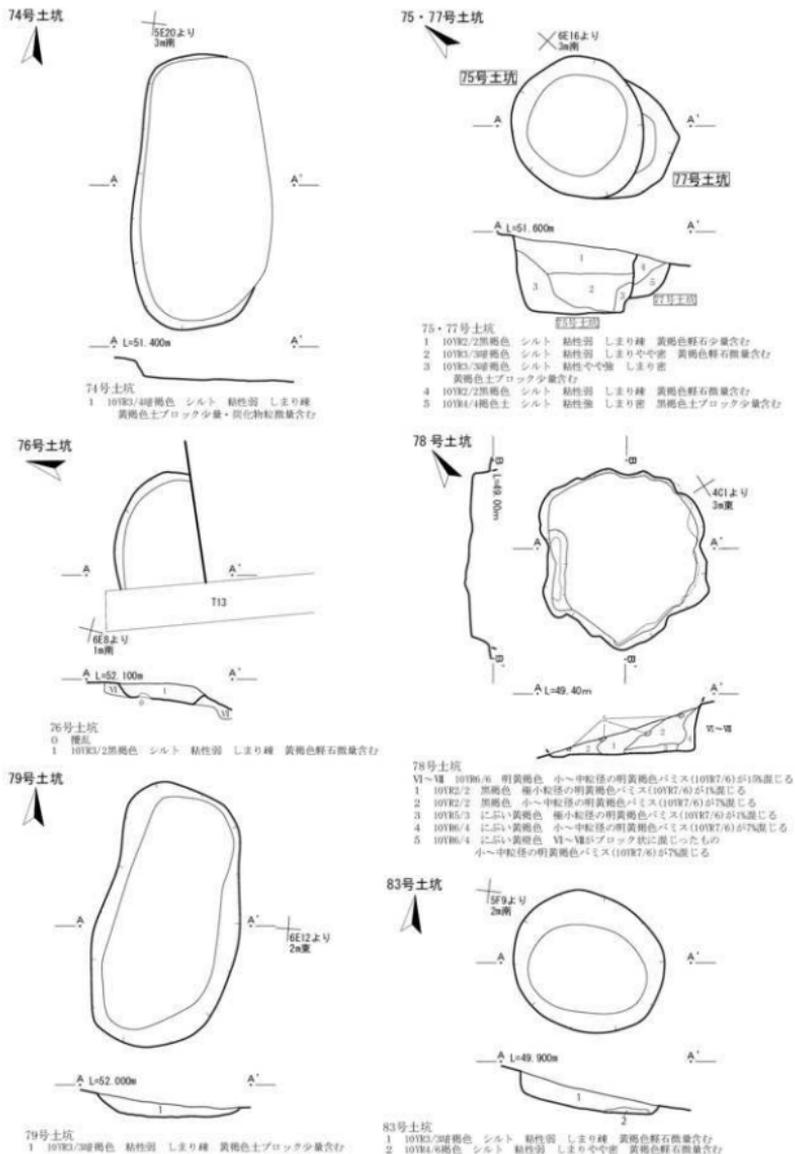


73号土坑

- 1 10TR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり練 黄褐色軽石少量含む
- 2 10TR4/4暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり練 炭化物粒微量含む
- 3 10TR5/4に似る黄褐色 シルト 粘性弱 しまり練
- 4 10TR4/6暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや練 暗褐色土ブロック微量含む



第40図 68～73号土坑



第41図 74～79・83号土坑

84号土坑



84号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
根椋乱多い、黄褐色土ブロック少量含む

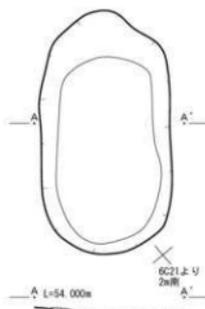
92号土坑



92号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 軽石 (径2~3mm) 5%含む
VI 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎 Tr=8.5%含む
VII 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり密

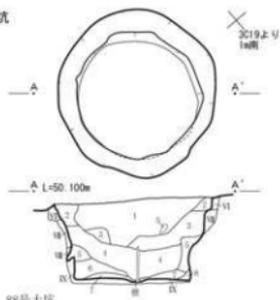
94号土坑



94号土坑

- 1 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
根椋乱多い、黄褐色軽石微量含む
2 10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎
黄褐色土ブロック少量含む

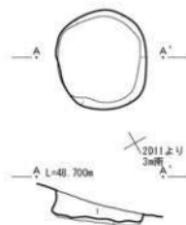
88号土坑



88号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや疎 しまりやや密
Tr=3% (径1~2mm) 10%含む (IV層由来)
2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや密
Tr=3% (径2~3mm) 10%含む (V層由来)
3 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや疎
Tr=3% (径2mm) 20%含む (IV-V層由来)
4 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや疎
Tr=3% (径2mm) 30%含む (V層由来)
5 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり疎
軽石 (径3mm) 10%含む (VI層由来)
6 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性強 しまり疎
軽石 (径3mm) 10%含む褐色土ブロック含む
7 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり疎
8 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり疎
VI 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり密
軽石 (径2~3mm) 10%含む
VII 10YR6/8暗褐色 シルト 粘性弱 しまり密
VIII 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性強 しまり密
IX 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性強 しまりやや疎

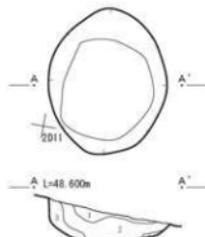
95号土坑



95号土坑

- I 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり中 Tr=3% (径2mm) 5%含む
VI 10YR4/6褐色 シルト 粘性強 しまり密 軽石 (径3mm) 20%含む

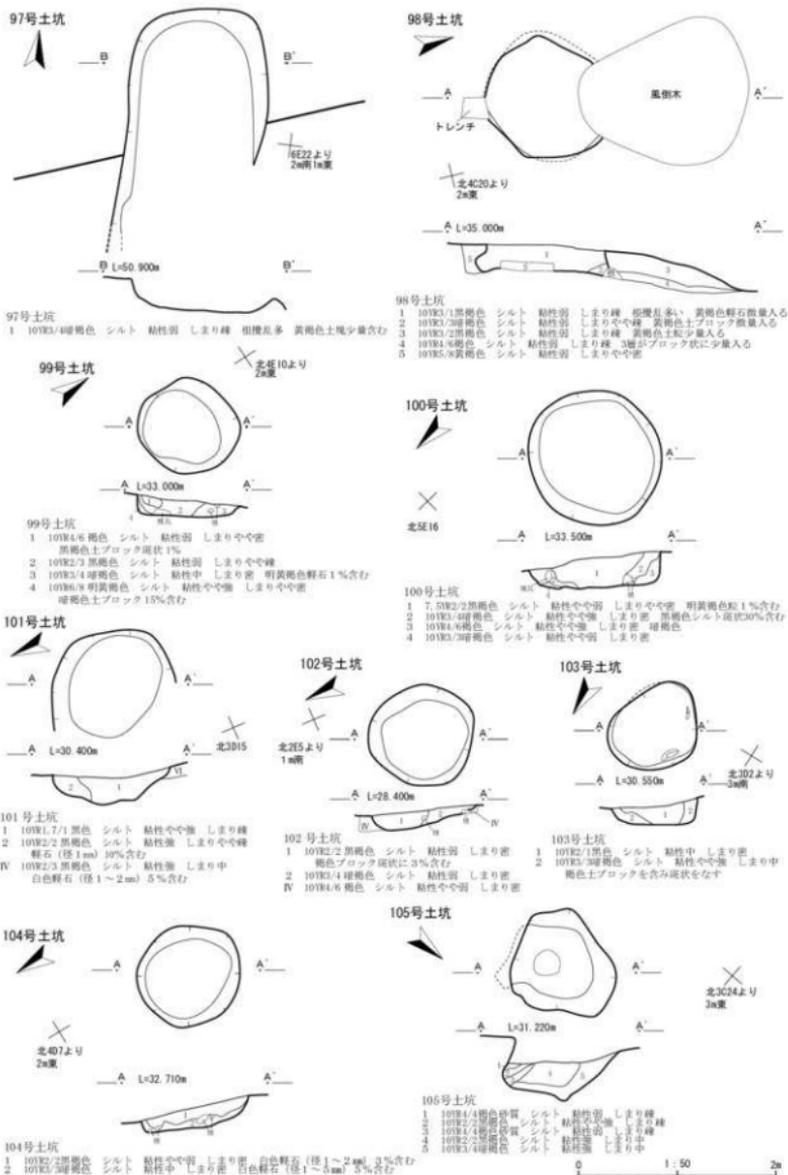
96号土坑



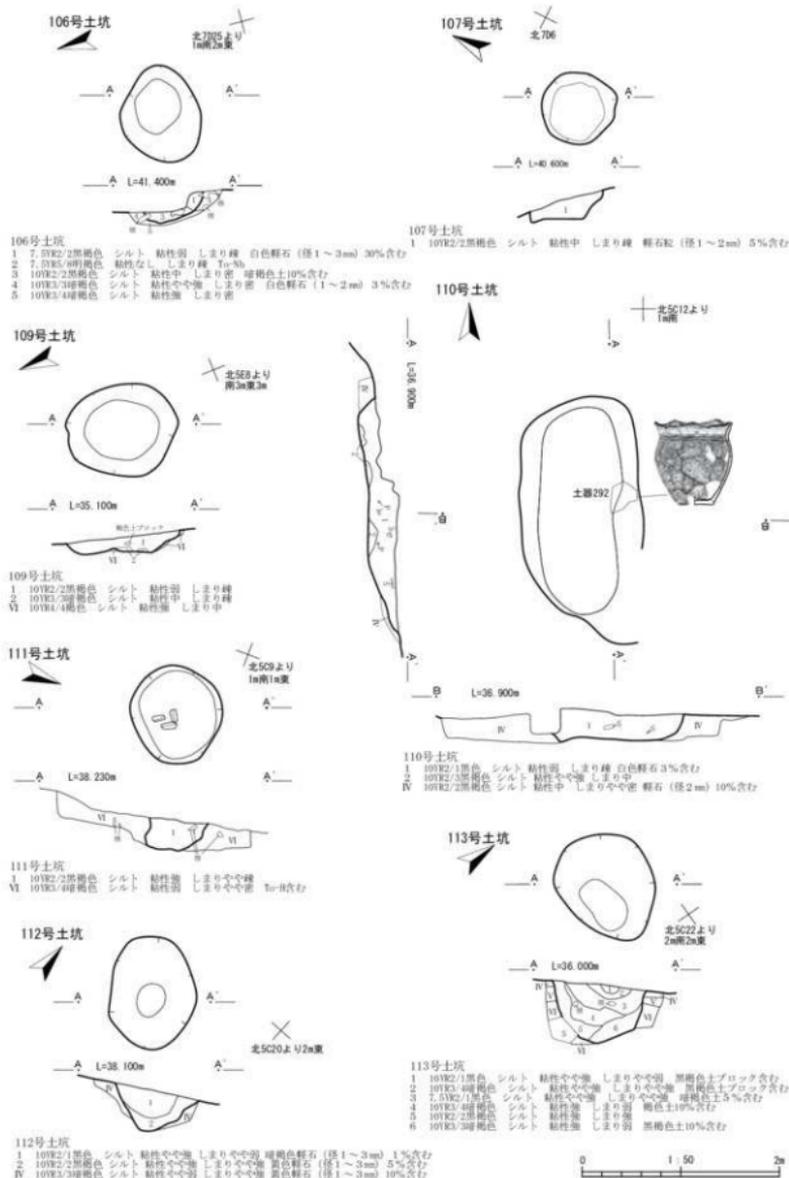
96号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまり中 (IV層由来)
2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
褐色土ブロック (径5mm) 1%含む
3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや密
軽石 (径2mm) 5%含む (IV層由来)

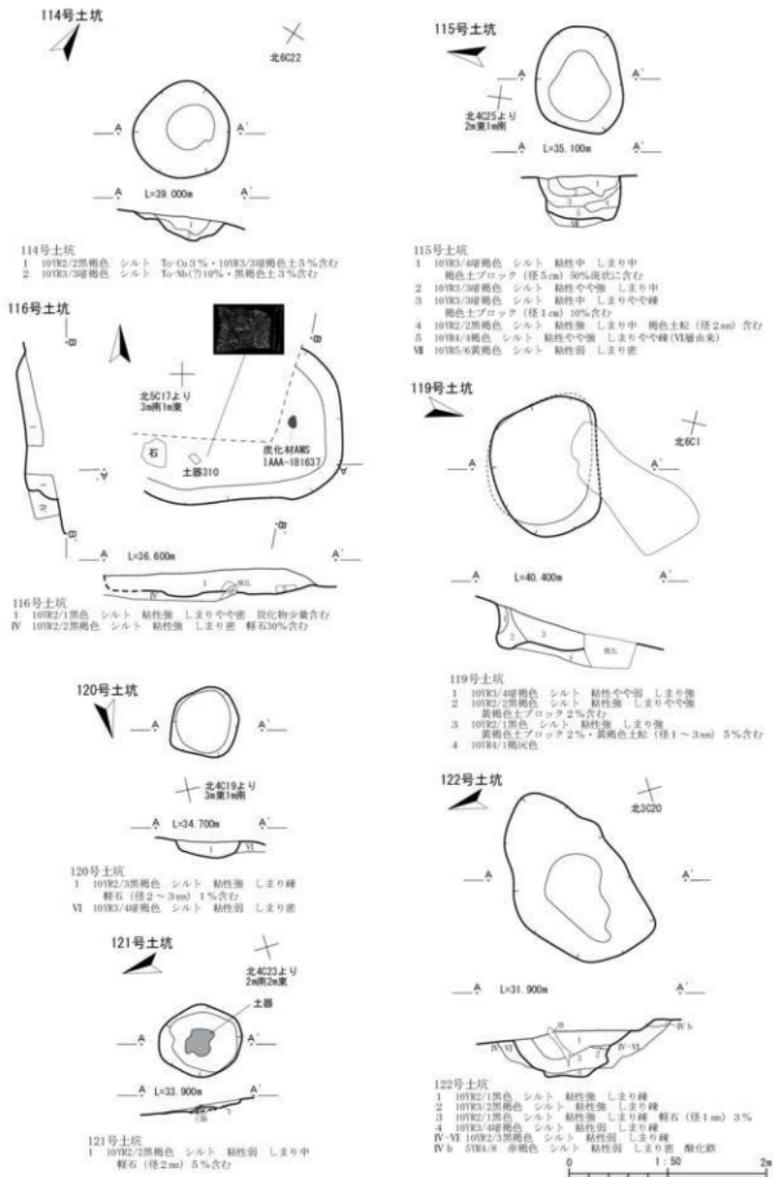
第42図 84・88・92・94～96号土坑



第43図 97~105号土坑

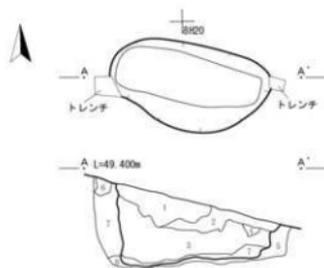


第44図 106・107・109～113号土坑



第45図 114~116・119~122号土坑

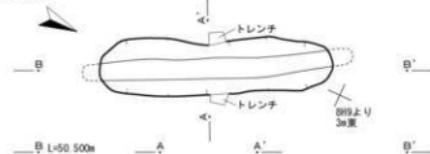
4号土坑



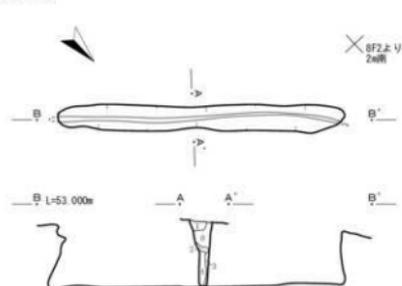
4号土坑

- 1 7.5VR1.7/1 黒色頁層原ボタ主体の埋土
細粒～中粒砂大の塊層が少量露出する
- 2 黒褐色 粗粒砂ボタ主体の偽装層土
細粒砂大の黄色軽石が散在
- 3 7.5VR2.1 黒色V層原ボタ主体の偽装層土
板細粒～細粒砂大の塊層黄色軽石が散在
- 4 7.5VR2.2 黒褐色V層偽装
- 5 7.5VR4.4 褐色VI・VII層ローム加工時層
- 6 7.5VR4.6 褐色ローム・VI層層
- 7 10VR5.6 黄褐色ローム・VII層層
- 8 7.5VR5.6 明褐色ローム・VIII層

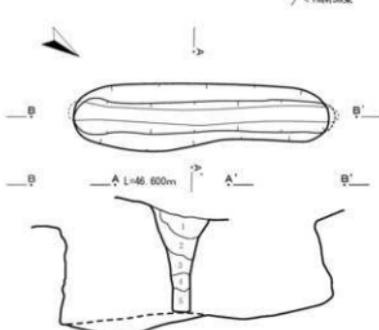
9号土坑



28号土坑



26号土坑



26号土坑

- 1 10VR2.1 黒色 シルト 粘性中 しまり中 軽石5%含む
- 2 10VR3.3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石3%含む
- 3 10VR3.4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや硬 軽石2%含む
- 4 10VR2.1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや硬 褐色土ブロック2%含む
- 5 10VR2.1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや硬 褐色土ブロック3%含む

9号土坑

- 1 10VR1.7/1 黒色シルト 縦り密
- 2 10VR5.6 黄褐色シルト 縦りやや密 黒色土を含み混り合う
- 3 7.5VR6.4にぶい明褐色粘土 塊層崩落土
- 4 10VR2.1 黒色シルト にぶい明褐色粘土を含み混り合う
- 5 10VR1.7/1 黒色シルト 縦り疎か
- VI 10VR3.4 暗褐色 ローム 粘性弱 しまり密
- VII 7.5VR5.6 明褐色ローム
- VIII 6.5VR5.6 假 ローム

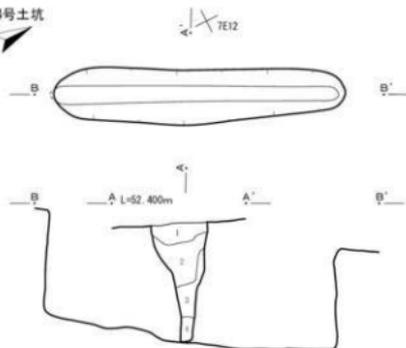
28号土坑

- 0 覆土
 - 1 10VR3.3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密 覆土多い
 - 2 10VR5.6 黄褐色 シルト 粘性強 しまり密 覆層崩落土
 - 3 10VR5.6 黄褐色 シルト 粘性強 しまり密 覆土多い
 - 4 10VR3.3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり疎
- 1層と異なる 黄褐色土ブロック少量含む

0 1:50 2m

第46図 4・9・26・28号土坑

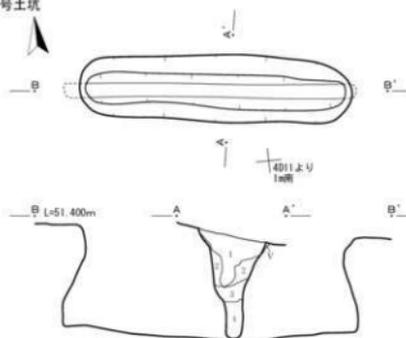
34号土坑



34号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
 2 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 軽石2%含む
 3 10YR2/2黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 軽石7%含む
 4 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 軽石3%含む

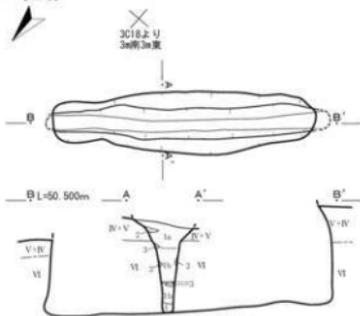
56号土坑



56号土坑

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土ブロック5%・軽石2%含む
 2 10YR5/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
 3 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
 4 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック5%含む

59号土坑

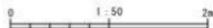


59号土坑

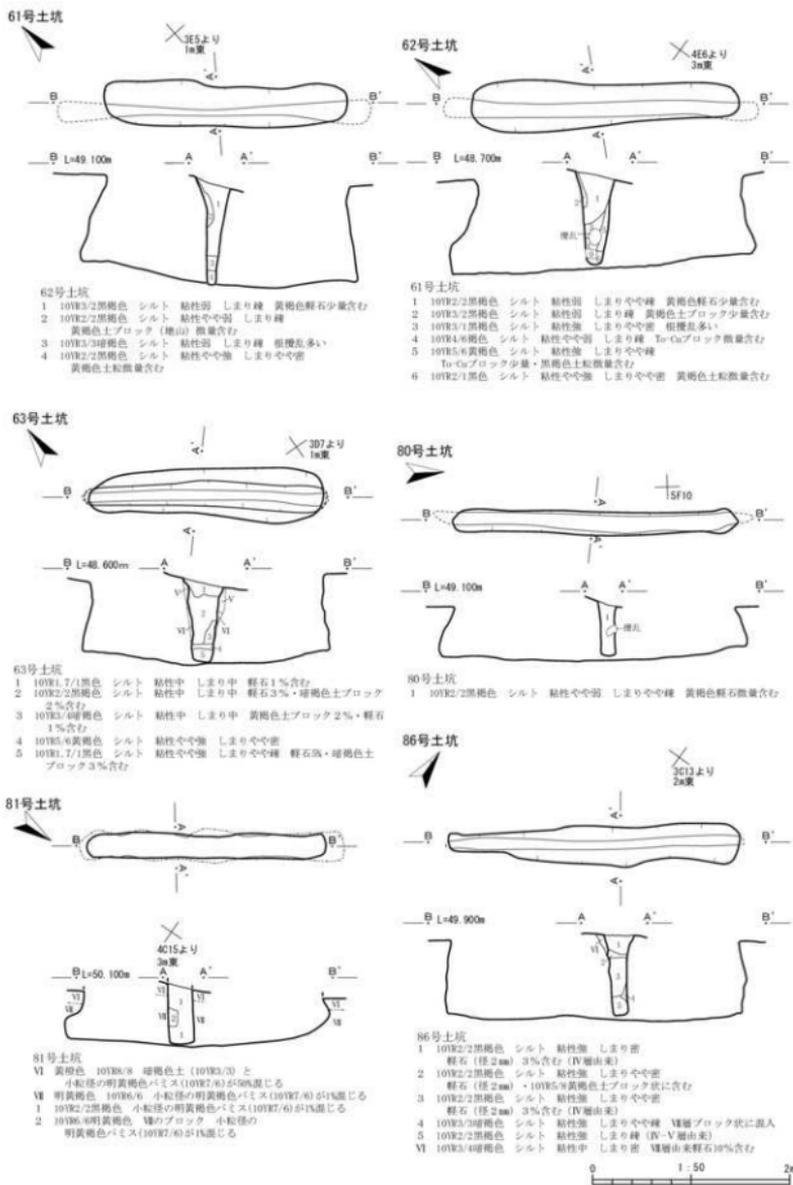
- V-IV 10YR3/1黒褐色 本層に伴う土 V層に入り込んだIV層主体の土
 V 10YR4/2こぶい・黄褐色

VI 10YR6/8明黄褐色

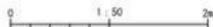
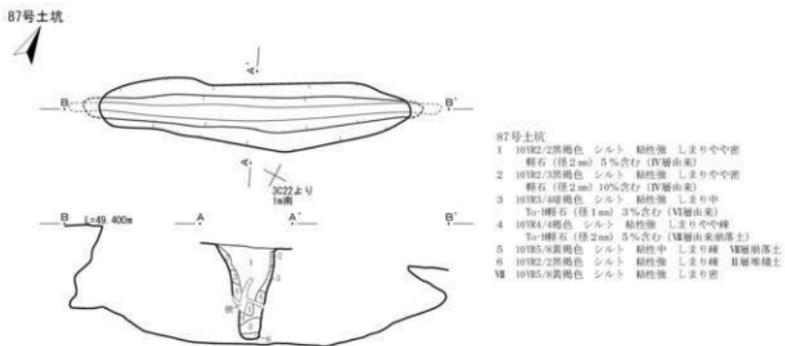
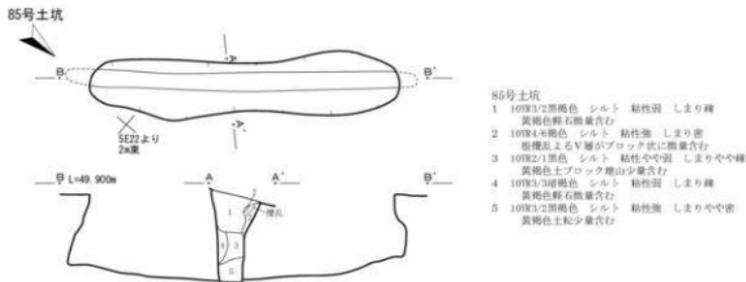
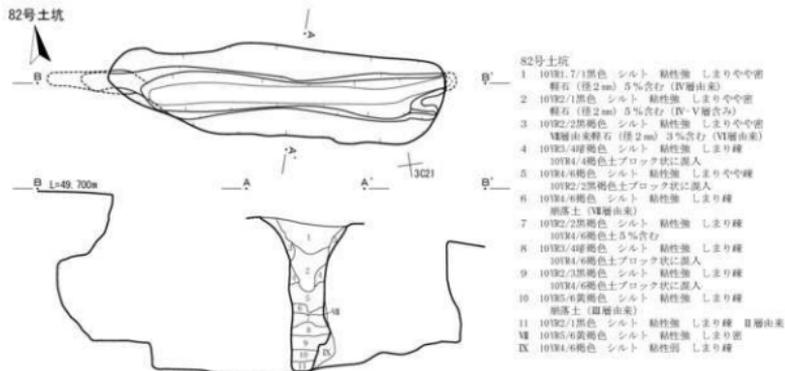
- 1a 10YR2/2暗褐色 明黄褐色をしたバース (Fe-NbとFe-Hb混合、海綿主体)が2%混じる ややしめる IV層主体
 1b 10YR2/2暗褐色 明黄褐色をしたバース (Fe-NbとFe-Hb混合)が10%混じる ややしめる IV層主体
 2 10YR4/2こぶい・黄褐色 V層の流入
 3 10YR6/8明黄褐色 V層ブロック状に混入あるいは、流入したもの
 4 10YR5/1暗褐色 IV層主体上にVI層土が混入したもの



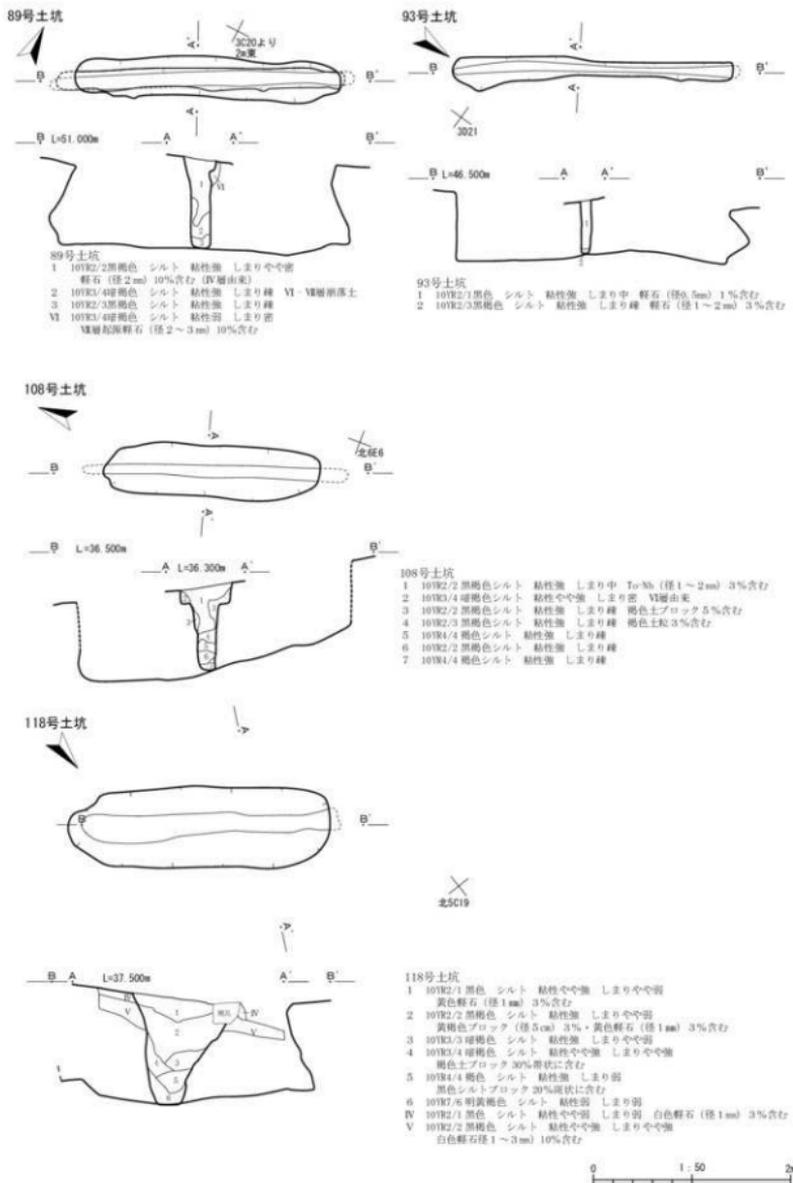
第47図 34・56・59号土坑



第48図 61・62・80・81・86号土坑



第49図 82・85・87号土坑



第50図 89・93・108・118号土坑

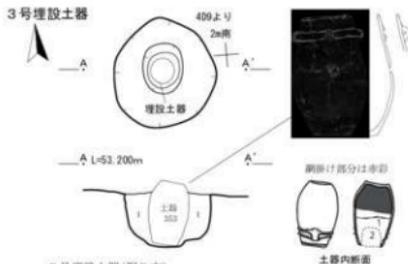
2号埋設土器



2号埋設土器

- 1 101R2/4黒褐色 シルト 粘性强 しまりやや硬
2 101R2/3黒褐色 砂質シルト 粘性强 しまり硬
3 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 To-Ni20%含む
4 101R2/3黒褐色 シルト 粘性强 しまりやや硬 軽石10%含む

3号埋設土器



3号埋設土器(掘り方)

- 1 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 浮石7%

3号埋設土器(土器内)

- 1 極小粒径の輝石赤褐色砂質土(2, 101R2/3)土器上部はしまりなし。上面に削削し土器底面がついてた。
2 磁器の範囲に4層に繋がる黒褐色土(101R2/3)に対して黄褐色土(101R5/6)が大粒径で見える。黒褐色土:黄褐色土=1:3の割合である。明黄褐色パイス(101R6/8)が極小から小粒径で1%混じる。ややしまる。

4号埋設土器



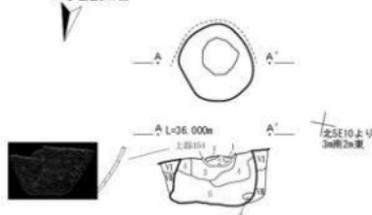
埋設土器掘り方



4号埋設土器基本層序(北区③)(A-A')

- 1~III 101R2/2黒褐色 しまりなし
To-Ni: 101R7/8黄褐色 極小粒径のパイスの混まり
木組埋土内層 101R2/2黒褐色 やや粘質を帯びる
木組埋土外層 101R4/8褐色 現代擾乱 101R4/2(4)黒褐色 しまりなし
V 101R3/2黒褐色 ややしまる
V~VI 7, 50R5/9明褐色 ややしまる グライ化のそばは粘質を帯びる
VI グライ化 101R7/2 に近い黄褐色 しまりあり グライ化のそばは粘質を帯びる
VI 50R5/9明褐色 しまりあり グライ化のそばは粘質を帯びる
4号埋設土器
1 101R4/4褐色 V~VI (IV~V) 黒褐色土中へ大粒径で10%混じる しまりあり
底面付近にはマンガンや鉄結晶が、それぞれ中粒径で2%ほど混在する しまりあり
2 101R6/8明黄褐色 V~VI層 あるいはV2 そのブロック状の入り込み
3 101R2/2黒褐色 IV~V 明赤褐色土(101R5/6) (粘土の可能性が高い)の中へ大粒径で10%混じる

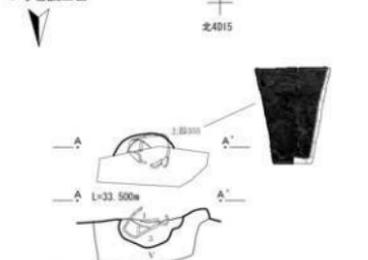
5号埋設土器



5号埋設土器

- 1 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 褐色軽石(径1mm)1%含む
2 101R3/2黄褐色 粘質シルト 粘性强 しまり中
3 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまりやや硬 褐色軽石(径1mm)1%含む
4 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまり硬 褐色軽石(径1~2mm)5%含む
5 101R2/2黒褐色 シルト 粘性强 しまりやや硬 褐色軽石(1~2mm)10%含む
6 101R4/4褐色 シルト 粘性强 しまり硬 プロック状
VI 101R4/4褐色 シルト 粘性强 しまり密 白色軽石(径1~2mm)5%含む
VII 101R3/6黄褐色 シルト 粘性强 しまり密

6号埋設土器



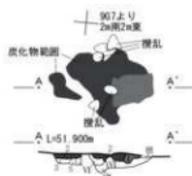
6号埋設土器

- 1 101R2/2 黒褐色 シルト 粘性强 しまり硬 軽石(径1mm)5%含む
2 101R2/1 黒色 シルト 粘性强 しまり硬
3 101R2/1 黒色 シルト 粘性强 しまり硬
V 101R2/2 黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 軽石(径1mm)10%含む



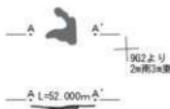
第51図 2~6号埋設土器

1号焼土



- 1号焼土
 1 5183/8明赤褐色 シルト 粘性弱 しまり密
 2 10183/4暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや疎
 VI 10183/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり疎
 VII 10184/6褐色 シルト 粘性弱 しまり疎

2号焼土



- 2号焼土
 1 5184/8赤褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや密

3号焼土



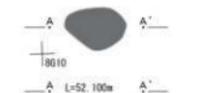
- 3号焼土
 1 2,5182/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり疎
 2 5185/8明赤褐色 シルト 粘性弱 しまり密
 VI 10182/3灰褐色 シルト 粘性中 しまり疎

4号焼土



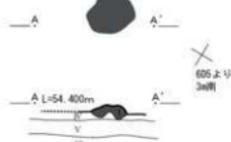
- 4号焼土
 IV 10183/3 暗褐色 ややしまりあり
 パイス(To-3b,6-To-10)が細小粒径~小粒径10%混じる
 V 10182/4 濃い黄褐色 ややしまりあり
 パイス(To-3b,6-To-10)が細小粒径~小粒径10%混じる
 VI 10186/8 明黄褐色 ややしまりあり
 1 5186/8 明褐色 ややしまりあり
 パイス(To-3b,6-To-10)が細小粒径~小粒径10%混じる

6号焼土

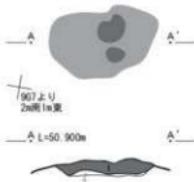


- 6号焼土
 1 5185/6明褐色 シルト 粘性弱 しまりやや疎

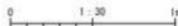
7号焼土



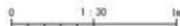
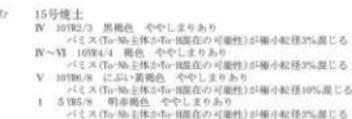
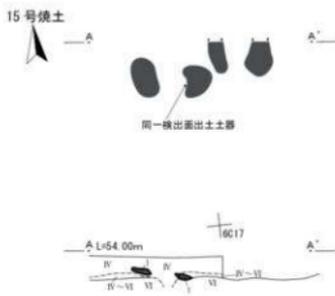
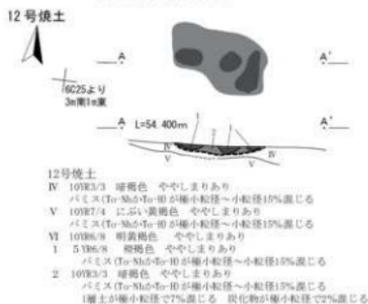
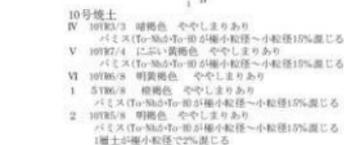
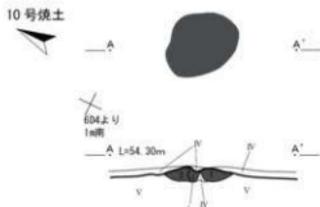
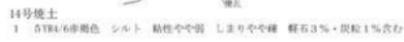
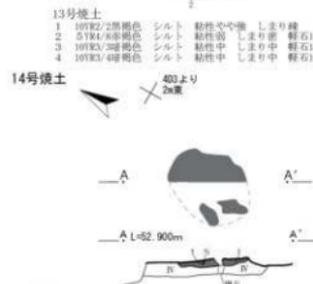
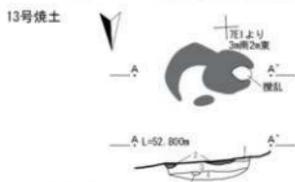
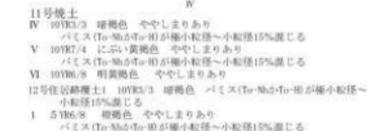
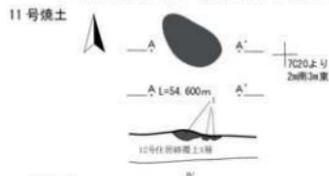
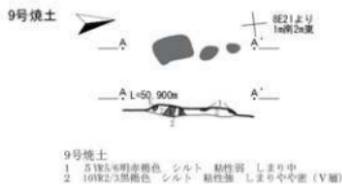
8号焼土



- 8号焼土
 1 5185/9明赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
 2 10184/6褐色 シルト 粘性強 しまり密 (VII層)

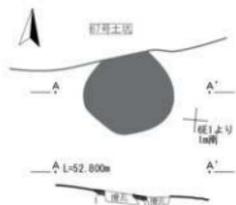


第52図 1~4・6~8号焼土遺構



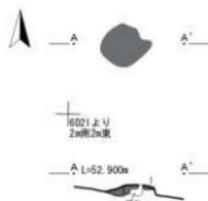
第53図 9~16号焼土遺構

17号焼土



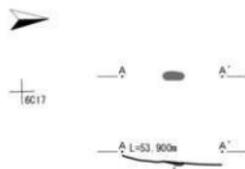
17号焼土
1 10YR4.6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり種 粗粒乱
焼乱によるV層土をブロック状に含む

18号焼土



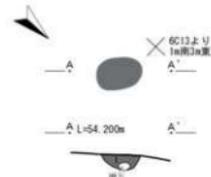
18号焼土
1 5YR4.8赤褐色 シルト 粘性やや弱 しまり種
被熱層 粗粒乱多い よく焼けている

19号焼土



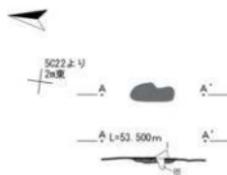
19号焼土
1 5YR4.8赤褐色 シルト 粘性弱 しまり種 粗粒多い

20号焼土



20号焼土
1 5YR3.0暗赤褐色 シルト 粘性やや弱 しまり種
粗粒乱多い 被熱層 小粒 (3~6mm) 少量入る よく焼けている

21号焼土



21号焼土
1 5YR4.6赤褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中



第54図 17～21号焼土遺構

1号配石



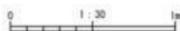
8018より
3m南



1号配石遺構

1 101R.2.3暗褐色 シルト 粘性強 しまり中や密 101R.4褐色ブロックが混在をなす

12 101R.5明褐色 シルト 粘性弱 しまり中 To-II



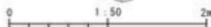
2号配石



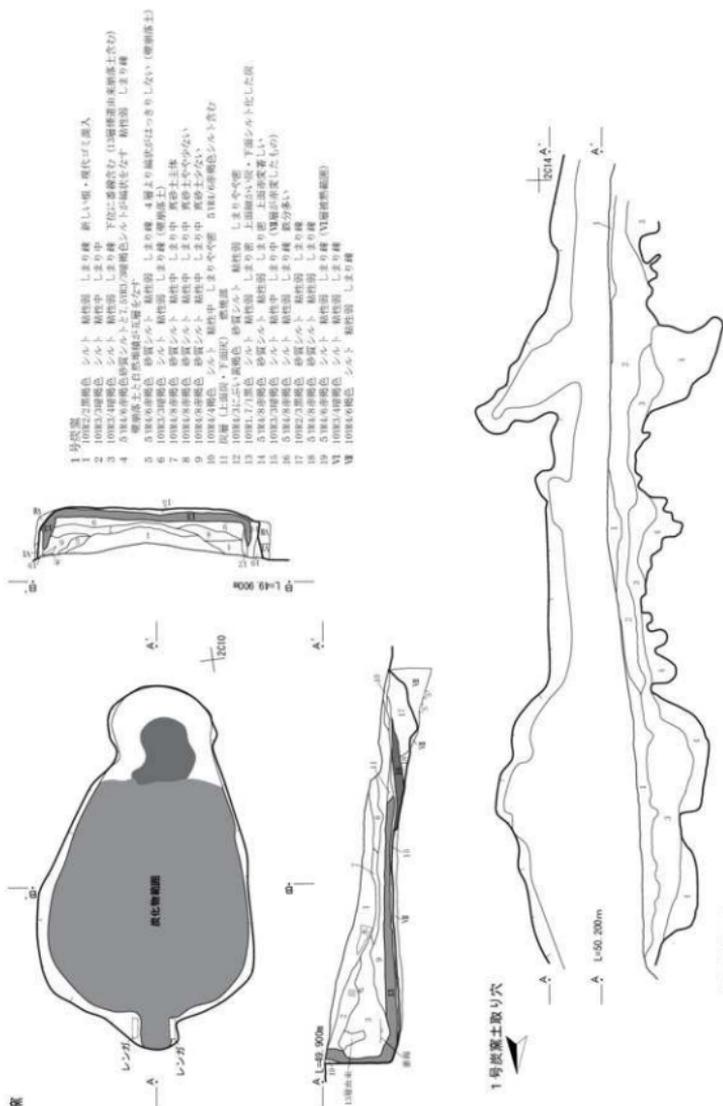
1920



1916



第55図 1・2号配石遺構



- 1号炭層
- 1 10182/2層褐色 シルト 粘性弱 しまり種 新しい順・現代の土層入
 - 2 10182/2層褐色 シルト 粘性中 しまり中 下に土層を含む (10層層面が土層構造上含む)
 - 3 10182/2層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 下に土層を含む (10層層面が土層構造上含む)
 - 4 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 礫層が土層構造上含む
 - 5 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 礫層が土層構造上含む
 - 6 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 7 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 8 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 9 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 10 10184/4層褐色 シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 11 10184/4層褐色 シルト 粘性中 しまり中 質砂土を含む
 - 12 10182/2層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
 - 13 10182/2層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 上面が土層・下面が土層
 - 14 10182/2層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 上面が土層・下面が土層
 - 15 10182/2層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 上面が土層・下面が土層
 - 16 10182/2層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 上面が土層・下面が土層
 - 17 10182/2層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
 - 18 10184/4層褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
 - 19 10184/4層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (VI層面参照)
 - 20 10184/4層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
 - 21 10184/4層褐色 シルト 粘性弱 しまり弱

- 1号炭層土取り穴
- 1 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 2 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 3 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 4 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 5 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 6 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 7 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 8 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 9 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 10 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 11 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 12 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 13 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 14 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 15 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 16 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 17 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 18 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 19 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 20 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む
 - 21 シルト 粘性弱 しまり弱 礫層 (厚1.0m) 10%含む

第56図 1号炭層

V 出土遺物

調査で出土した遺物の総量は、土器大コンテナ（42×32×40cm）112箱（総重量1,286.009kg）、石器類小コンテナ（42×32×10cm）369箱（総重量3,829.621kg）、土製品・石製品・銭貨である。各遺物の遺構内出土量は第3表のとおりである。

1 土 器

土器は縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期、弥生時代前期・中期・後期が出土している。早期～前期前葉は南区の住居跡・包含層を中心に出土し、後期～弥生時代は住居跡に伴って出土したものが多い。**実測図の図化方法** 手取り実測・拓本を基本とした。一部、株式会社ラングに委託してPE A KIT作図を行ったものがある。作図の表現については、拓本との整合性を重視し拓本調表現とした。なお、PE A KIT図に附した断面図は、手取り実測図を合成したものである。

実測図の掲載 土器は遺構内出土→大グリッド（南区北西から→北区北西から）順に掲載した。各遺構・グリッド内では年代順を基本としたが、早期後葉～前期初頭については縄文施文を後ろにまとめた。

土器分類（第262～272図） 出土土器は、時期別に分類し、縄文時代早期～中期に関しては該当する型式に細分した。分類にあたり、『青森県史資料編考古1旧石器縄文草創期～中期』（青森県史編さん友の会2017）・『青森県史資料編考古2縄文後期～晩期』（青森県史友の会2013）・『青森県史資料編考古3弥生～古代』（青森県史編さん考古部会2005）・『総覧 縄文土器』（2008）等を参考にした。

縄文時代早期 白浜式から寺の沢式までが多く、吹切沢式・物見台式・ムシリI式・赤御堂式・早稲田5類がやや少ない。

白浜式（小舟渡平式）（1010・1015・1219・1803他）

根井沼式（869他）

小田内沼I群3類（79・94・860他）

寺の沢式（1029・1226他）

吹切沢式（1527・1838・1857・1859他）

物見台式（797・1001・1054他）

ムシリI式（1058・1059・1060・1063・1232他）

赤御堂式（759他）

早稲田5類（69・490・751・1083・1244・1251他）

縄文時代前期 長七谷地Ⅲ群・早稲田6類・大木1式・大木2a式・大木2b式/白座式が多い。前期後葉はやや少ない。

長七谷地Ⅲ群・上川名式（13・23・1264・1356・1305・1306・1308・1309・1310・1313・1475・1476・1478・1482・1498・1566・1572・1676他）

早稲田6類（591・592・647・706・709・800・801・804・807・809・920・921・922・924・929・930・933・938・981・1664他）

大木1式（988他）

大木2a式（492・493・500・501・954・955・956）

大木2b式・白座式（366・371・412・414・432・434・446・951・1318・1431・1433・1450他）

円筒下層 d 式 (198・355・1115・1117・1152・1589・1637・1680 他)

縄文時代中期 遺構内及び遺構周辺から多く出土している。

円筒上層 b 式 (502・503・506 他)

円筒上層 c 式 (549・1817・1819・1820 他)

円筒上層 d 式 (113・541・609 他)

円筒上層 e 式 (29・961・1864 他)

大木 8 a 式 (564・627 他)

大木 8 b 式 (49・353 他)

榎林式 (409・679 他)

大木 9 式 (98・630・1850 他)

縄文時代後期 北区の遺構に伴って出土している他、周辺包含層からの出土が多い。

後期初頭 (410 他)

後期中葉～後葉 (114・130・134・149・1793・1853・1855・1905 他)

縄文時代晩期 北調査区から出土しており、大洞 A 式等後葉が多い。(140・142・1782・1799・1856 他)

弥生時代

北調査区から出土しており、前期・中期・後期がある。(169・425・1801・1899 他)

土器重量分布 (第273図) 北区は主に縄文時代後期・晩期・弥生時代、南区は縄文時代早期～中期の遺構が検出されている。それぞれ遺構内から出土した土器もあるが、近接する斜面地に多い傾向が認められる。北区は西の沢沿いと遺構内出土が多い。南区は、遺構以外では 4 D グリッドの緩斜面、6 C グリッド平坦面、7 E～7 G グリッドの緩斜面に多い。遺構が多い地点と遺構近くの緩斜面に多い傾向が認められる。

接合状況 (第274図) 小グリッドを跨いで接合している土器は概ね近い地点間で接合しているが、土器 13 は 5 号住居跡と 6 号住居跡、土器 29 は 6 a 号住居跡と 13 号住居跡間で接合している。

2 石 器

原石を含め、小コンテナ (42×32×10cm) 369 箱分の石器が出土した。石器は剥片を含め総点数 44,633 点に上る。

石鏃	尖頭器	石鏃	石匙	石匙	両面石器	石核	不定形石	石鏃
325点	34点	21点	219点	52点	70点	511点	1,603点	60点
557.67 g	602.22 g	74.13 g	2,159.10 g	1,432.13 g	820.20 g	1,274,827.1 g	26,668.47 g	7,656.71 g
石斧	礮器	磨削石器	特殊磨石	砥石	石皿	台石	剥片	合計
2,998点	1,444点	1,914点	675点	15点	11点	526点	35,055点	44,633点
300,978.10 g	569,989.42 g	668,808.67 g	350,478.06 g	2,574.60 g	8,808.50 g	1,216,983.30 g	543,597.10 g	3,829,621.09 g

実測図の図化方法 大部分は株式会社ランクに委託した。石皿・台石等、一部手取り実測もある。

分類 器種毎に属性・法量を基に細分した。観察表には分類を記載した。詳細は、遺物各説で説明する。

石材 岩手花崗岩協会に分析依頼をした。一部、玉類・磨製石斧に関しては、台湾中央研究院飯塚義之氏、フォッサマグナミュージアムに分析依頼したものがある。分析結果については、第 VI 章自然科学分析において詳述する。

実測図の掲載 遺構内出土石器は遺構毎にまとめ、遺構外出土石器は器種別に掲載した。

石鏃 (第275図) 長さ4.5cm以下で、扁平な左右対称の剥片石器を石鏃とした。成品229点、未成品96点、合計325点(557.67g)が出土している。

[分類] 形態的特徴から6分類8細分した。

I類 凹基鏃で凹みが著しいもの。(2159・2160・2200～2203)

II類 凹基鏃で凹みが浅いもの。

II A類 身幅が広いもの。(1912・1914・2205～2208)

II B類 身幅が細く、縦長のもの。(1911・1913・1932・2204・2209～2214)

III類 平基鏃。

III A類 二等辺三角形を呈するもの。(2065・2116・2143・2215～2219)

III B類 五角形を呈するもの。(1959・1964・2068・2227・2228)

IV類 円基鏃。(1915・1933・1956～1958・2220～2222)

V類 平基有茎鏃。(2223～2226)

VI類 基部が痛みを呈するもの。(1934・2229)

[分類別出土数] III A類が92点(40%)と最も多く、II B類45点(20%)、II A類25点(11%)、I類20点(9%)、IV類18点(8%)、V類17点(7%)で、III B・III・VI類が3～1%という組成比である。

[出土分布] 南区7Eグリッド・6Cグリッドに多く、次いで7F・7Gグリッドにやや多く、他は散在する傾向が認められる。II・III層出土は未製品2点のみで、ほとんどがIV～V層出土である。

[長幅分布] I類長さ1.508～3.500cm・幅1.166～2.244cm、II A類長さ1.682～4.024cm・幅0.926～2.244cm、II B類長さ1.995～3.878cm・幅0.876～1.544cm、III A類長さ1.630～3.627cm・幅0.941～2.167cm、III B類長さ2.682～3.650cm・幅0.935～1.930cm、IV類長さ2.084～4.395cm・幅0.940～1.740m、V類長さ2.005～4.350cm・幅0.971～1.626cm、VI類長さ2.005～3.281cm・幅0.971～1.626cmに分布する。

[石材] 頁岩220点(68%)、珪質頁岩70点(22%)で、全体の9割を占める。次いで凝灰岩15点(5%)、赤色頁岩9点(3%)、玉髓5点(1%)、チャート4点(1%)である。

尖頭器 (第276図) 長さ4.5cm以上で、扁平な左右対称の剥片石器を尖頭器とした。34点(602.22g)出土している。

[分類] 形態的特徴及び長さから3分類4細分した。

I類 基部形態が円基を呈するもの。(2235・2236)

II A類 長さが概ね6cm以上の円基をなすもの。(2234・2237～2240)

II B類 長さが概ね5cm以上で基部に痛み状の突起があるもの。(2230～2233・2241～2244)

III類 身部の形状が平基で、基部が長く凹基形をなすもの。(2051)

[分類別出土数] I類13点(45%)、II B類9点(31%)、II A類6点(21%)、III類1点(3%)である。

[出土分布] 調査区全体に散在しており、偏在する傾向は認められない。

[長幅分布] I類長さ4.561～6.116cm・幅1.673～3.531cm、II A類長さ6.000～12.157cm・幅1.420～4.103cm、II B類長さ4.82～11.393cm、幅1.354～2.788cm、III類長さ7.369cm・幅1.844cmである。

[石材] 頁岩22点(64%)、赤色珪質頁岩・珪質頁岩各4点(12%)、凝灰岩2点(6%)、メノウ・ホルンフェルス各1点(3%)である。

石鏟 (第277図) 先端部を鏟状に作出した剥片石器を石鏟とした。21点(74.13g)出土している。

[分類] 全体の形状から2分類した。

I類 棒状を呈するもの。(1965・2061・2154・2245～2249)

II類 握み部が明瞭なもの。(2250)

[分類別出土数] I類19点(86%)、II類3点(14%)である。

[出土分布] 調査区全体に散在する傾向がある。

[長幅分布] I類長さ2.48～6.16cm・幅0.83～1.534cm、II類3.822～5.642cm・幅1.79～3.426cmである。

[石材] 頁岩12点(55%)、珪質頁岩7点(32%)、ホルンフェルス2点(9%)、玉髓1点(4%)である。

石匙(第278図) 握みがあり、かつ刃部を備えた左右非対称の剥片石器を石匙とした。219点(2,159.1g)出土している。

[分類] 身部形態によって4分類10細分した。

I類 縦長で、刃部が左右と下部に施されているもの。刃部の傾きによって5細分した。

I A類 左右の刃部がほぼ垂直であるもの。(1987・2253～2255)

I B類 左右の刃部が同じ向きの弧状をなし、下部の刃部が弧の外側に傾斜するもの。(2258・2259)

I C類 一方の刃部が垂直、もう一方が弧状をなすもの。(2251・2252・2256・2257)

I D類 左右の刃部が同じ向きの弧状をなし、下部の刃部が内側に傾斜するもの。(2264)

I E類 左右の刃部が向き合う弧状をなし、下部の刃部が水平を呈するもの。(1916・2260～2262)

II類 縦長で左右に刃部があるもの。身部幅によって2細分した。

II A類 左右の刃部が同じ向き弧状をなし、身部が狭いもの。(1936・2267・2268)

II B類 左右の刃部が向き合う弧状をなし、身部が広いもの。(2017・2028・2119・2265・2266)

II C類 左右の刃部が同じ向きの弧状をなし、下部に握み部があるもの。(2269)

III類 斜長のもの。(2270・2271・2272)

IV類 下部の刃部に抉りが施されているもの。(2263)

[分類別出土数] II A類59点27%、I C類45点(21%)、II B類32点(15%)、I B類22点(10%)、I類13点(6%)、III類13点(6%)、I E類10点(5%)、II C類9点(4%)、I A類6点(3%)、IV類3点(1%)、I D類2点(1%)、II類2点(1%)である。

[出土分布] 南区6C・7Eグリッドに多く、7F・7Gが次ぐ。南区の堅穴住居跡が立地する頂部から斜面落ち際に多い傾向が認められる。

[長幅分布] 点数が多いため、グラフはI・II類分けて提示した。I A類長さ4.694～9.664cm・幅2.157～3.065cm、I B類長さ3.773～8.518cm・幅1.415～3.209cm、I C類長さ3.246～9.359cm・幅1.223～4.887cm、I D類長さ4.766～8.548cm・幅2.864～3.336cm、I E類長さ2.708～6.862cm・長さ1.522～3.740cm、II A類長さ3.748～8.935cm・幅1.078～7.800cm、II B類長さ2.21～7.064cm・幅1.28～4.022cm、II C類長さ4.264～9.402cm・幅1.118～2.084cm、III類長さ3.254～6.657cm・幅2.475～4.974cm、IV類長さ2.519～3.477cm・幅1.498～2.023cmである。

[石材] 頁岩(北上山地)257点(92%)、珪質頁岩12点(4%)、玉髓5点(2%)、頁岩(奥羽山脈)3点(1%)、凝灰岩2点(1%)、赤色頁岩1点(1%未満)である。

石筥(第279図) 平面形が楕形・長方形を呈し、左右対称で刃部があるものを石筥とした。52点(1,432.13g)出土している。

[分類] 刃部形態・刃部角度によって2分類4細分した。

I類 刃部形態が直線を呈するもの。

I A類 刃部角が鈍角をなすもの。(2140・2274)

I B類 刃部角が鋭角をなすもの。(2273)

II類 刃部形態が曲線を呈するもの。

II A類 刃部角が鈍角をなすもの。(2275～2277)

II B類 刃部角が鋭角をなすもの。(2278～2280)

[分類別出土数] II A類16点(31%)、I A類15点(29%)、II B類13点(25%)、I B類8点(15%)である。

[出土分布] 南区全体に散在している。

[長幅分布] I A類長さ3.638～7.491cm・幅2.379～4.158cm、I B類長さ3.305～7.563cm・幅2.165～3.989cm、II A類長さ4.398～8.360cm・幅2.166～4.901cm、II B類長さ3.874～11.666cm・幅1.977～4.182cmである。

[石材] 頁岩40点(77%)、珪質頁岩12点(23%)である。

両極石器(第280図) 両極剥離痕を有する剥片石器で、1対ないし2対の対向する2辺に刃部があるもの及び類似した形態の剥片石器を両極石器とした。70点(820.2g)出土している。

[分類] 剥片形態・刃部形態によって3分類5細分した。

I類 1対の対向する刃部があるもの。

I A類 刃部が短辺に作られたもの。(2099・2170・2281・2282・2286)

I B類 刃部が長辺に作られたもの。(2109・2162)

II類 2対の対向する刃部があるもの。(2098・2161・2285・2288)

III類 両極剥離によって生じた剥片で、対向する刃部がないもの。

III A類 I・II類と同様の形態を示すもの。(2287)

III B類 片面に円礫の自然面を残すもの。(2283・2284)

[分類別出土数] I A類20点(28%)、I B類18点(26%)、II類14点(20%)、III A類9点(13%)、III B類9点(13%)である。

[出土分布] 調査区全体に散在している。

[長幅分布] I A類長さ2.388～4.019cm・幅1.873～3.629cm、I B類長さ1.941～4.908cm・幅1.871～4.518cm、II類長さ2.157～5.026cm・幅1.871～4.518cm、III A類長さ2.559～4.520cm・幅1.845～4.771cm、III B類長さ2.625～4.773cm・幅2.246～3.325cmである。

[石材] 頁岩24点(35%)、珪質頁岩19点(28%)、チャート16点(23%)、赤色珪質頁岩4点(6%)、赤色チャート2点(3%)、チャート1点(1%)、赤色頁岩1点(1%)、メノウ1点(1%)、石英1点(1%)、凝灰岩1点(1%)である。

石核(第281図) 剥片剥離が行われた石器を石核とした。511点(127,482.71g)出土している。

[分類] 剥離面と剥離の方向から5分類6細分した。

I A類 一度の剥離が行われたもの。(1908・2071・2185・2194・2297・2300・2301・2303)

I B類 2つの剥離面に同一方向から複数の剥離が行われたもの。(2298・2302)

II類 複数の剥離が施された1つの剥離面を新たな打面とし、新たに1つの剥離面に複数の剥離が行われたもの。(2294・2299・2304～2313・2315)

III類 3つの剥離面に複数の剥離が施されたもの。(不掲載)

IV類 4つの剥離面に複数の剥離が行われたもの。(2296)

V類 全面に剥離が行われたもの。(1910・2053・2295)

[分類別出土数] I類205点(40%)、II類146点(29%)、IV類56点(11%)、I B類45点(9%)、III類32点(6%)、I A類16点(3%)、V類11点(2%)である。

[出土分布] 南区の竪穴住居跡が位置する地点を中心に出土している。中でも7Eグリッドに多い。

[長幅分布] I A類長さ4.443～16.19cm・幅3.707～12.42cm、I B類長さ2.74～12.068cm・幅1.597～11.291cm、II類長さ2.840～16.367cm・幅2.005～22.8cm、III類長さ2.165～10.557cm・幅2.493～9.809cm、IV類長さ2.778～12.201cm・幅2.134～10.864cm、V類長さ2.552～7.960cm・幅1.216～7.488cmである。

[石材] 全点分析を行わなかったため詳述できないが、頁岩・珪質頁岩・チャートが大部分を占めている。

不定形石器(第282図) 剥片石器のうち、定型石器を除いたものを不定形石器とした。1,603点(26,668.47g)出土している。

[分類]

I類 側縁に刃部があるもの。(1919・1920・1945・1947・1968・1976・1977・1988・2018・2024・2034・2036・2037・2046・2056・2078・2095・2114・2125・2131・2132・2136・2156・2163・2167・2168・2171・2178・2189・2291・2314)

II類 側縁から端部にかけて刃部があるもの。(1917・1969・2008・2010・2022・2023・2029～2031・2035・2052・2081・2088・2089・2094・2101・2120・2130・2145・2177・2289・2290・2292)

III類 下部に刃部があるもの。(1918・1935・2113・2122・2172・2188)

IV類 握り部に刃部があるもの。(2144・2179・2182)

V類 鋸歯状の刃部があるもの。(1946・1978・2074)

[分類別出土数] I類1,410点(88%)、II類148点(9%)、IV類27点(2%)、III類12点(1%)、V類7点(1%未満)である。

[出土分布] 南区6C・7Eグリッドに特に多い傾向が認められる。

[長幅分布] I類長さ1.146～15.49cm・幅0.667～14.364cm、II類長さ1.63～10.112cm・幅0.985～6.28cm、III類長さ2.29～10.2cm・幅2.73～13.3cm、IV類長さ1.9～10.139cm・幅1.817～6.705cm、V類3.46～7.377cm・幅2.633～4.967cmである。

[石材] 全点分析を行わなかったため詳述できないが、頁岩・珪質頁岩が大部分を占めている。

剥片(第283図) 35,055点(543,597.1g)出土している。遺構内出土は剥片848点、礫剥片594点である。調査区全体では、7E・6C・7F・7Gグリッドに多く、他器種同様遺構に近い緩斜面から出土する傾向が認められる。

石錘(第284図) 楕円形の扁平礫を用いて、短辺に対になる握りを施した礫石器を石錘とした。60点(7,656.71g)出土している。(2316～2326)

[出土分布] 6Cグリッドに多いのは剥片石器と同様の傾向であるが、7Eグリッドには偏らず、7G・8Gグリッドにやや多い。

[長幅分布] 長さ4.085～17.765cm、幅3.089～8.795cmである。大形の石錘もあるが、長さ4～10cm・幅3～7cmにまとまりが認められる。

[石材] 砂岩が30点(49%)で約半数を占め、ホルンフェルス6点(10%)、チャート6点(10%)、デイサイト・頁岩各5点(8%)、花崗岩2点(3%)、花崗閃緑岩・細粒花崗閃緑岩・花崗斑岩・石英斑岩・細粒花崗閃緑岩・細粒閃緑岩・玄武岩が各1点(2%)である。

石斧 (第285～287・289・290図) 三陸沿岸北部は、片面に自然面を残した打製石斧が多く出土することが以前から知られている(宮古市教委1979・工藤1993)。近年、岩埋文による三陸沿岸道路関連発掘調査において事例が増加し、これらの石斧は磨製石斧生産に伴うものだという考えが示されている他(岩埋文2018・2019・2020)、片面調整打製石器という観点では、普及村力持遺跡で「力持型スクレイパー」(岩埋文2019)に分類されたものも含む。本書では、打製石斧・磨製石斧に区分せず、石斧として報告する。2,098点(300,978.10g)出土している。

[分類] 石斧製作工程によって6分類した他、刃部形・割れ方の観察項目を加えて分類した。

I類 粗割段階のもの。(1921・1922・1926・1948・1980・1991・1992・1997・2381・2350他)

II類 敲打段階のもの。(1925・1981・2176・2394～2409・2411～2420)

III類 敲打痕と研磨が認められるもの。(1974・1996・1998・2079・2410・2421～2480・2482・2486・2487・2489・2490・2505他)

IV類 粗割に直接研磨が施されているもの。(2025・2102・2491～2504・2506～2521)

V類 研磨が著しいもの。(2164・2478・2481・2483～2485・2488・2522～2550)

VI類 転用の痕跡が認められるもの。(2370・2551・2552)

刃部形態 1類弧状をなすもの。 2類直線をなすもの。

割れ方 a 基部近くで横方向に割れたもの b 刃部近くで横方向に割れたもの c 中央付近で横方向に割れたもの d 縦方向に割れたもの e 破片で部位が判断できないもの

[分類別出土数] I類1818点(87%)、II類95点(4%)、III類79点(4%)、IV類54点(3%)、V類50点(2%)、VI類2点(1%未満)である。

[出土分布] 6Cグリッド北西、7Eグリッドから多く出土している。

[長幅分布] I類長さ3,701～20,919cm・幅1,700～12,926cm、II類長さ6,280～22,95cm・幅2,473～8,657cm、III類6,607～16,014cm・幅3,108～7,395cm、IV類4,510～15.8cm・幅1.61～7.9cm、V類3,865～10,968cm・幅2,042～5,943cm、VI類長さ7,636cm・幅5,576cmである。

[素材別点数] 横長剥片1,373点(74%)、礫294点(16%)、不明138点(7%)、縦長剥片54点(3%)、不明剥片5点(1%未満)である。礫そのままを使用したものは16%に限られ、礫から得られた横長剥片を使用したものが圧倒的に多い。

[石材] 花崗閃緑岩系571点(27%)、砂岩501点(24%)、デイサイト321点(16%)、ホルンフェルス286点(14%)、頁岩129点(6%)、礫岩90点(4%)、ヒン岩48点(2%)、凝灰岩系44点(2%)、安山岩27点(1%)、流紋岩25点(1%)、アオトラ石19点(1%)、玄武岩10点(1%)である。

I類は花崗閃緑岩系・砂岩・デイサイト・ホルンフェルスなど在地石材が多い。一方で、アオトラ石を使用した石斧はV類に限られている。

[接合関係] 近距離接合に限られず、最も離れた地点同士で接合している2491は80m離れている。

礫器 (第288～290図) 自然礫を使用し、片面ないし両面・全周に刃部が形成されているものを礫器とした。石斧未成品の初期段階に相当する可能性が考えられる。1,444点(569,989.42g)出土している。

[分類] 刃部位置で3分類し、刃部方向で細分した。

I A 1類 1辺に刃部が形成され、片刃であるもの。(1906・1941・1960・1961・1982・1993・1999・2011・2012・2032・2067・2091・2093・2126・2141・2147・2150・2151・2152・2186・2191・2196)

I A 2類 1辺に刃部が形成され、両刃であるもの。(2057・2121)

I B 1類 2辺に刃部が形成され、片刃であるもの。(2111・2138・2149・2199・2555)

I B 2 類 2 辺に刃部が形成され、両刃であるもの。(2073)

I C 1 類 全周に刃部が形成され、片刃であるもの。(不掲載)

I C 2 類 全周に刃部が形成され、両刃であるもの。(2165)

[分類別出土数] I A 1 類1229点 (85%)、I C 1 類77点 (5%)、I A 2 類69点 (5%)、I B 1 類37点 (3%)、I C 2 類21点 (1%)、I B 2 類11点 (1%以下)である。

[出土分布] 北区はごく少量で、南区に多い。南区の分布状況はモザイク状で、南側は少ない。

[長幅分布] I A 類長さ3.203 ~ 77.150cm・幅0.596 ~ 17.200cm、I B 類長さ3.834 ~ 17.639cm・幅4.222 ~ 12.790cm、I C 類長さ4.207 ~ 20.511cm・幅2.060 ~ 12.809cmである。

[石材]1444点中82点のみ石材分析を行った。砂岩28点、頁岩12点、細粒花崗閃緑岩7点、ホルンフェルス7点、デイサイト7点、珪化木7点、細粒閃緑岩3点、安山岩3点、凝灰岩2点、アブライト(半花崗岩)1点、花崗閃緑岩1点、珪質頁岩1点、玄武岩1点、チャート1点、ヒン岩1点、である。

敲磨器類(第291 ~ 296図) 磨石・敲石は使用痕が複合しているものが多い。そのため、本報告書では磨石・敲石・凹石・板状敲石・多面体敲石を敲磨器類とした。特殊磨石については、総量が多いことから個別に扱うこととした。1914点(668.808.67g)出土している。

[分類]

I 類 磨面をもつもの。

I A 類 礫平坦面に磨面をもつもの。(2013・2027・2048・2062・2133・2148・2169・2553・2554・2593・2594)

I B 類 礫端部に磨面をもつもの。(2092・2635)

II 類 敲打痕のあるもの。

II A 類 礫端部に敲打痕があるもの。(1909・1931・1994・2005・2006・2054・2058・2066・2124・2129・2134・2137・2142・2158・2592)

II B 類 礫平坦面に敲打痕があるもの。(1942・1949・2072・2084・2591)

II C 類 礫端部及び平坦面に敲打痕があるもの。(1940・1983・1984・1985・2040・2083・2096・2106・2589)

II D 類 礫側面に敲打痕があるもの。(不掲載)

II E 類 礫端部・平坦面・側面に敲打痕があるもの。(不掲載)

III 類 敲磨痕があるもの。

III A 類 礫平坦面に磨面があり、端部に敲打痕があるもの。(2044・2047・2049・2059・2173)

III B 類 礫平坦面に磨面と敲打痕があるもの。(不掲載)

IV 類 平坦面に凹みがあるもの。

IV A 類 平坦面に凹みが1つあるもの。(2004・2596 ~ 2600)

IV B 類 平坦面に凹みが2つあるもの。(2601・2602)

IV C 類 平坦面の凹みが列状につながるもの。

V 類 平面形が円形の扁平礫を使用した敲石。板状敲石。

V A 類 端部1箇所に敲打面があるもの。(2128・2603・2619)

V B 類 対向する端部に敲打面があるもの。(2153・2604・2606・2607・2609)

V C 類 3方向に敲打面があるもの。(2605・2608)

V D 類 敲打面が端部を全周するもの。(1951・1962・2063・2076・2085・2086・2610 ~ 2612)

VI 類 球体の敲石。多面体敲石。

- VI A類 端部1箇所に敲打面があるもの。(2064・2187・2613～2618)
 VI B類 対向する端部に敲打面があるもの。(2620～2623)
 VI C類 下半球に敲打面があるもの。(2060・2107・2195・2197・2624・2629・2631)
 VI D類 全面に敲打面があるもの。(2632～2634)
 VI E類 3方向に敲打面があるもの。(2108・2626)
 VI F類 敲打面が端部を全周するもの。(2625・2627・2628・2630)

[分類別出土数] II類951点(50%)、VI類613点(32%)、V類168点(9%)、IV類109点(6%)、I類64点(3%)、III類9点(1%未満)である。

[出土分布] 第292図にI～VI類、第293図にV類板状敲石、第294図にVI類多面体敲石の出土分布図を掲載した。V類板状敲石は北区にはごく少量で南区に多く散在し、VI類多面体敲石は南区の早期前期住居跡周辺の緩斜面に多い傾向が認められる。

[長幅分布] I類長さ6.381～19.780cm・幅2.275～11.936cm、II類長さ0.952～20.500cm・幅2.562～13.229cm、III類長さ9.204～14.785cm・幅5.990～9.210cm、IV類長さ7.303～17.165cm・幅3.529～11.726cm、V類長さ5.195～12.577cm・幅3.651～10.850cm、VI類長さ3.761～13.395cm・幅4.126～11.161cmである。

[石材] I～IV類は砂岩・デイスait・ホルンフェルスが多く、V類は重量のあるはんれい岩・細粒はんれい岩、VI類は硬いチャートが卓越する傾向がある。

[接合関係] 50m程度離れた地点間の接合がある他、VI類多面体敲石2628は90m離れた地点間の接合である。

特殊磨石(第297・298図) 平面形が半円形で断面形が三角形をなし、半円の直線側に磨面があるものを特殊磨石とした。675点(350.478.06g)出土している。

[分類]

- I類 直線側に磨面があるもの。(1907・1927・1928・1939・1952・1953・1973・2000・2002・2021・2033・2038・2039・2097・2104・2105・2184・2557～2560・2562・2563・2565・2567・2587・2590)
 II類 直線側に磨面があり、端部に敲打痕があるもの。
 II A類 直線側に磨面があり、下端部1箇所に敲打痕があるもの。(1989・2077・2127・2556・2574・2576・2579・2583・2584)
 II B類 直線側に磨面があり、上下端部に敲打痕があるもの。(2146・2581)
 II C類 直線側に磨面があり、下端部1箇所と弧線側に敲打痕があるもの。(2568・2571・2572)
 II D類 直線側に磨面があり、弧線側に敲打痕があるもの。(2561・2569・2570・2578・2585・2586)
 III類 直線側に磨面があり、平坦面に敲打痕があるもの。(2564・2566・2573)
 IV類 直線側と弧線側に磨面があるもの。(2123)
 V類 直線側に磨面があり、平坦面に凹みがあるもの。
 V A類 直線側に磨面があり、平坦面に著しい凹みがあるもの。(1995・2577)
 V B類 直線側に磨面があり、凹みがあるもの。(2001・2103)
 VI類 直線側に磨面があり、上下端部に著しい敲打があつて磨面側が削られているもの。敲石転用。(2580・2582)

[分類別出土数] I類458点(68%)、II A類118点(17%)、II B類34点(5%)、V B類17点(3%)、

V A類13点(2%)、II D類10点(1%)、II C類8点(1%)、VI類6点(1%)、III類4点(1%)、IV類4点(1%)、II類2点、V類1点である。

[出土分布] 北区出土はわずか1点で、分布域は南区が主体である。南区内では6C・7Eグリッドに集中する他、早期中業住居跡周辺からも多く出土している。

[長幅分布] I類長さ4.3～10.563cm・幅7～18.55cm、II類長さ8.9～21.4cm・幅3.99～12.2cm、III類15.67～16.9cm・幅6.46～9.2cm、IV類8.02～15.4cm・幅3.22～6.6cm、V類長さ11.396～17.40cm・幅5.74～8.5cm、VI類長さ8.6～11.8cm・幅6.907～9.1cmである。

[石材] 石材分析は56点について行った。砂岩29点、花崗閃緑岩10点、細粒花崗閃緑岩4点、花崗岩3点、デイサイト3点、閃緑岩2点、ホルンフェルス2点、花崗斑岩1点、ヒン岩1点、アプライト(半花崗岩)1点、流紋岩1点、凝灰岩1点、チャート1点である。

[接合関係] 近い地点間の接合が多いが、2561は75m離れた地点間で接合している。

砥石(第299図) 溝状の砥痕があるものを砥石とした。15点(2,574.6g)出土している。

[出土分布] 南区の住居跡周辺に点在する。

[長幅分布] 破片資料・摩滅資料が多く、全体の法量は不明である。

[石材] 凝灰質砂岩8点(53%)、砂岩4点(27%)、軽石2点(13%)、花崗岩1点(7%)である。

石皿・台石(第300図) 自然礫を使用し、平坦面に磨面があるものを石皿・台石とした。礫の輪郭に縁があるものを石皿(I類)、ないものを台石(II類)とした。石皿11点(8,808.5g)、台石526点(12,169.833g)出土している。

[分類別出土数] II A類524点(98%)、II B類2点(1%未満)、I類石皿は11点(2%)、である。

[出土分布] 北区には少数が点在、南区は7Eグリッドに多い傾向がある他、早期中業住居跡周辺だけでなく、早期中業住居跡周辺にも認められる。

[長幅分布] 破片資料・摩滅資料が多く、全体の法量は不明である。

[石材] 石皿12点の石材は、砂岩6点、花崗岩2点、花崗閃緑岩1点、凝灰岩1点、閃緑岩1点である。台石は砂岩と種石層砂岩が主体である。

軽石製品 十和田火山を起源とする軽石を用いた資料は30点(632.3g)出土している。2636は穿孔が1箇所、2638は斧形を呈する。不掲載とした28点は、一部調整面がある等、何らかの加工痕が認められるものである。

石英(水晶・煙水晶)(第301図) 石英(水晶・煙水晶)を用いた石器・剥片は28点(206.46g)出土している。器種は、石鏃(1934)、不定形石器(2289～2292)、石核(2294～2296)、剥片(2293)等である。無色透明水晶が多いが、2290・2293・2294は煙水晶である。

琥珀(第302図) 琥珀は45点(389.3g)出土している。全て自然面を残した未加工資料である(巻頭カラー2706～2710)。宿戸遺跡周辺の海岸部露頭では琥珀を採取することができる露頭があり、本遺跡資料も自然に混入しているものと考えられる。北区には僅かで、南区に点在する出土状況である。これは、北区は包含層が薄く、南区が厚いことに起因するものと考えられる。

3 土製品

土偶1点(2648)・不明土製品3点(2649・2650・2653)・棒状土製品2点(2651・2652)・土器片円板6点(2654～2659)・粘土塊36点が出土している。粘土塊は26点(2660～2685)、他は全点掲載した。

2648は大洞A2式の結髪土偶である。北3E2グリッドの中央沢暗渠の落ち際及び倒木痕から出土した。2649は土偶の可能性もある。6C8グリッド出土で、この地点は縄文時代早期中葉の遺物が多かったが、胎土に砂粒が多く、前期以降の遺物と思われる。2650は爪形状刺突が多く残された不明土製品である。土器片円板は縄文施文のみのため詳細な型式は不明とせざるを得ないが、胎土に繊維を含まないため、前期後葉以降と考えられる。粘土塊は捻りなど不規則な痕跡が多く、胎土には砂粒が含まれており、土器等の製作時に生じた端材の可能性が考えられる。

4 石製品

石製品は25点出土している。線刻石製品3点(2686～2688)、球状耳飾3点(2689～2691)、石製垂飾品4点(2692・2693)、有孔石製品4点(2699)、石棒類11点(2694～2698・2700)である。

線刻石製品2686は種石層砂岩に渦巻文様を刻んだ石製品である。7E23グリッドIV層出土。7Eグリッドから出土している土器は早期中葉～前期初頭で、前期初頭が主体である。上部1対の渦巻文は時計回り、中央の大きな渦巻は反時計回りになっている。上部に弧線文があり、その上下に1対の短沈線がある。背面には逆「6」字状の線刻が施されている。土偶では、背面に「6」字状の文様を施す資料は晩期末に多く、渦巻文を施す土製品は後期前葉に多い。しかし、本資料には後期～晩期土器が全く伴っていない。出土状況からは前期前葉と考えられるが、詳細な時期判断は今後の類例の増加を待たざるを得ない。

石製品2692は5号住居跡の埋土上面から出土した石製垂飾品である。横方向に大きな穿孔がある他、背面中央上位に小さな穿孔が認められる。補修孔の可能性もあるが、補修孔よりも孔径が小さく、本製品製作段階で穿孔した穴と考える。全体の形状はX字を呈する。上部に縦方向の刻み、下部に球状の切込み、中央上位に横線状の窪みがありこれを正面に据えた場合、横方向から見ると正面側に反る形状を呈する。類例は、銅路市北斗遺跡、苫小牧市美沢11遺跡、福島県獅子内遺跡、新潟県糸魚川市入山遺跡、石川県三引遺跡、長野県中越遺跡を確認した。

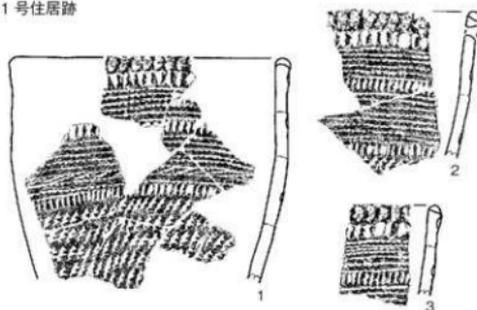
第303図に石製品の出土分布図を掲載した。点在し、偏在する傾向は認められない。

5 銭貨・炭窯関連遺物

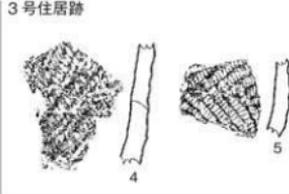
銭貨は5点出土している。2701・2702・2704は南区で調査開始時に表面で採集した。2703・2705は北区表土除去後の遺構検出時に出土した。2701は至和元寶、2702は摩滅が著しく判別し難いが、熙寧元寶の可能性ある。2703～2705は寛永通寶である。

炭窯関連遺物として、土管2点(2711・2712)・煉瓦1点(2713)を掲載した。土管2711は1号炭窯近辺から、土管2712は1号炭窯内から出土している。2711は内面にタール状の付着物が多い。煉瓦2713は1号炭窯煙道下部袖部分に2個1対で設置されていたものである。刻印等は認められなかった。

1号住居跡



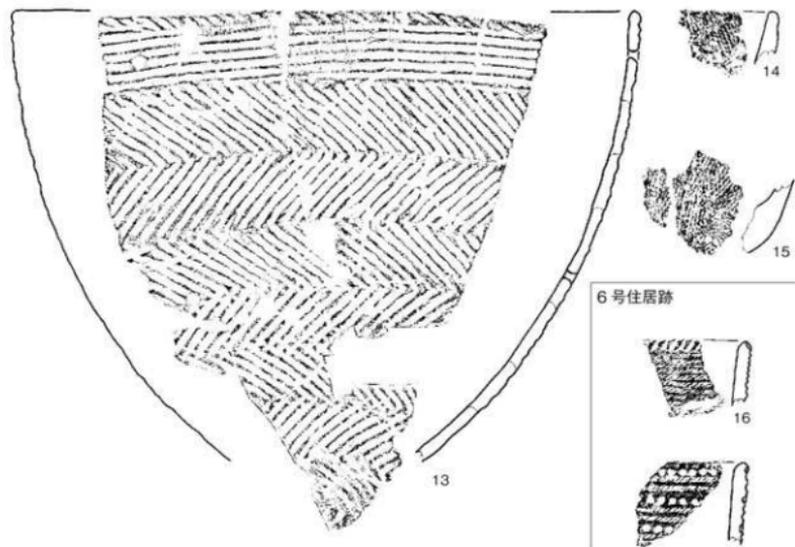
3号住居跡



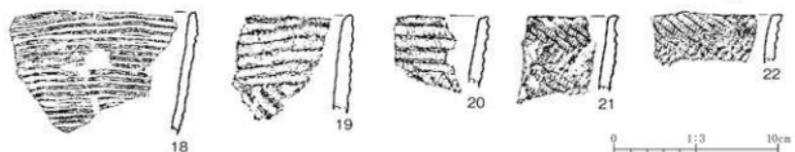
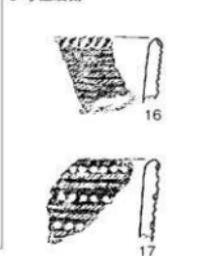
4号住居跡



5号住居跡

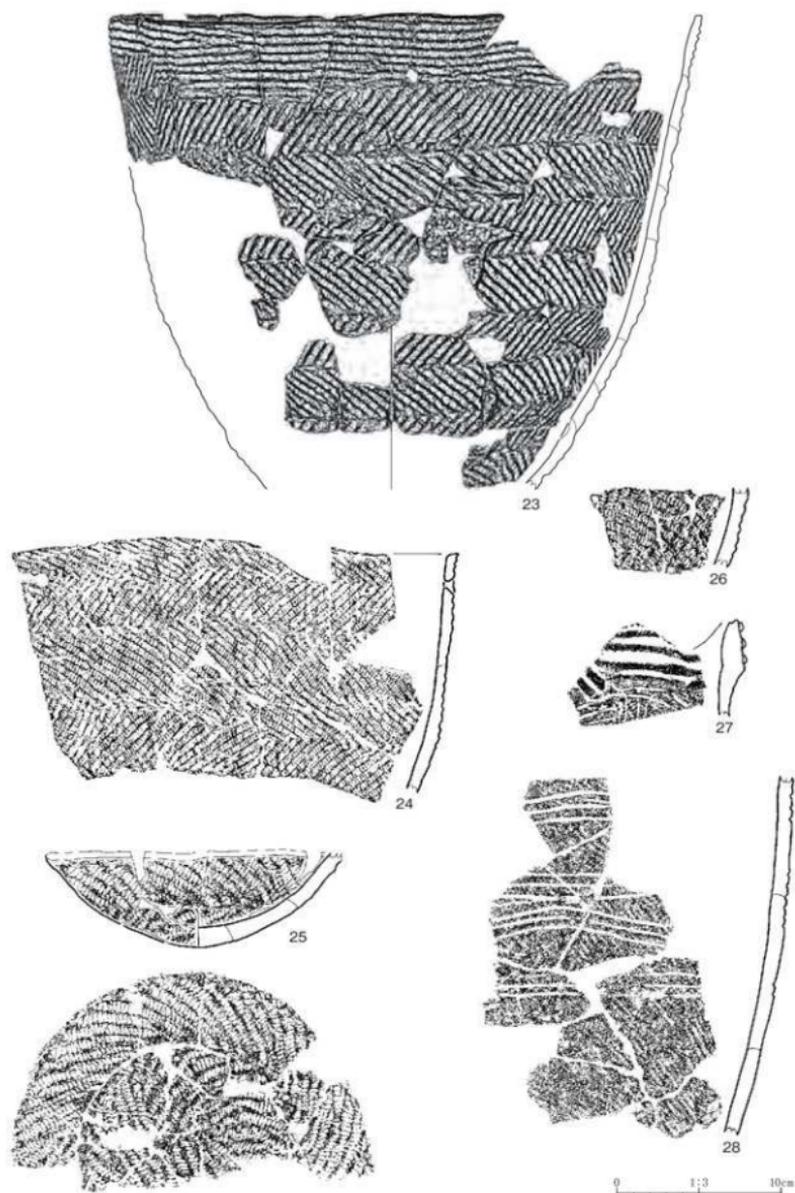


6号住居跡

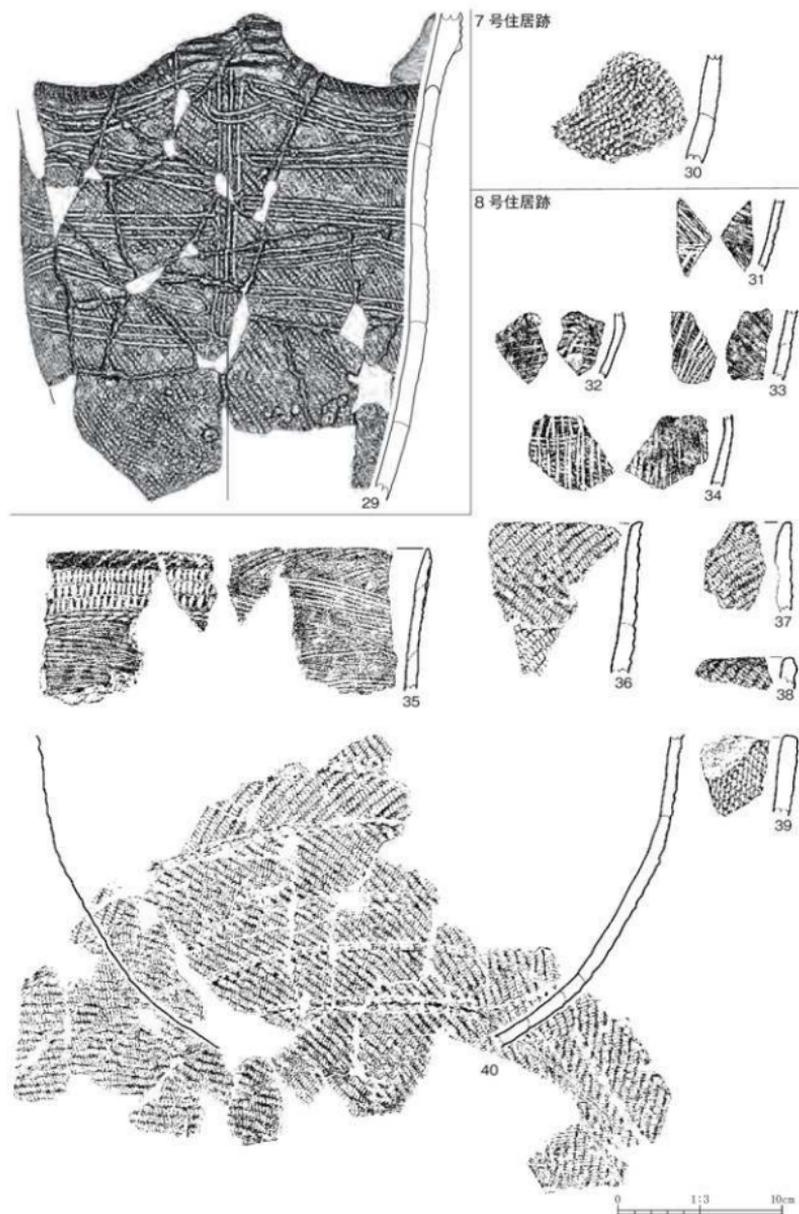


0 1:3 10cm

第57図 1・3～6号住居跡出土土器

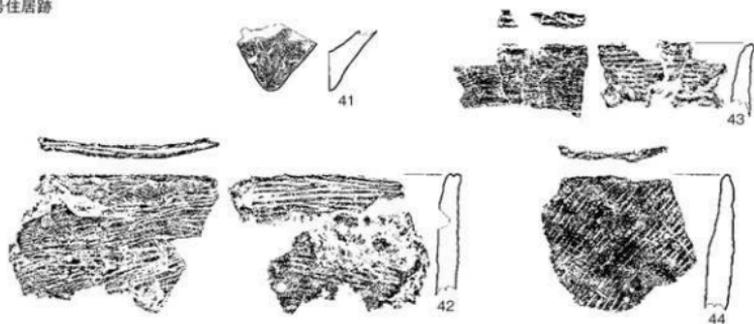


第58图 6号住居跡出土土器



第59図 6～8号住居跡出土土器

9号住居跡



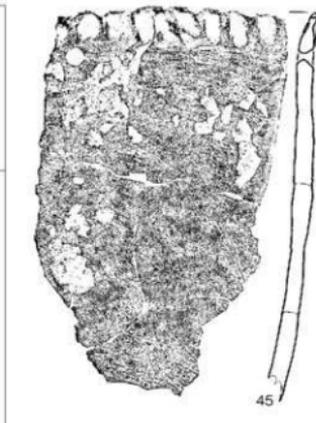
10号住居跡



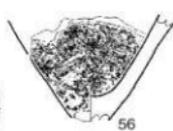
12号住居跡



13号住居跡



14号住居跡

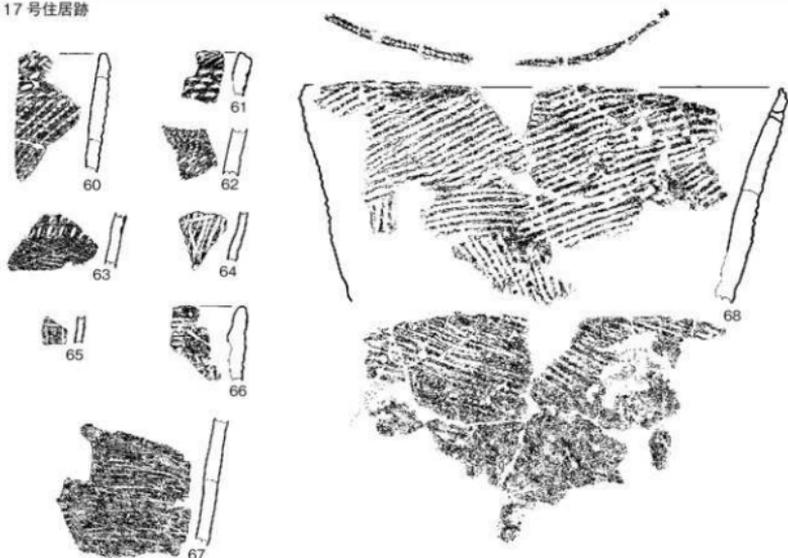


第60図 9・10・12～14号住居跡出土土器

15号住居跡



17号住居跡



18号住居跡

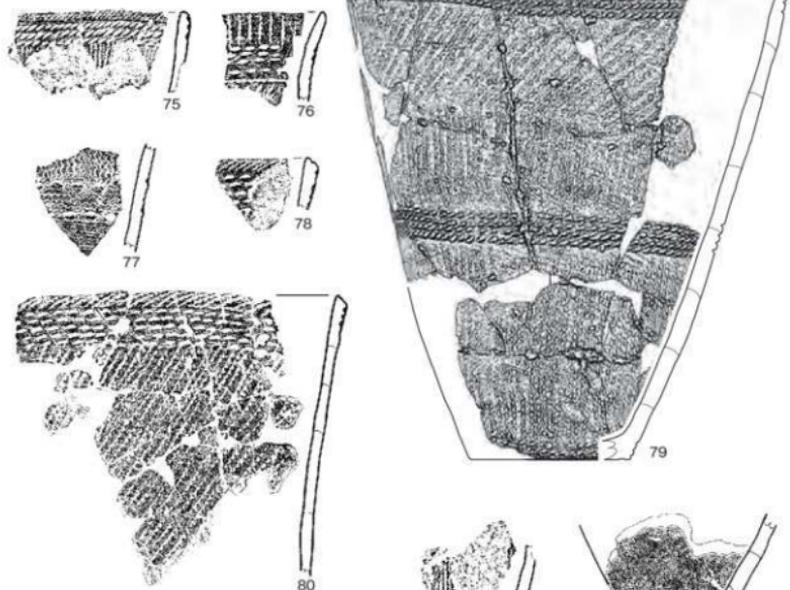


19号住居跡

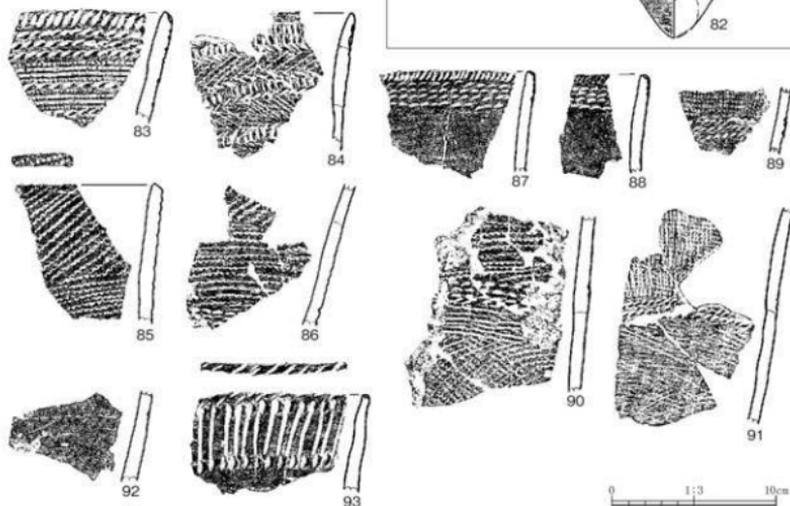


第61図 15・17～19号住居跡出土土器

20号住居跡

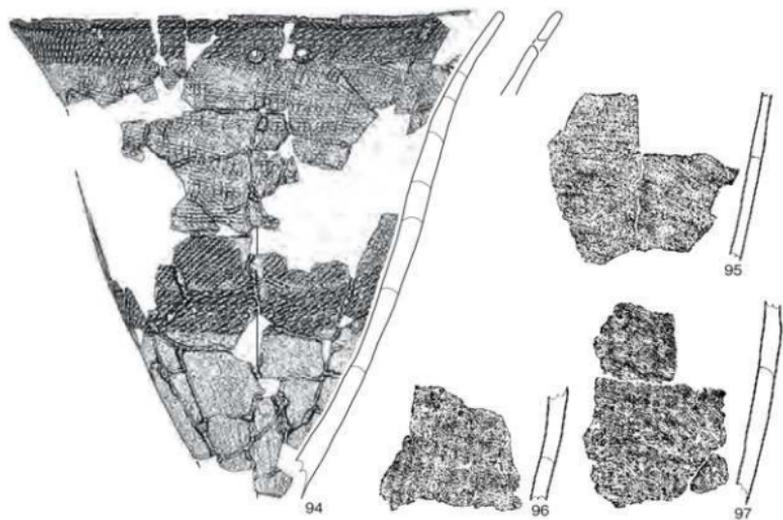


21号住居跡

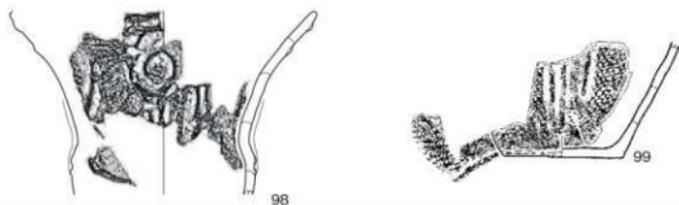


0 1:3 10cm

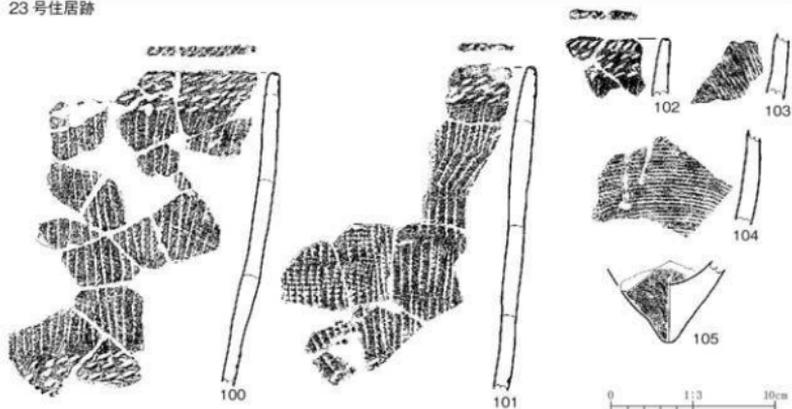
第62图 20・21号住居跡出土土器



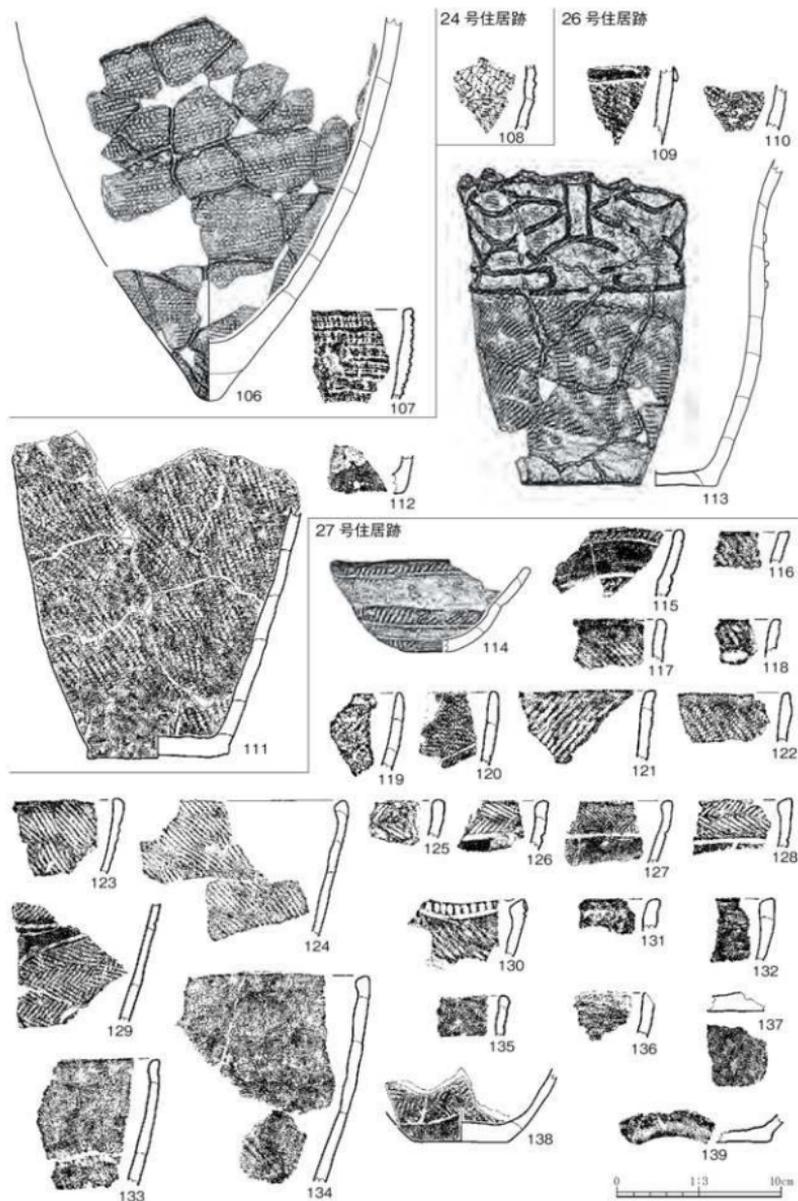
22号住居跡



23号住居跡



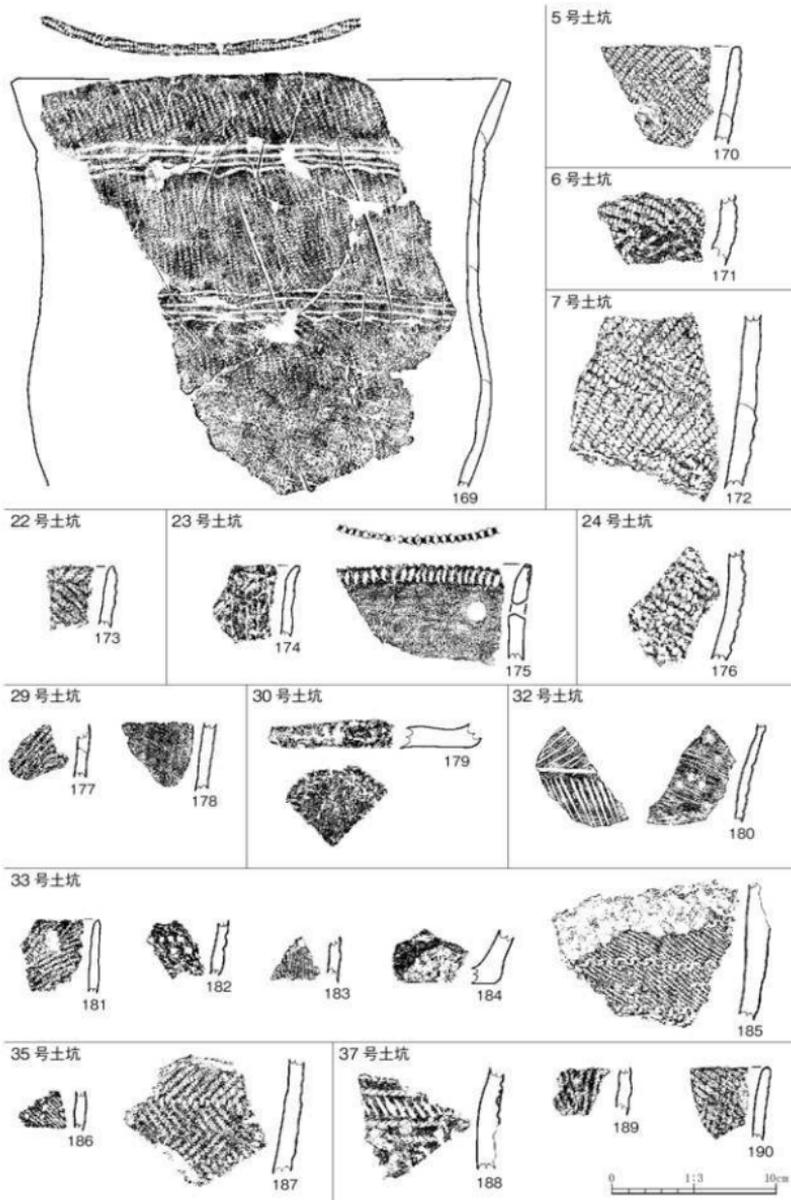
第63図 21～23号住居跡出土土器



第64图 23·24·26·27号住居跡出土土器



第65図 27～32号住居跡出土土器



第66图 32号住居跡、5~7·22~24·29·30·32·33·35·37号土坑出土土器

38号土坑



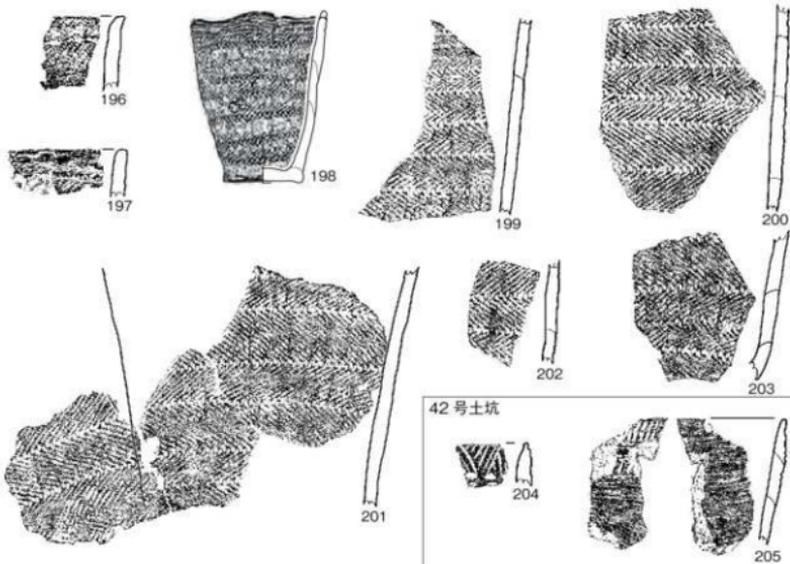
39号土坑



40号土坑



41号土坑



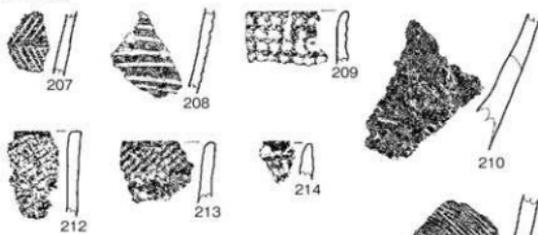
42号土坑



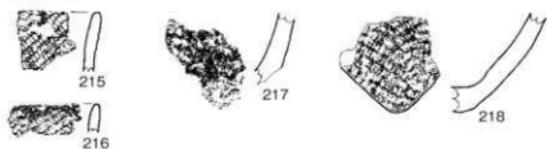
43号土坑



44号土坑



45号土坑



0 1:3 30cm

第67图 38~45号土坑出土土器

46号土坑



219

49号土坑



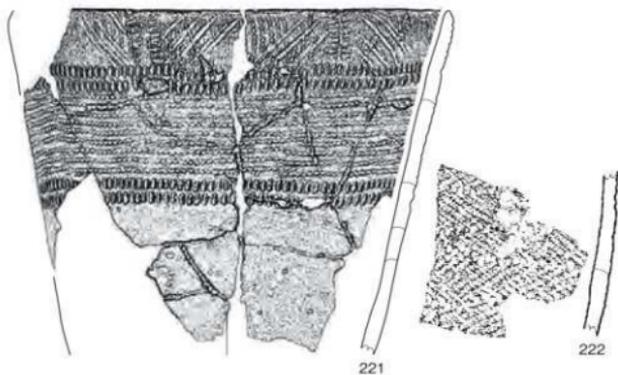
220

51号土坑



223

50号土坑



221

222

52号土坑



224



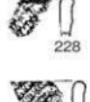
225



226



227



228

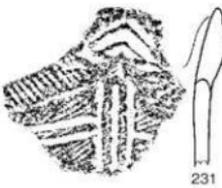


230

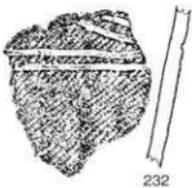


229

53号土坑



231



232



233



234



235



236

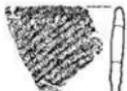


237

54号土坑



240



241



242



243



238



239

55号土坑



244



245



246



247

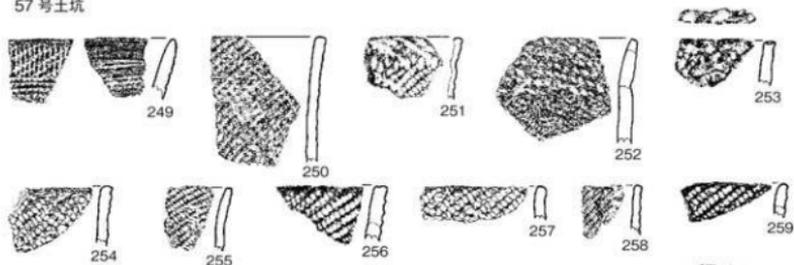


248

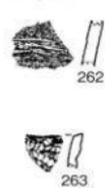


第68图 46·49~55号土坑出土器物

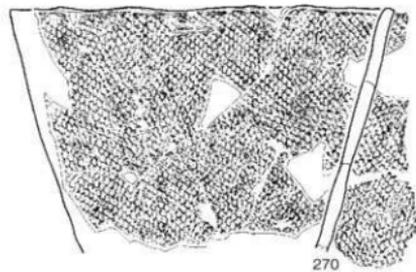
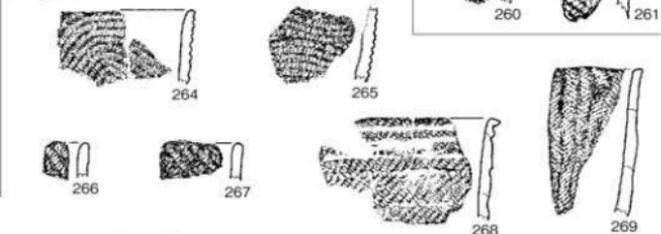
57号土坑



65号土坑



67号土坑



68号土坑



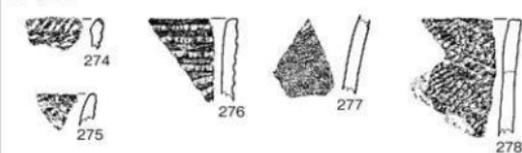
69号土坑



70号土坑



73号土坑



72号土坑



75号土坑



76号土坑



78号土坑



第69图 57·65·67~70·72·73·75·76·78号土坑出土土器

79号土坑



94号土坑



96号土坑



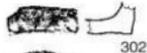
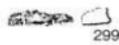
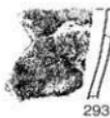
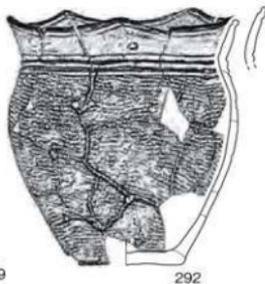
97号土坑



98号土坑



110号土坑



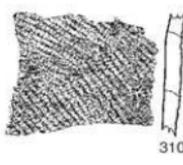
112号土坑



113号土坑



116号土坑



119号土坑



121号土坑



122号土坑



34号土坑



第70图 79·94·96~98·110·112·113·116·119·121·122·34号土坑出土土器

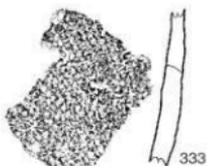
56号土坑



59号土坑



61号土坑



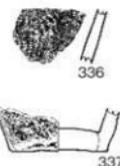
62号土坑



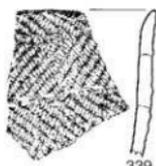
80号土坑



82号土坑



85号土坑



86号土坑



87号土坑



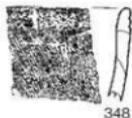
108号土坑



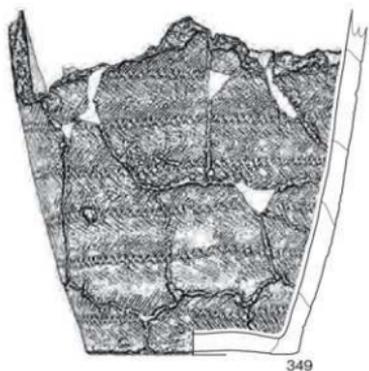
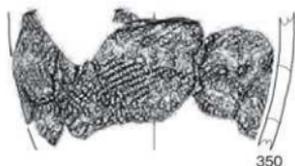
118号土坑



2号埋設土器

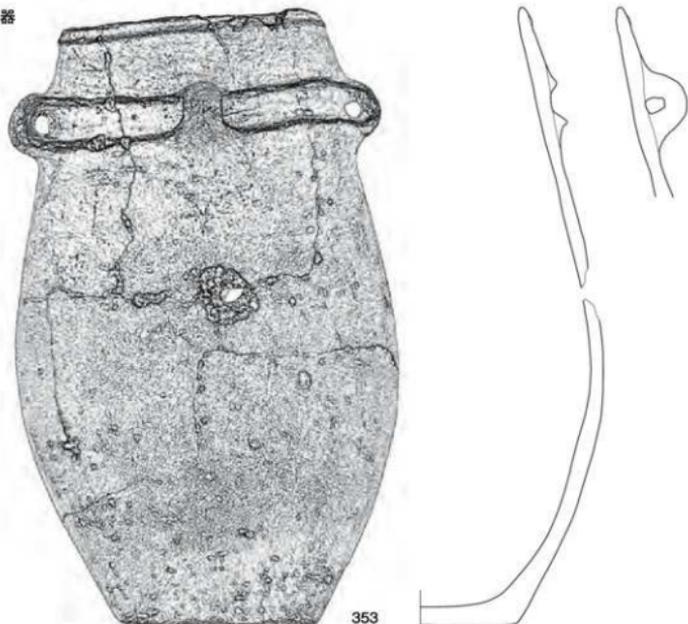


4号埋設土器

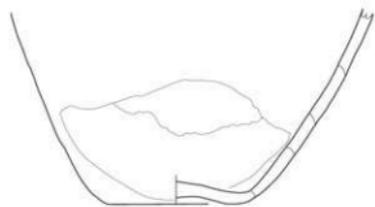
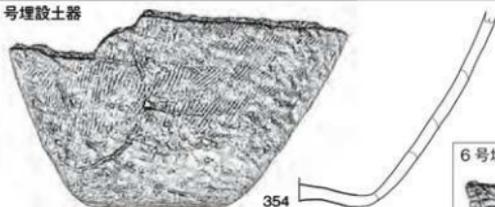


第71图 56·59·61·62·80·82·85~87·108·118号土坑、2·4号埋設土器出土土器

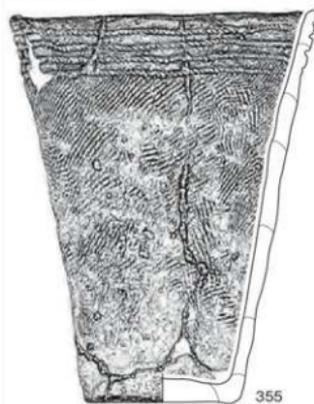
3号埋設土器



5号埋設土器



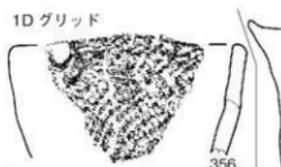
6号埋設土器



0 1:3 10cm

第72図 3・5・6号埋設土器出土土器

1D グリッド



356

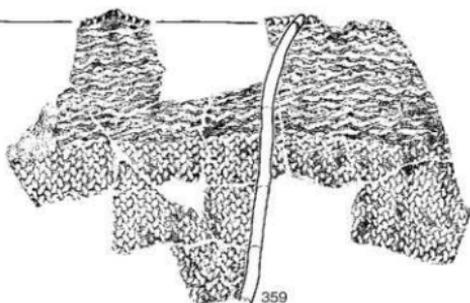
2B グリッド



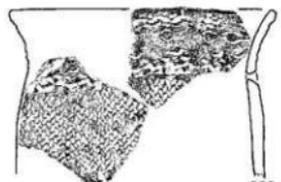
357



358



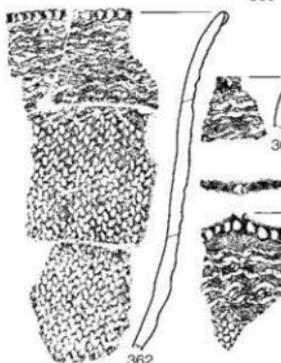
359



360



361



362



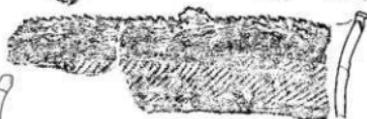
363



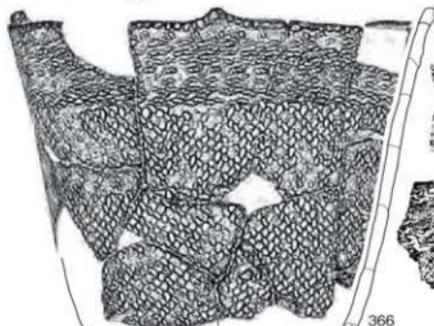
364



365



367



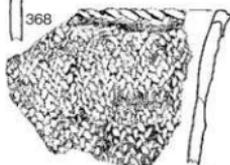
366



368



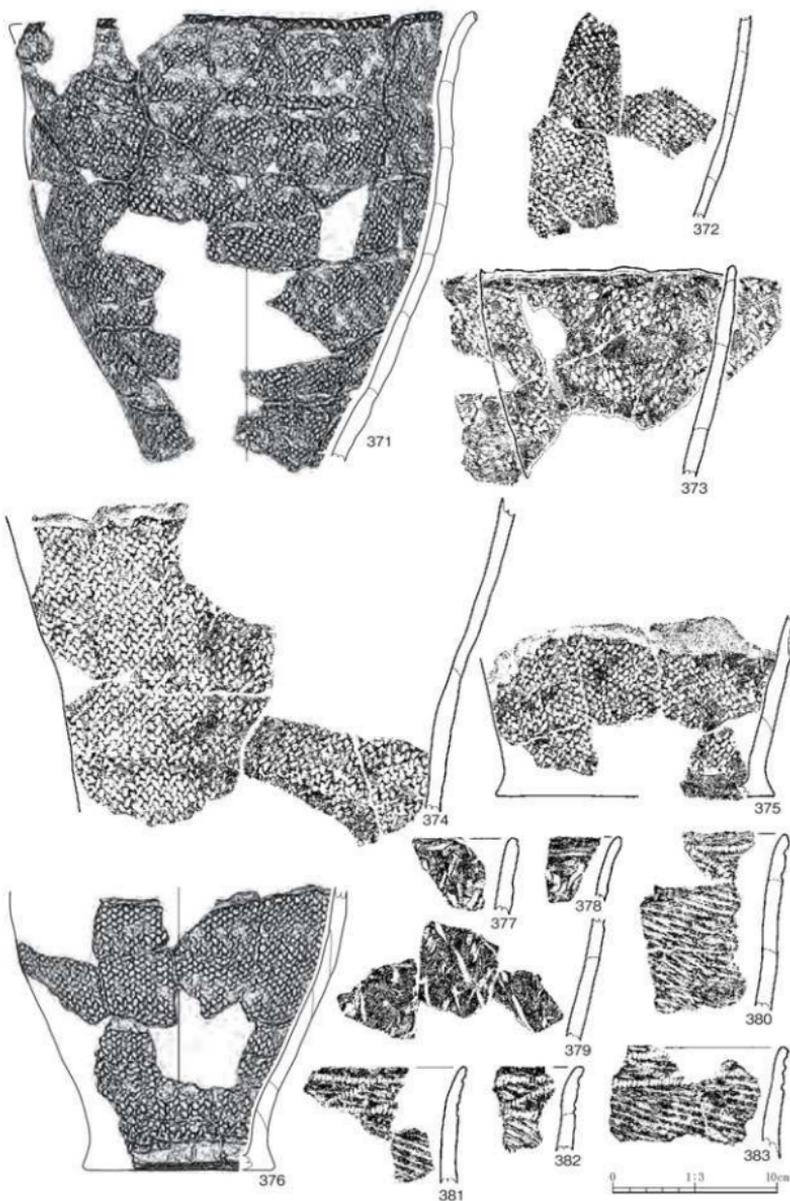
369



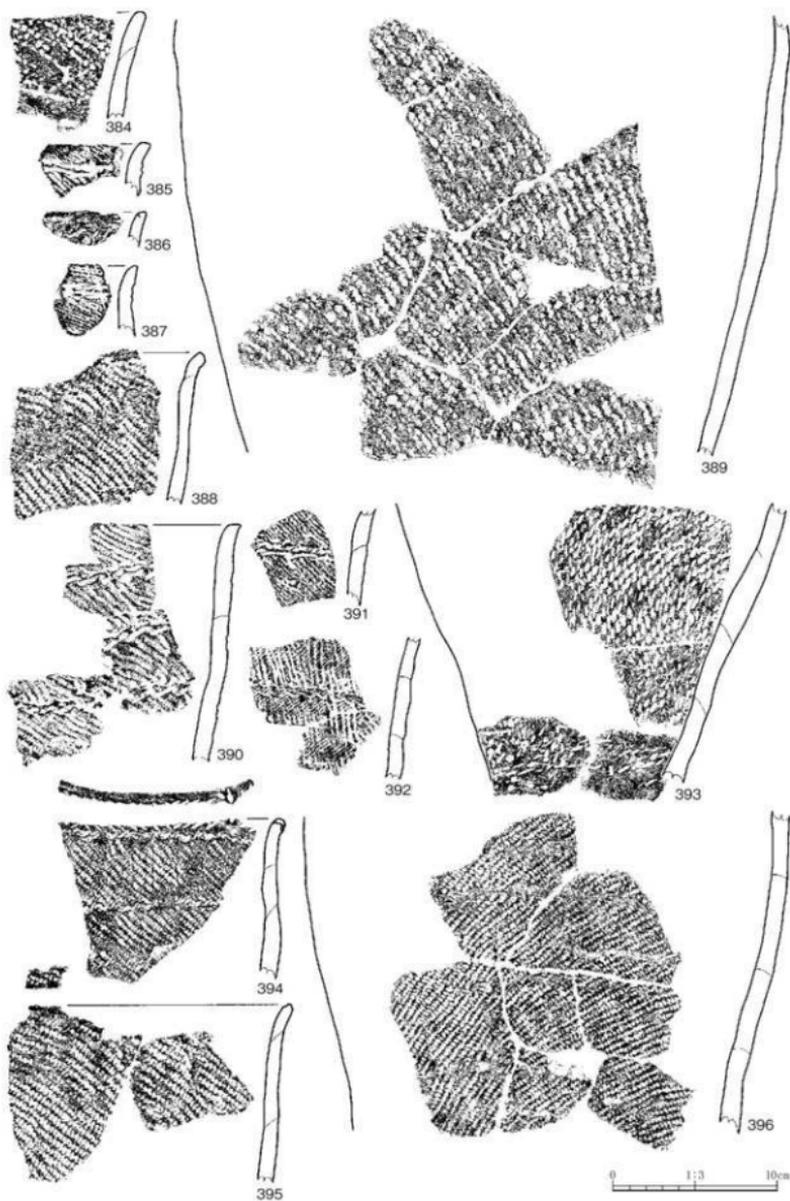
370

0 1:3 10cm

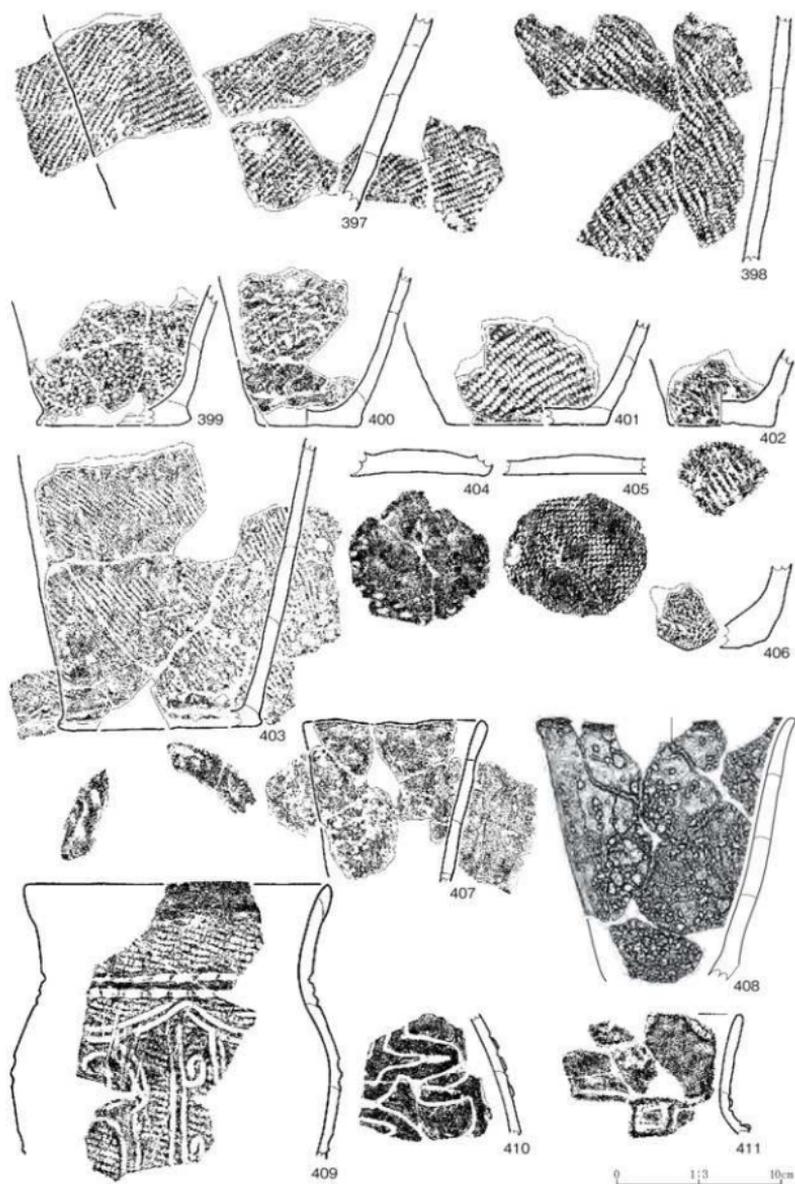
第73図 1D・2Bグリッド出土土器



第74図 2Bグリッド出土土器

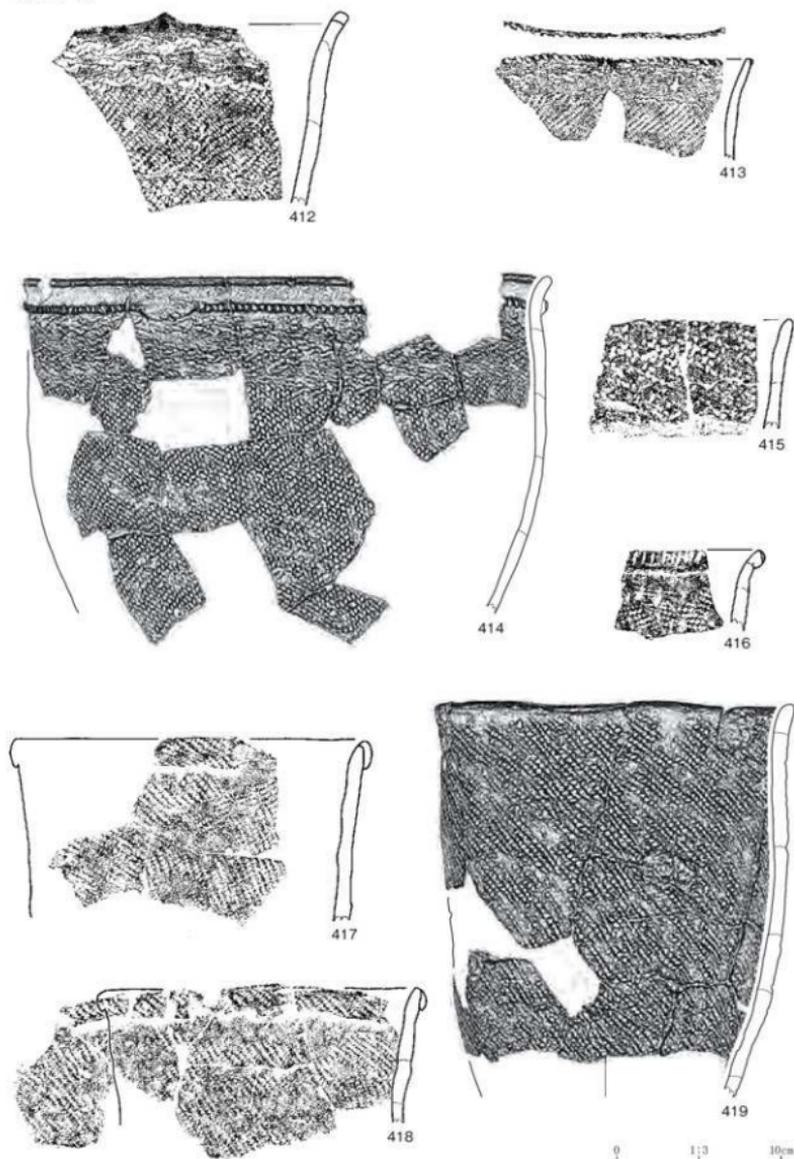


第75図 2Bグリッド出土土器

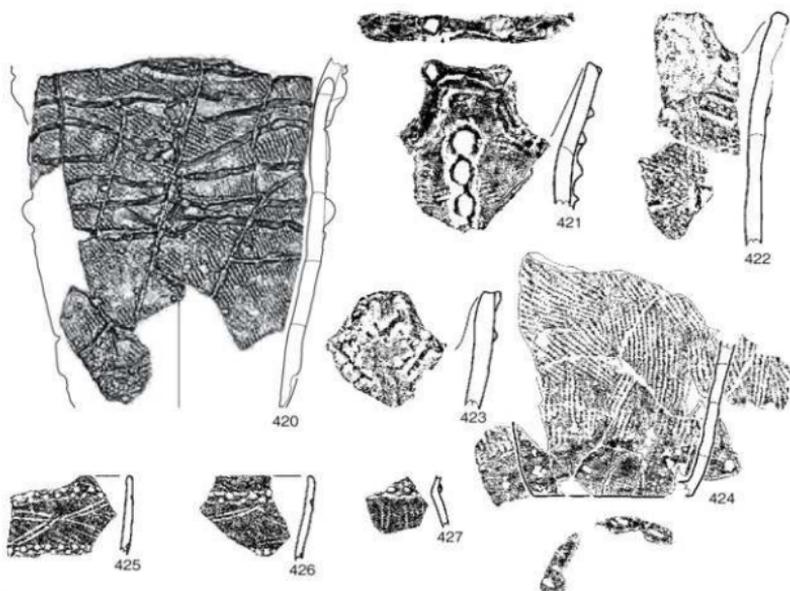


第76図 2Bグリッド出土土器

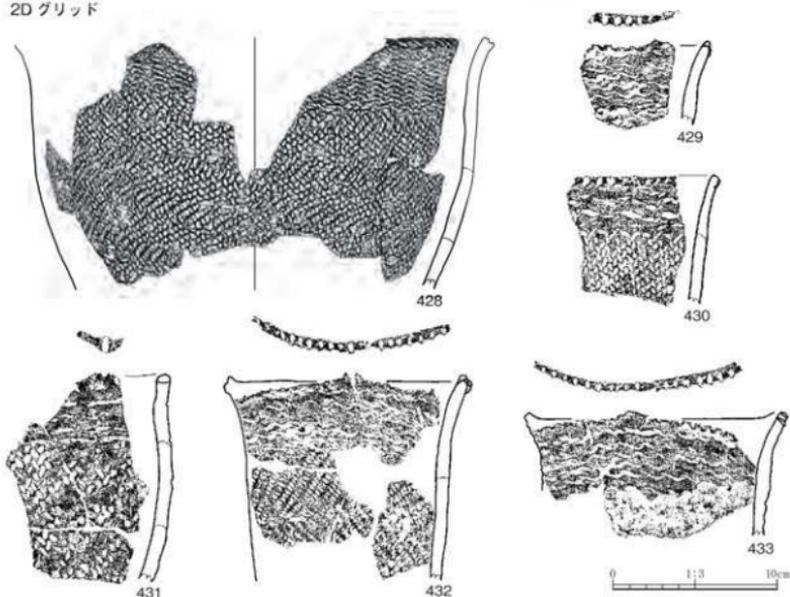
2C グリッド



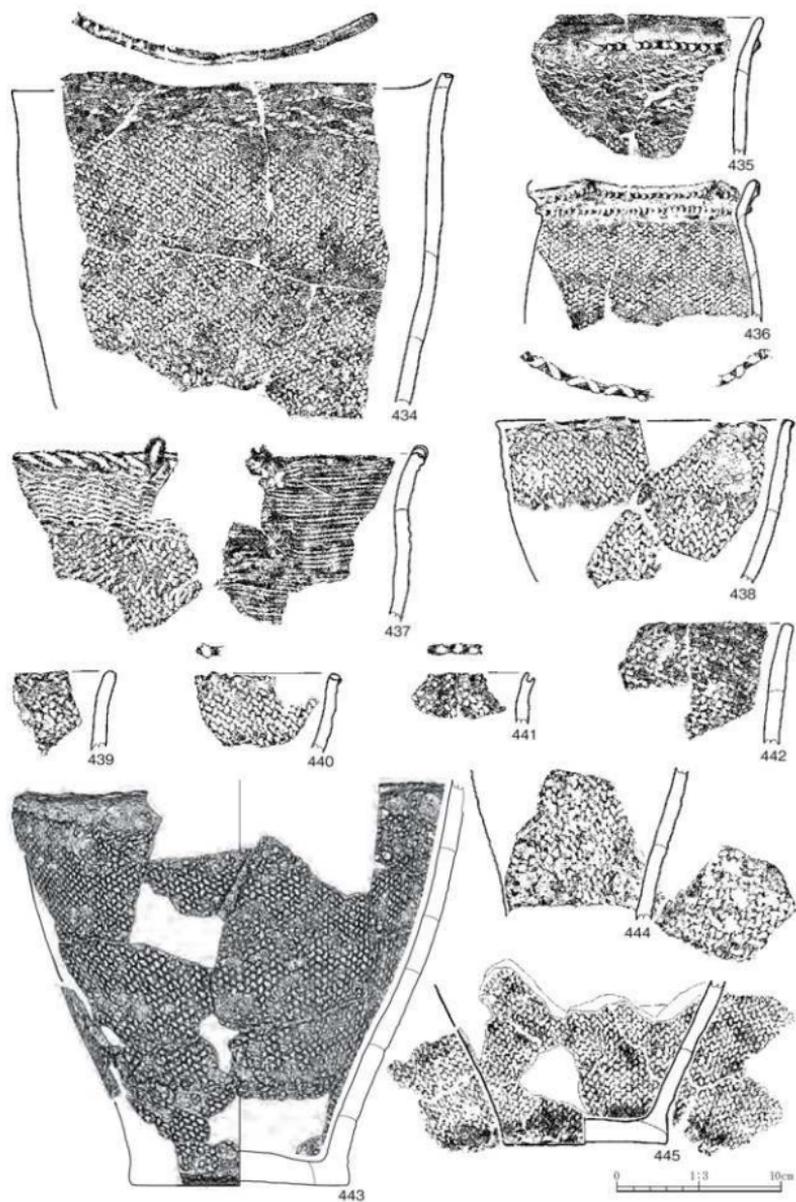
第77図 2Cグリッド出土土器



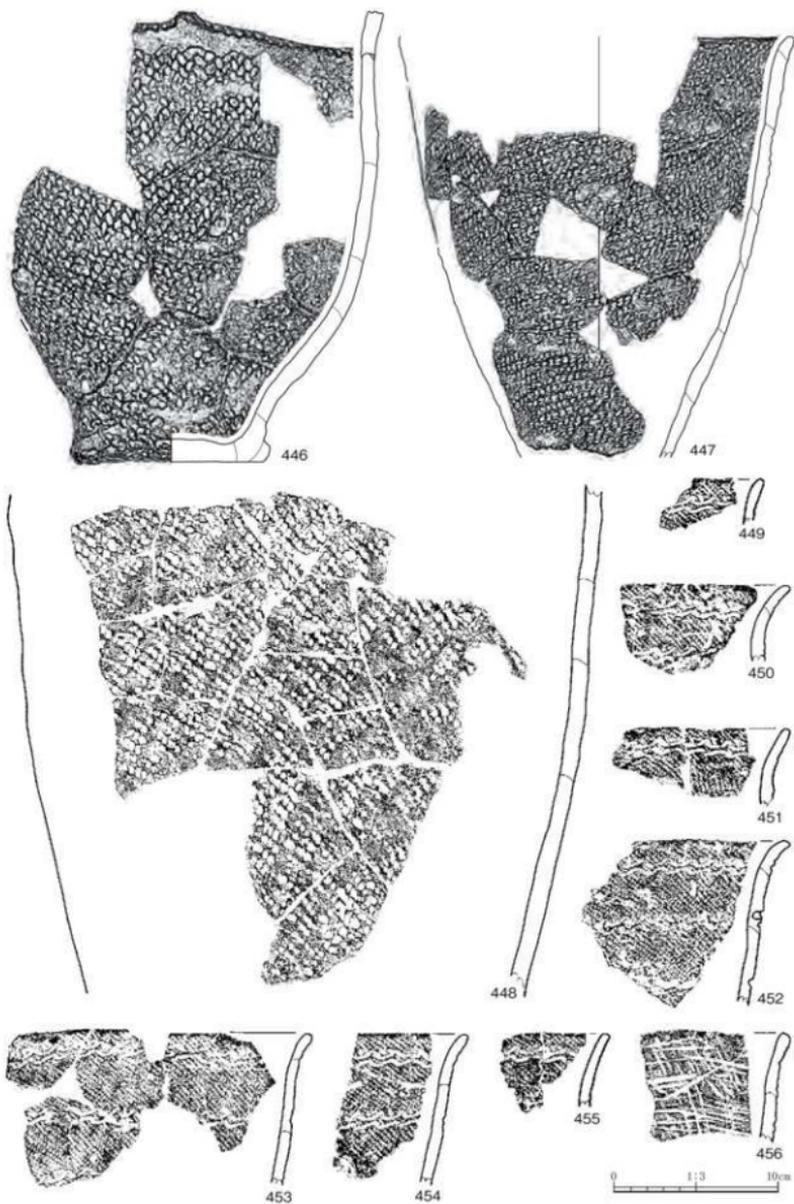
2D グリッド



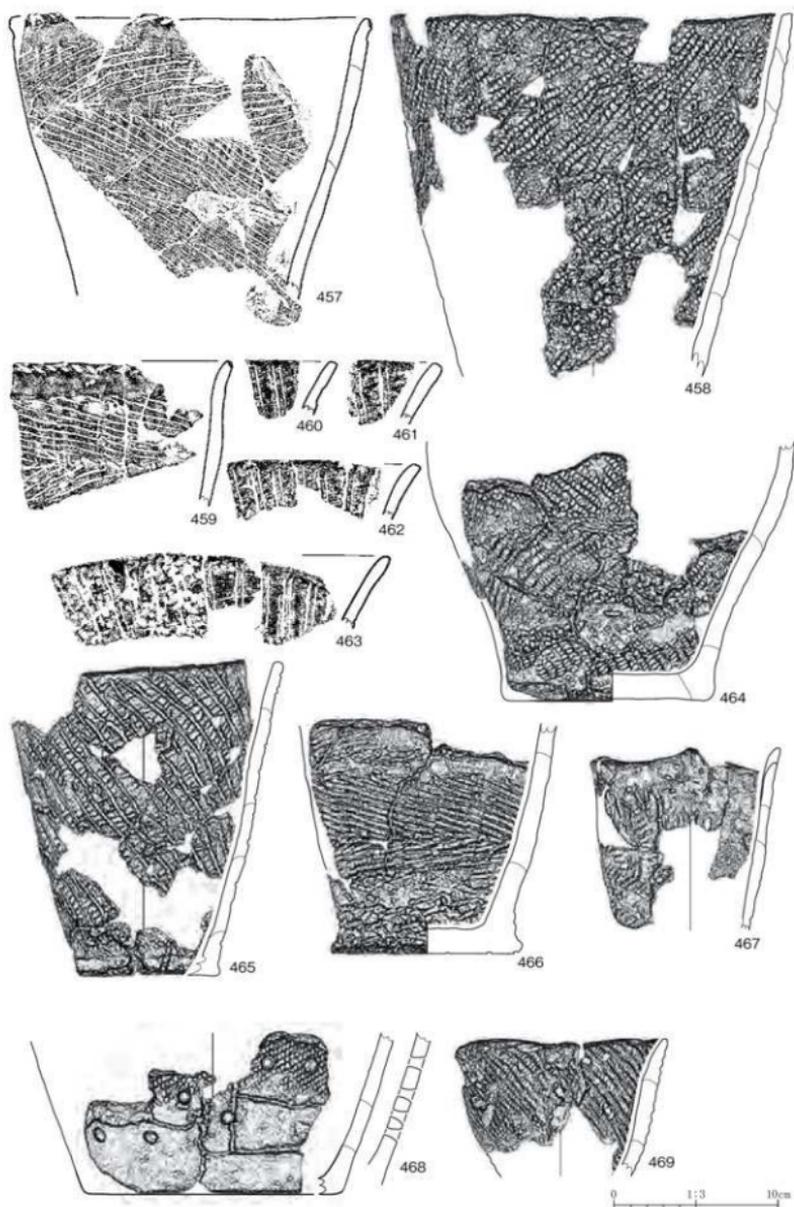
第78図 2C・2Dグリッド出土土器



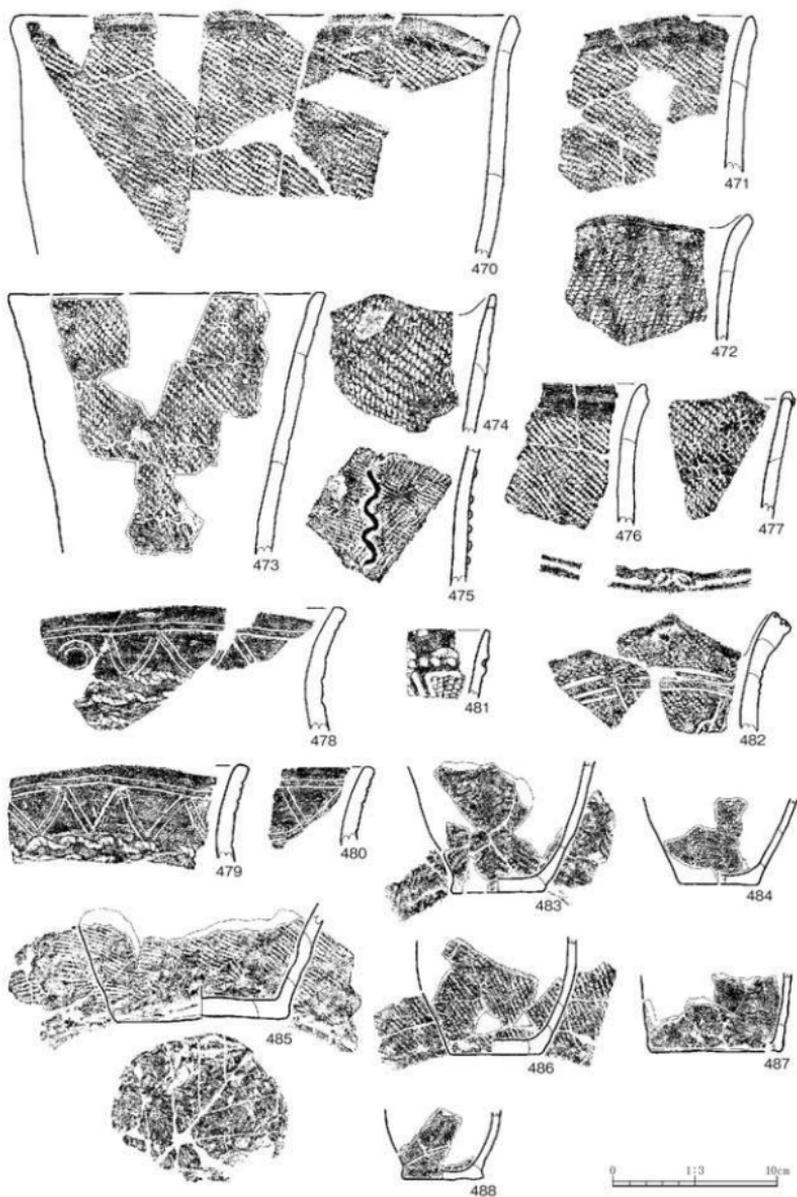
第79図 2Dグリッド出土土器



第80図 2Dグリッド出土器

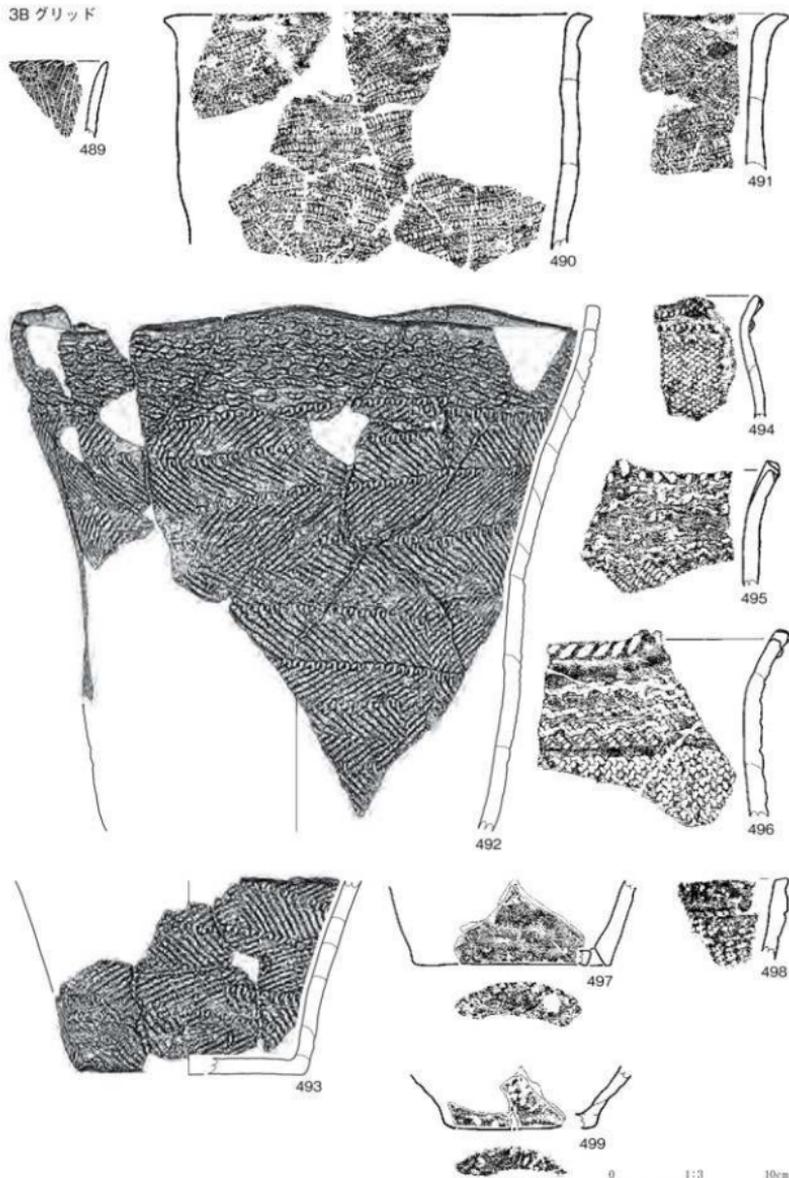


第81図 2Dグリッド出土土器

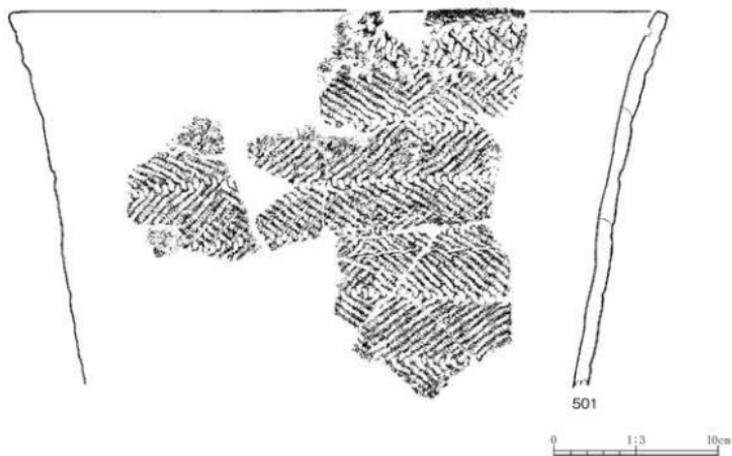
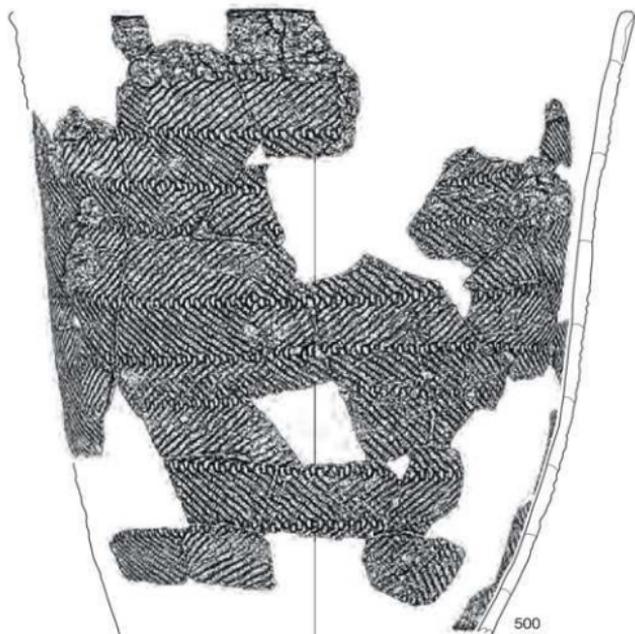


第82図 2Dグリッド出土土器

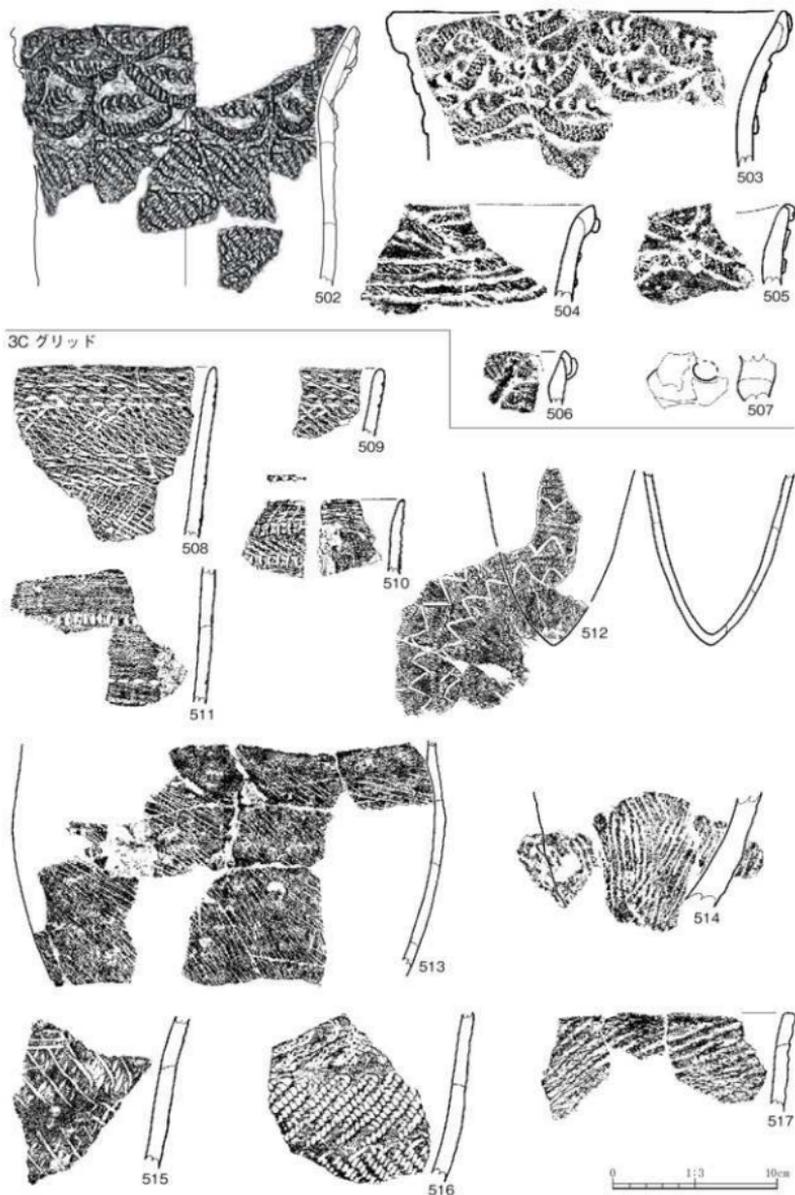
3B グリッド



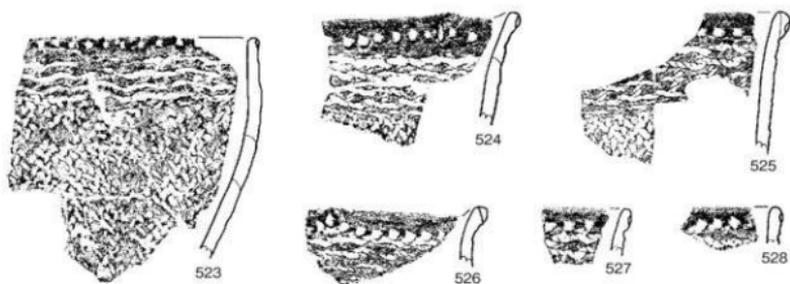
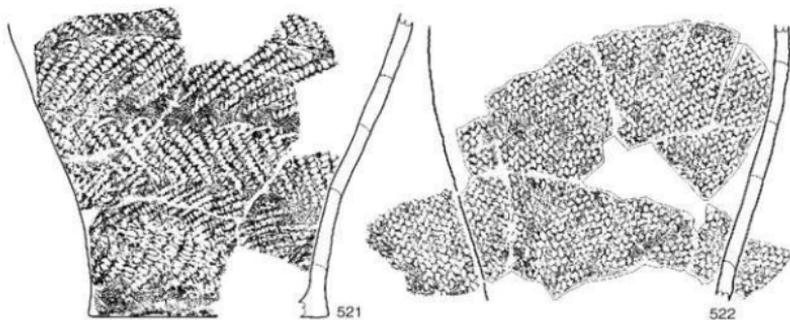
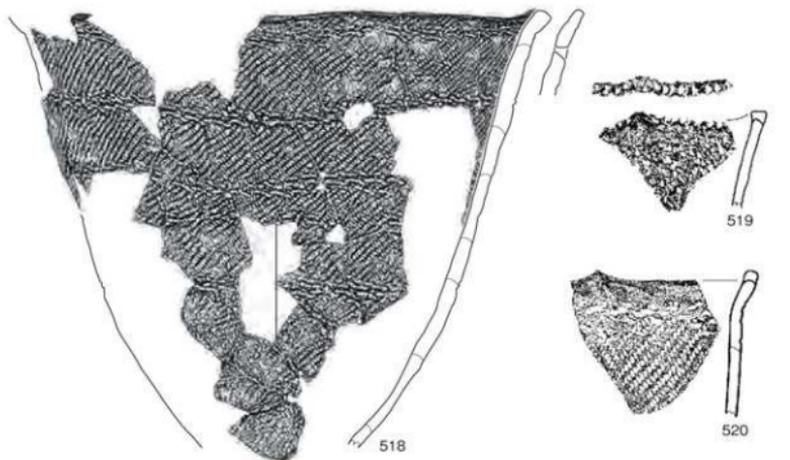
第83図 3Bグリッド出土土器



第84図 3Bグリッド出土土器

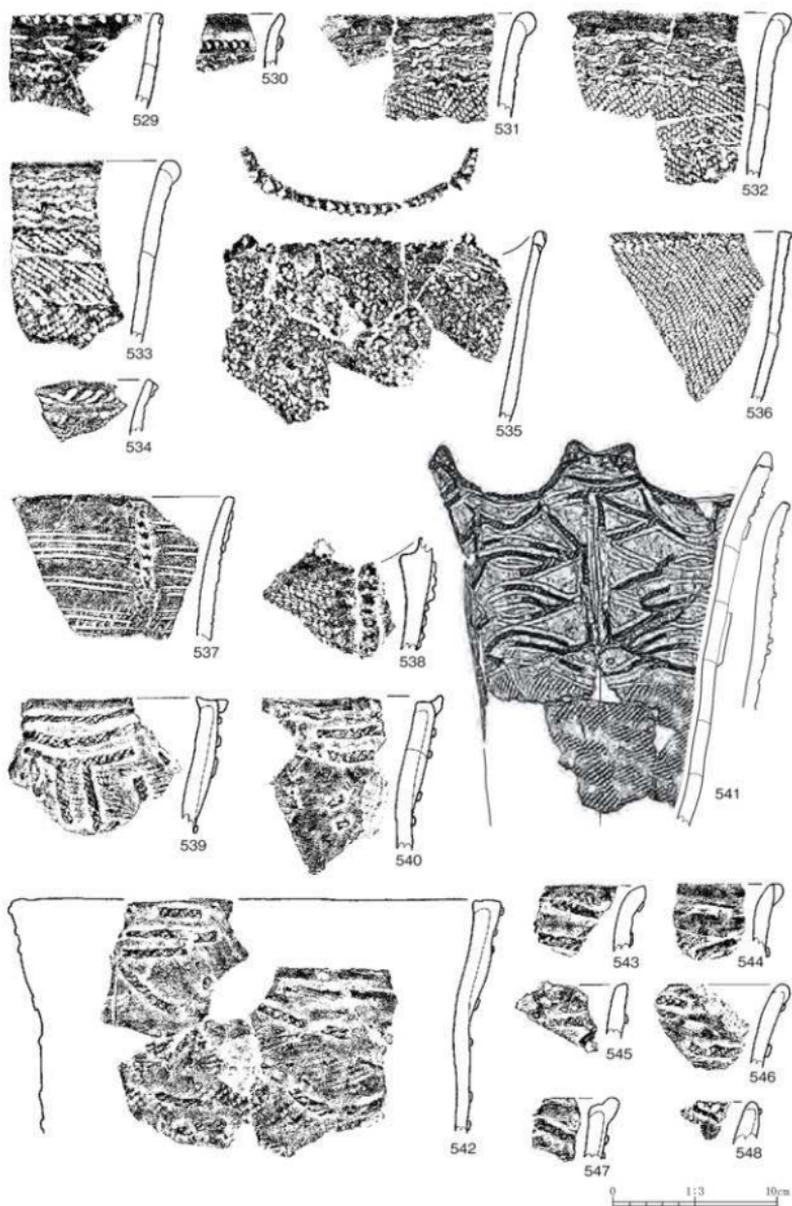


第85図 3B・3Cグリッド出土土器

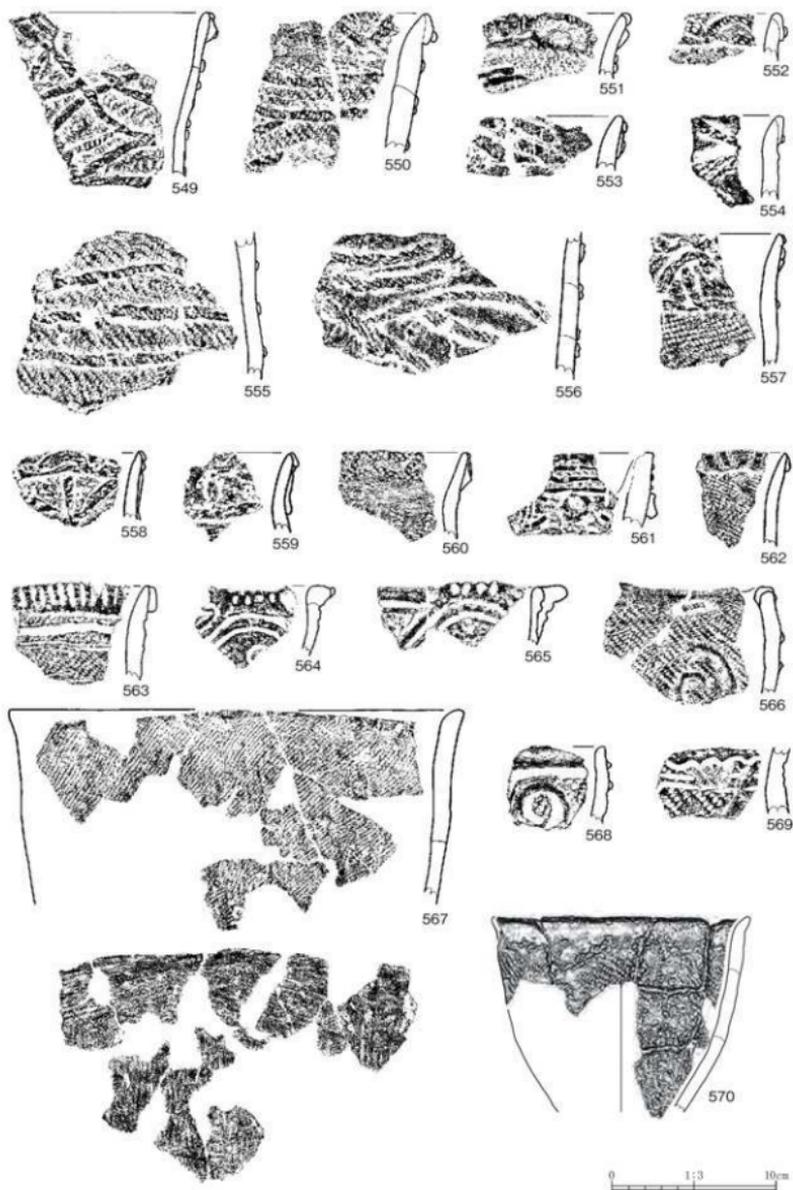


0 1:3 10cm

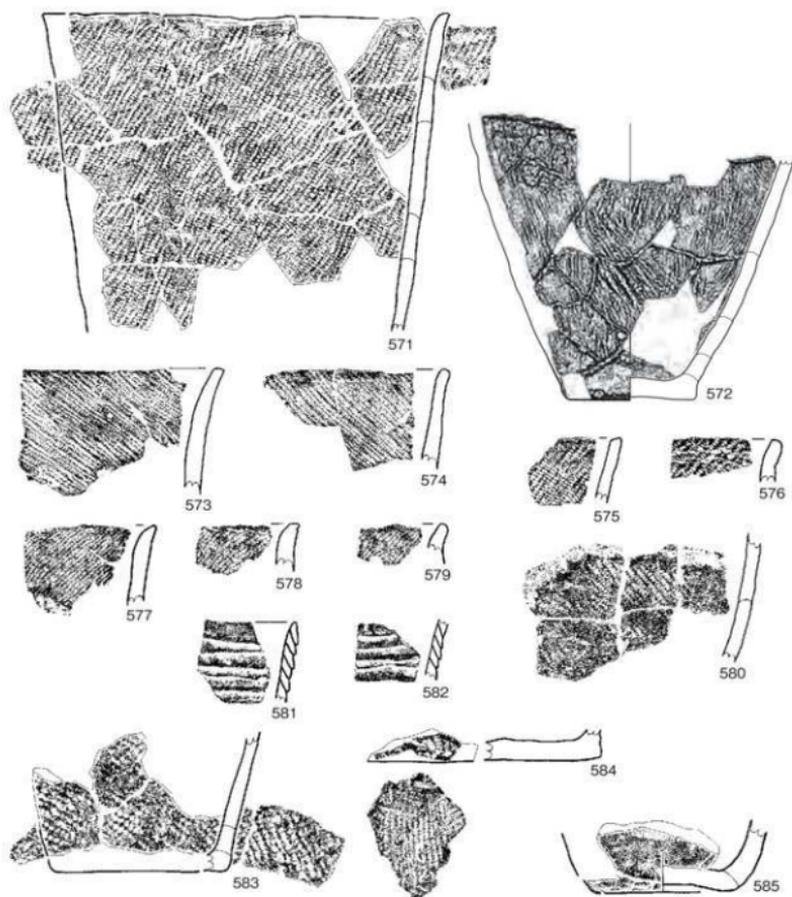
第86図 3Cグリッド出土土器



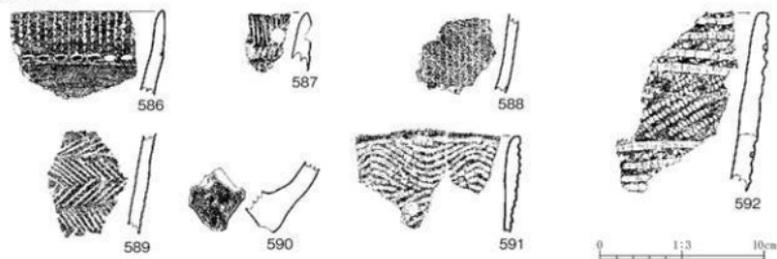
第87図 3Cグリッド出土土器



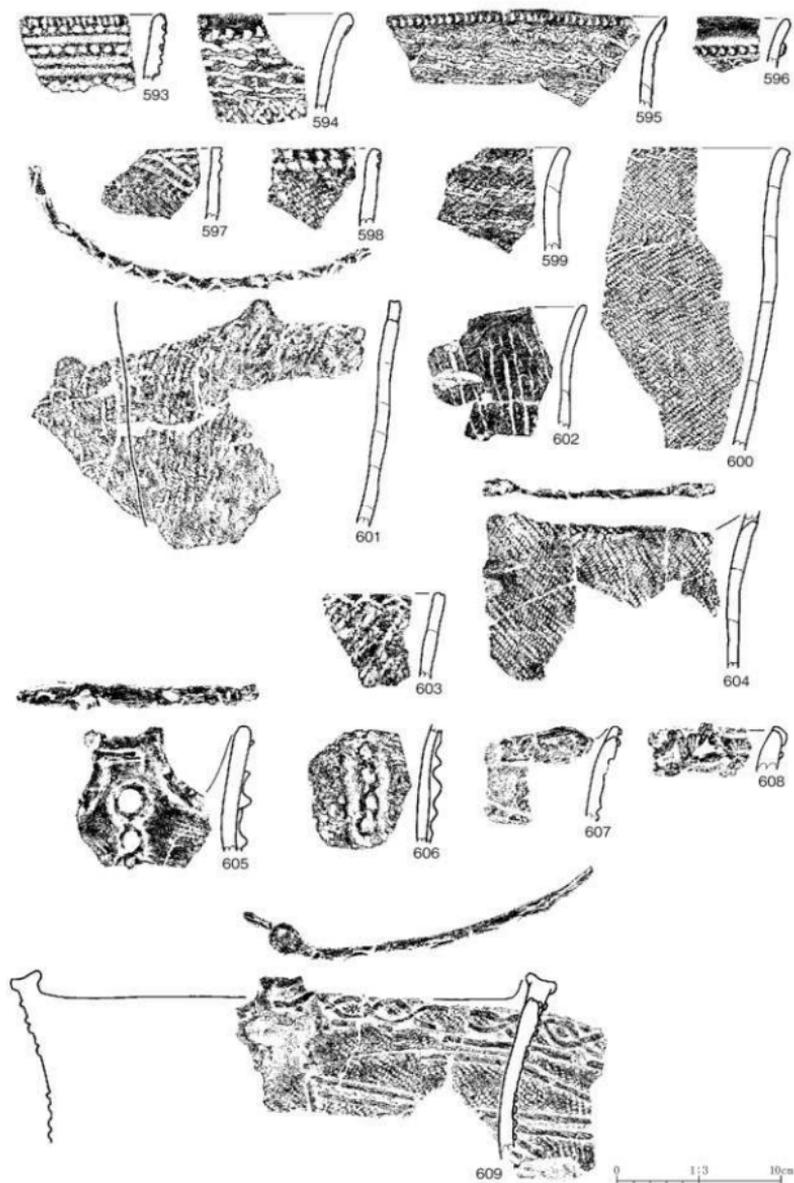
第88図 3Cグリッド出土土器



3D グリッド



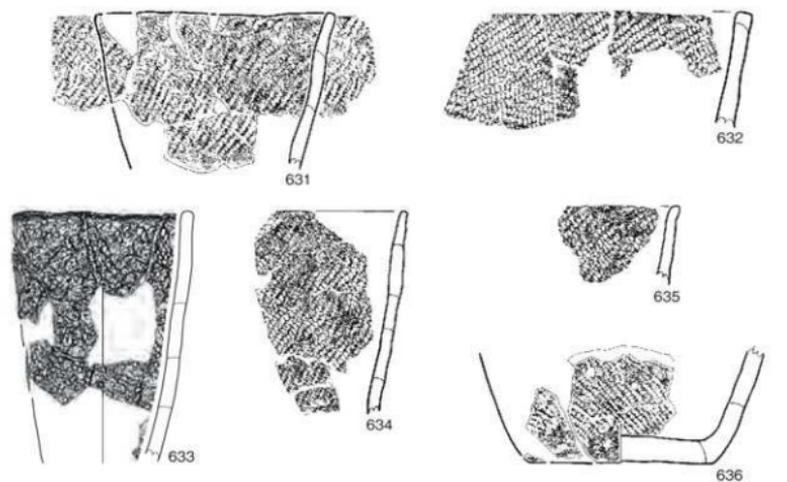
第89図 3C・3Dグリッド出土土器



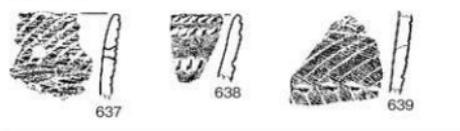
第90図 3Dグリッド出土土器



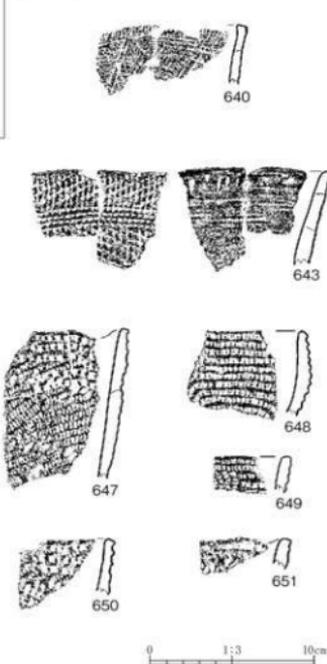
第91図 3Dグリッド出土土器



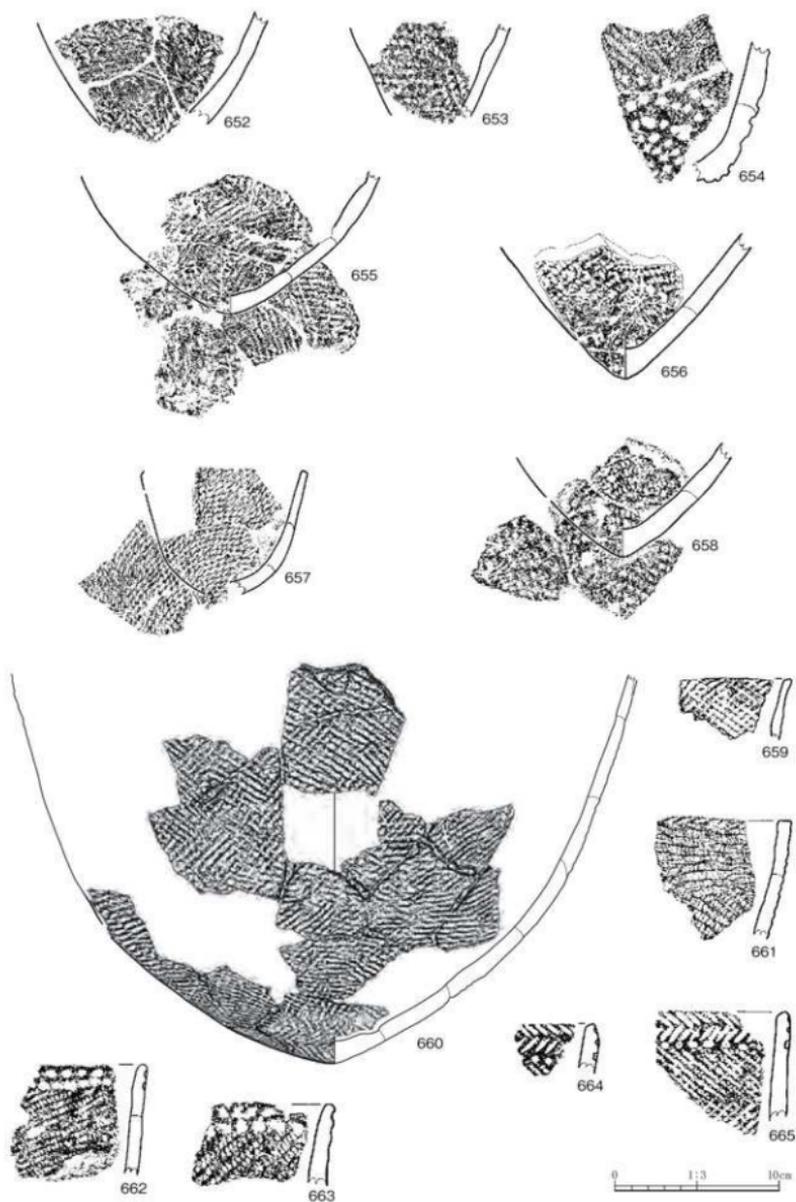
4B グリッド



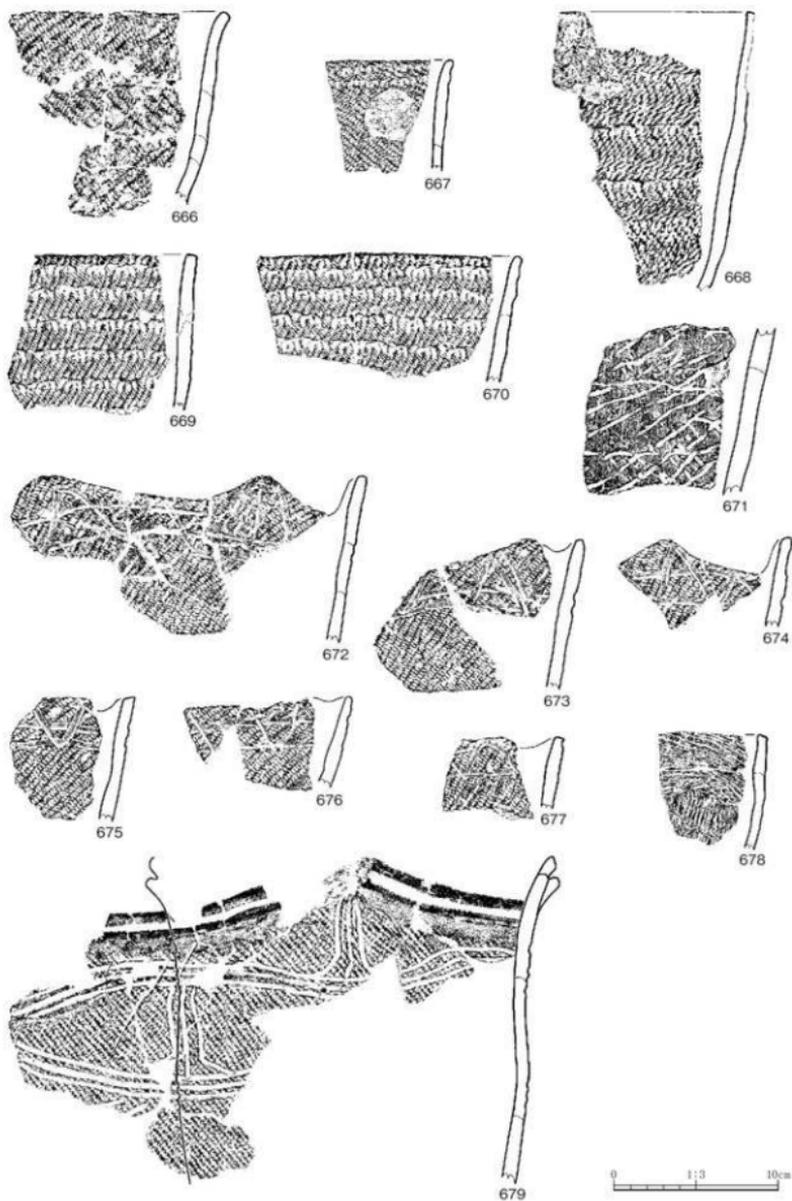
4C グリッド



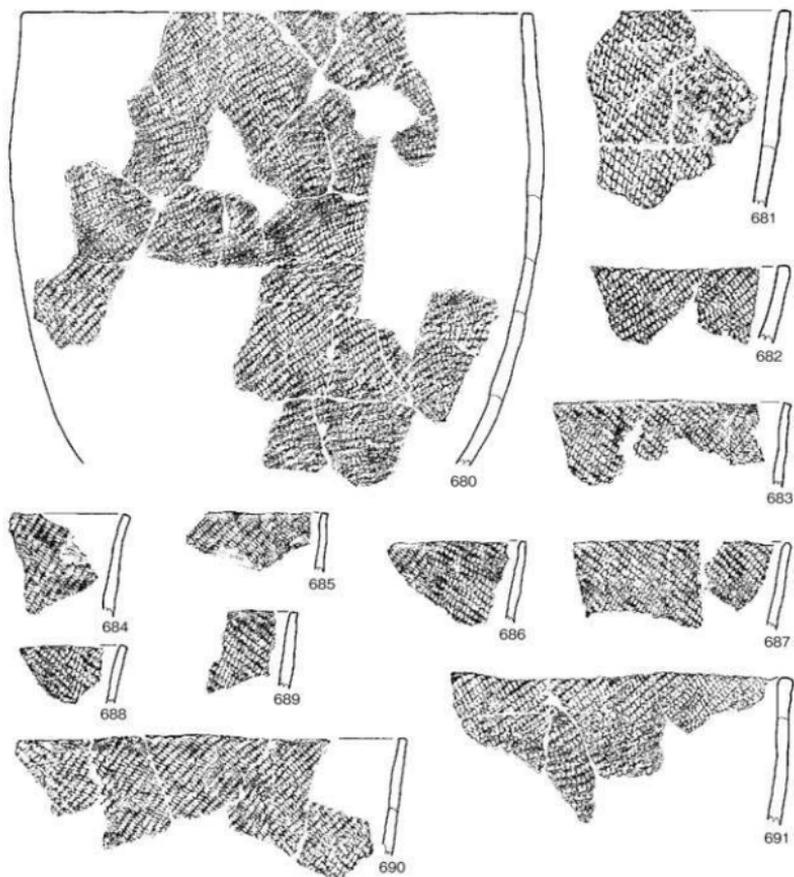
第92図 3D・4B・4Cグリッド出土土器



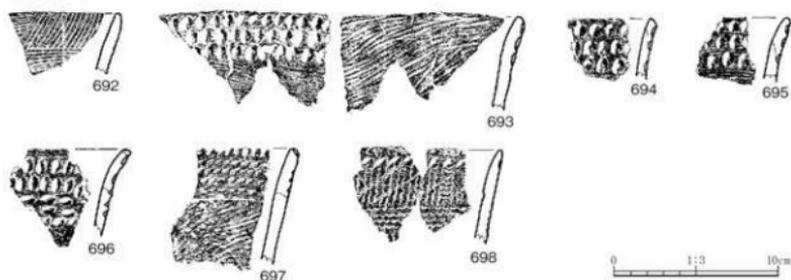
第93図 4Cグリッド出土土器



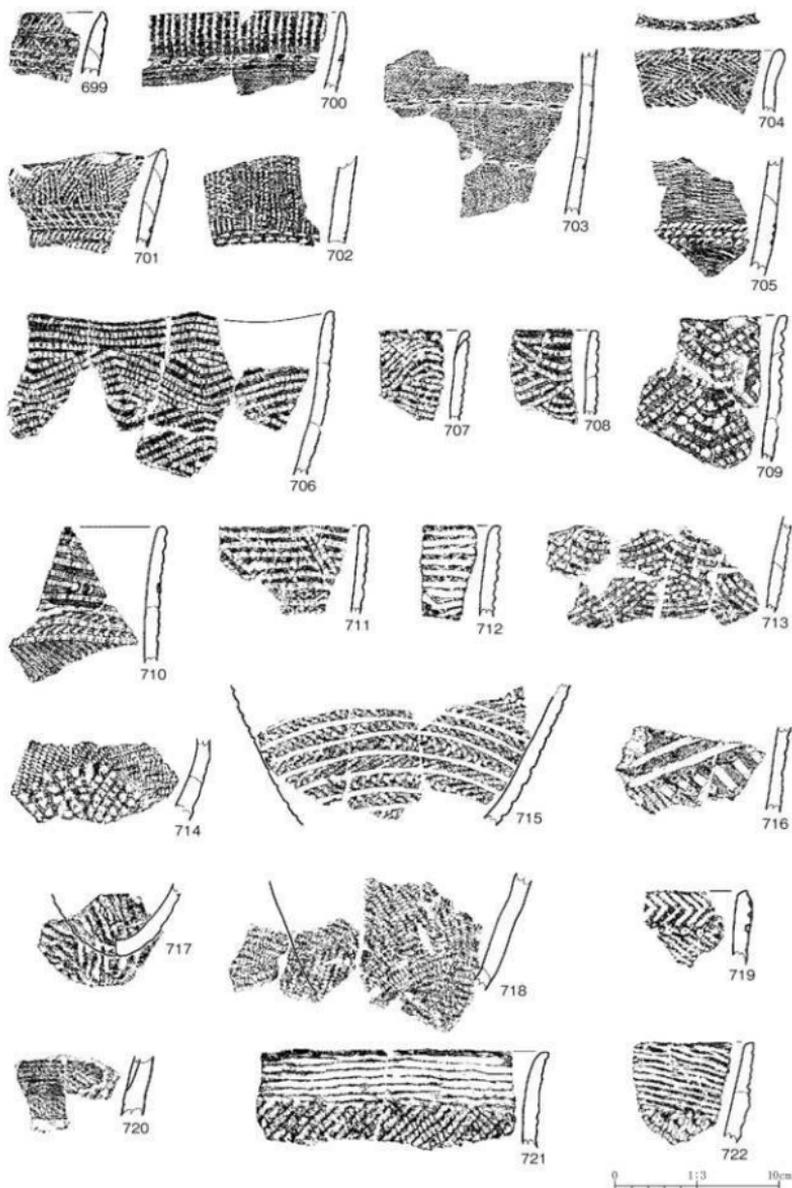
第94図 4Cグリッド出土土器



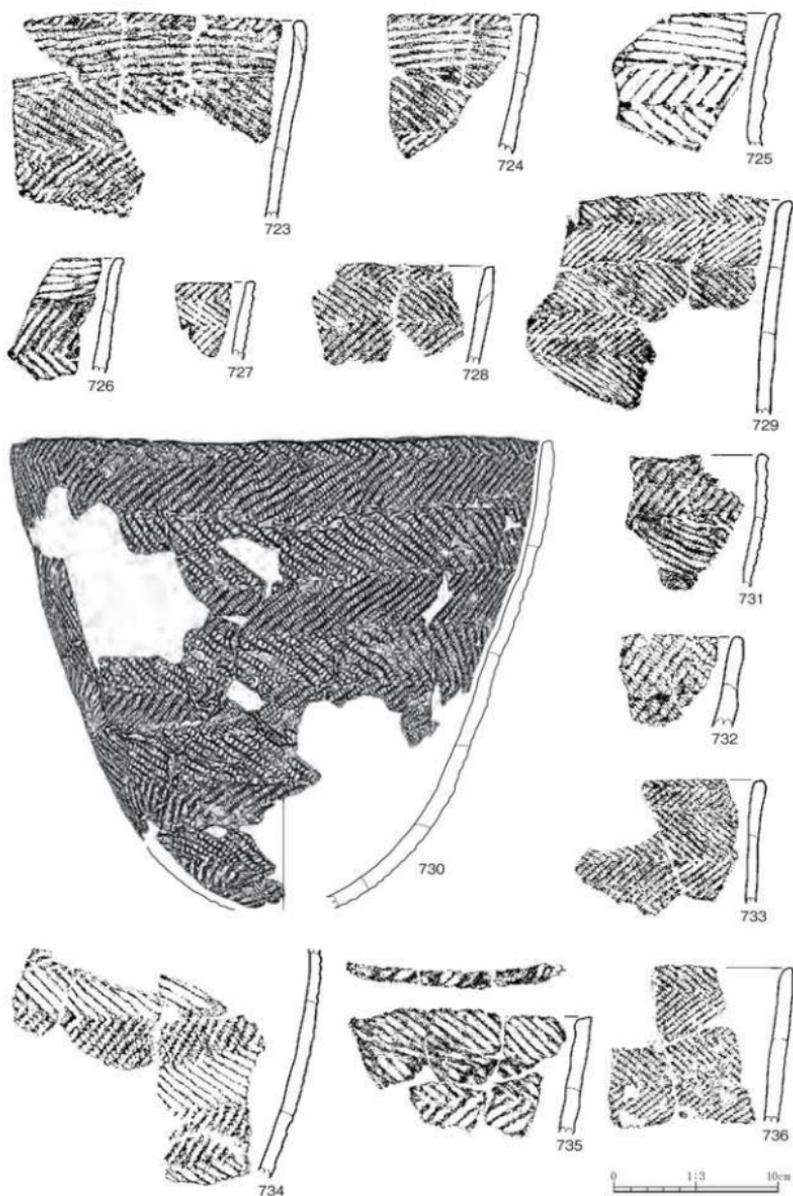
4D グリッド



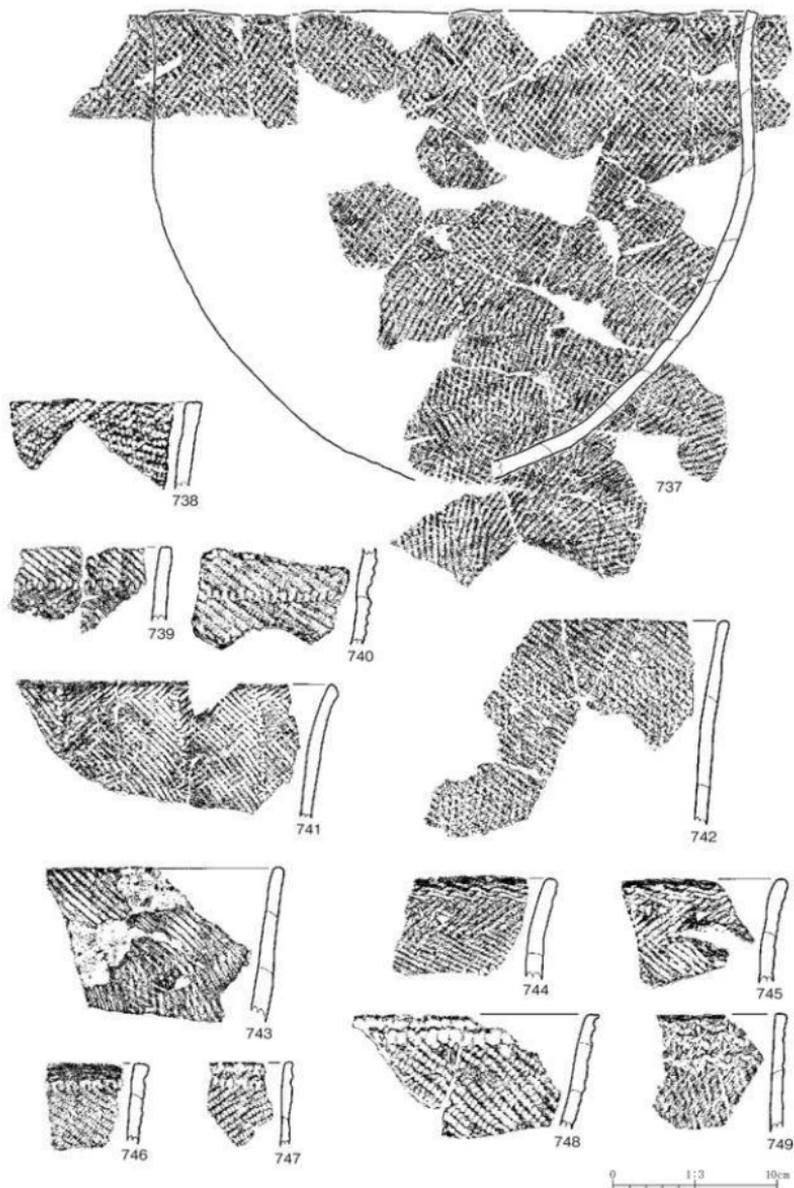
第95図 4C・4Dグリッド出土土器



第96図 4Dグリッド出土土器



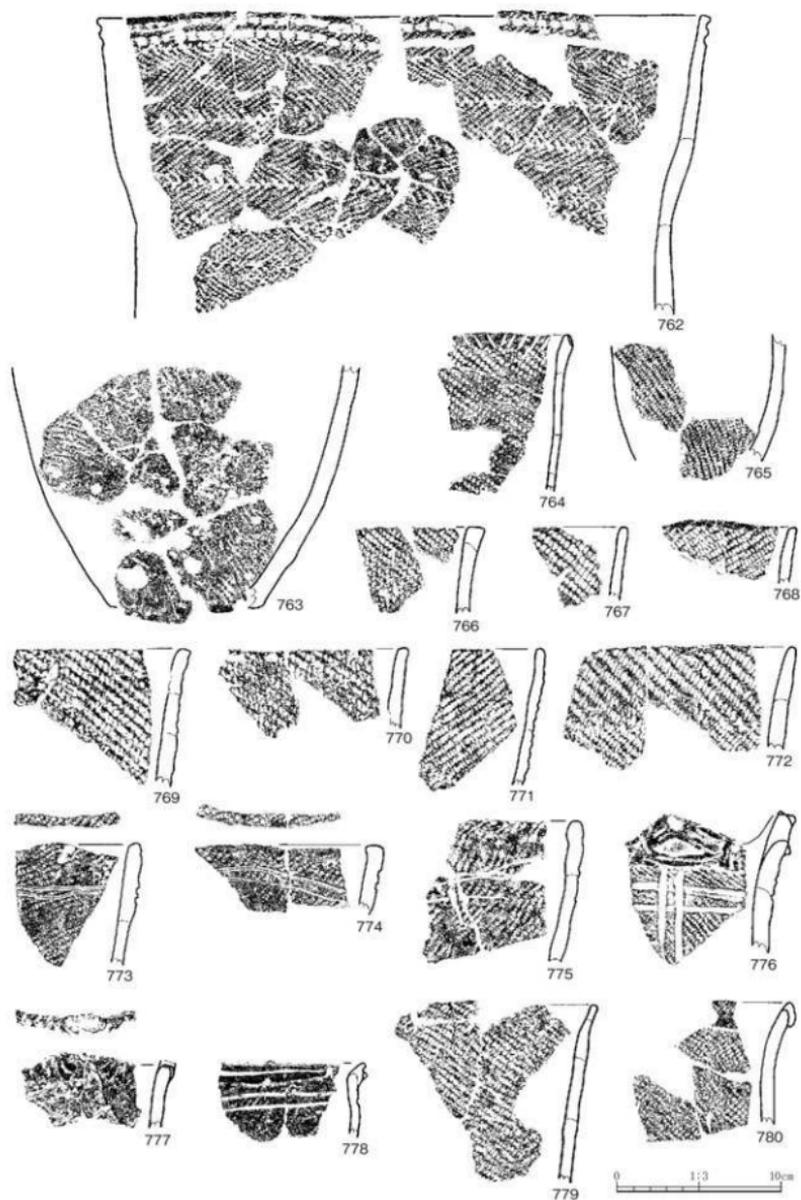
第97図 4Dグリッド出土土器



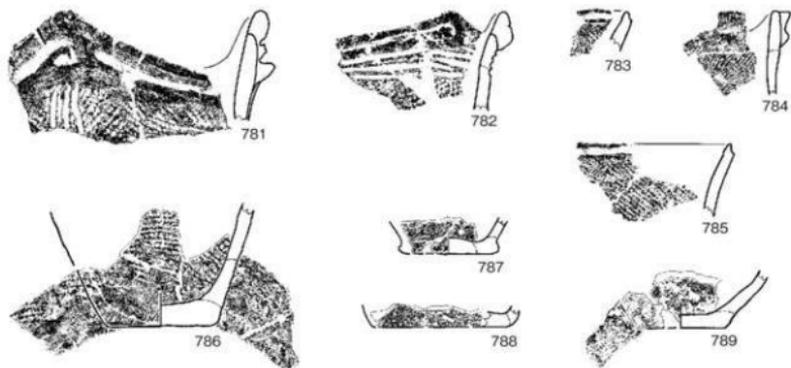
第98図 4Dグリッド出土土器



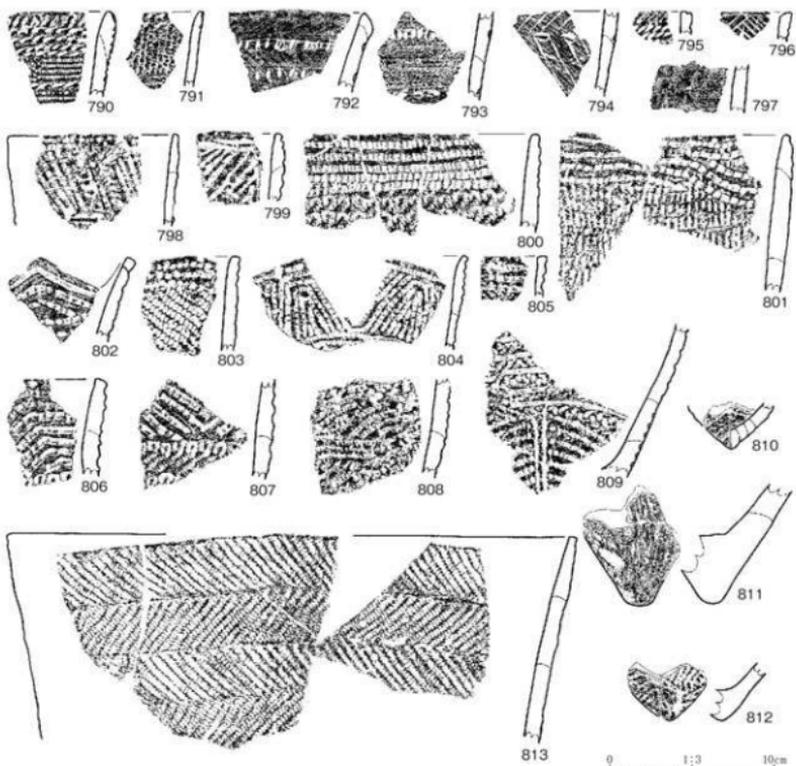
第99図 4Dグリッド出土土器



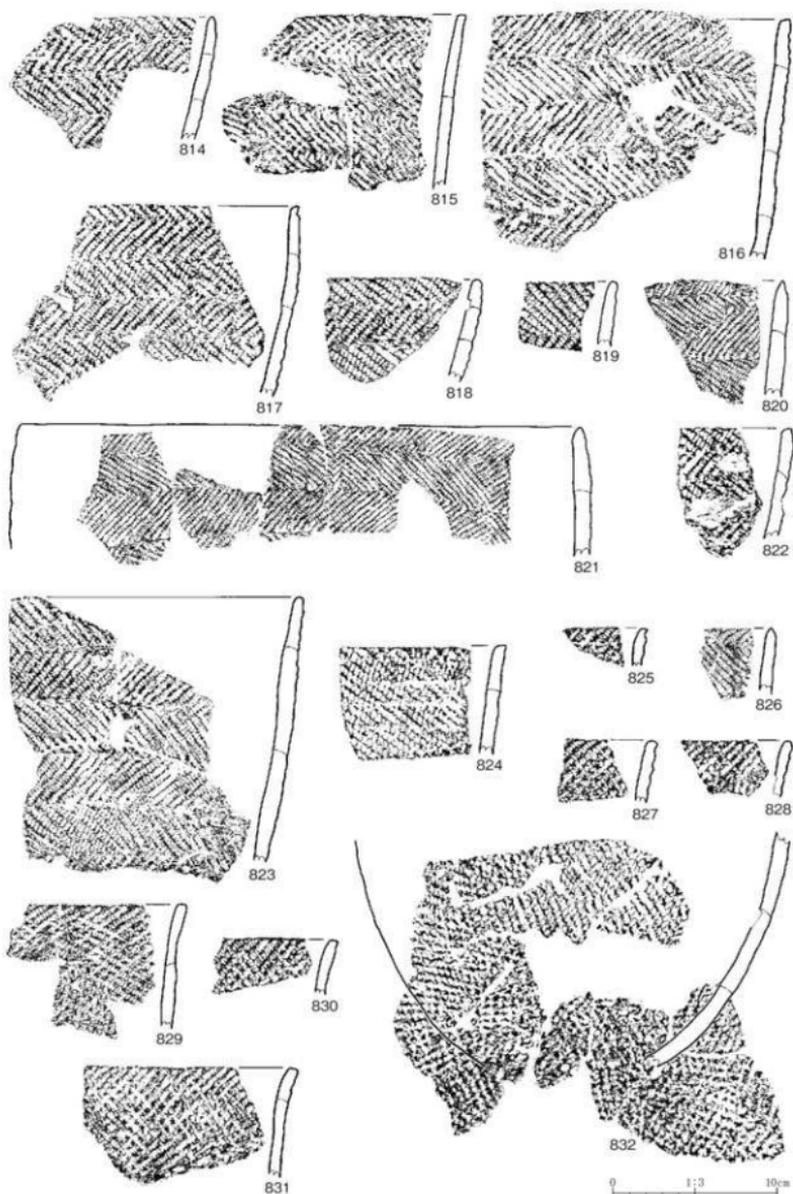
第100図 4Dグリッド出土土器



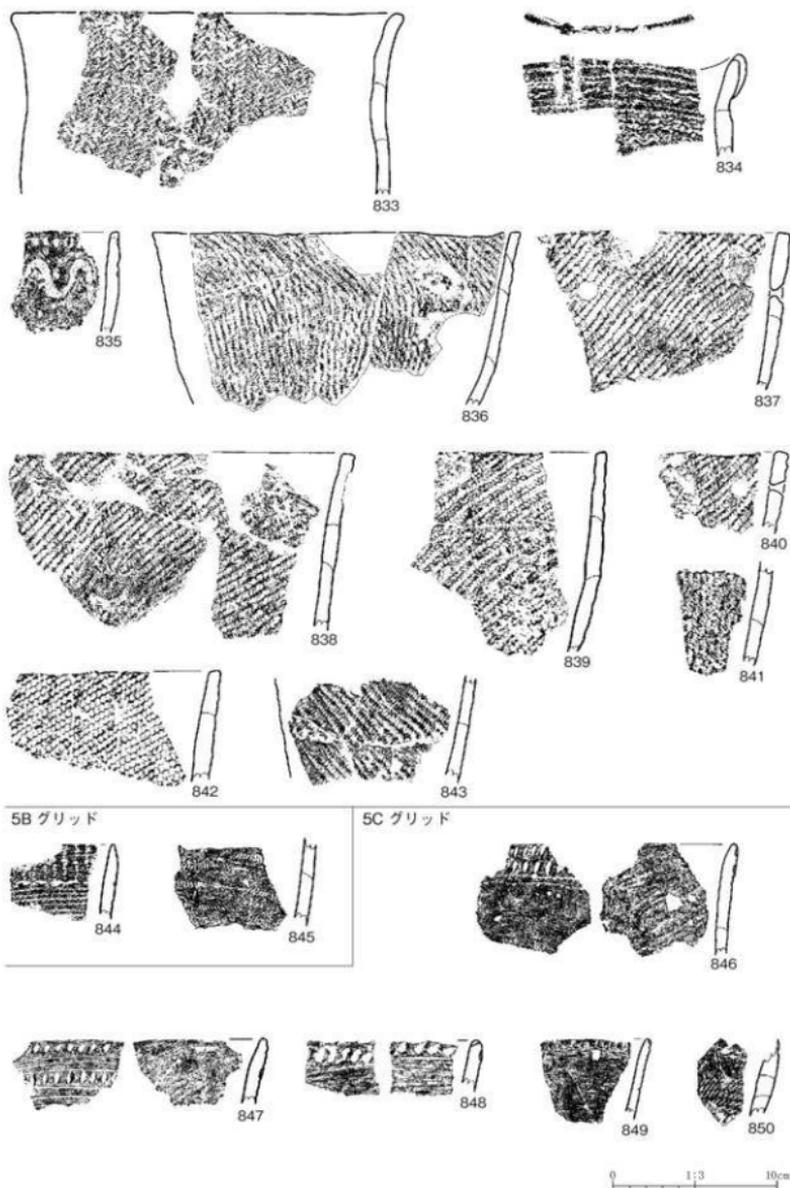
4E グリッド



第101図 4D・4Eグリッド出土土器

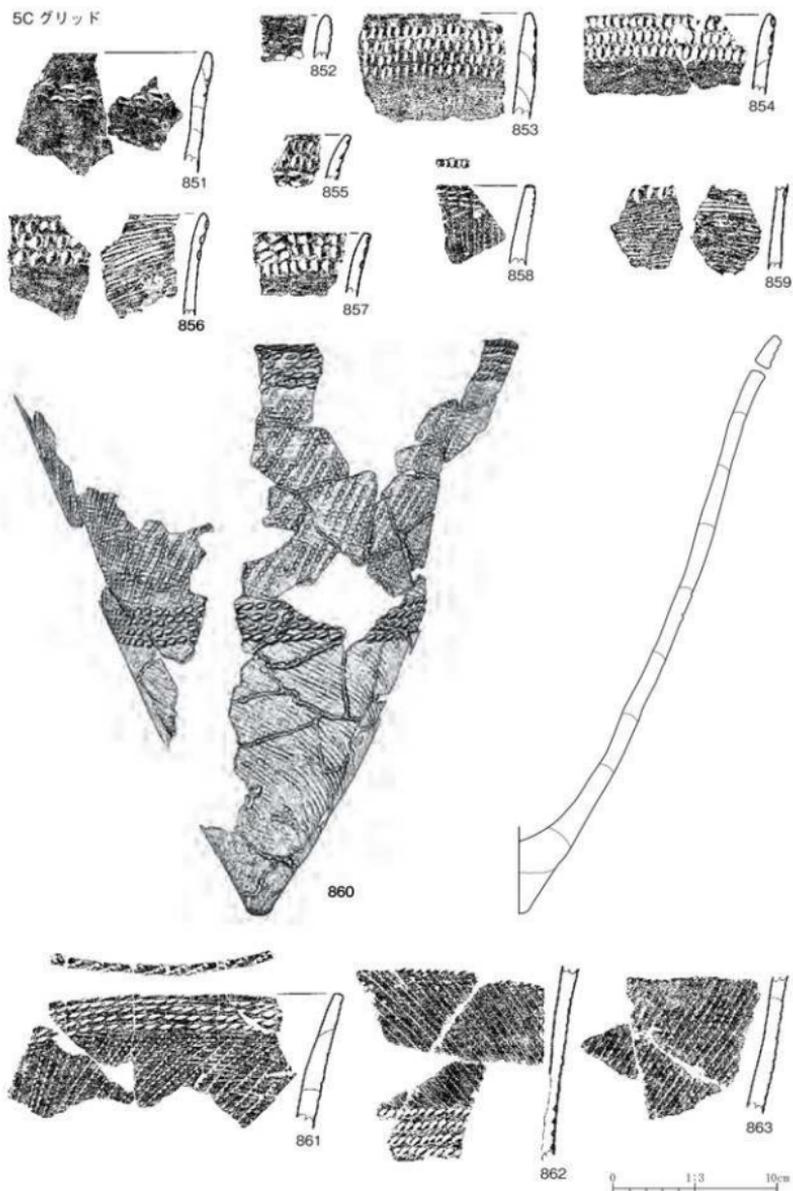


第102図 4Eグリッド出土土器

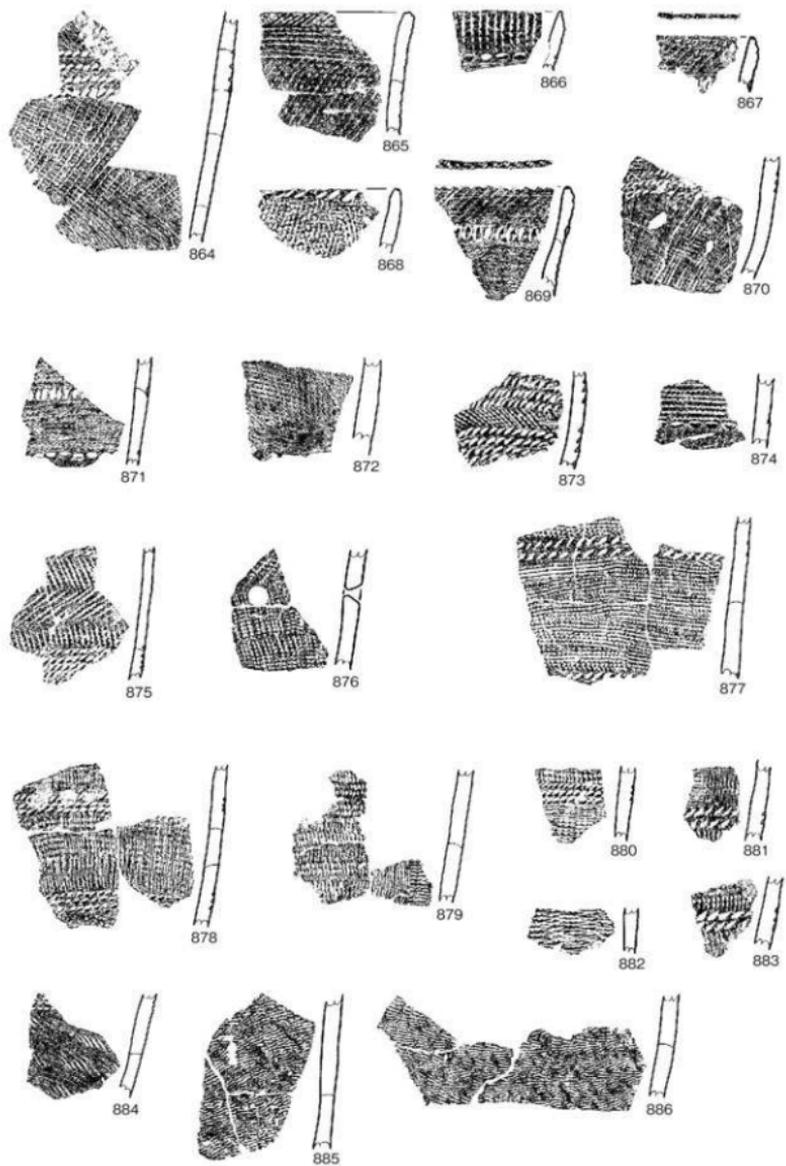


第103図 4E・5B・5Cグリッド出土土器

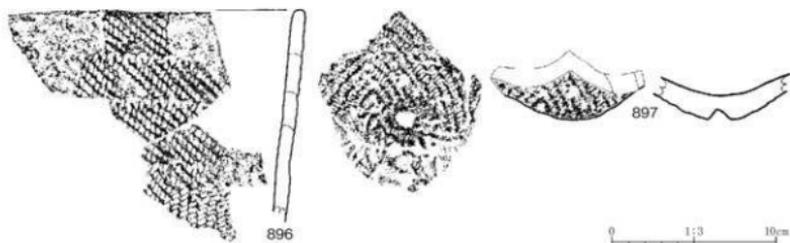
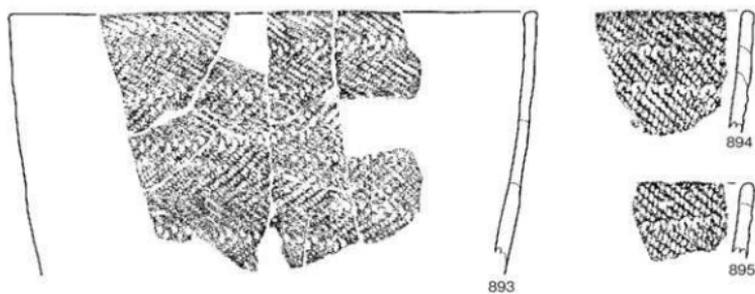
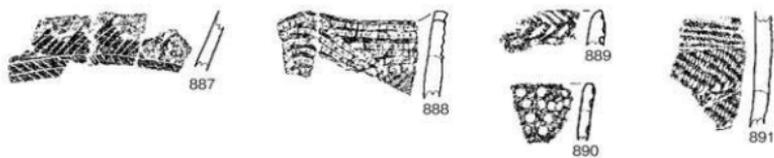
5C グリッド



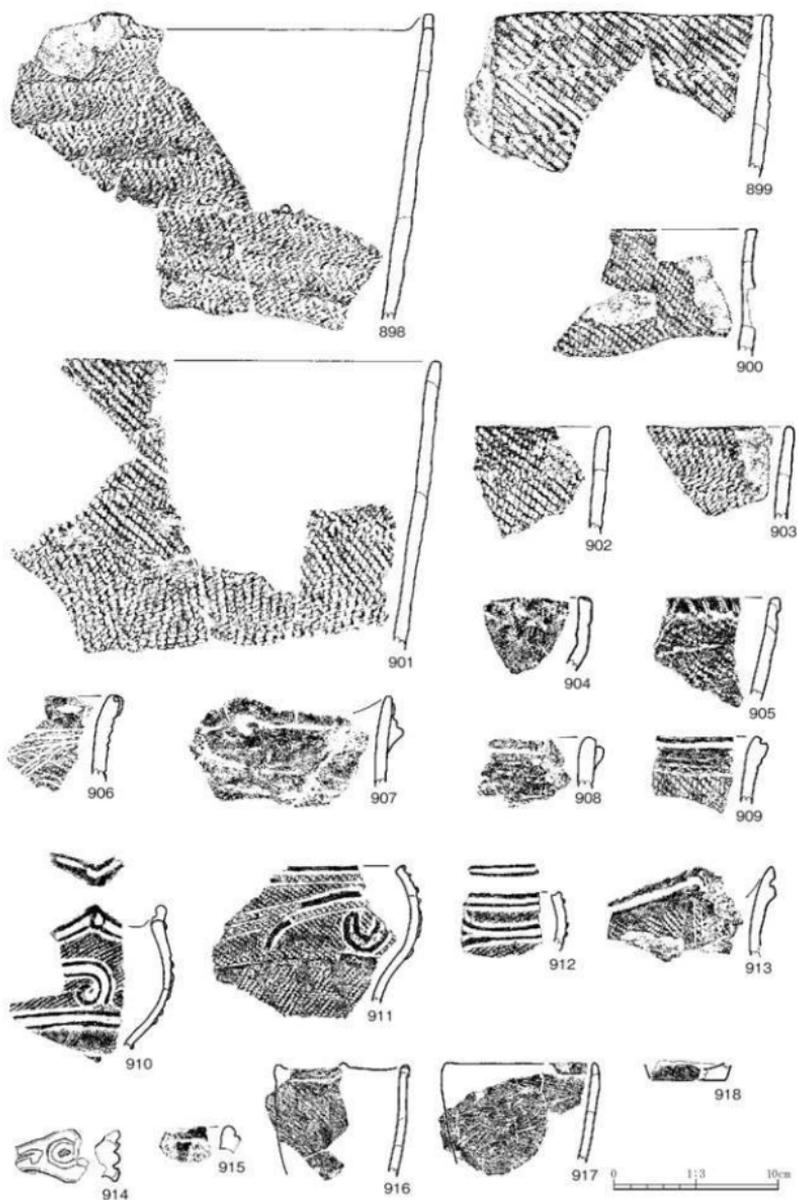
第104図 5Cグリッド出土土器



第105図 5Cグリッド出土土器

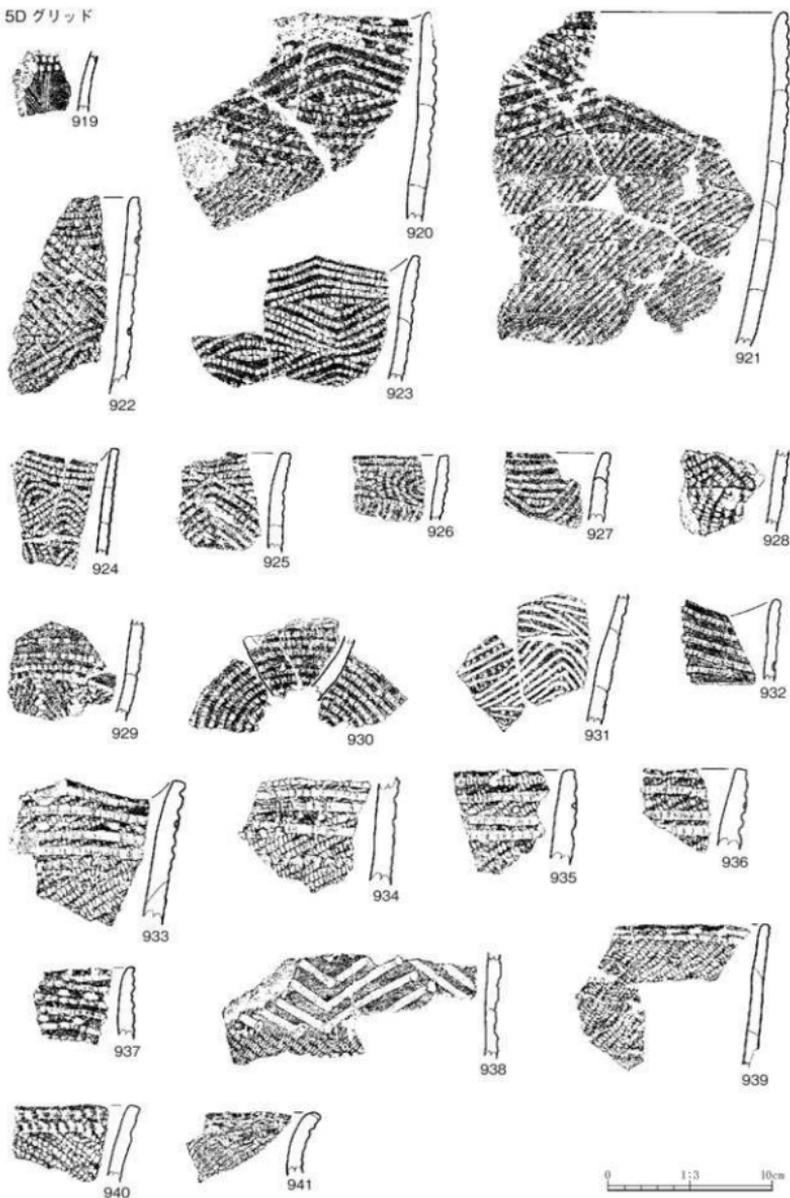


第106図 5Cグリッド出土土器

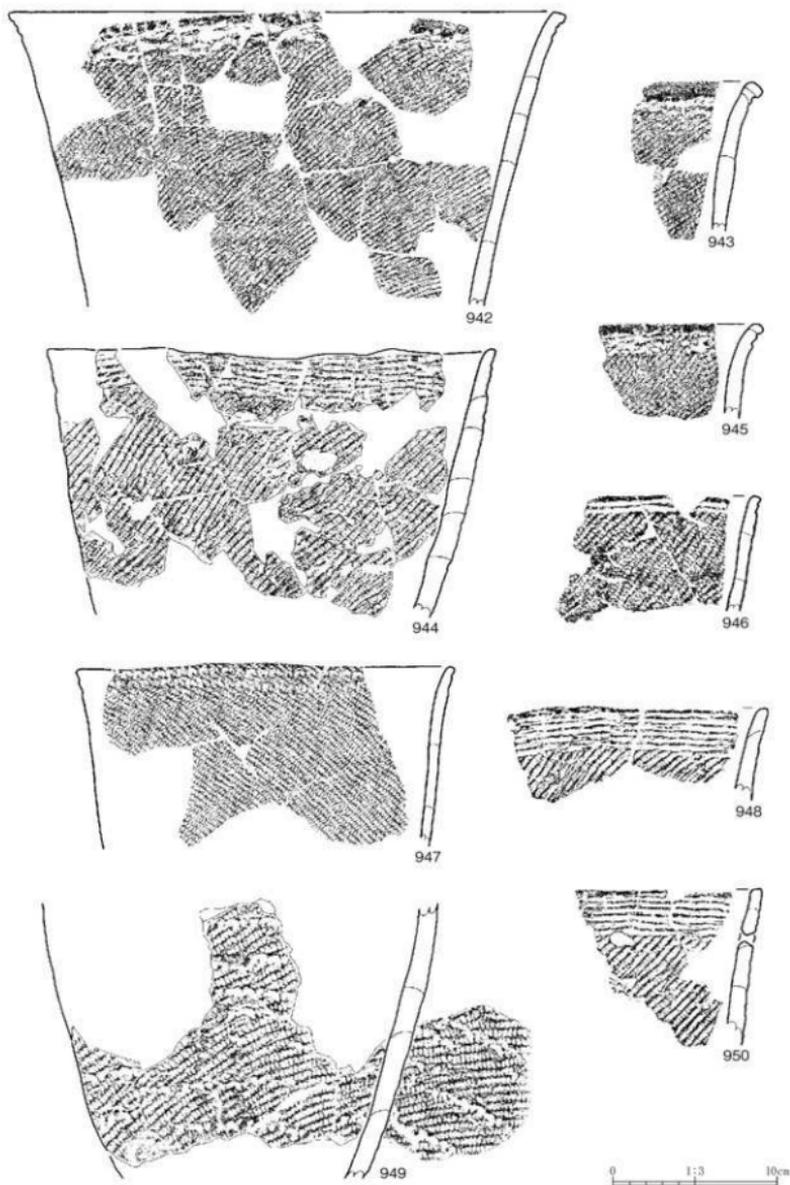


第107図 5Cグリッド出土土器

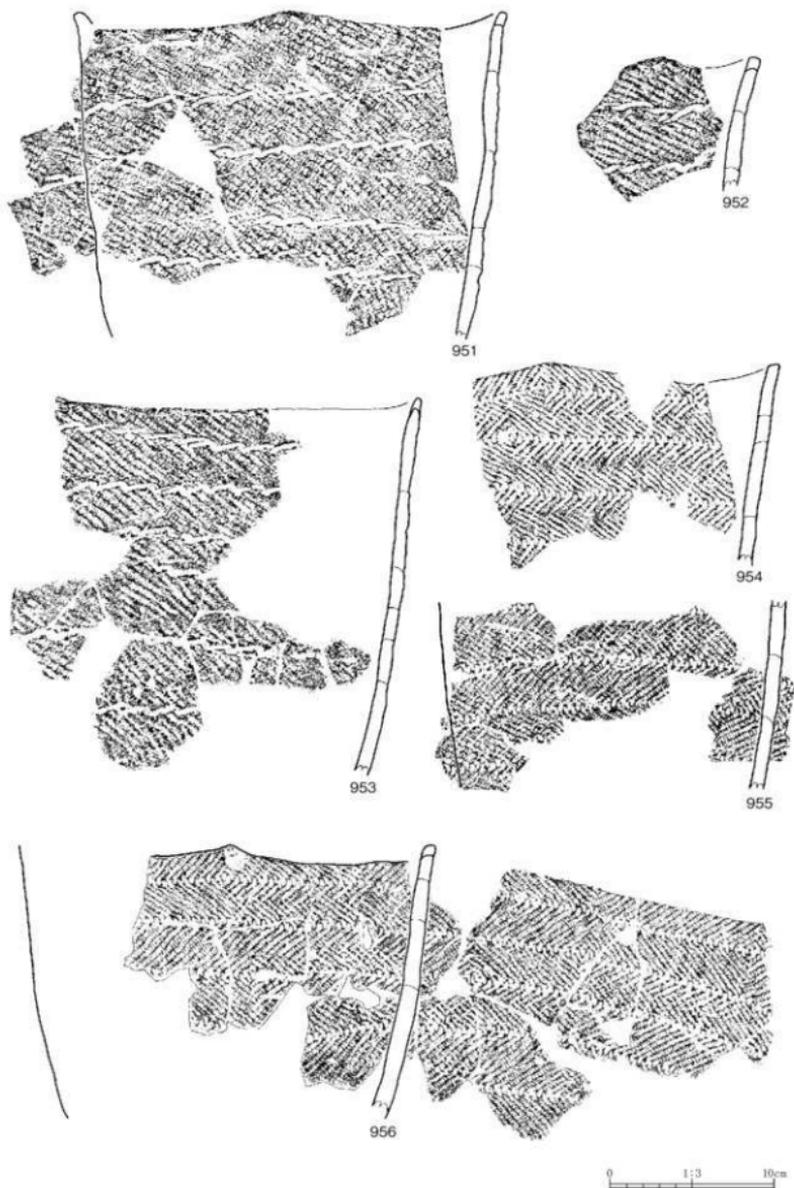
5D グリッド



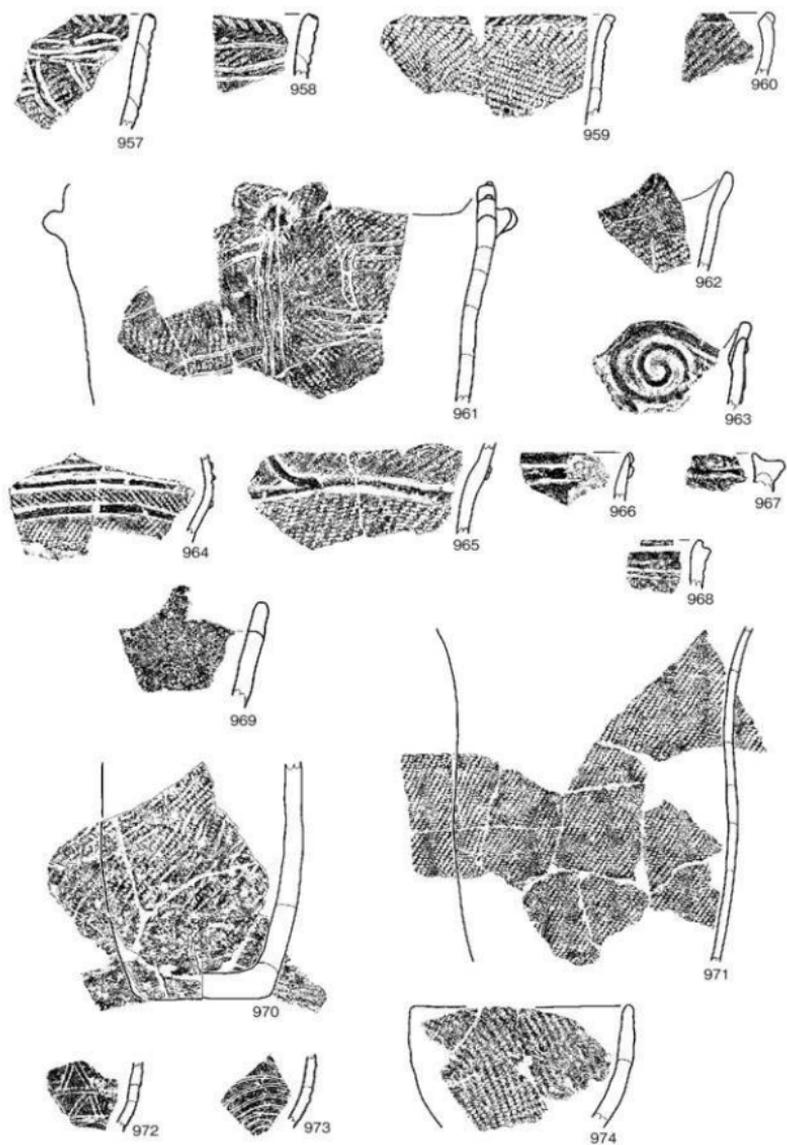
第108図 5Dグリッド出土土器



第109図 5Dグリッド出土土器

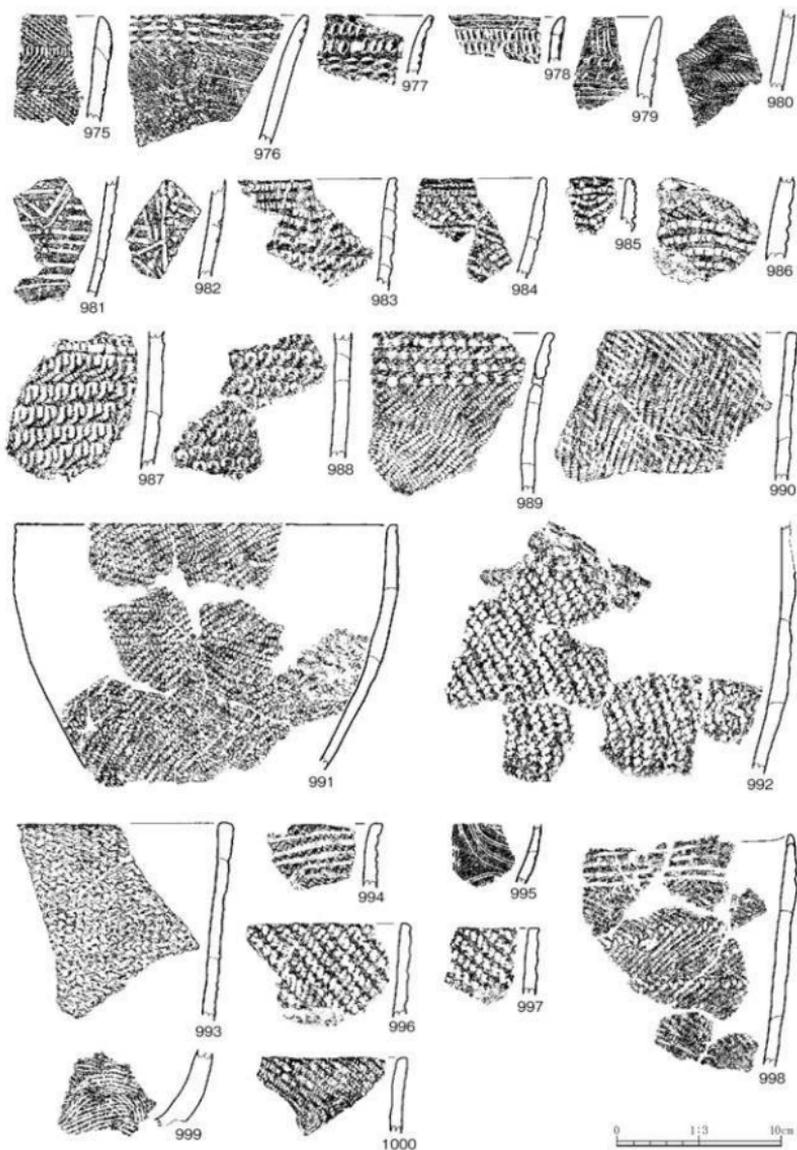


第110図 5Dグリッド出土土器



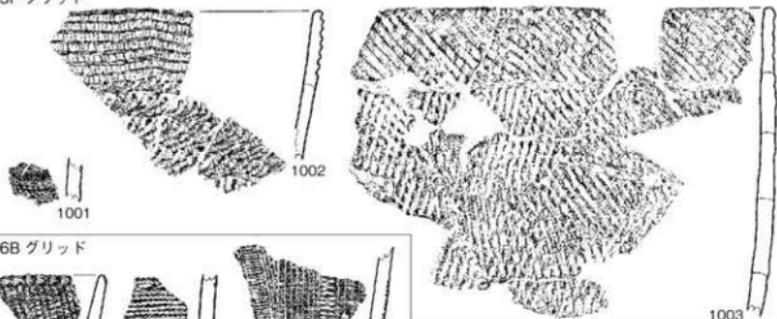
第111図 5Dグリッド出土土器

5E グリッド

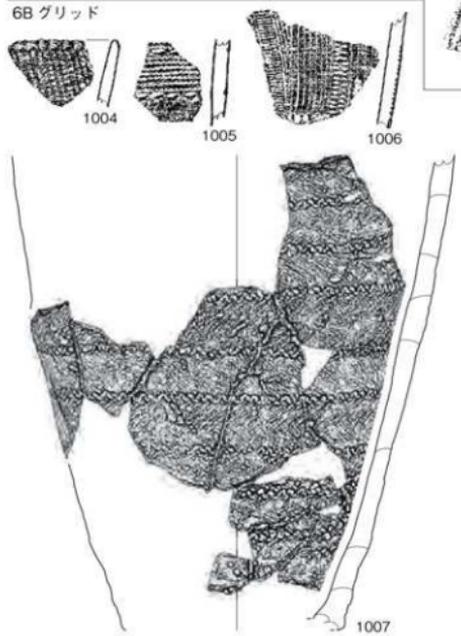


第112図 5Eグリッド出土土器

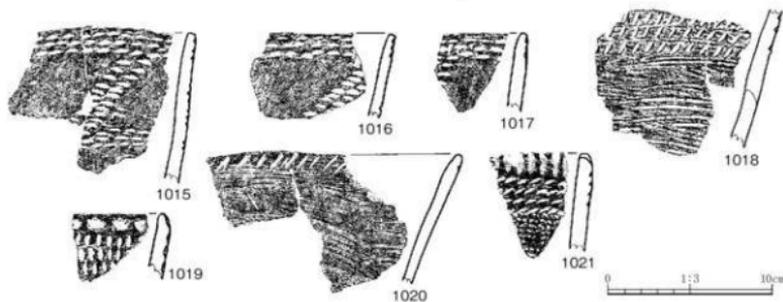
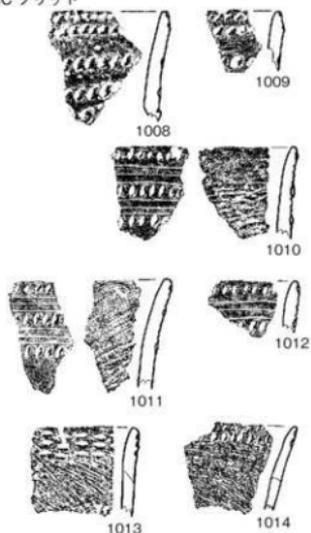
5F グリッド



6B グリッド

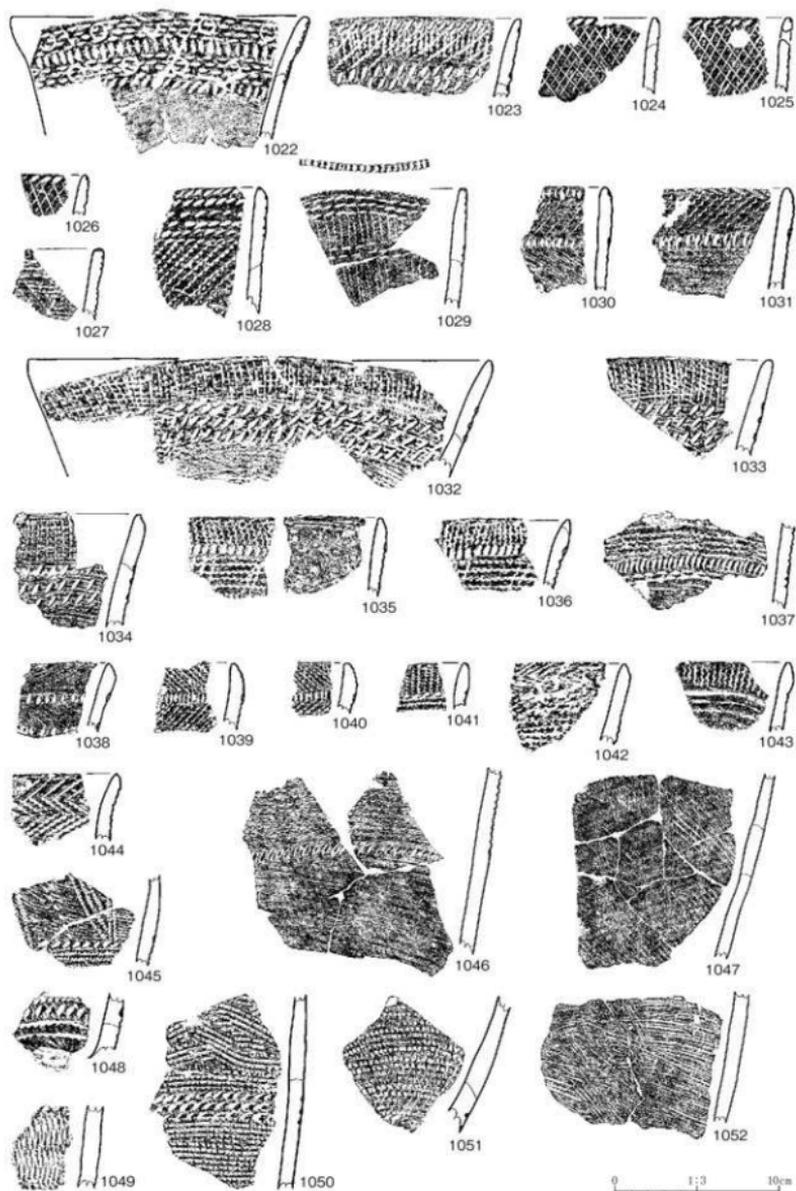


6C グリッド

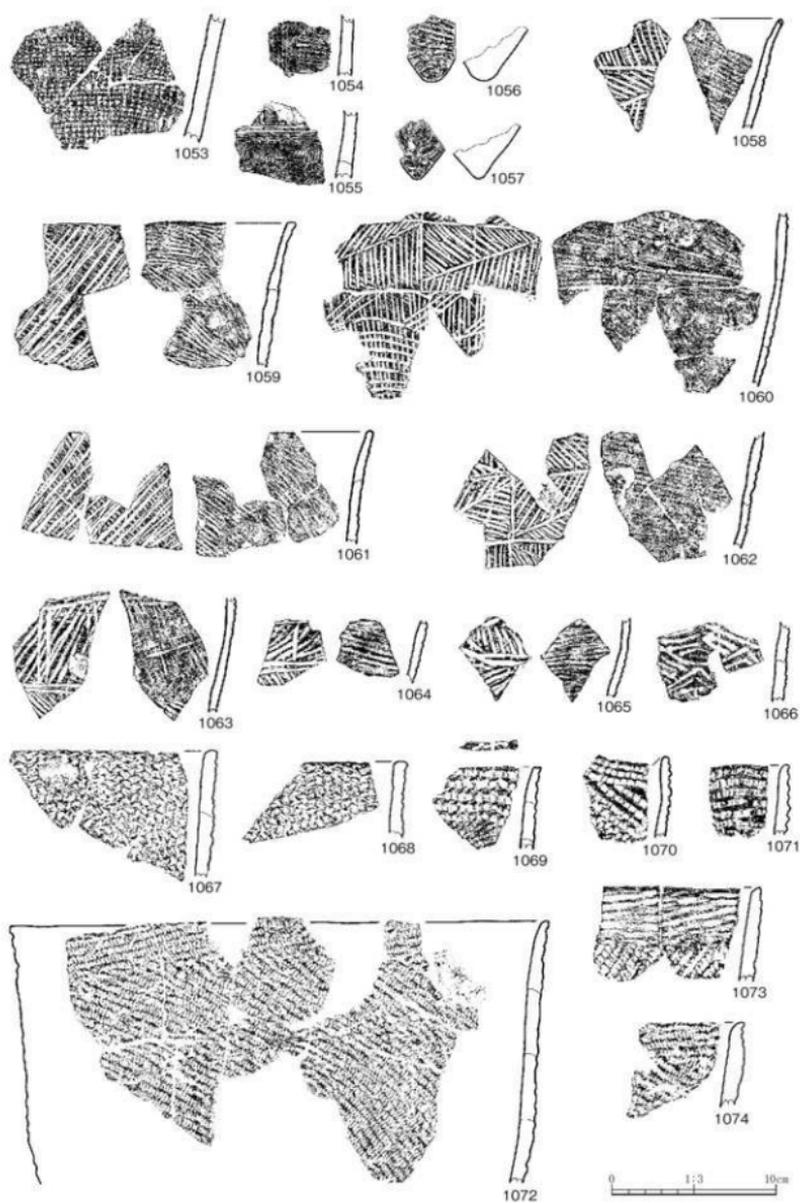


0 1:3 30cm

第113図 5F・6B・6Cグリッド出土土器



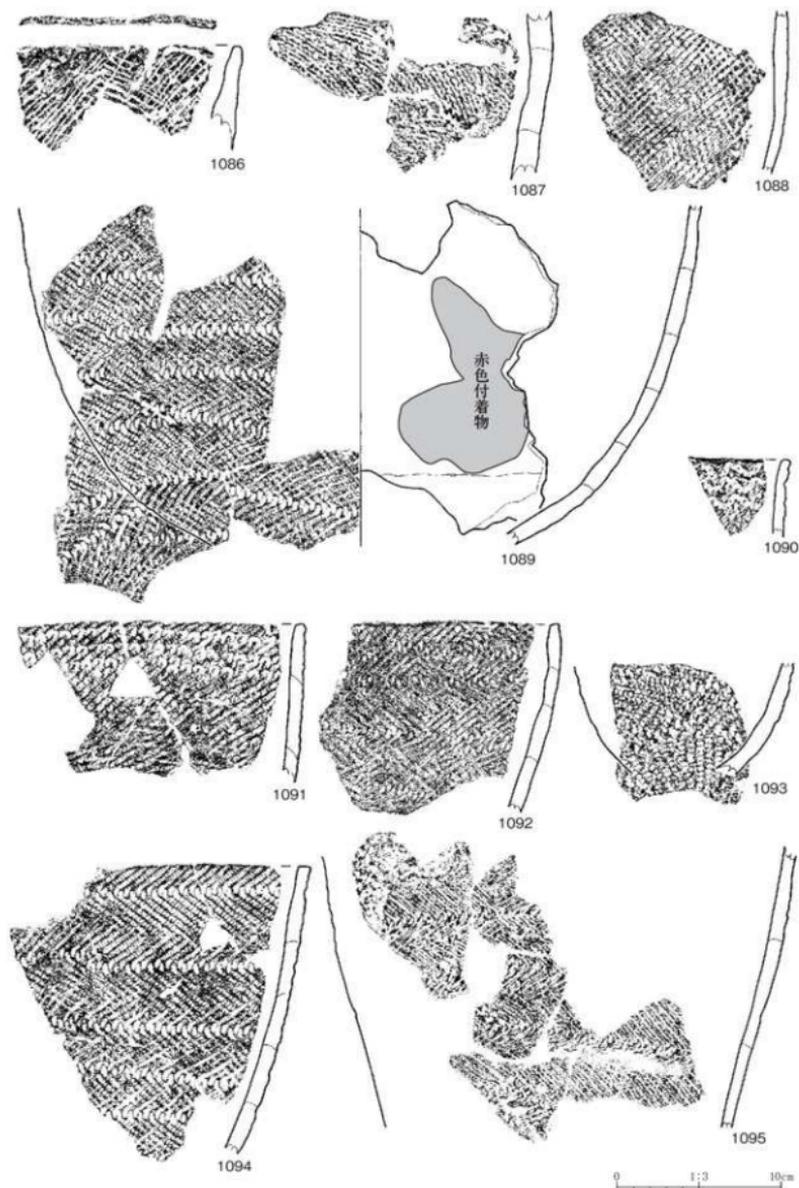
第114図 6Cグリッド出土土器



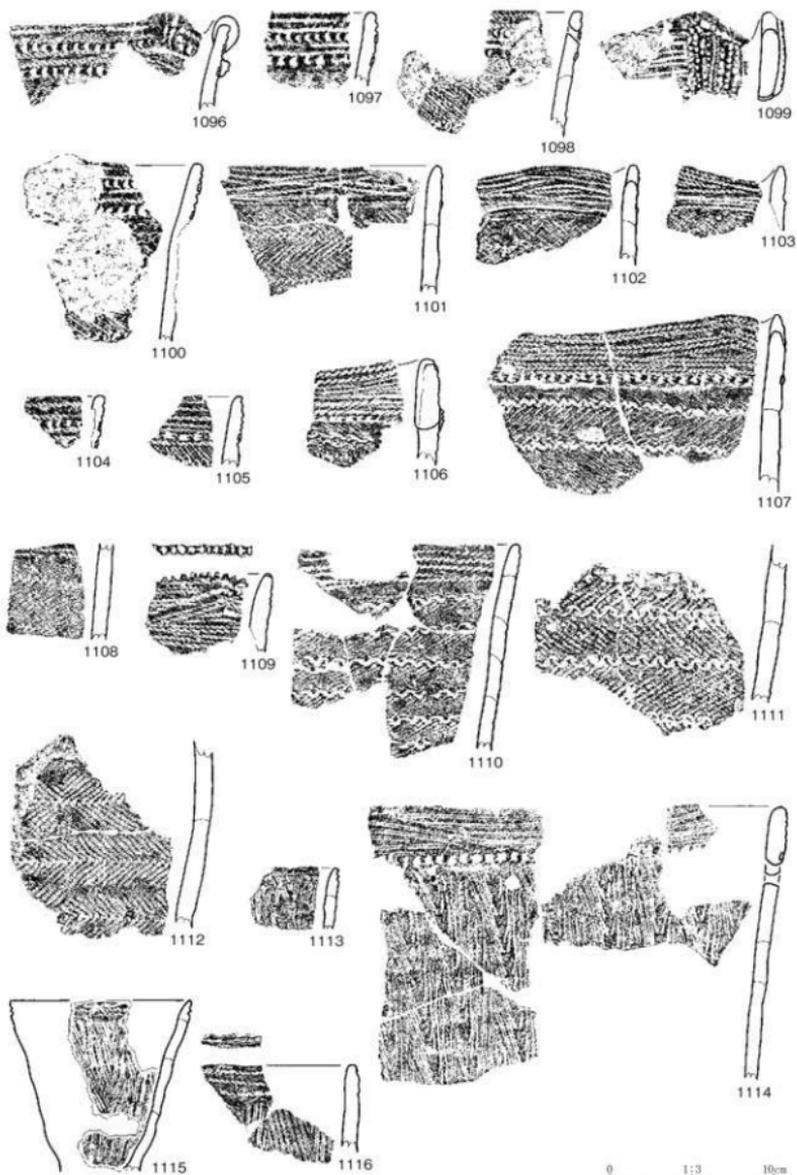
第115図 6Cグリッド出土土器



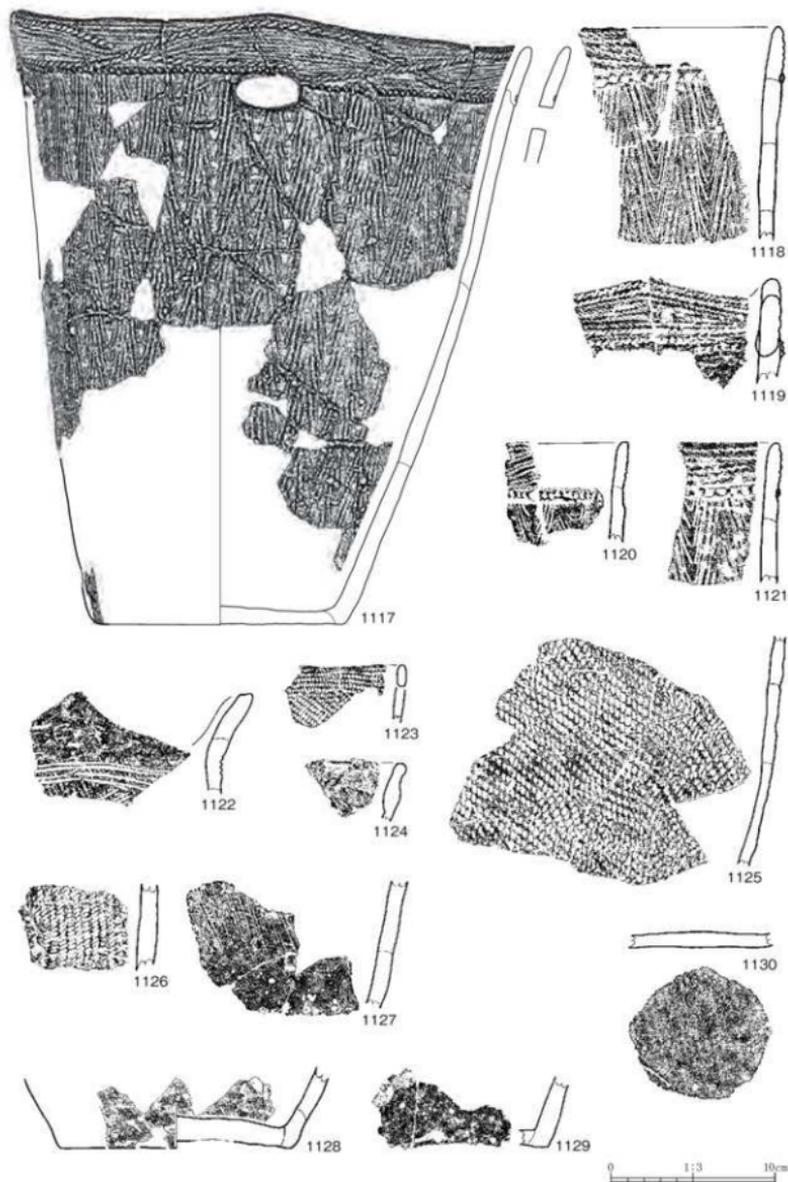
第116図 6Cグリッド出土土器



第117図 6Cグリッド出土土器



第118図 6Cグリッド出土土器



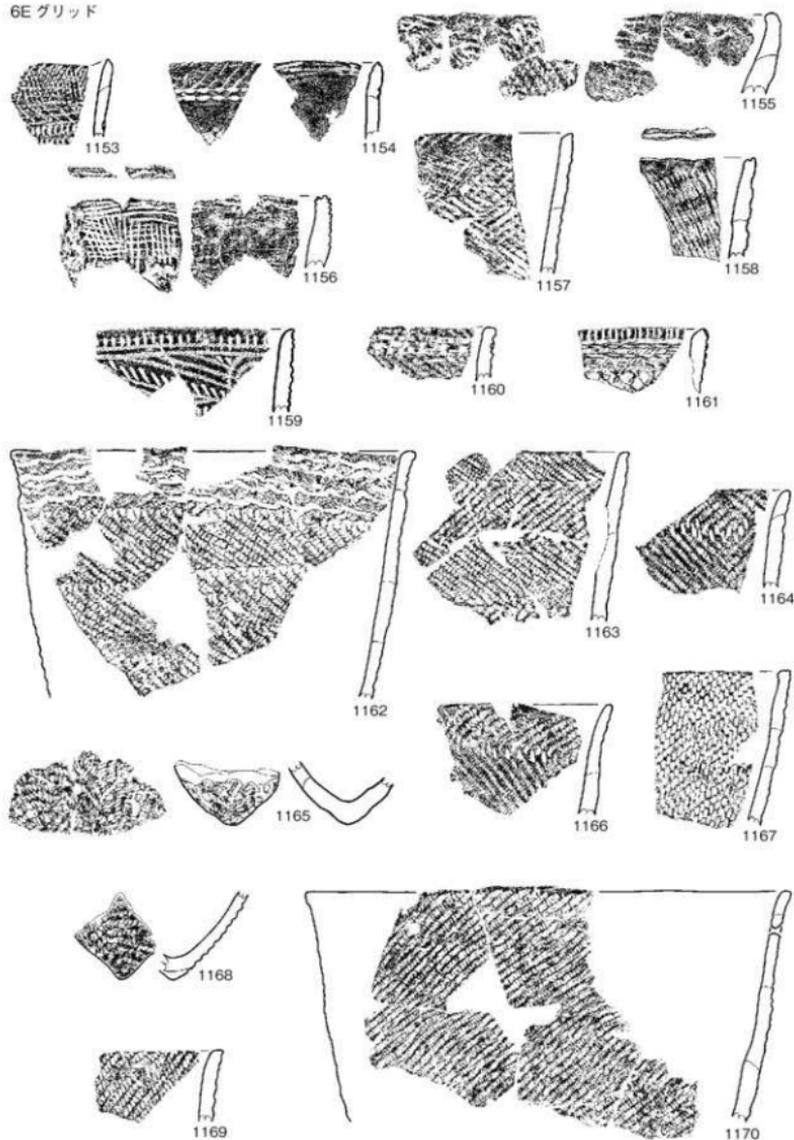
第119図 6Cグリッド出土土器

6D グリッド



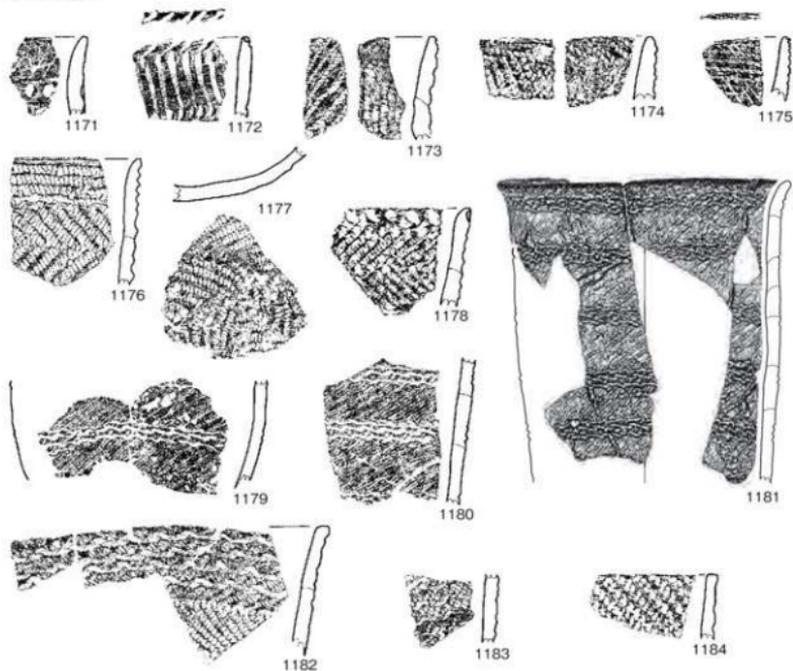
第120図 6Dグリッド出土土器

6E グリッド

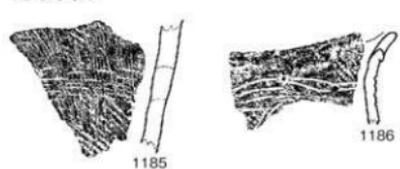


第121図 6Eグリッド出土土器

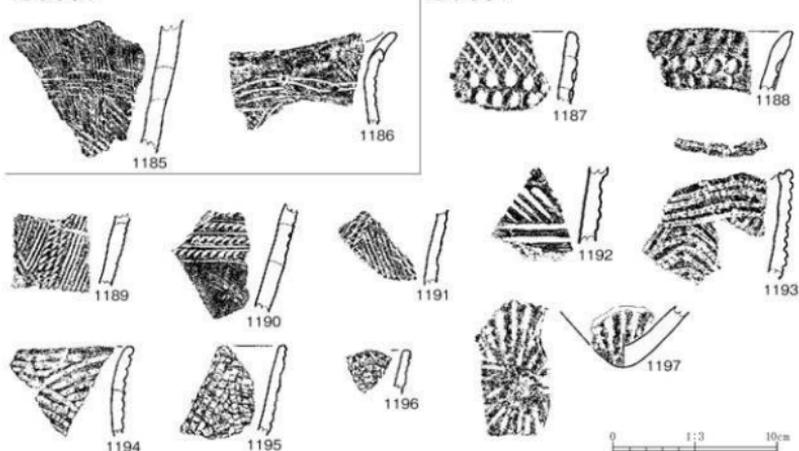
6F グリッド



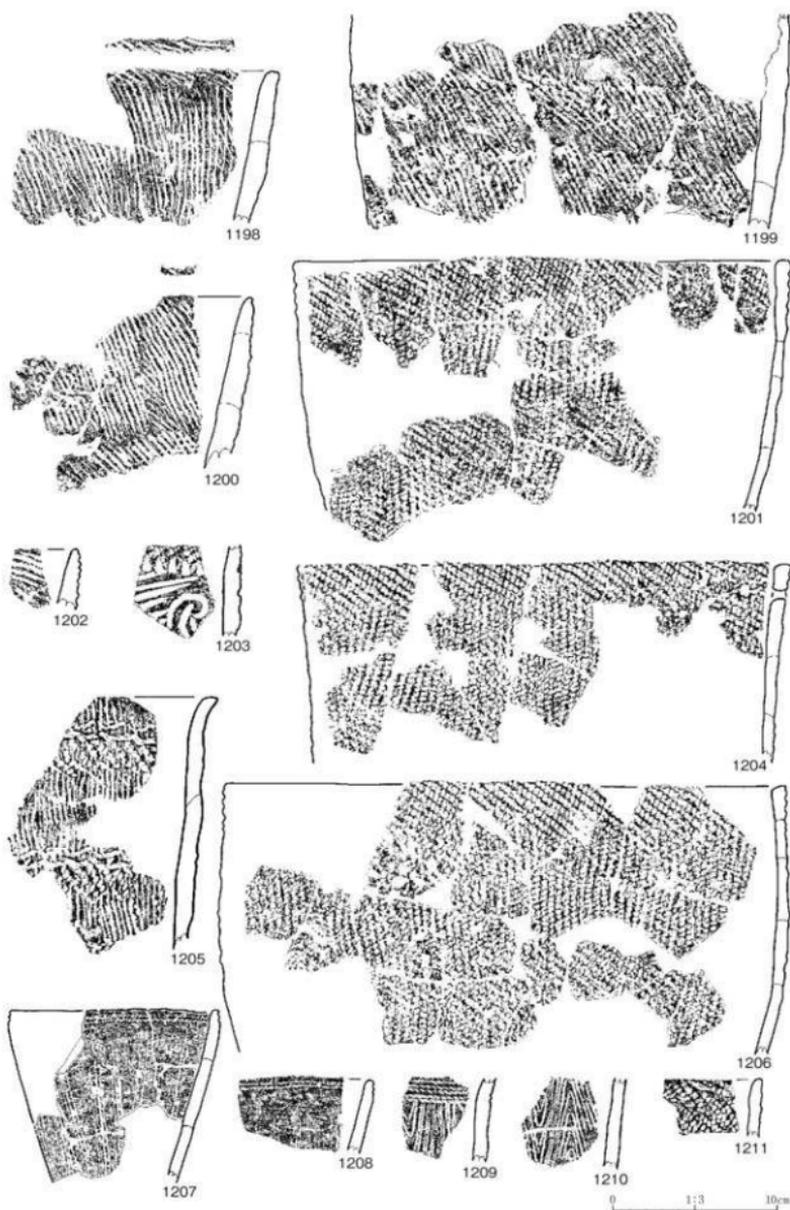
7C グリッド



7D グリッド

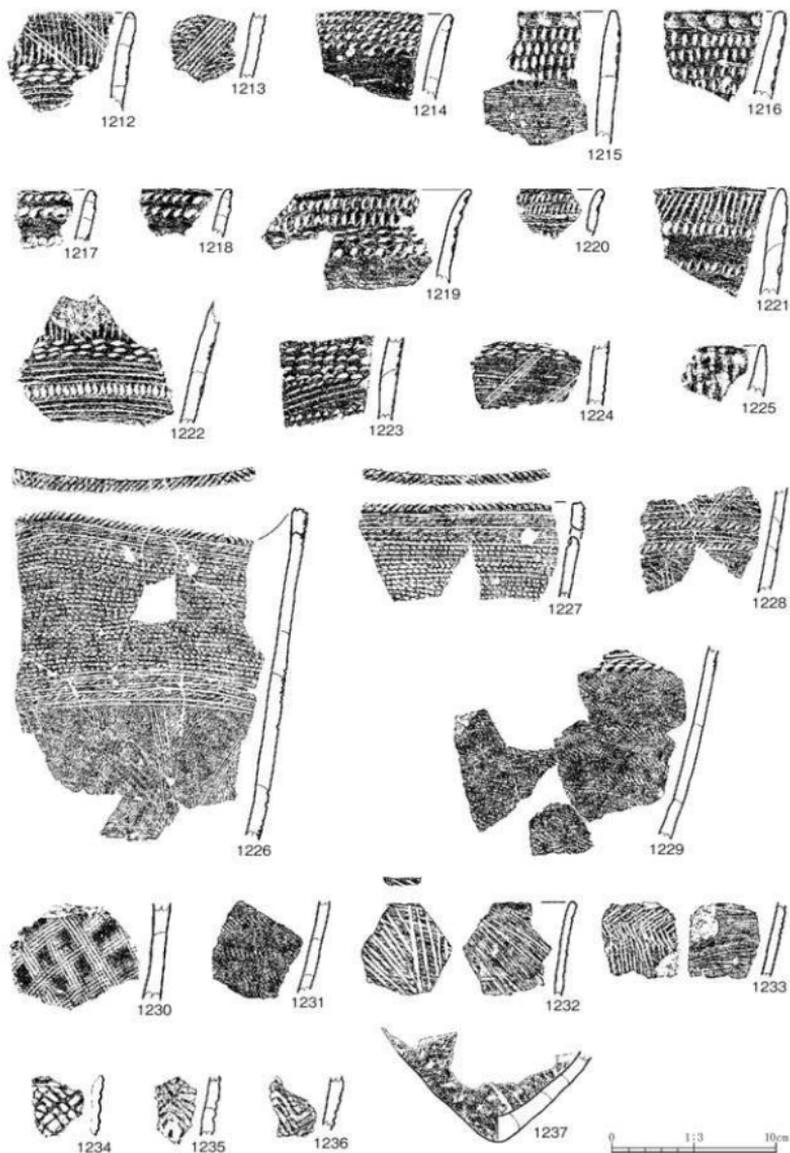


第122図 6F・7C・7Dグリッド出土土器

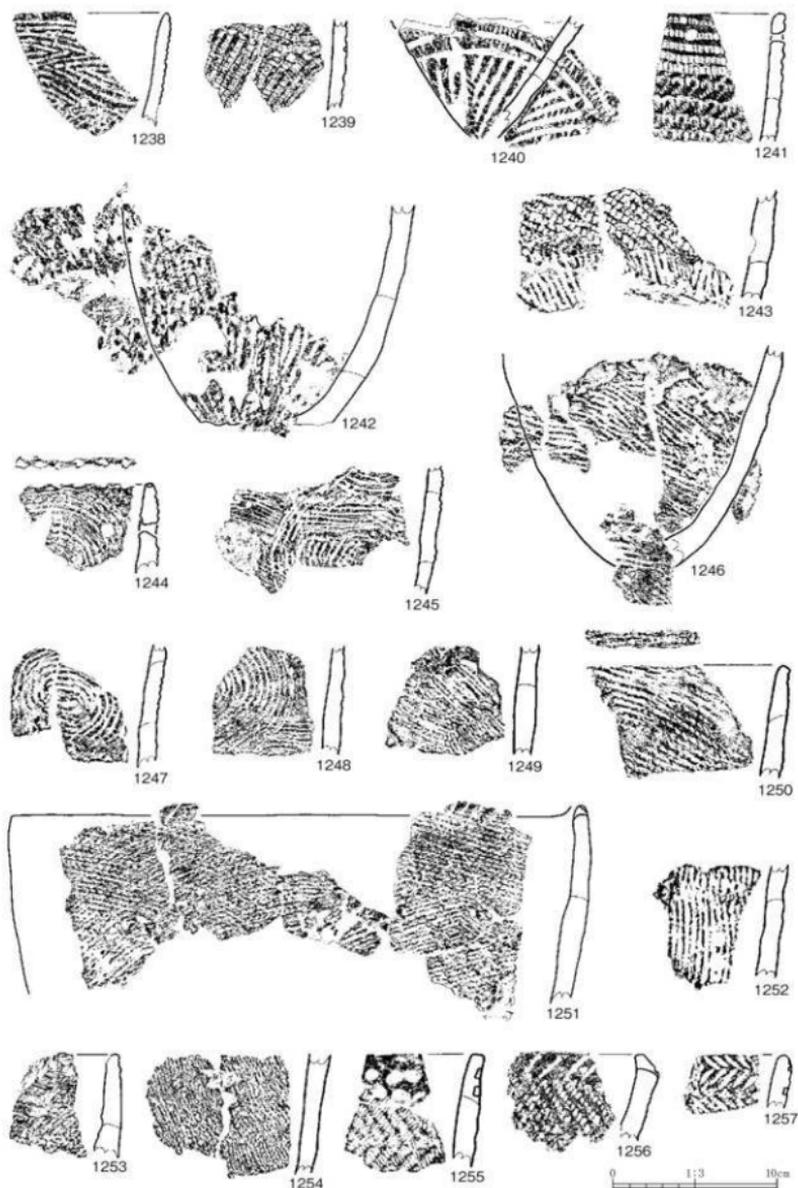


第123図 7Dグリッド出土土器

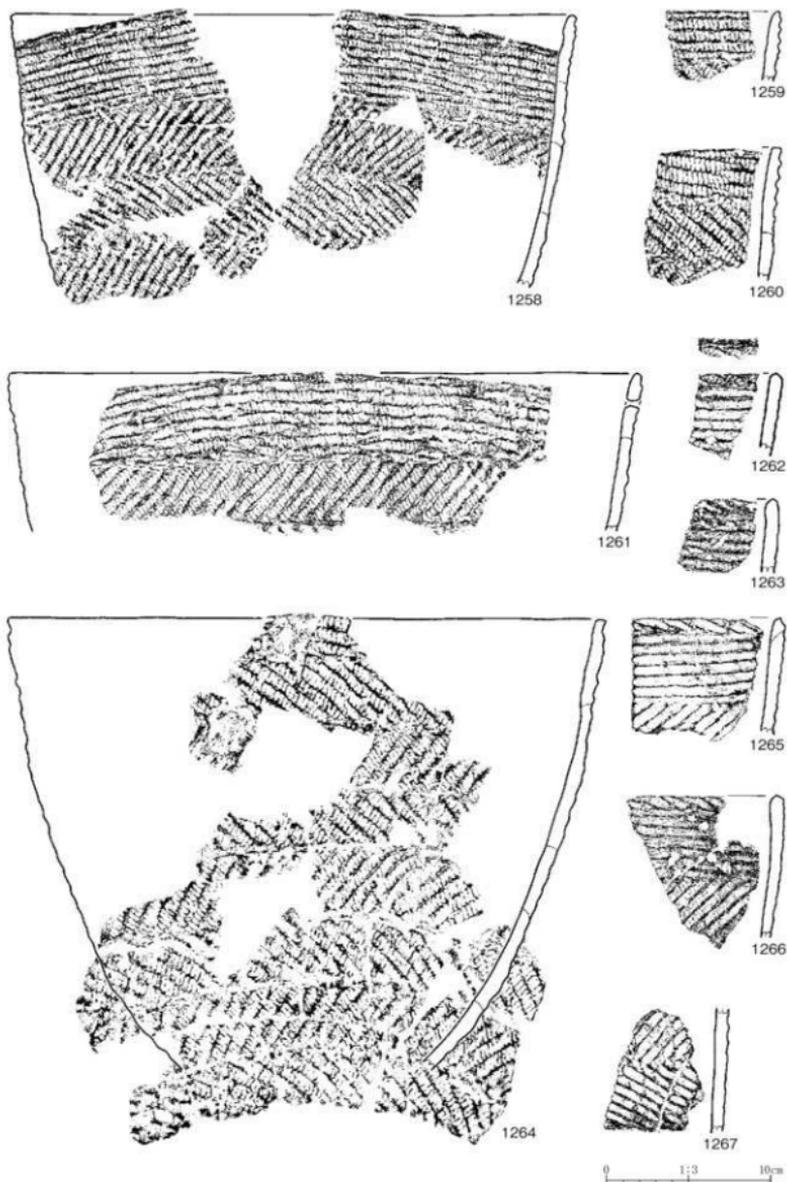
7E グリッド



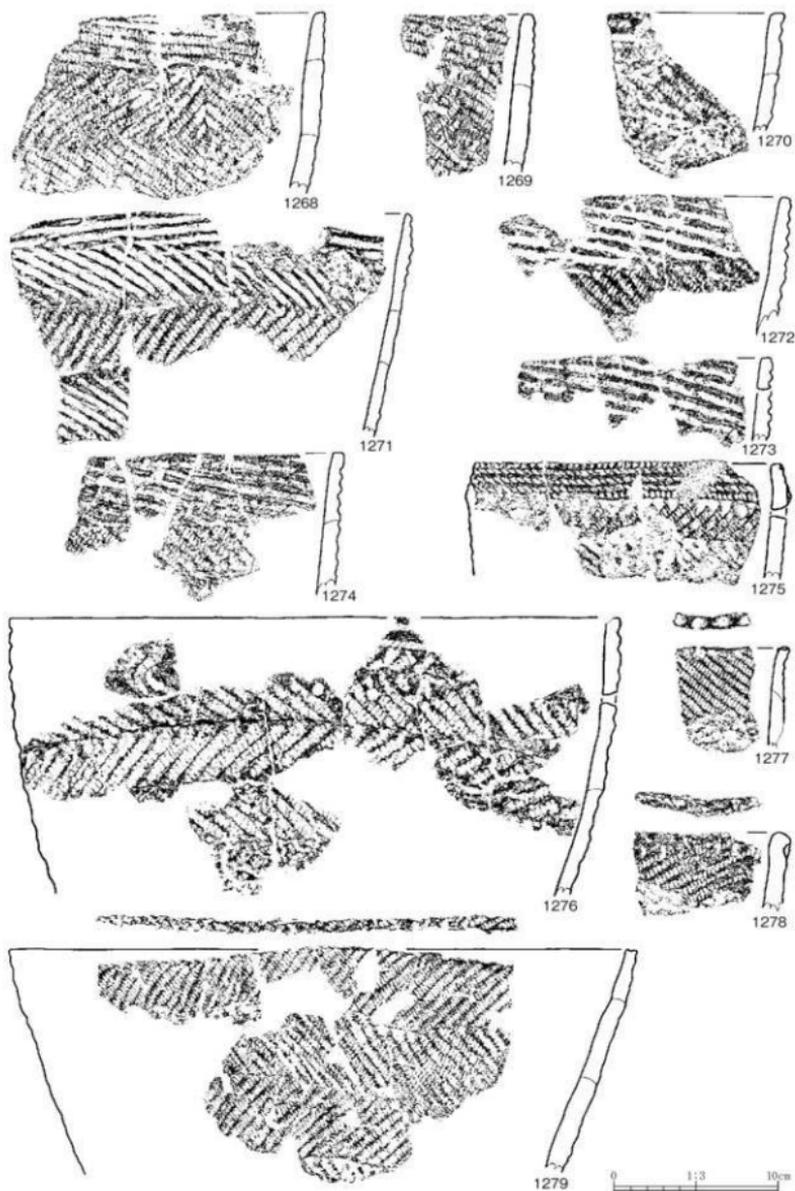
第124図 7Eグリッド出土土器



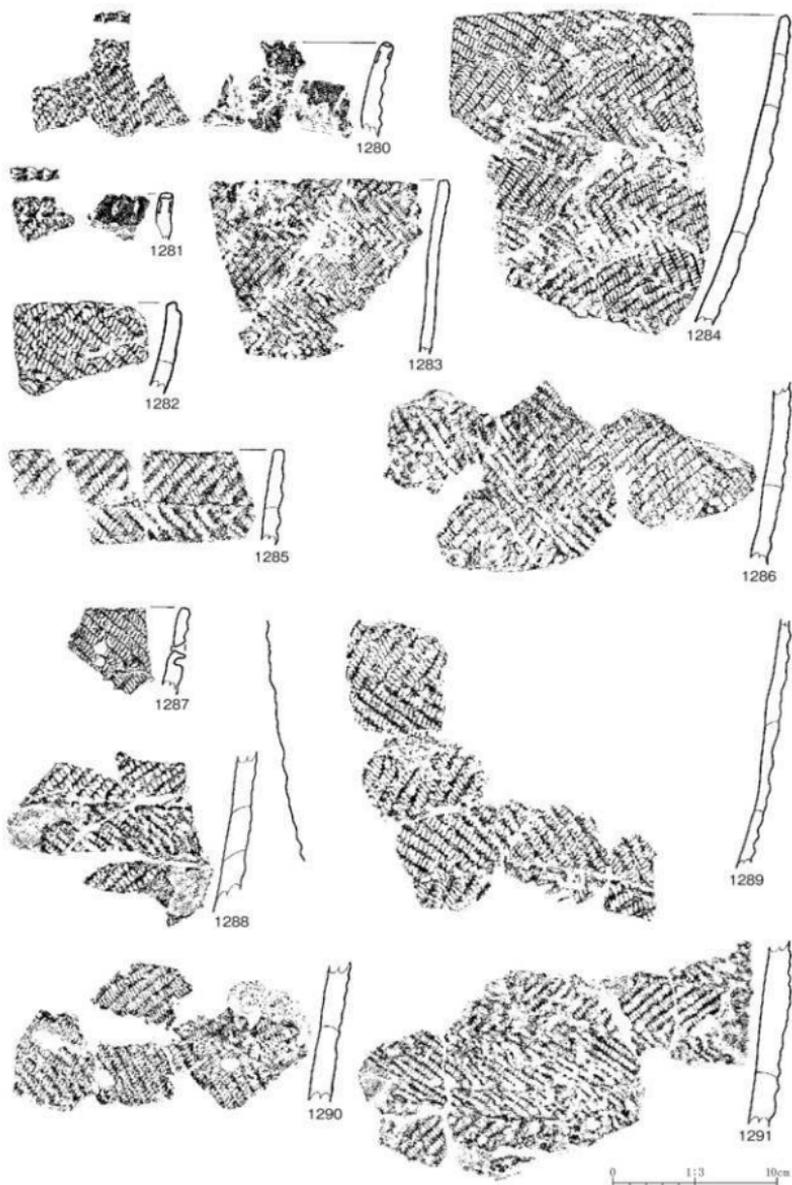
第125図 7Eグリッド出土土器



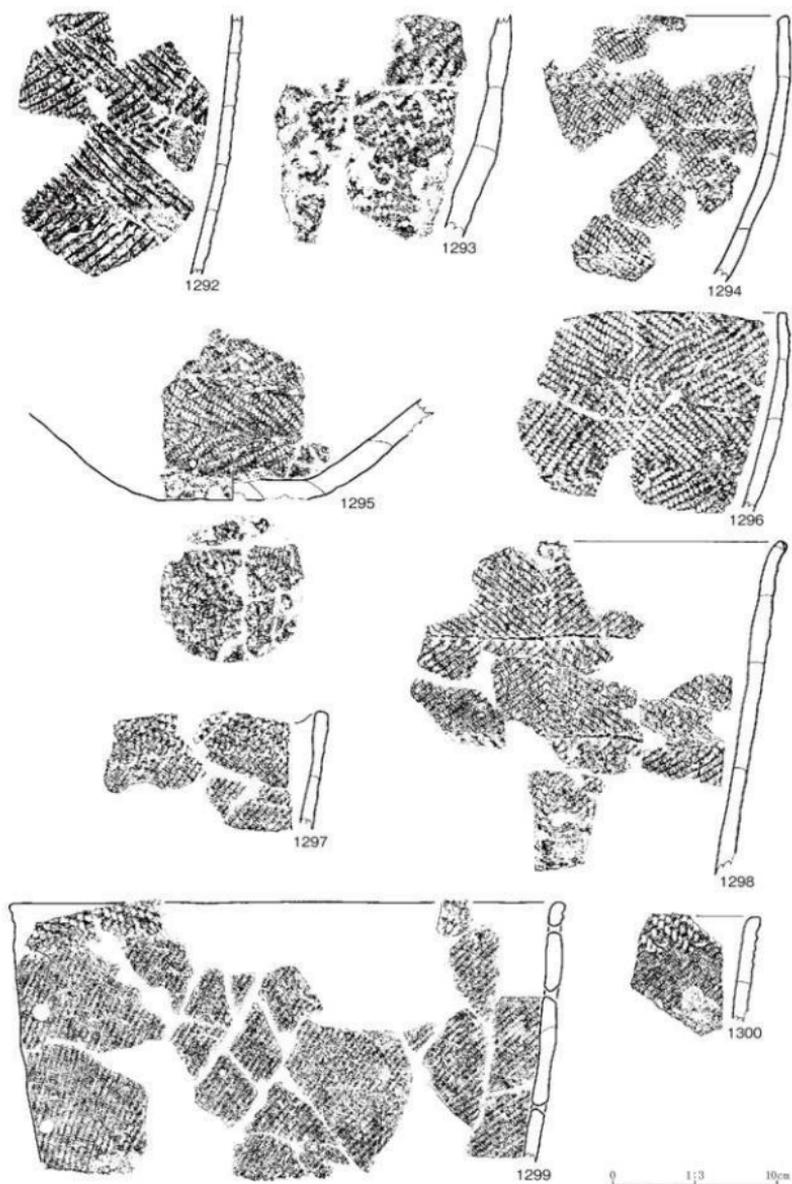
第126図 7Eグリッド出土土器



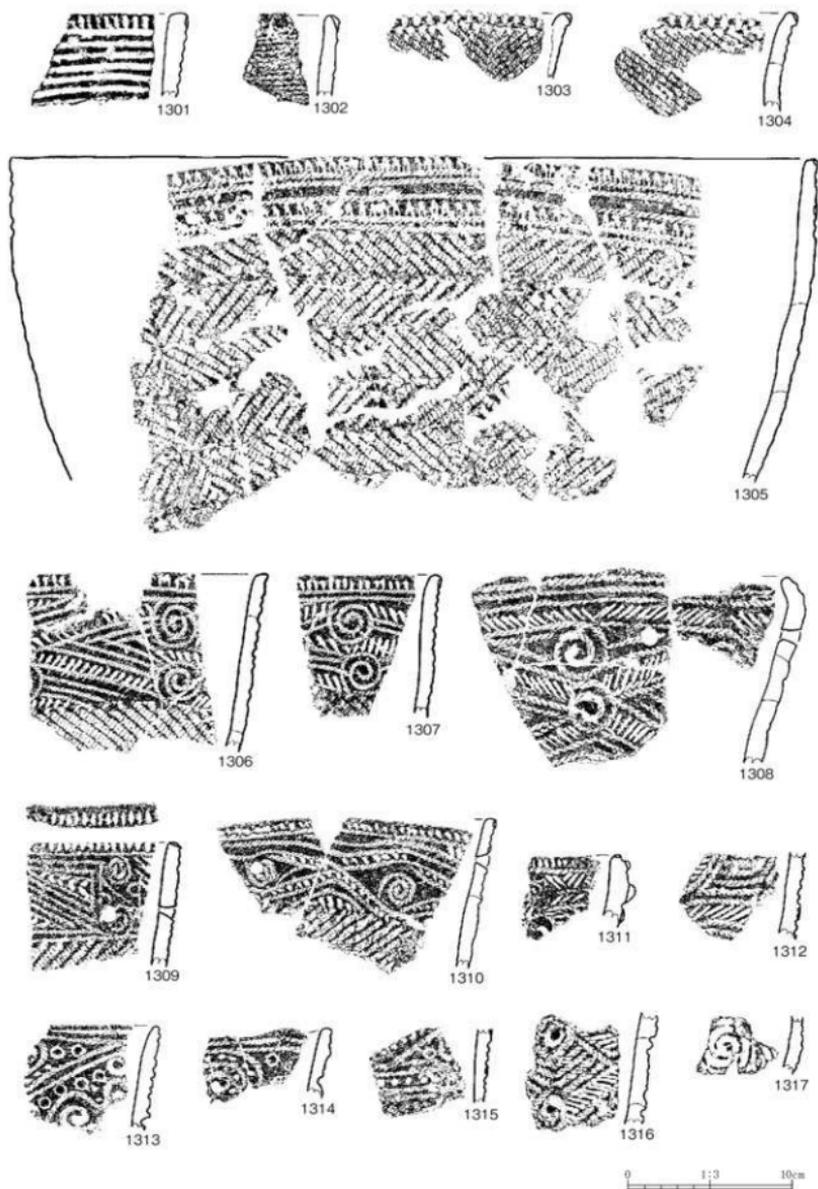
第127図 7Eグリッド出土土器



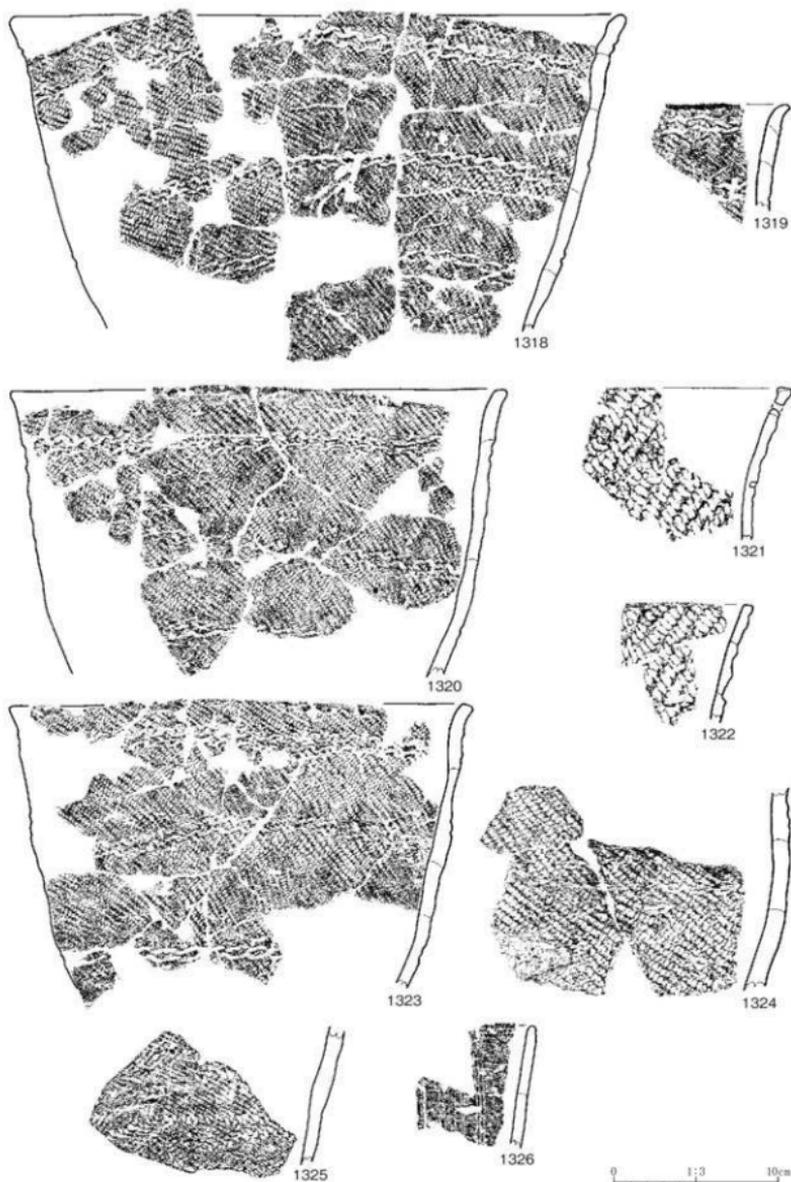
第128図 7Eグリッド出土土器



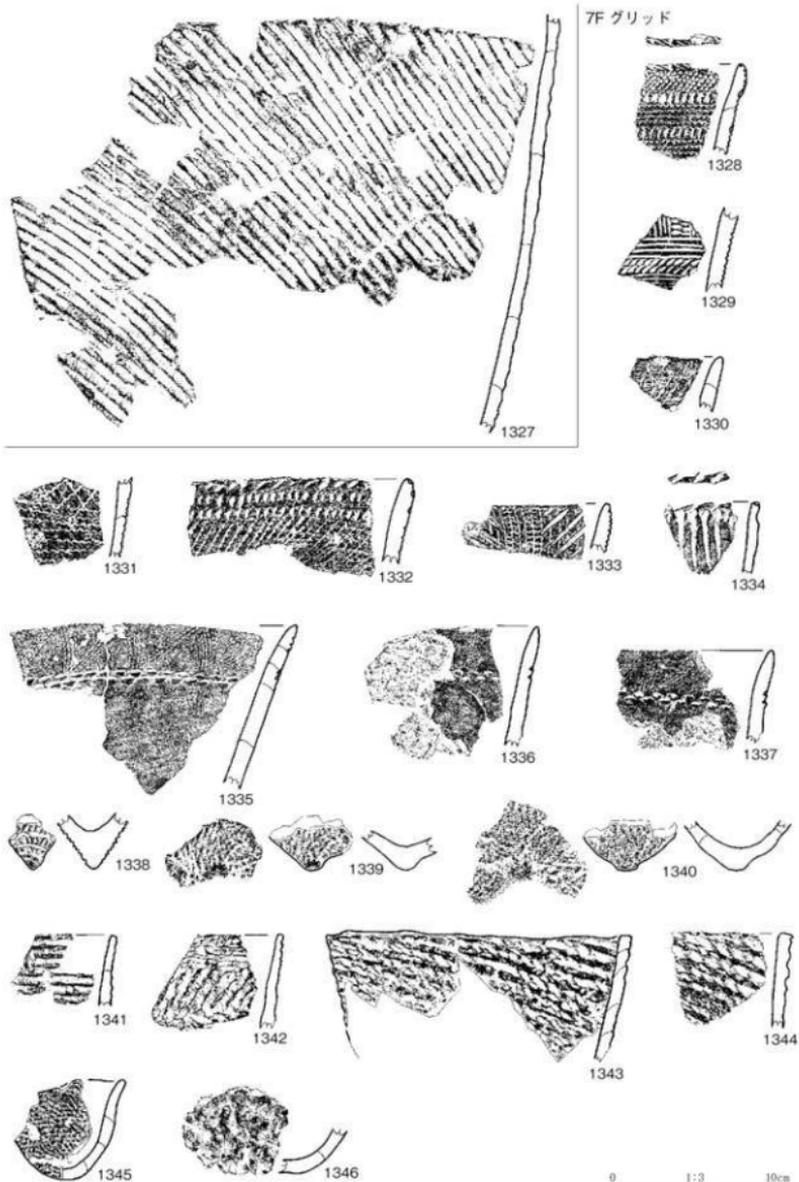
第129図 7Eグリッド出土土器



第130図 7Eグリッド出土土器



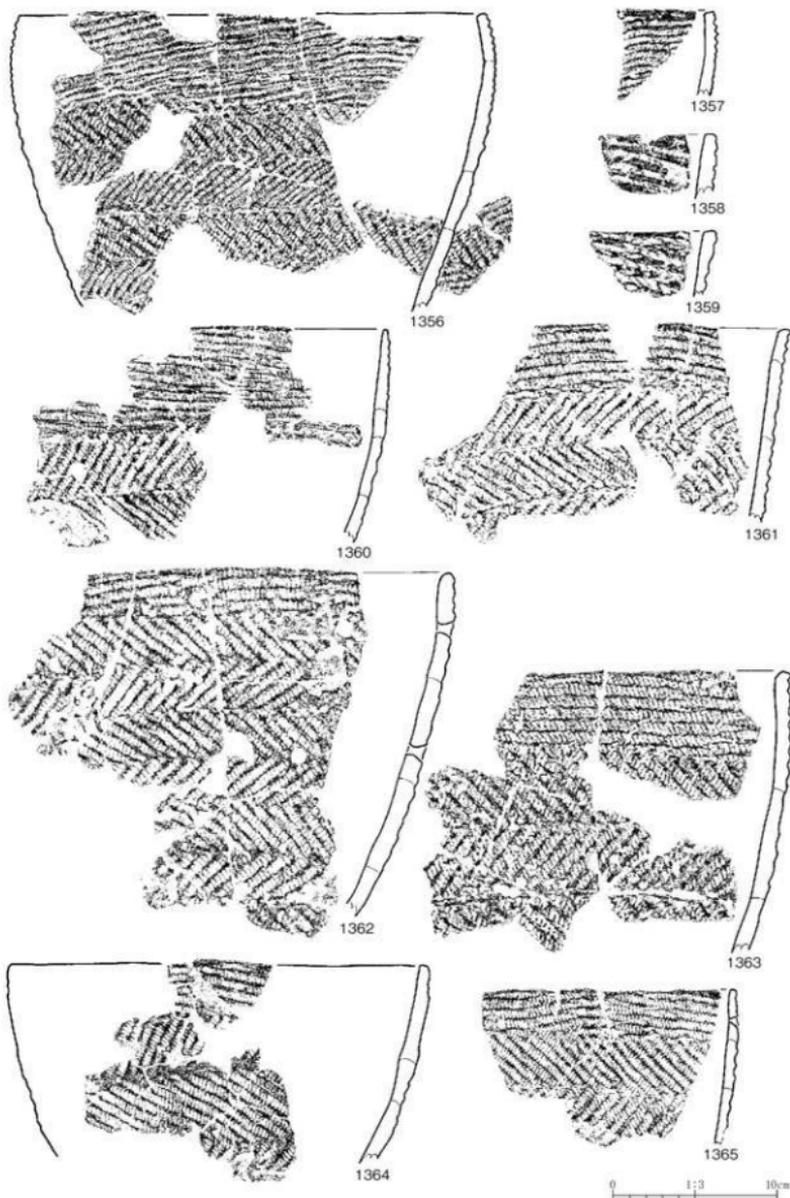
第131図 7Eグリッド出土土器



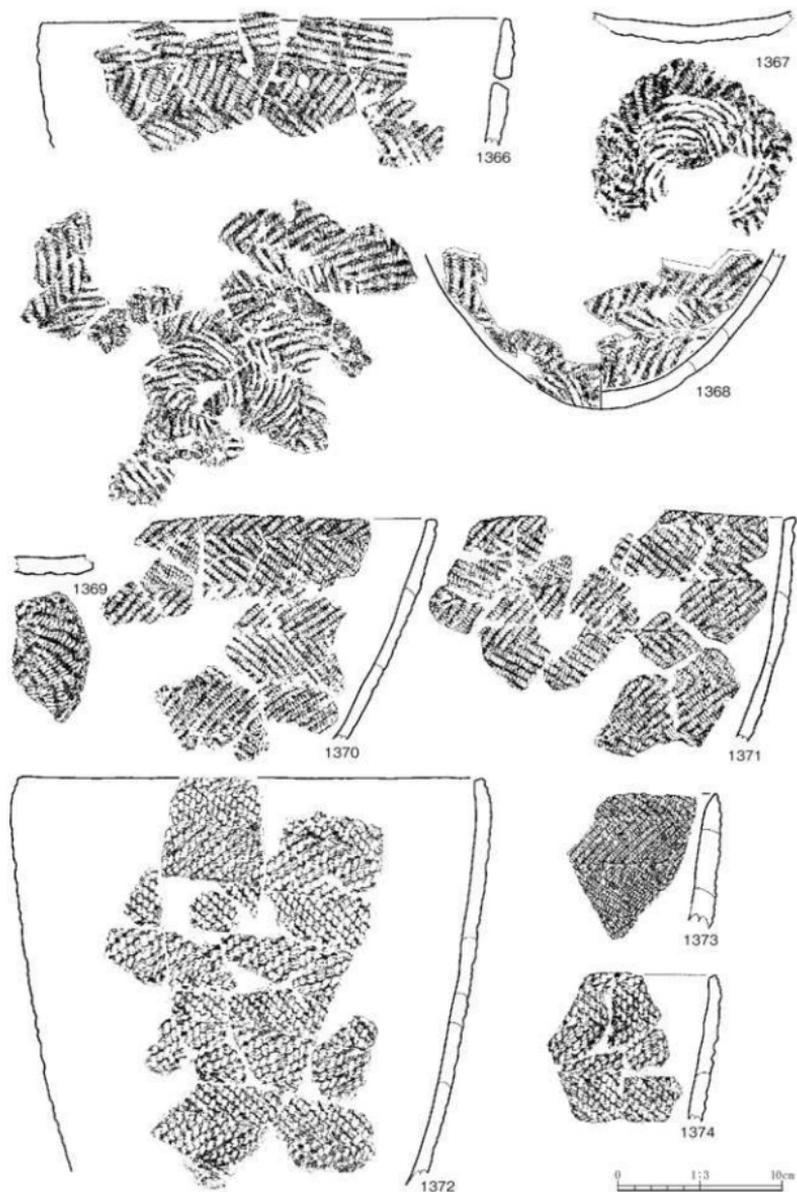
第132図 7E・7Fグリッド出土土器



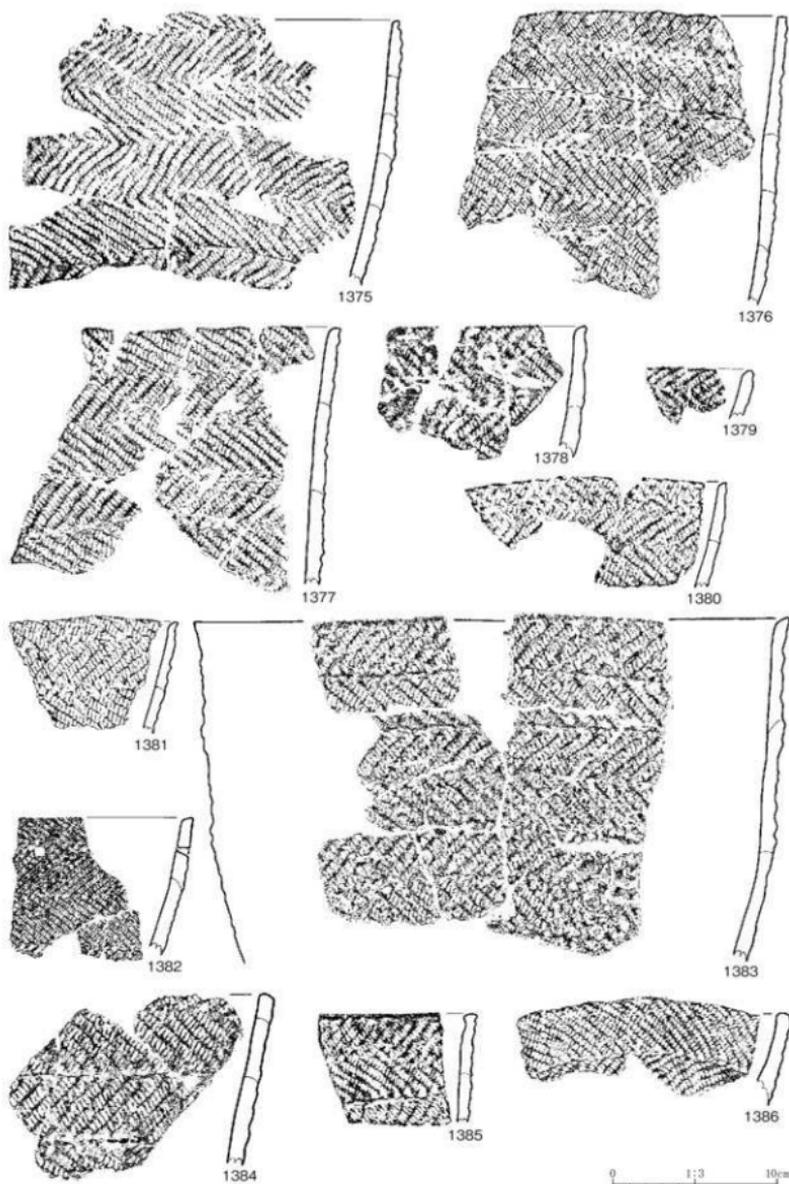
第133図 7Fグリッド出土土器



第134図 7Fグリッド出土土器



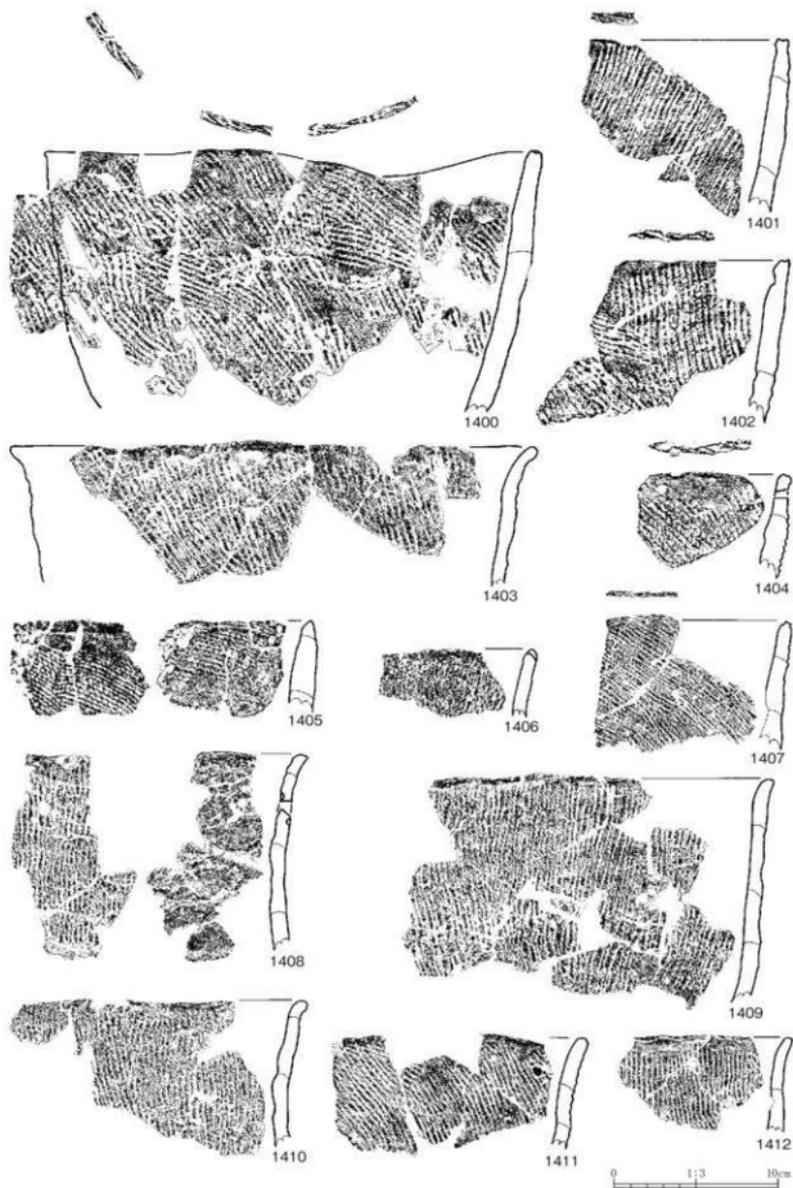
第135図 7Fグリッド出土土器



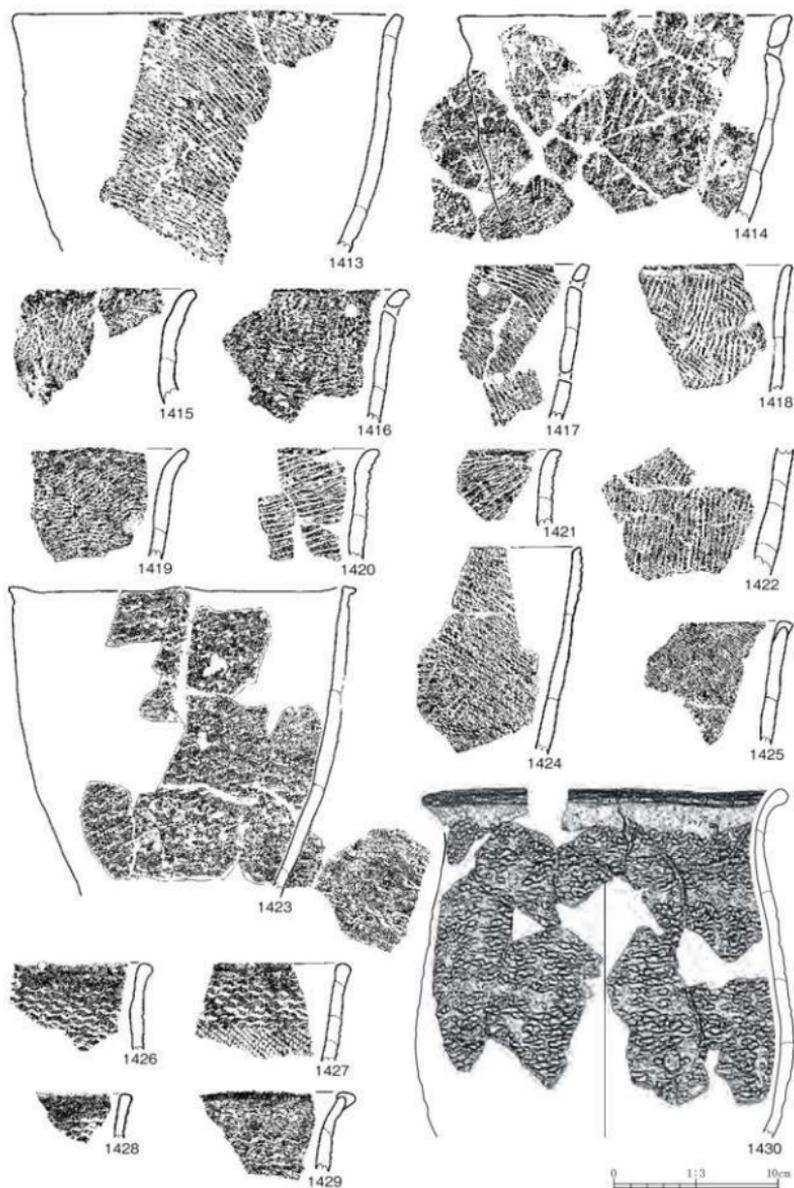
第136図 7Fグリッド出土土器



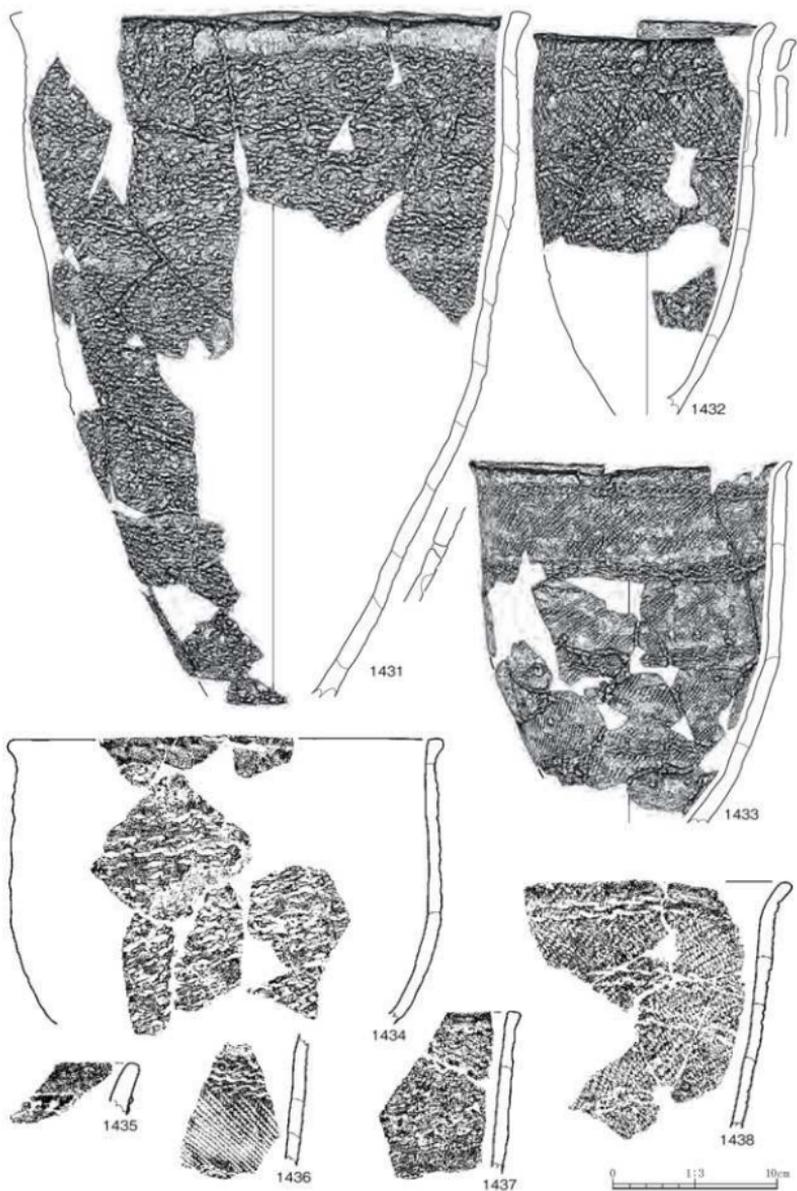
第137図 7Fグリッド出土土器



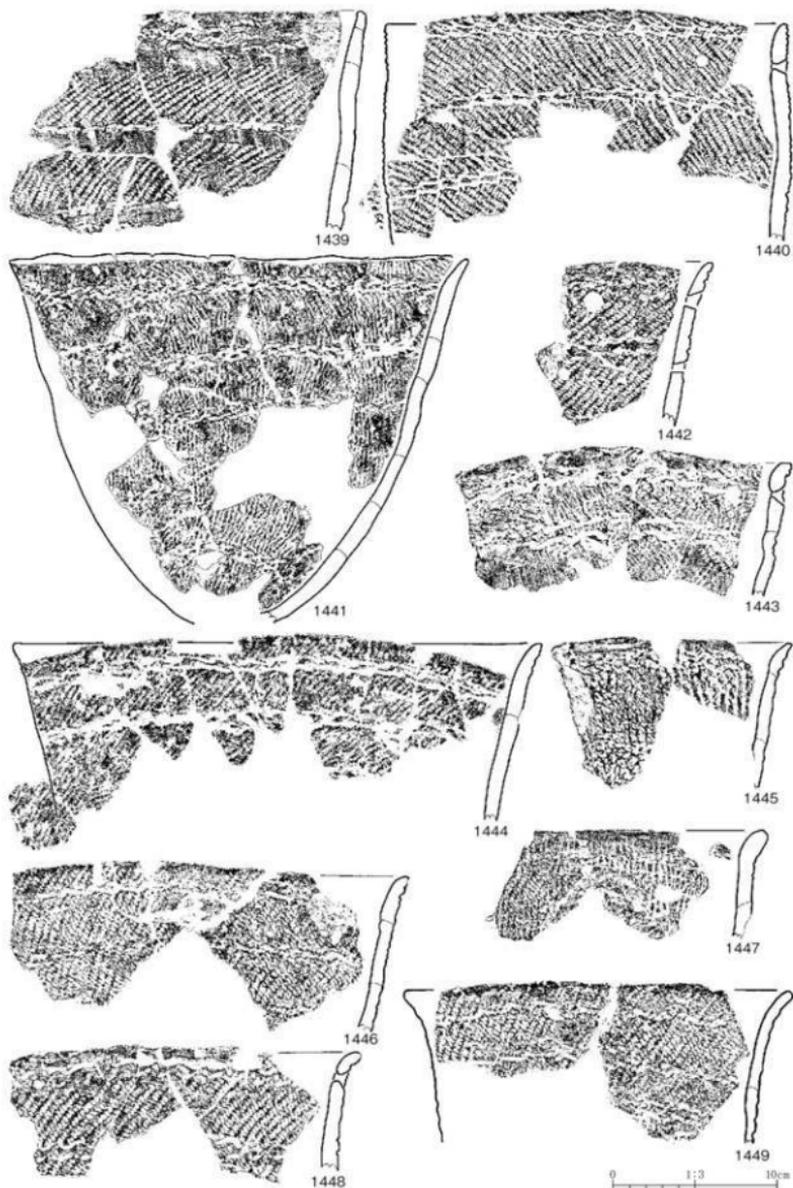
第138図 7Fグリッド出土土器



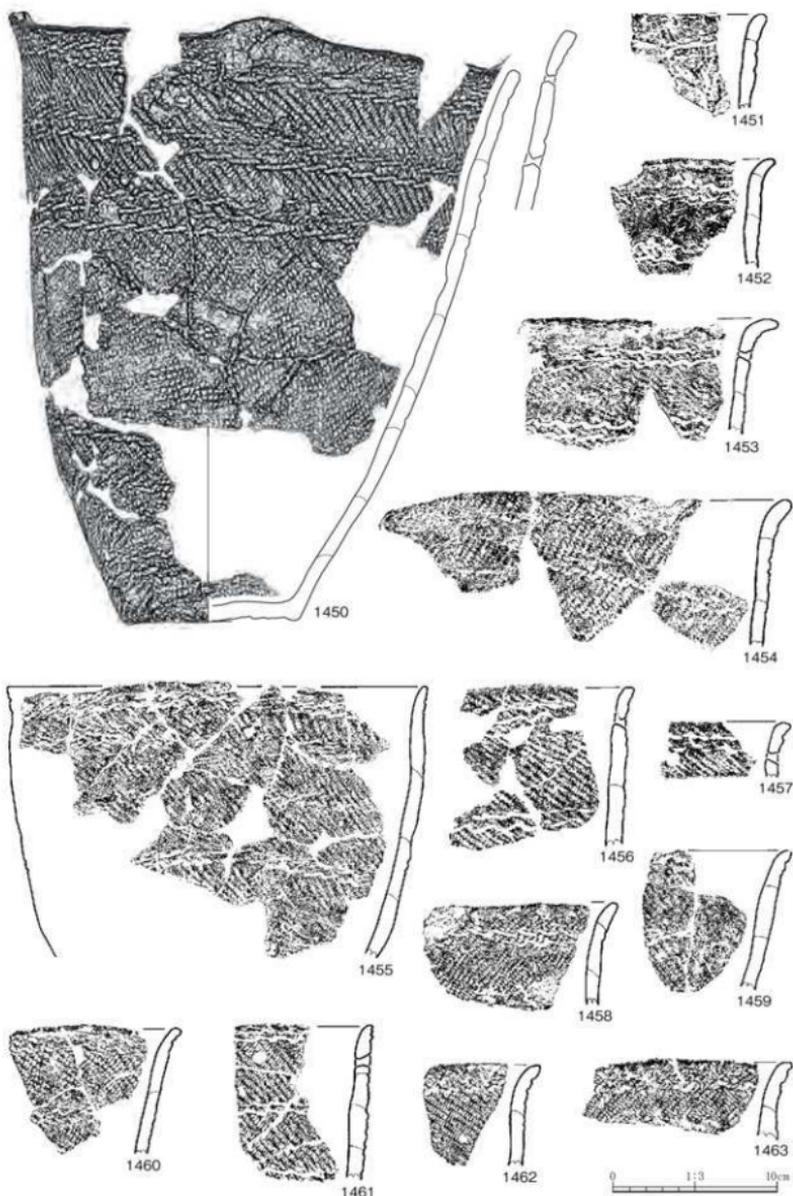
第139図 7Fグリッド出土土器



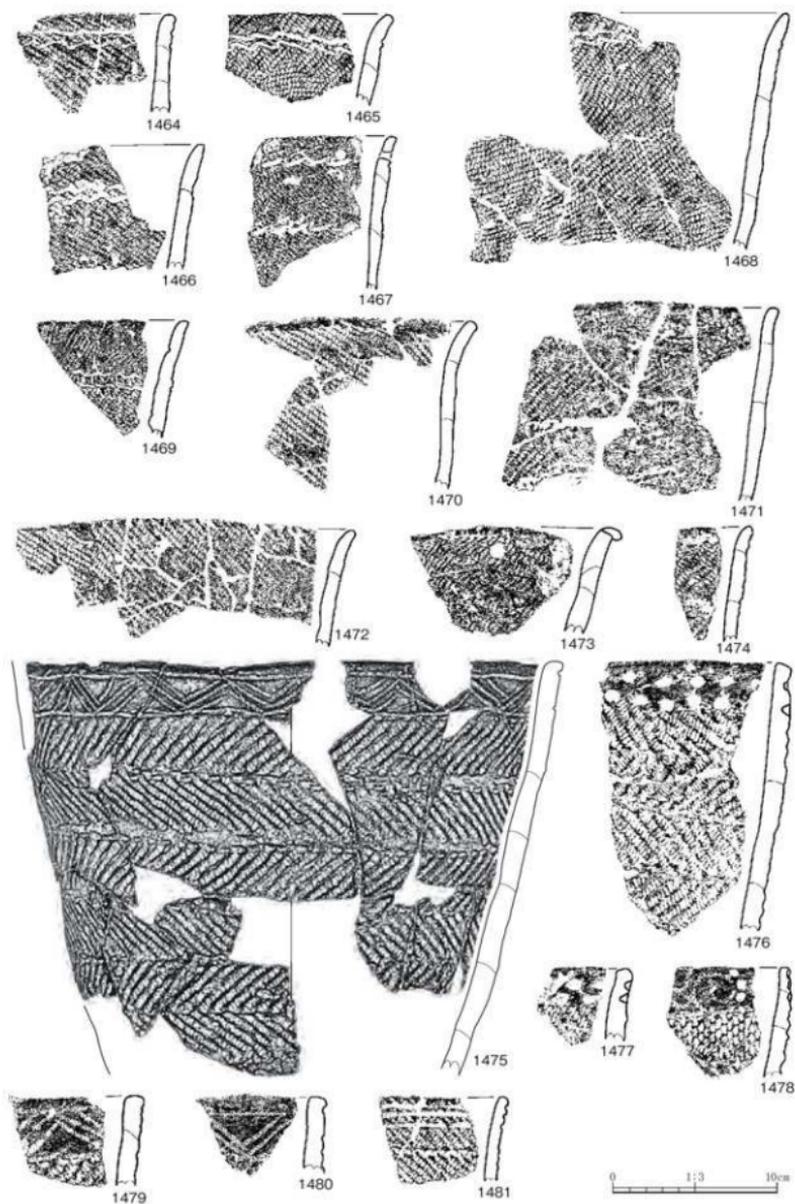
第140図 7Fグリッド出土土器



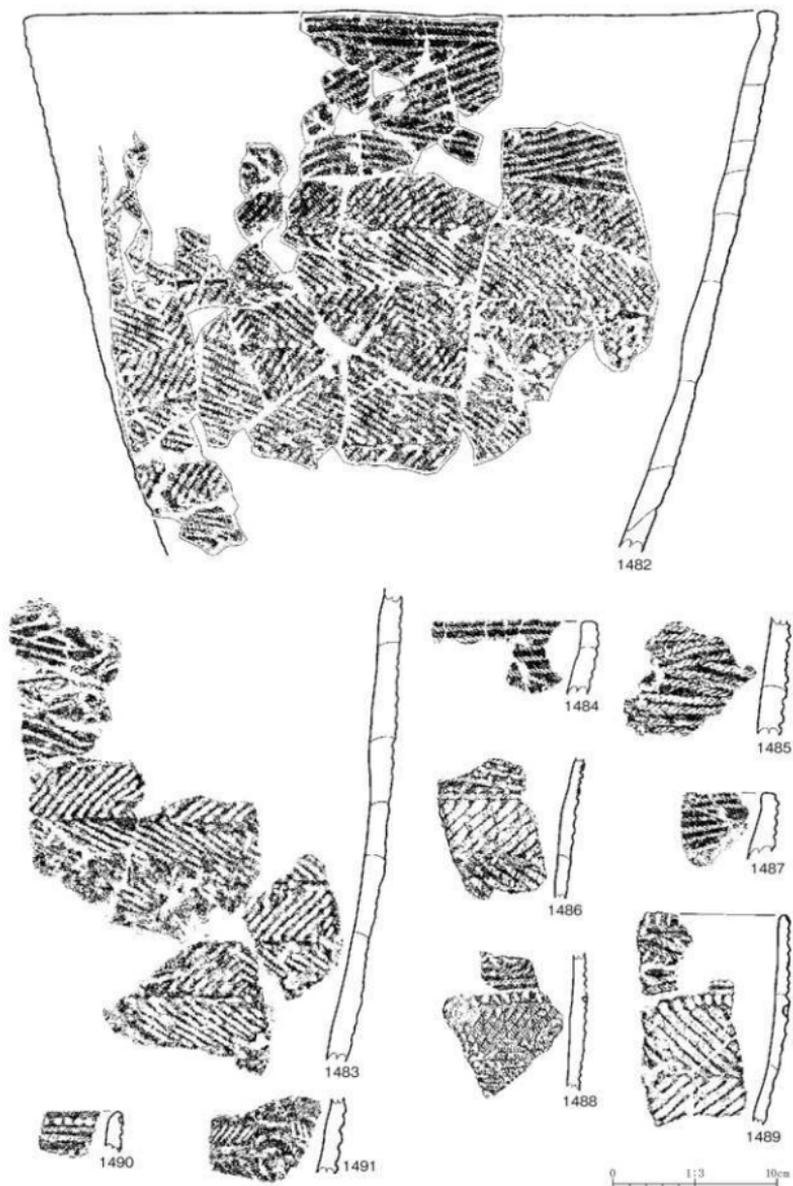
第141図 7Fグリッド出土土器



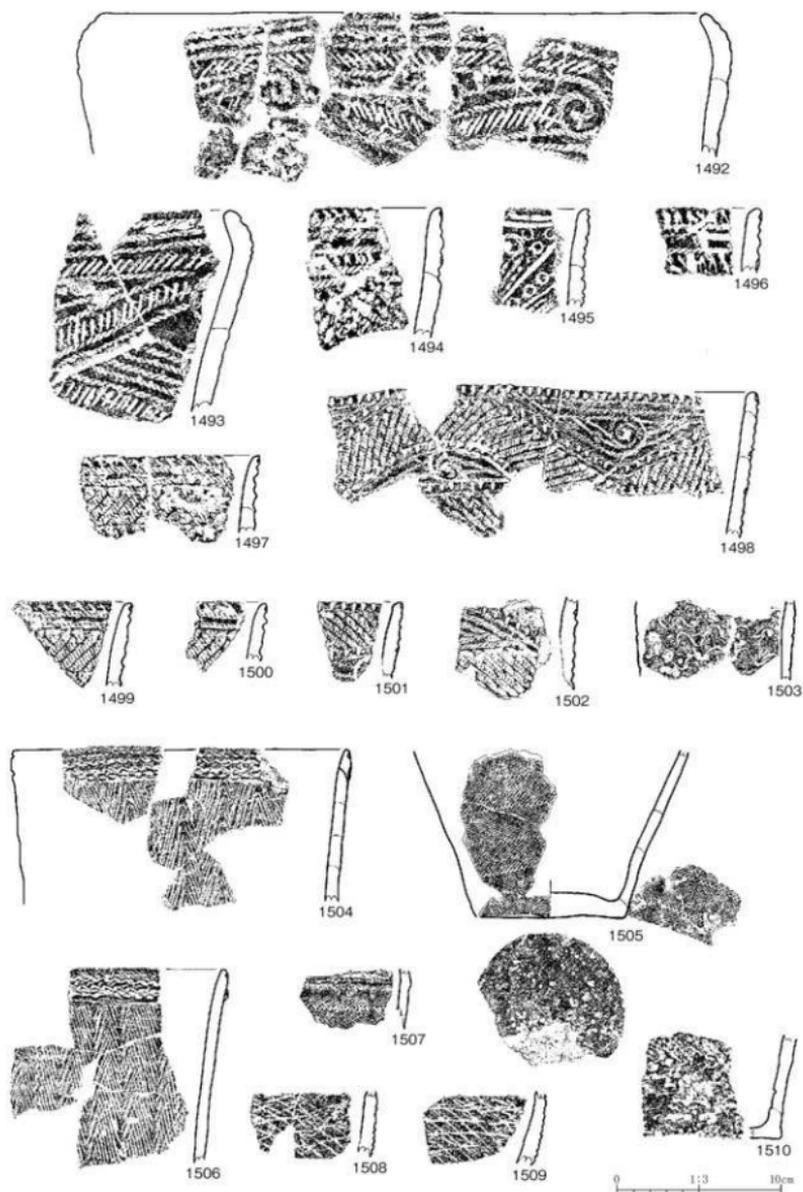
第142図 7Fグリッド出土土器



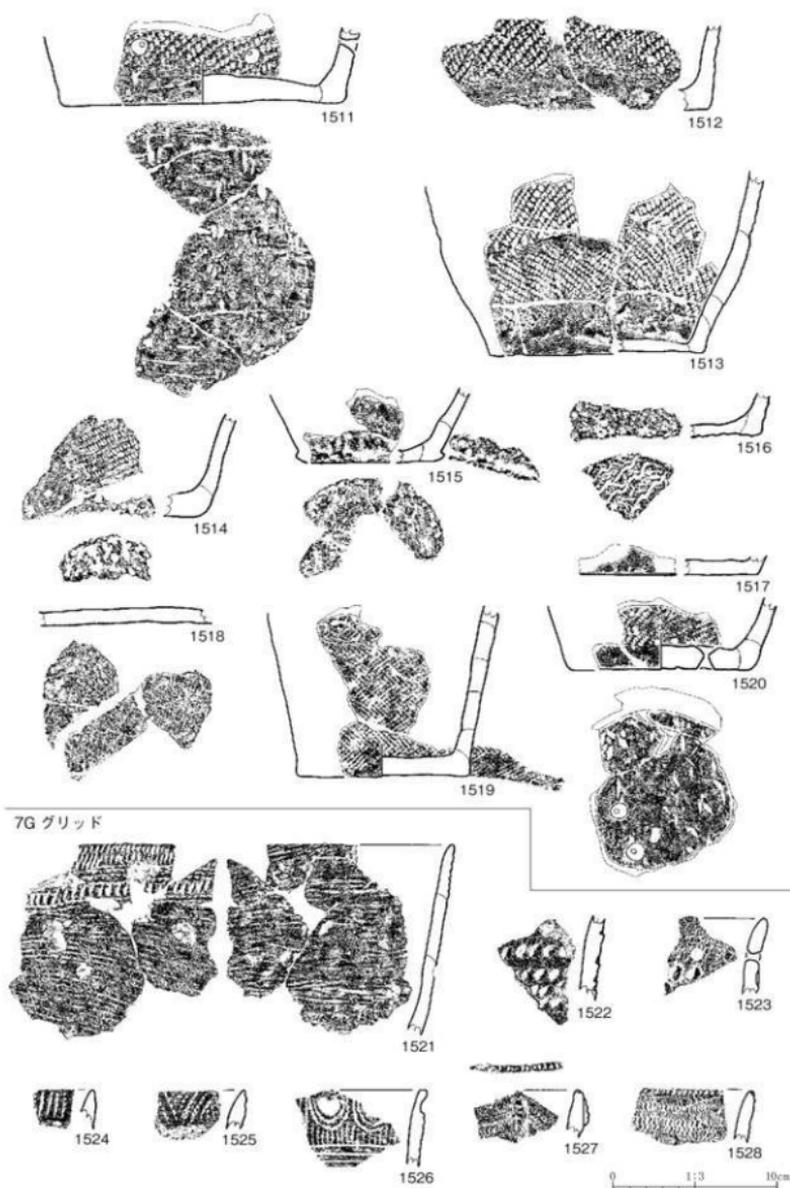
第143図 7Fグリッド出土土器



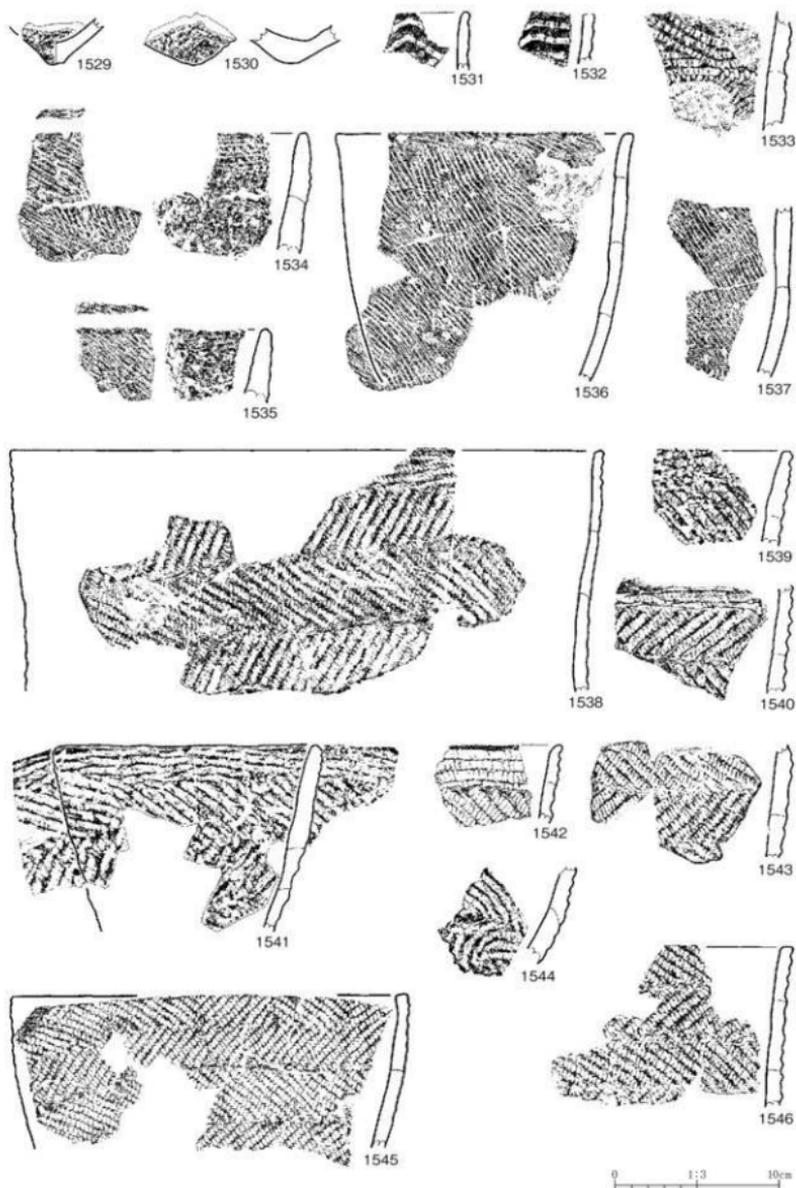
第144図 7Fグリッド出土土器



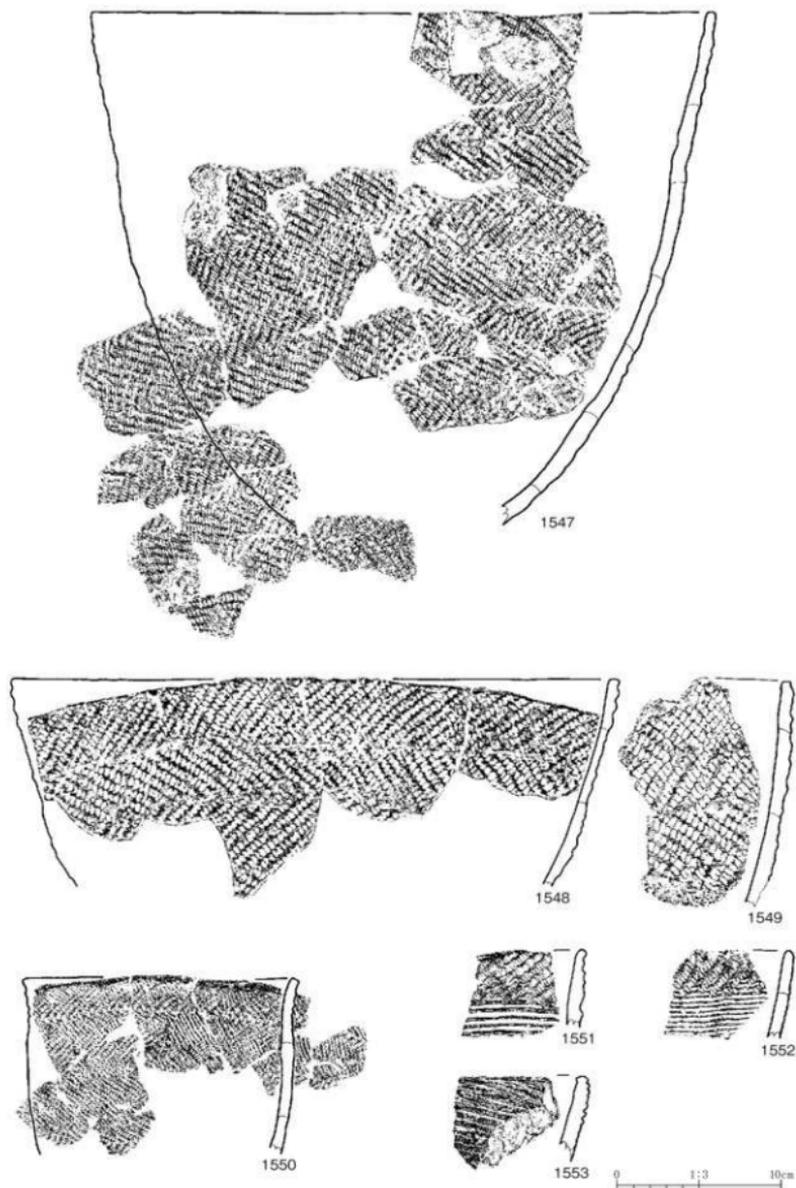
第145図 7Fグリッド出土土器



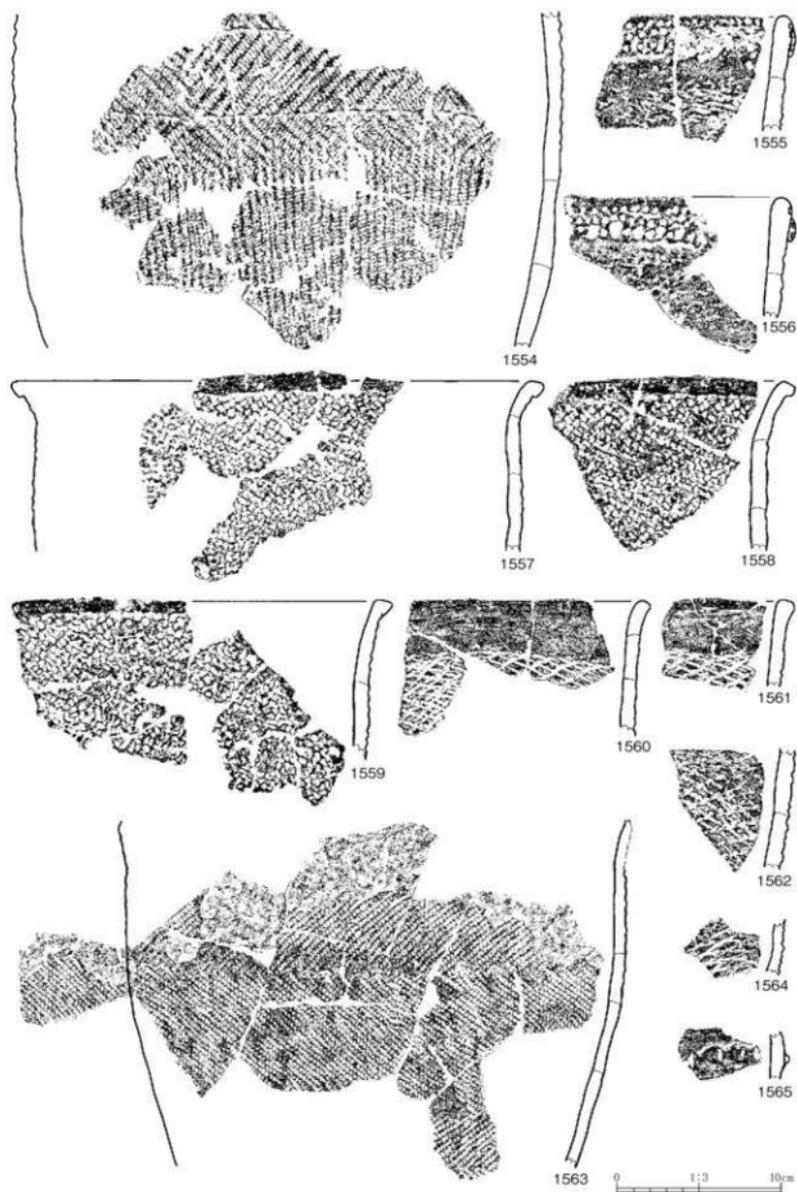
第146図 7F・7Gグリッド出土土器



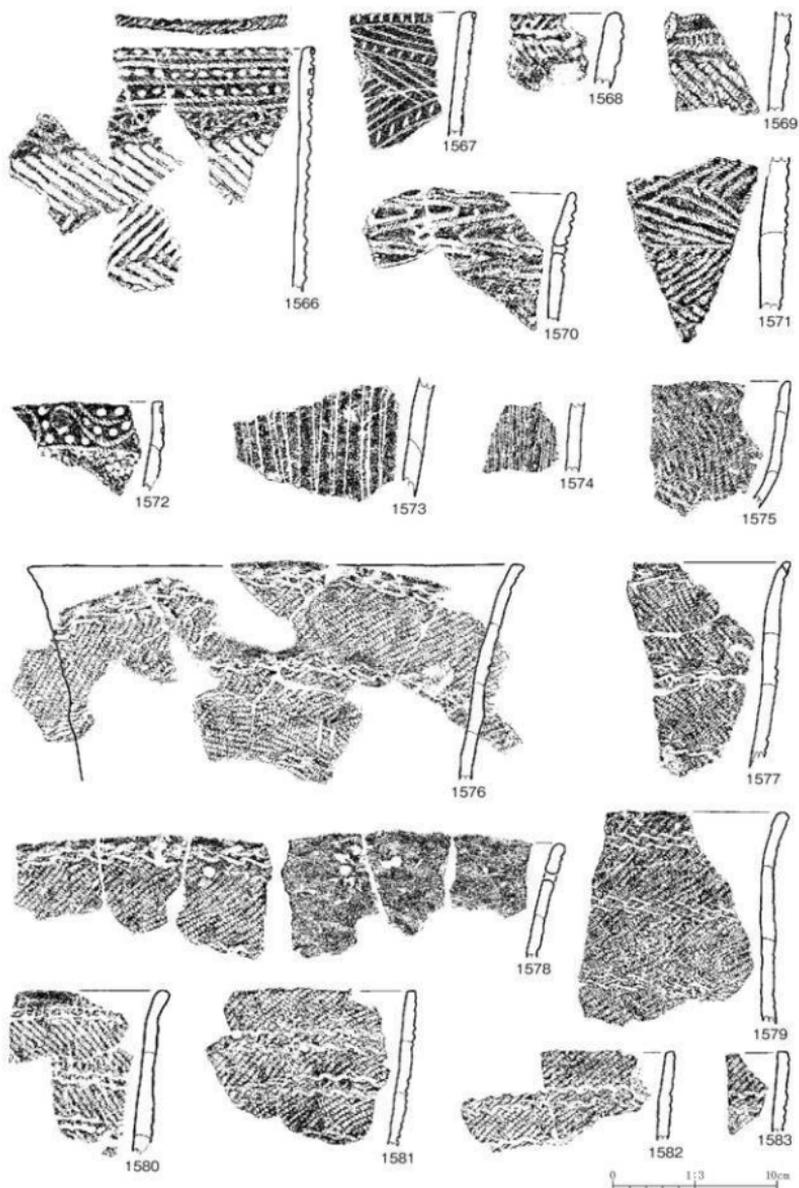
第147図 7Gグリッド出土土器



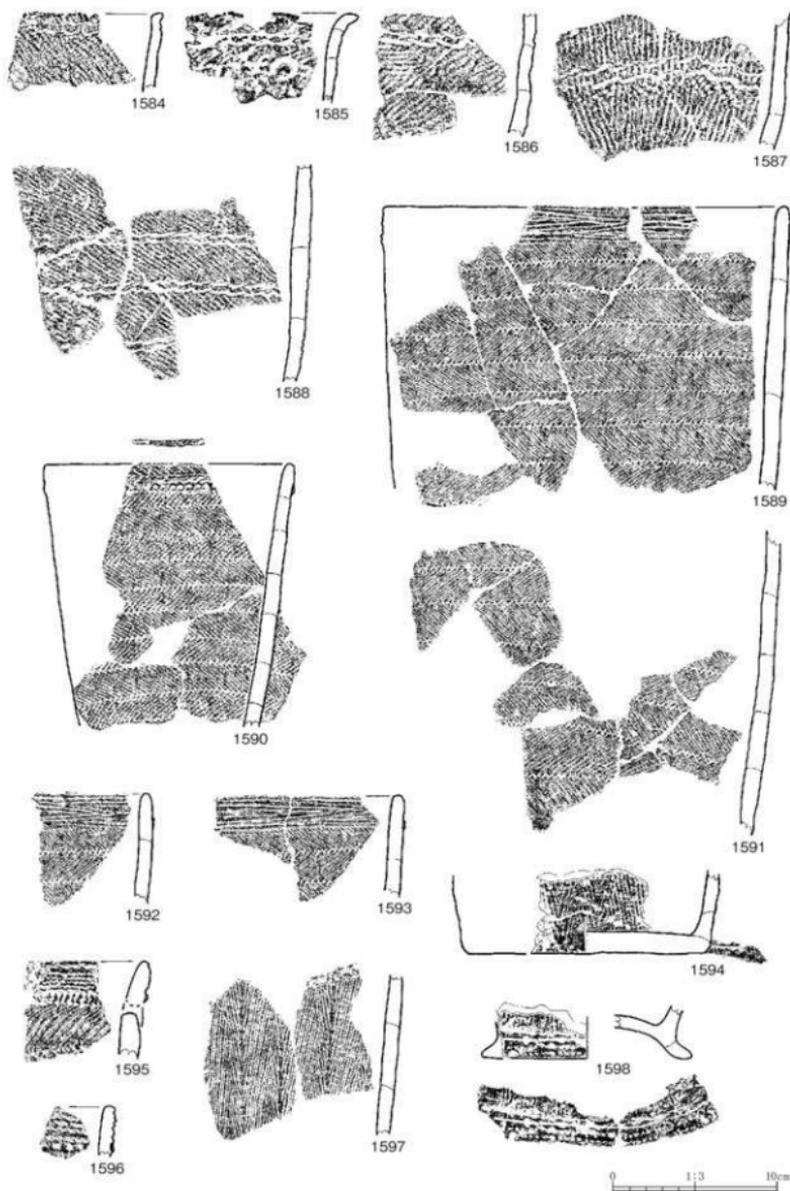
第148図 7Gグリッド出土土器



第149図 7Gグリッド出土土器

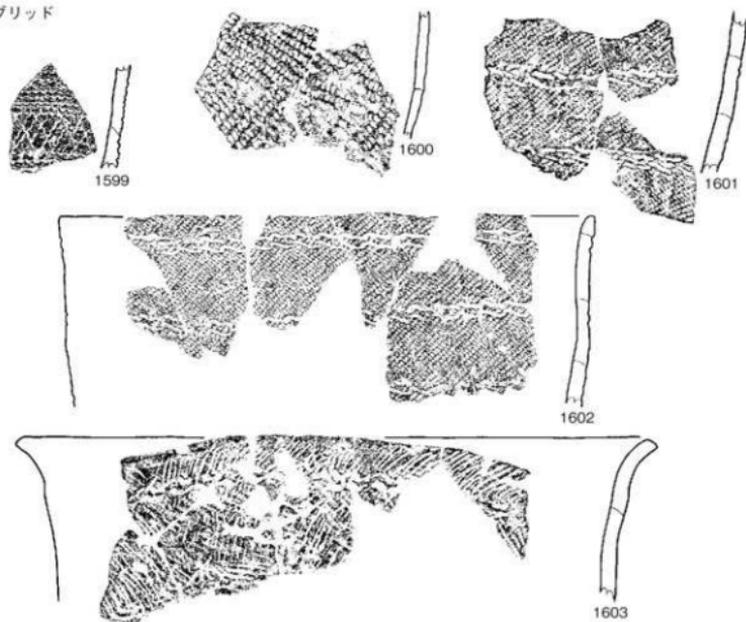


第150図 7Gグリッド出土土器

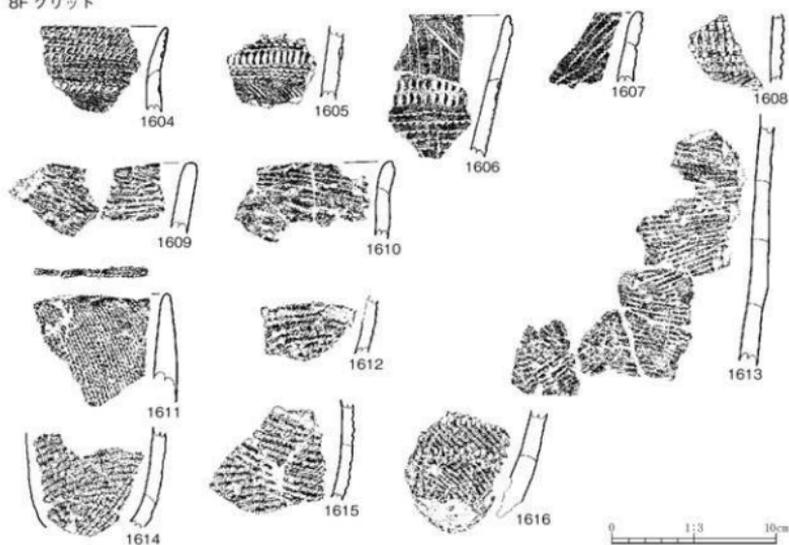


第151図 7Gグリッド出土土器

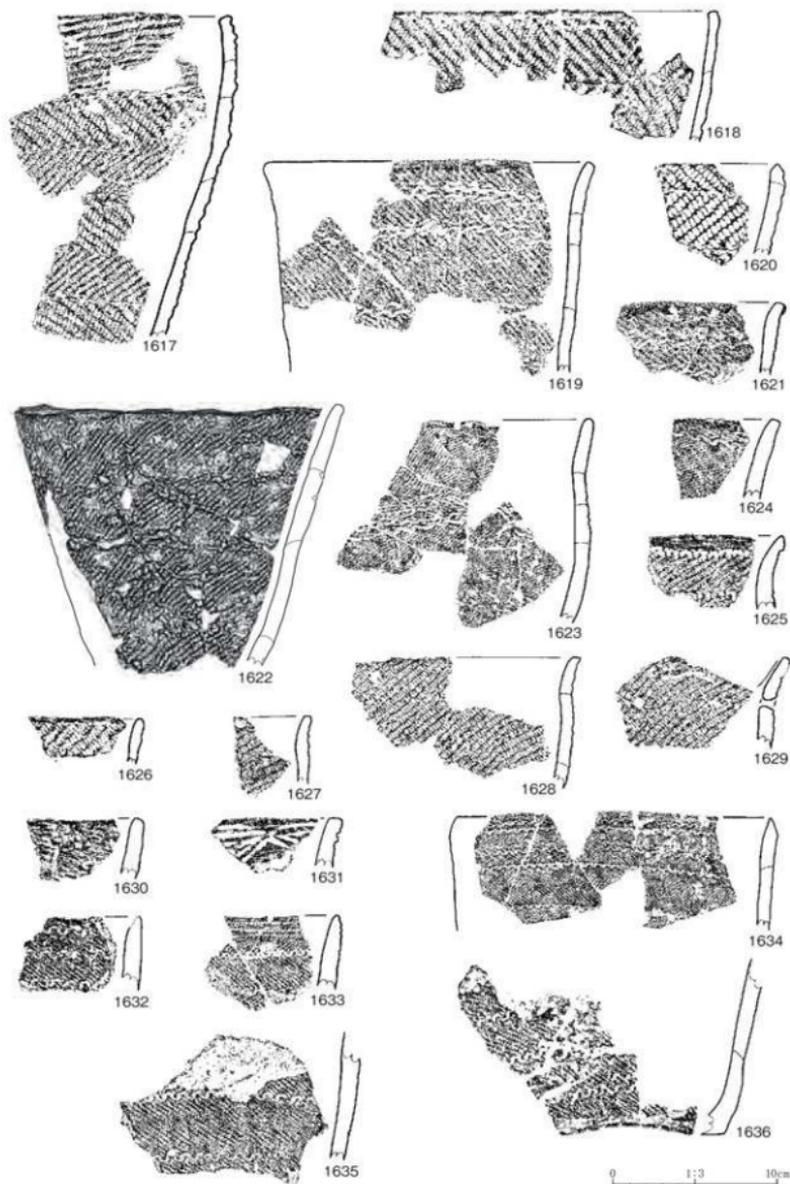
7H グリッド



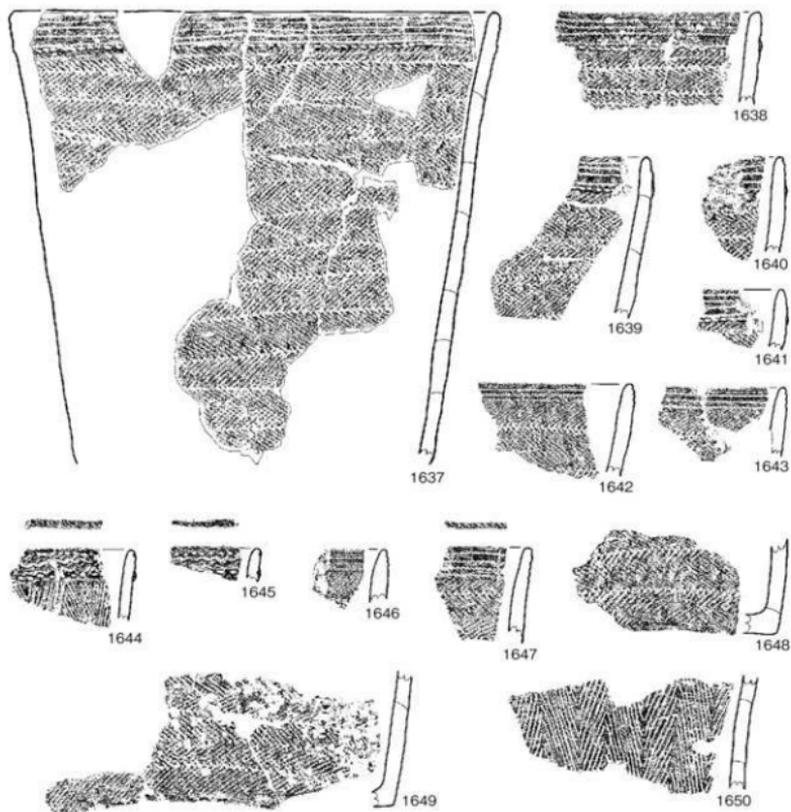
8F グリッド



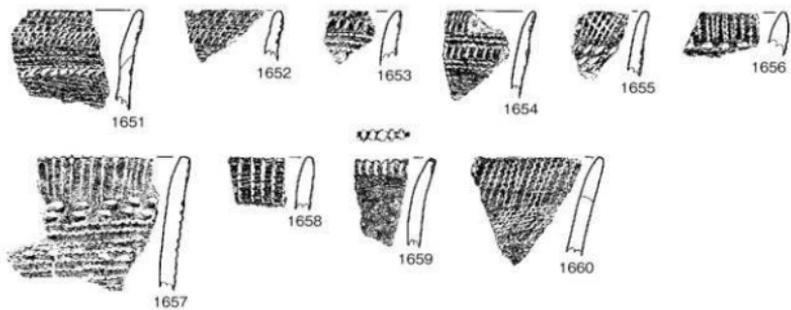
第152図 7H・8Fグリッド出土土器



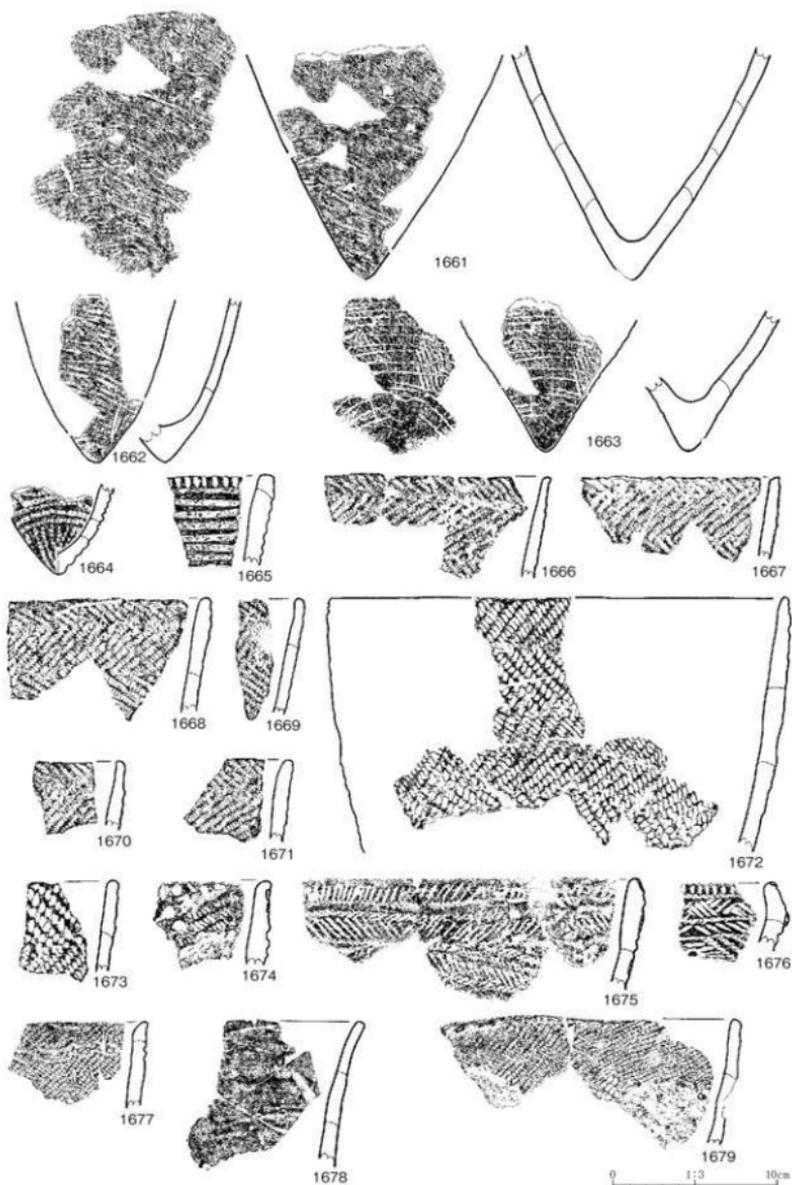
第153図 8Fグリッド出土土器



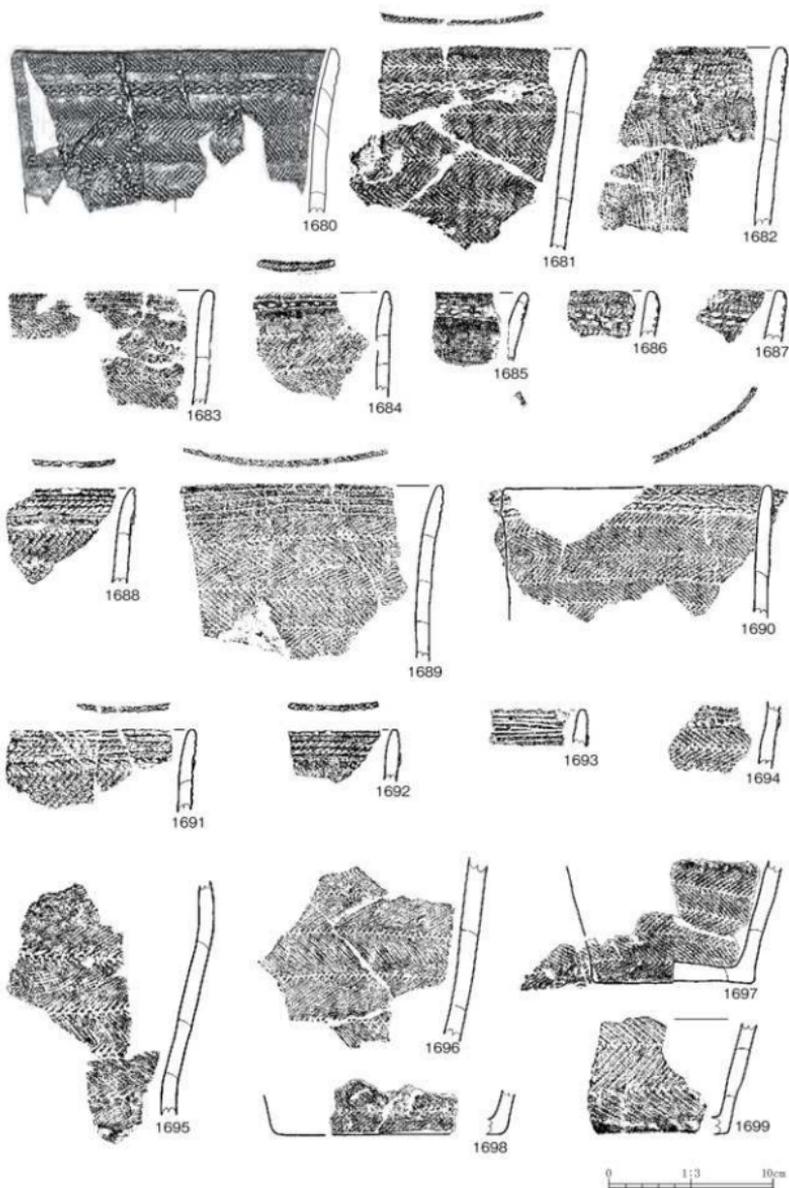
8G グリッド



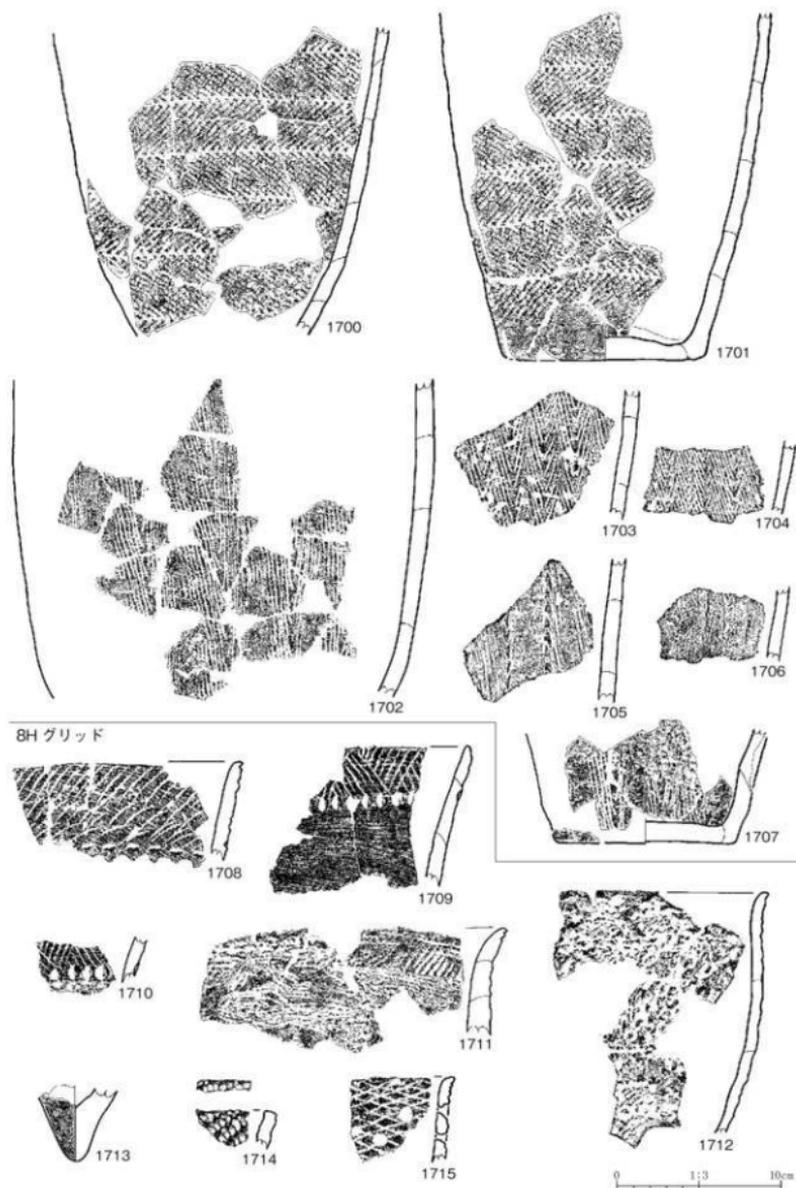
第154図 8F・8Gグリッド出土土器



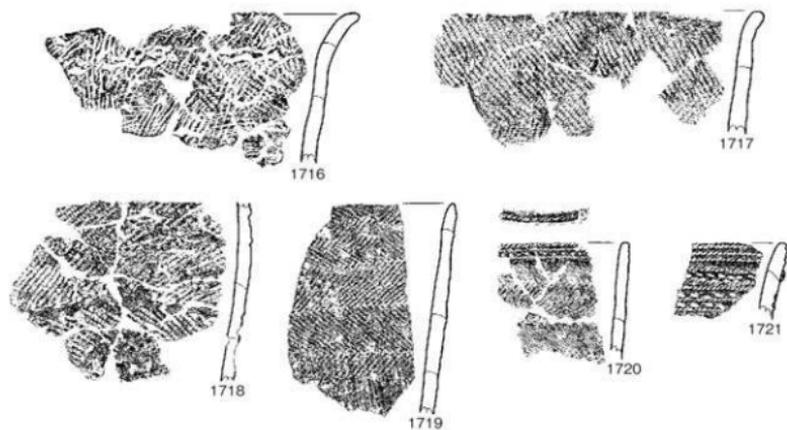
第155図 8 G グリッド出土土器



第156図 8 G グリッド出土土器



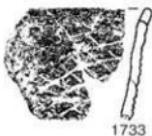
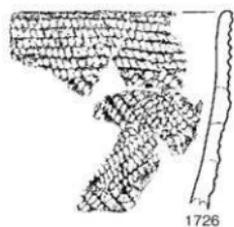
第157図 8G・8Hグリッド出土土器



9F グリッド



9G グリッド



9H グリッド



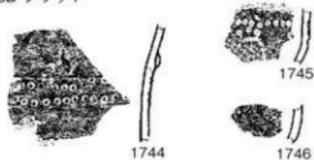
0 1:3 10cm

第158図 8H・9F・9G・9Hグリッド出土土器

北3C グリッド



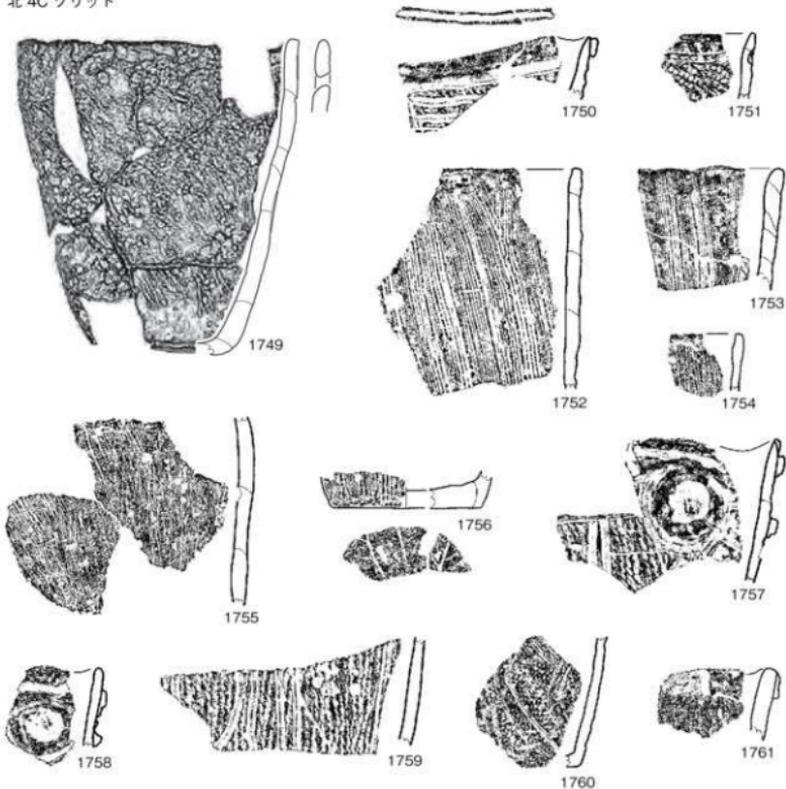
北3D グリッド



北3E グリッド

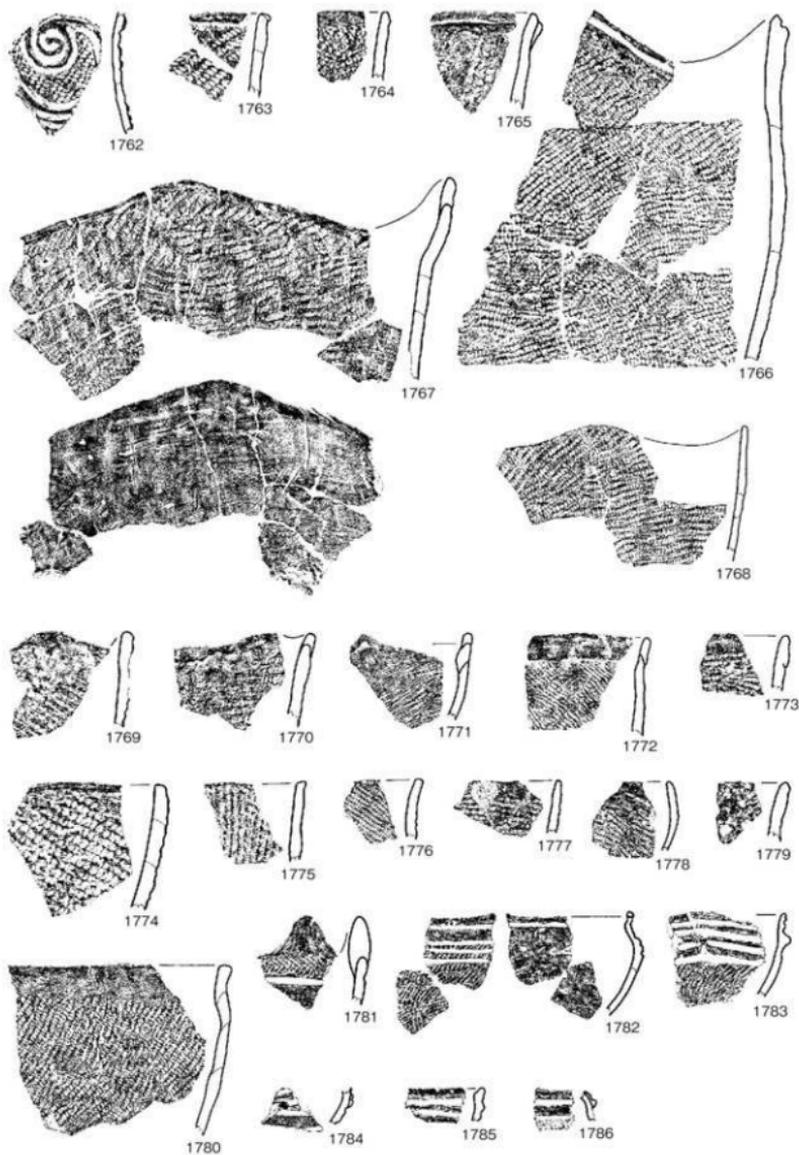


北4C グリッド



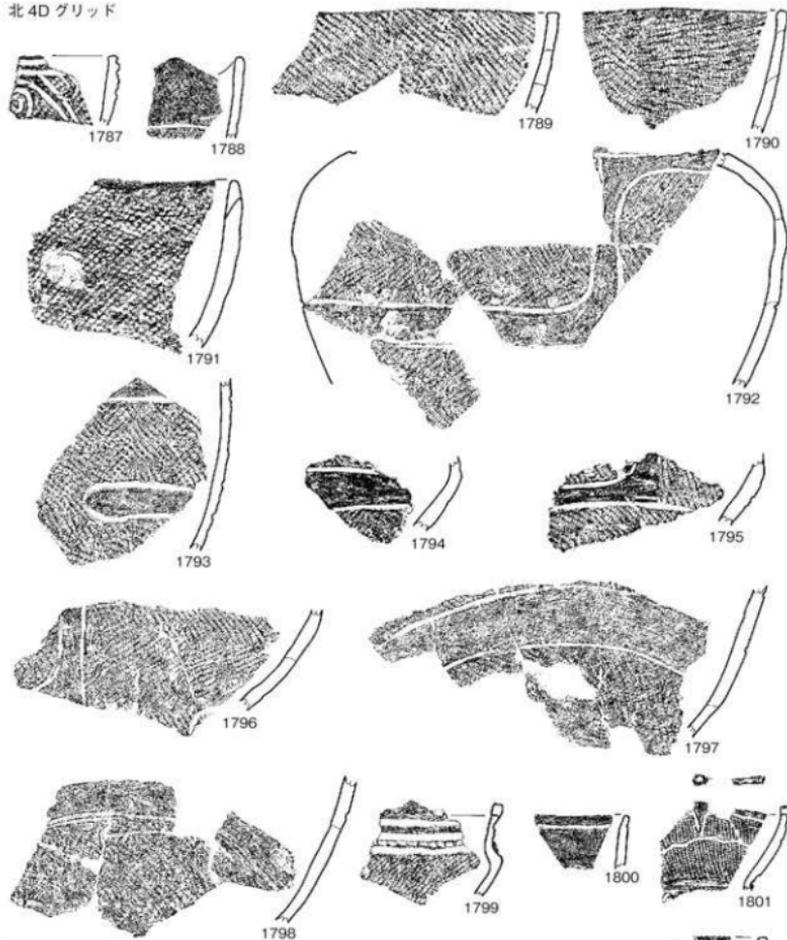
0 1:3 10cm

第159図 北3C・北3D・北3E・北4Cグリッド出土土器

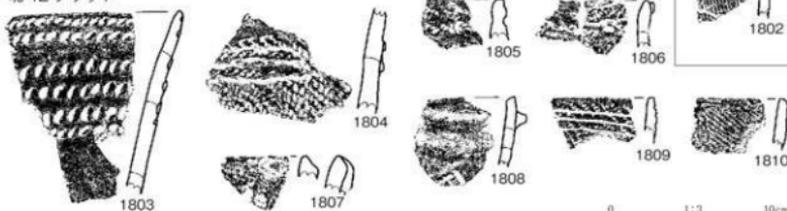


第160図 北4Cグリッド出土土器

北4D グリッド



北4E グリッド



第161図 北4D・北4Eグリッド出土土器

北4E グリッド



1811



1812

北5C グリッド



1813



1814



1815



1816



1817



1818



1819



1820



1821



1822



1823



1824



1825



1826



1827



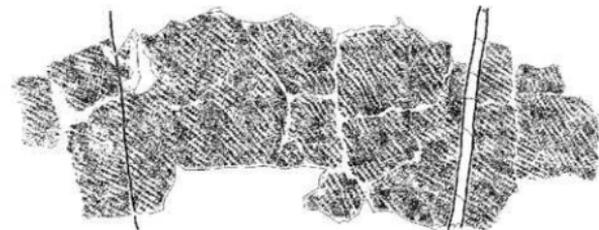
1828



1829



1830



1831



1832



1833



1834



1835



1836

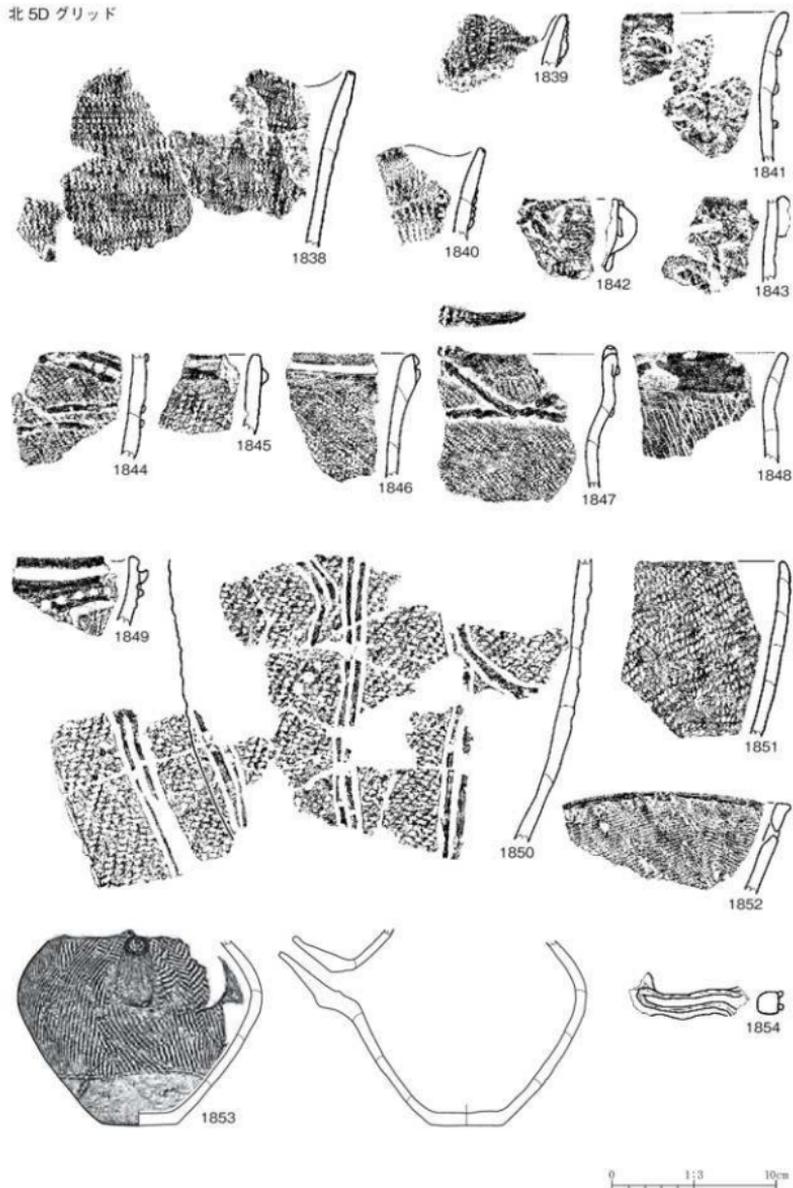


1837

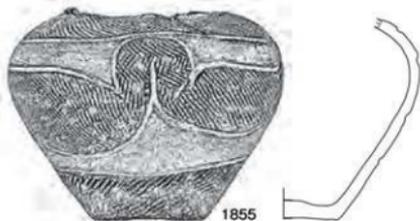


第162図 北4E・北5Cグリッド出土土器

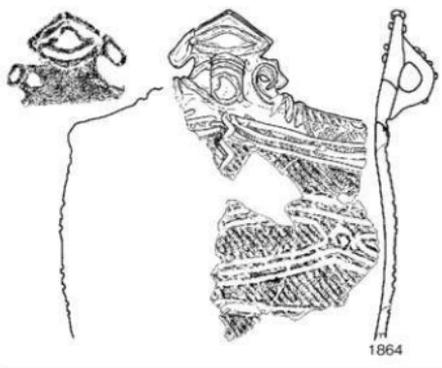
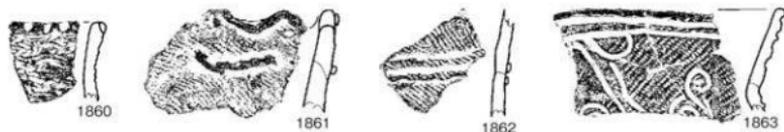
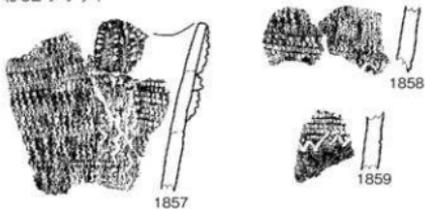
北5D グリッド



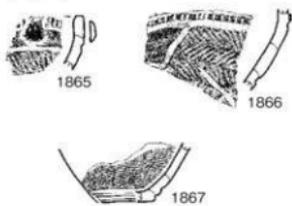
第163図 北5Dグリッド出土土器



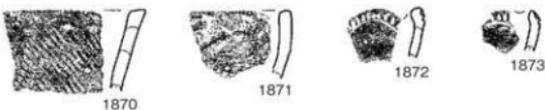
北5E グリッド



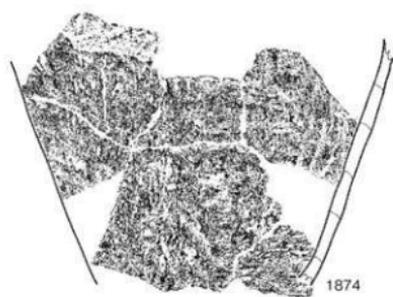
北5F グリッド



北6D グリッド



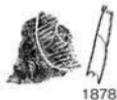
第164図 北5D・北5E・北5F・北6Dグリッド出土土器



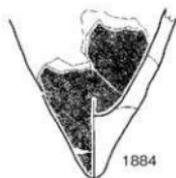
北7Dグリッド



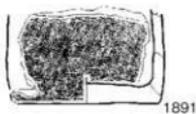
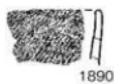
北6Eグリッド



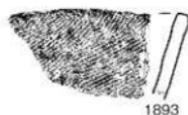
北区①



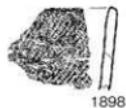
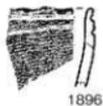
北区③



北区④



北区⑤



第165図 北6D・北6E・北7Dグリッド、北区①・北区③・北区④・北区⑤出土土器



1899

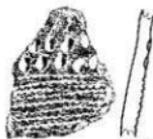
北区



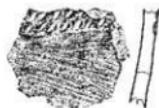
1900



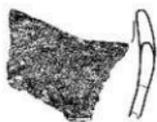
1901



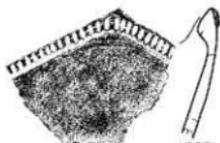
1902



1903



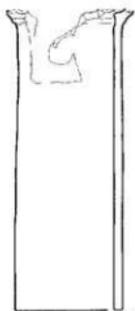
1904



1905



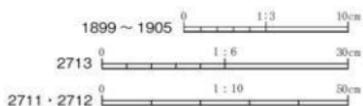
2711



2712



2713



第166图 北区⑤・北区出土土器、煉瓦・土管